

第四次宮崎市文化振興計画策定に伴う
市民アンケートに関する委託研究報告書

2024 年 3 月

国立大学法人宮崎大学 地域資源創成学部
教授 杉山智行

目次

1. はじめに	2
2. アンケート調査結果	2
2. 1. アンケートの概要	2
2. 2. 市民向けアンケート調査	3
2. 3. 若者向けアンケート調査	48
2. 4. 文化・芸術団体向けアンケート調査	91
2. 5. 各アンケート結果の比較	157
3. 考察	170
【参考 自由意見】	173
1. 市民向けアンケート調査における自由意見	173
2. 若者向けアンケート調査における自由意見	180
3. 文化・芸術団体向け調査における自由意見	180

1. はじめに

本研究は第四次宮崎市文化振興計画策定に伴い、宮崎市民（市民全体）、同市在住の若者、同市の文化・芸術団体における文化振興活動の現状や課題、ニーズを把握するため、宮崎市がアンケート調査を実施し、当研究室が調査結果を分析したものである。

2. アンケート調査結果

2.1. アンケートの概要

本アンケート調査は、宮崎市が①市民、②市内の若者、③市内の文化・芸術団体の 3 先アンケートを実施したものを分析したものである。なお、小数点第 1 位以下は四捨五入したため、構成比率が 100.0%にならない場合がある。

【実施時期】

- ①市民向け : 2023 年 8 月 23 日－8 月 29 日
- ②若者向け : 2023 年 9 月 10 日－10 月 31 日
- ③文化・芸術団体向け : 2023 年 8 月 25 日－12 月 15 日

【調査対象】

- ①市民向け : 回答先 805 件、(調査対象 2,000 件、回収率 40.3%)
- ②若者向け : 回答先 334 件、(調査対象先 市内高校、大学、専門学校)
- ③文化・芸術団体向け : 回答先 75 件、(調査対象 143 件、回収率 53.1%)

【調査方法】

- ①市民向け : 郵送アンケート
(郵送返信及び QR コード誘導にてインターネット経由にて回収)
- ②若者向け : QR コードアンケート
- ③文化・芸術団体向け : 郵送アンケート

【主な調査・分析内容】

宮崎市内の文化振興について、宮崎市が以下の内容を調査した結果を分析した。

- ①文化・芸術の鑑賞や活動状況（市民向け、若者向け）
- ②子ども・若者、障がい者等の文化・芸術活動の充実（3 アンケート共通）
- ③文化・芸術に関する施設の機能の充実及び活用の促進（3 アンケート共通）
- ④文化・芸術活動に係る寄附文化の醸成（3 アンケート共通）
- ⑤文化・芸術の保存及び活用（3 アンケート共通）
- ⑥文化・芸術の振興に寄与したものの顕彰（3 アンケート共通）
- ⑦文化・芸術に関する情報の収集、提供及び発信（3 アンケート共通）
- ⑧文化・芸術を通じた国内外の人々との交流の促進（3 アンケート共通）
- ⑨文化・芸術活動の担い手となる人材の育成及び確保（3 アンケート共通）
- ⑩現状、課題他（市民向け、若者向けは共通、文化・芸術団体には固有質問あり）

2. 2. 市民向けアンケート調査

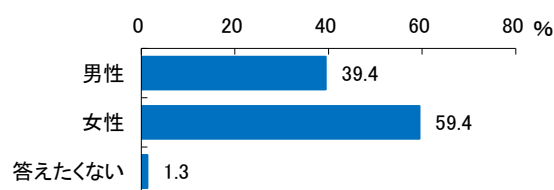
2. 2. 1. 属性別回答状況

【性別】

図表 1. 性別の回答状況

単位: 件、%		
	有効回答数	構成比率
男性	315	39.4
女性	475	59.4
答えたくない	10	1.3
合計	800	100.0

図表 2. 性別の回答状況

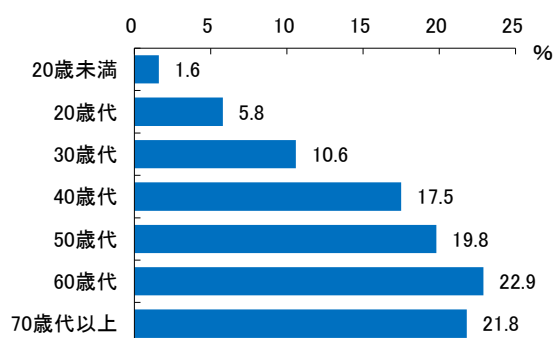


【年代】

図表 3. 年代別の回答状況

単位: 件、%		
	有効回答数	構成比率
20歳未満	13	1.6
20歳代	46	5.8
30歳代	85	10.6
40歳代	140	17.5
50歳代	158	19.8
60歳代	183	22.9
70歳代以上	174	21.8
合計	799	100.0

図表 4. 年代別の回答状況

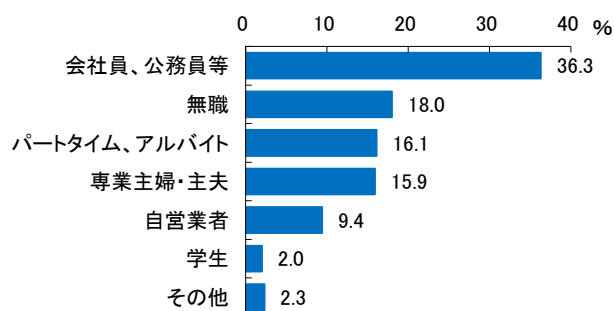


【職業】

図表 5. 職業別の回答状況

単位: 件、%		
	有効回答数	構成比率
会社員、公務員等	290	36.3
無職	144	18.0
パートタイム、アルバイト	129	16.1
専業主婦・主夫	127	15.9
自営業者	75	9.4
学生	16	2.0
その他	18	2.3
合計	799	100.0

図表 6. 職業別の回答状況



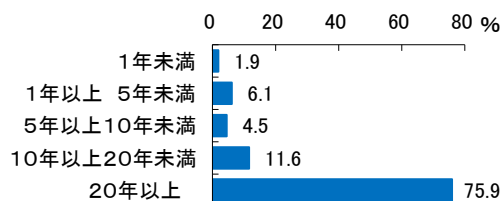
【居住歴】

図表 7. 居住歴別の回答状況

単位: 件、%

	有効回答数	構成比率
1年未満	15	1.9
1年以上 5年未満	49	6.1
5年以上10年未満	36	4.5
10年以上20年未満	93	11.6
20年以上	607	75.9
合計	805	100.0

図表 8. 居住歴別の回答状況



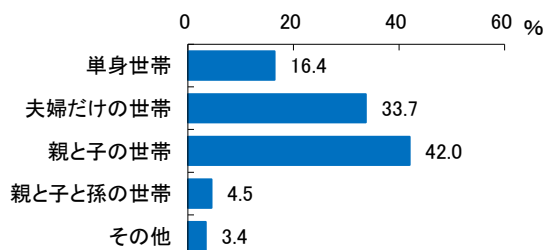
【家族の状況】

図表 9. 家族の状況別の回答状況

単位: 件、%

	有効回答数	構成比率
単身世帯	131	16.4
夫婦だけの世帯	269	33.7
親と子の世帯	335	42.0
親と子と孫の世帯	36	4.5
その他	27	3.4
合計	798	100.0

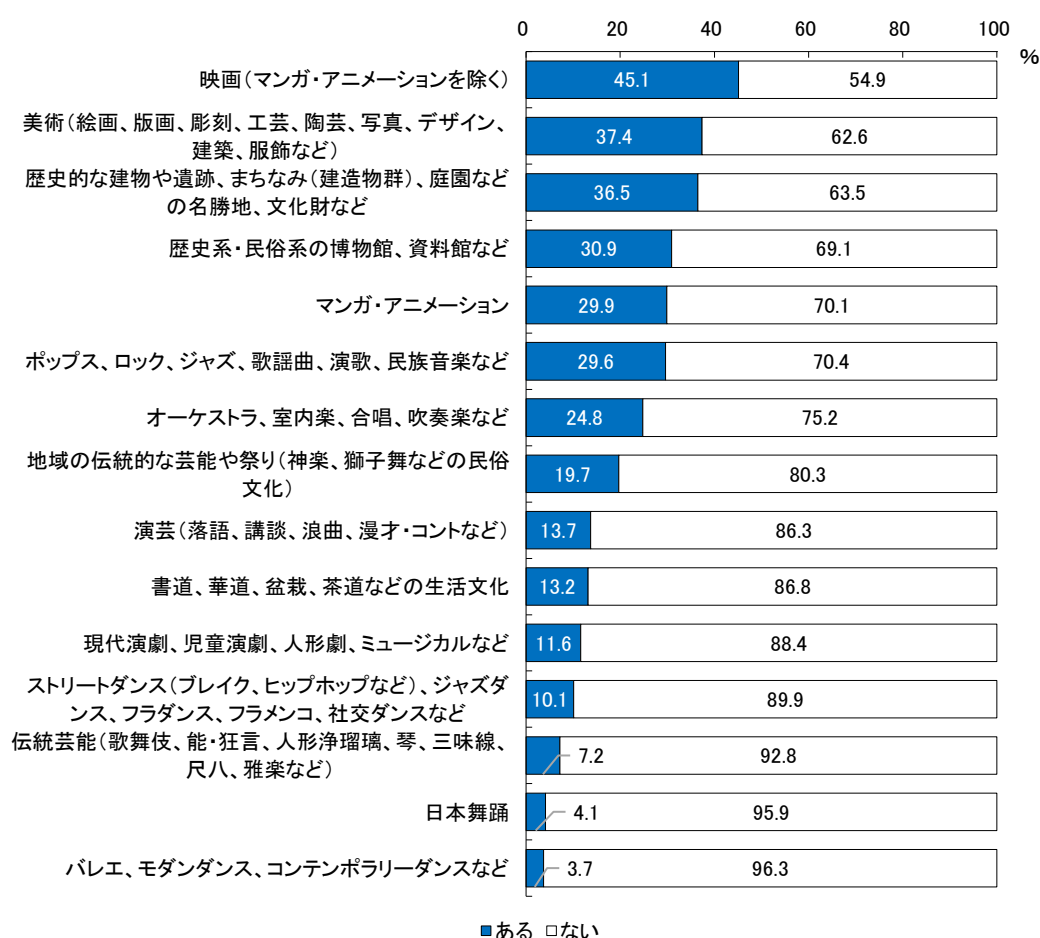
図表 10. 家族の状況別の回答状況



2.2.2. 過去1年間の文化・イベント鑑賞の経験

過去1年間のコンサートや美術展、映画、歴史的な文化財の鑑賞、アートや音楽のフェスティバルなどの文化・芸術イベントを鑑賞（テレビ、ラジオ、オンライン（インターネット含む）は除く）した経験は、「映画（マンガ・アニメーションを除く、45.1%）」が最も高く、「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など、37.4%）」が2番目となった（図表11）。全ての項目で半数に満たず、この1年間の文化・イベント鑑賞経験が低いと考えられる。回答者の属性から若者が少なく、50歳代以上合計が64.5%を占めたことから、回答がこれらの年代が求める傾向に偏ったともいえる。

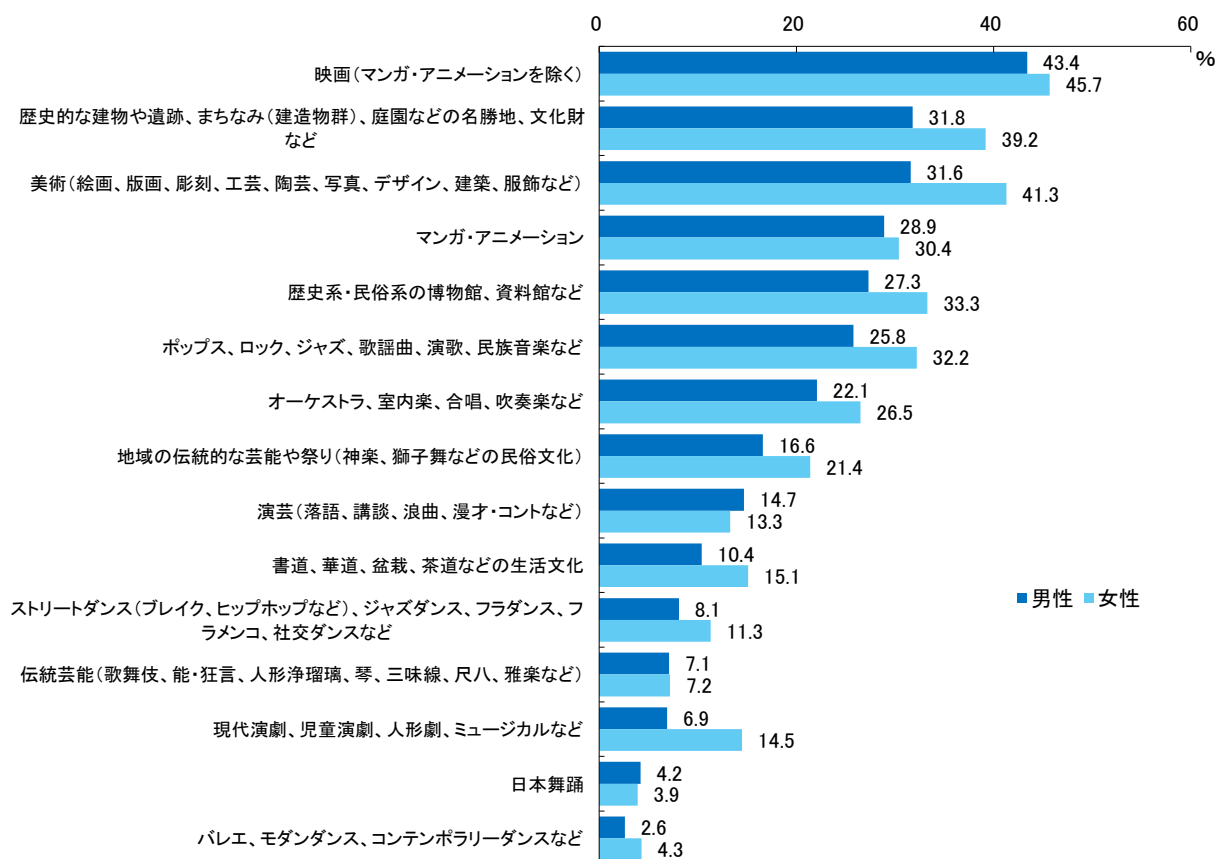
図表 11. 過去1年間の文化・イベント鑑賞の経験（全体）



男女別（答えたくないを除く）においては、「演芸（落語、講談、浪曲、漫才、コントなど）」「日本舞踊」を除く全ての項目で男性より女性が高く、男女差が最も大きな項目は「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など）」となり、女性の方が+9.7%ポイント（P）高い結果となった（次頁図表 12）。

年代別では、「マンガ・アニメーション」は「40 歳代」までが高く、「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など）」等、多くの項目で「20 歳未満」の低さが目立つ（次頁図表 13）。

図表 12. 男女別 過去1年間の文化・イベント鑑賞の経験



図表 13. 年代別 過去1年間の文化・イベント鑑賞の経験

単位: %

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
映画(マンガ・アニメーションを除く)	61.5	64.4	44.6	54.7	48.7	41.2	31.2
美術(絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など)	15.4	31.8	36.9	44.6	35.9	35.2	38.5
歴史的な建物や遺跡、まちなみ(建造物群)、庭園などの名勝地、文化財など	30.8	47.8	31.0	36.0	38.4	36.9	34.8
歴史系・民俗系の博物館、資料館など	7.7	33.3	31.3	33.3	29.4	30.7	31.4
マンガ・アニメーション	83.3	59.1	65.1	44.5	26.8	12.7	7.8
ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など	30.8	33.3	28.9	37.0	31.2	26.4	25.2
オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽など	7.7	15.2	29.8	32.4	27.5	20.7	21.9
地域の伝統的な芸能や祭り(神楽、獅子舞などの民俗文化)	7.7	22.2	20.5	25.9	18.3	14.0	22.0
演芸(落語、講談、浪曲、漫才・コントなど)	-	18.2	15.9	19.6	13.2	8.6	14.1
書道、華道、盆栽、茶道などの生活文化	-	9.1	6.0	15.1	12.2	9.8	21.9
現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカルなど	15.4	18.2	22.2	15.8	12.7	7.6	3.9
ストリートダンス(ブレイク、ヒップホップなど)、ジャズダンス、フラダンス、フラメンコ、社交ダンスなど	15.4	9.1	9.6	15.2	8.6	10.4	7.1
伝統芸能(歌舞伎、能・狂言、人形浄瑠璃、琴、三味線、尺八、雅楽など)	-	2.2	3.7	9.4	4.6	8.0	10.8
日本舞踊	-	2.2	2.4	4.3	1.3	2.3	9.7
バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど	-	-	7.3	6.6	2.6	3.6	2.0

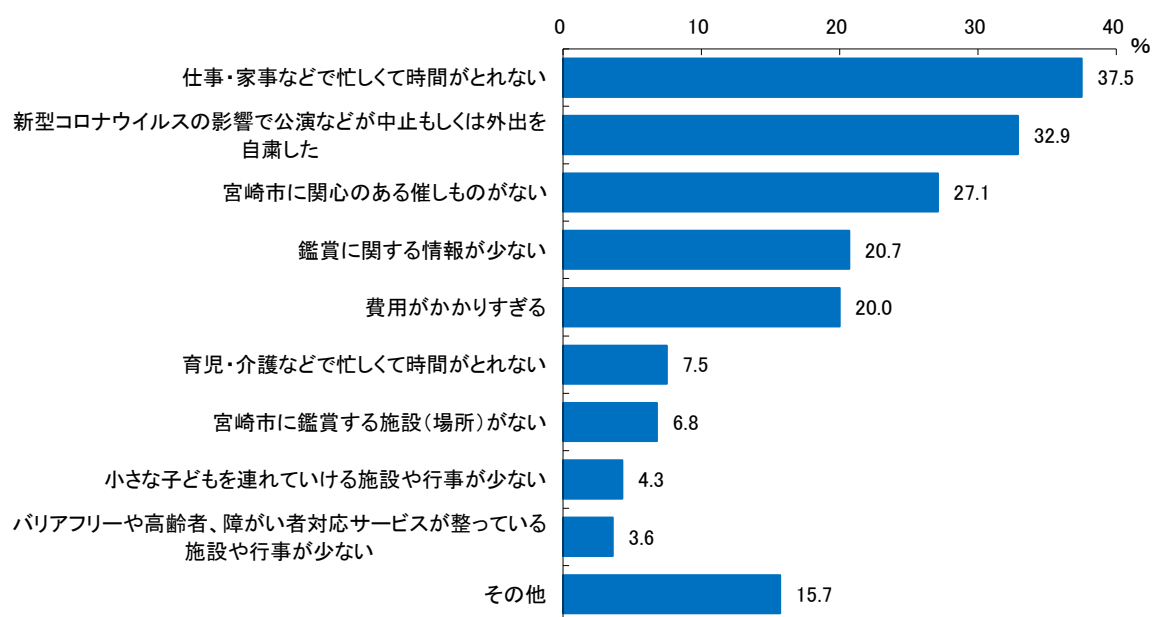
2.2.3. 過去1年間に文化・イベント鑑賞をしなかった理由

過去1年間に文化・イベント鑑賞をしなかった理由は、「仕事・家事などで忙しくて時間がとれない（37.5%）」が最も高く、「新型コロナウイルスの影響で公演などが中止もしくは外出を自粛した（32.9%）」が2番目となった（図表14）。

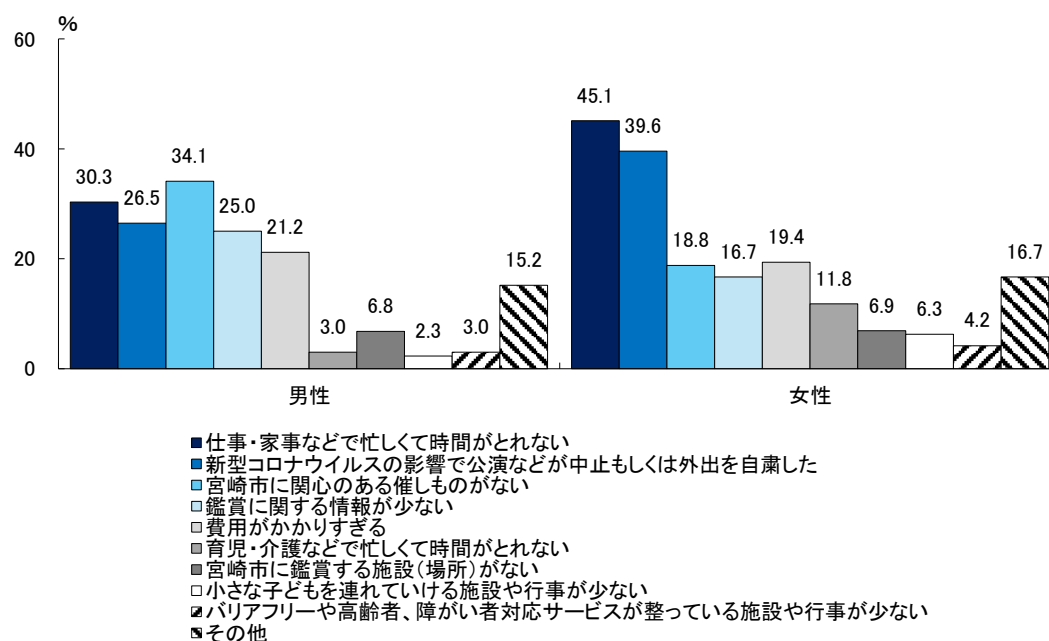
男女別（答えたくないを除く）においては、前述の2つの項目について、男性より女性の方が10P以上高く、男性においては、「宮崎市に関心のある催しものがない」「鑑賞に関する情報が少ない」が女性よりも高いことが明らかとなった（次頁図表15）。

年代別では、上位項目をみると、「仕事・家事などで忙しくて時間がとれない」は20歳未満（60.0%）が最も高く、「70歳代以上」を除く年代で高い結果となった（次頁図表16）。「新型コロナウイルスの影響で公演などが中止もしくは外出を自粛した」は「70歳代以上（47.4%）」が最も高く、「宮崎市に関心のある催しものがない」は「30歳代（56.0%）」が最も高い。「鑑賞に関する情報が少ない」「費用がかかりすぎる」はともに「20歳代」が最も高い。「30歳代」の理由が多岐にわたることも特徴となった。

図表14. 過去1年間に文化・イベント鑑賞をしなかった理由（全体、複数回答）



図表 15. 男女別 過去１年間に文化・イベント鑑賞をしなかった理由（複数回答）



図表 16. 年代別 過去１年間に文化・イベント鑑賞をしなかった理由（複数回答）

単位: %

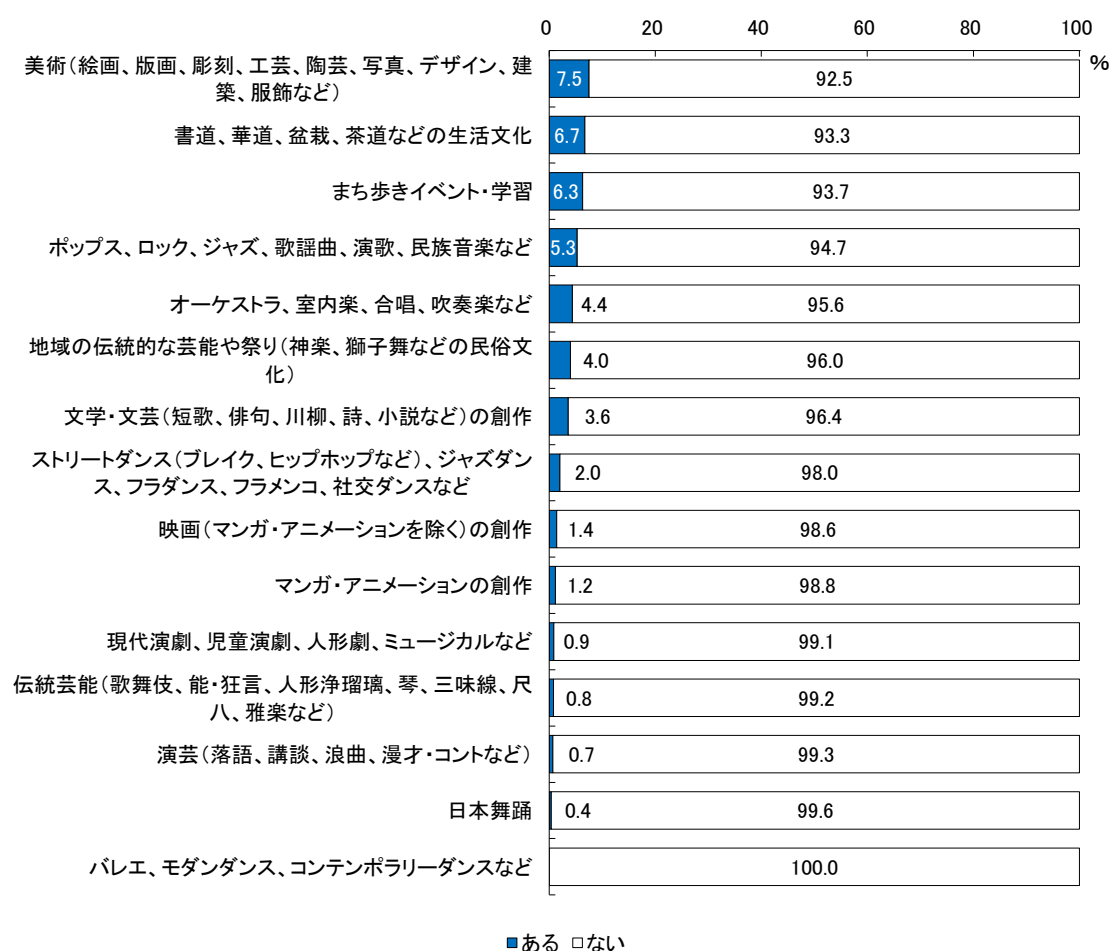
	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
仕事・家事などで忙しくて時間がとれない	60.0	46.2	32.0	54.1	46.3	42.4	19.2
新型コロナウイルスの影響で公演などが中止もしくは外出を自粛した	20.0	-	24.0	27.0	27.8	34.8	47.4
宮崎市に関心のある催しものがない	-	30.8	56.0	18.9	25.9	25.8	24.4
鑑賞に関する情報が少ない	40.0	15.4	28.0	27.0	20.4	18.2	16.7
費用がかかりすぎる	40.0	15.4	8.0	8.1	20.4	22.7	26.9
育児・介護などで忙しくて時間がとれない	-	15.4	28.0	13.5	5.6	3.0	2.6
宮崎市に鑑賞する施設(場所)がない	20.0	-	24.0	8.1	3.7	7.6	2.6
小さな子どもを連れていける施設や行事が少ない	-	15.4	32.0	5.4	-	-	-
バリアフリーや高齢者、障がい者対応サービスが整っている施設や行事が少ない	-	-	-	2.7	1.9	4.5	6.4
その他	20.0	15.4	4.0	8.1	25.9	10.6	19.2

2.2.4. 過去1年間の、文化・芸術活動の実践の有無

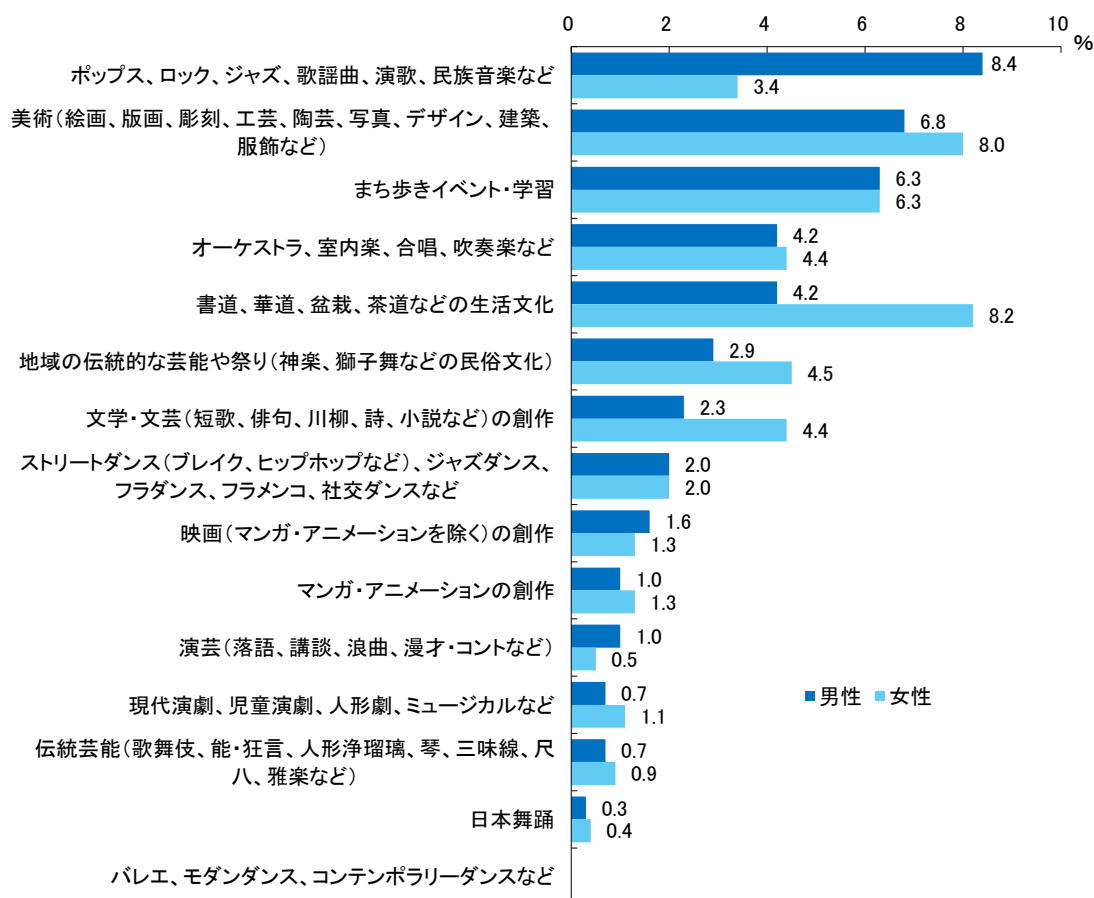
過去1年間に鑑賞ではなく、文化・芸術活動の実践(創作や出演、習い事、祭りや体験活動への参加など)の有無については、全て項目で90%以上が「ない」となった(図表17)。男女別においても総じて回答率は低いものの、「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など」は男性が最も高く(女性比+5.0P)、「書道、華道、盆栽、茶道などの生活文化」は女性が最も高い(+4.0P)となった(次頁図表18)。

年代別においても全ての項目で回答率が低いものの、「20歳未満」「20歳代」は「美術(絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など)」「まち歩きイベント・学習」が高い(次頁図表19)。「20歳未満」は「文学・文芸(短歌、俳句、川柳、詩、小説など)の創作(15.4%)」も他の年代より高い結果となった。

図表17. 過去1年間の、文化・芸術活動の実践の有無(全体)



図表 18. 男女別 過去 1 年間の、文化・芸術活動の実践の有無



図表 19. 年代別 過去 1 年間の、文化・芸術活動の実践の有無

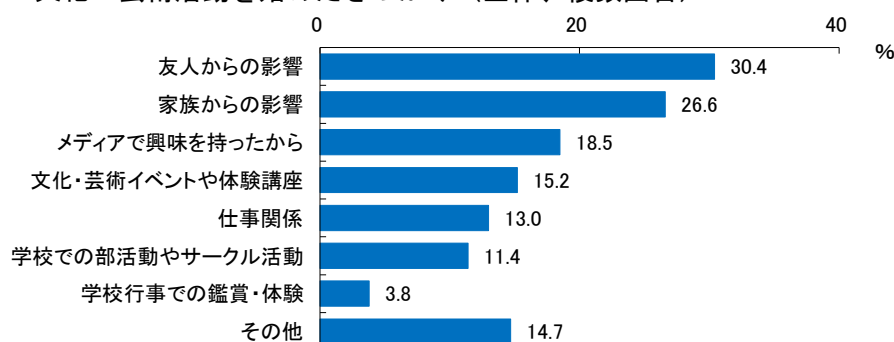
単位: %

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
美術(絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など)	23.1	14.0	9.8	7.2	5.2	6.8	6.4
書道、華道、盆栽、茶道などの生活文化	-	7.1	3.7	7.2	3.9	8.9	8.2
まち歩きイベント・学習	15.4	10.0	6.0	7.4	4.0	6.2	6.4
ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など	7.7	4.4	3.8	6.6	5.9	4.0	6.3
オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽など	7.7	4.4	3.6	4.3	3.2	5.6	4.4
地域の伝統的な芸能や祭り(神楽、獅子舞などの民俗文化)	-	2.4	3.7	6.5	3.2	2.8	5.0
文学・文芸(短歌、俳句、川柳、詩、小説など)の創作	15.4	6.7	1.2	5.0	2.6	3.4	3.1
ストリートダンス(ブレイク、ヒップホップなど)、ジャズダンス、フラダンス、フラメンコ、社交ダンスなど	7.7	2.3	-	2.2	1.3	1.1	3.8
映画(マンガ・アニメーションを除く)の創作	7.7	-	-	1.4	0.6	0.6	3.8
マンガ・アニメーションの創作	7.7	4.7	2.4	1.4	1.3	-	-
現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカルなど	7.7	2.4	-	1.4	1.3	-	0.6
伝統芸能(歌舞伎、能・狂言、人形浄瑠璃、琴、三味線、尺八、雅楽など)	-	2.3	-	-	-	1.7	1.3
演芸(落語、講談、浪曲、漫才・コントなど)	-	-	-	1.5	0.7	1.1	-
日本舞踊	-	-	1.3	0.7	-	-	0.6
バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど	-	-	-	-	-	-	-

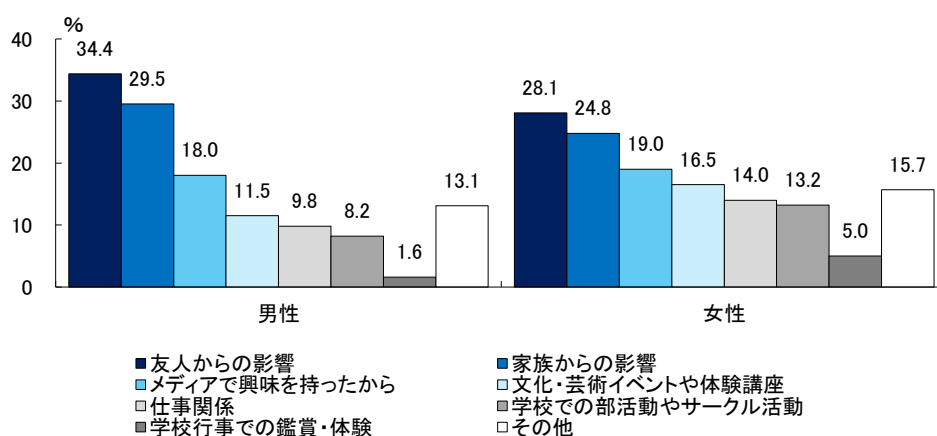
2.2.5. 文化・芸術活動を始めたきっかけ

文化・芸術活動を始めたきっかけは、「友人からの影響（30.4%）」が最も高く、次いで「家族からの影響（26.6%）」となった（図表 20）。男女別においても同様の傾向であり、男女の差は男性が女性に比べ「友人からの影響」「家族からの影響」が高い一方、女性は他の全ての項目で男性より高い結果となった（図表 21）。年代別では、全ての年代で「友人からの影響」「家族からの影響」が高いが、「20 歳未満」は「学校での部活動やサークル活動（50.0%）」が最も高いものの、多くの年代で上位 2 項目以外は回答率が低いといえる（図表 22）。

図表 20. 文化・芸術活動を始めたきっかけ（全体、複数回答）



図表 21. 男女別 文化・芸術活動を始めたきっかけ（複数回答）



図表 22. 年代別 文化・芸術活動を始めたきっかけ（複数回答）

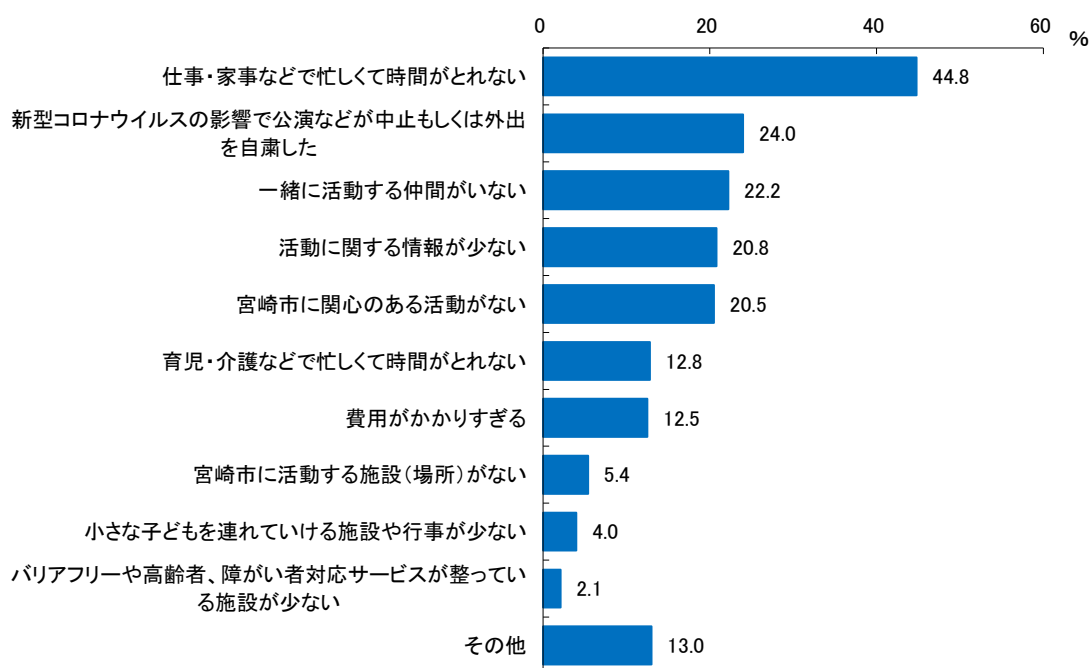
単位: %

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
友人からの影響	25.0	30.8	31.6	24.1	31.3	36.1	30.6
家族からの影響	25.0	46.2	31.6	27.6	25.0	25.0	22.4
メディアで興味を持ったから	25.0	15.4	31.6	17.2	12.5	13.9	22.4
文化・芸術イベントや体験講座	-	7.7	15.8	20.7	18.8	13.9	14.3
仕事関係	-	23.1	5.3	20.7	12.5	11.1	10.2
学校での部活動やサークル活動	50.0	7.7	15.8	17.2	9.4	16.7	2.0
学校行事での鑑賞・体験	25.0	-	5.3	10.3	6.3	-	-
その他	-	7.7	-	17.2	18.8	19.4	14.3

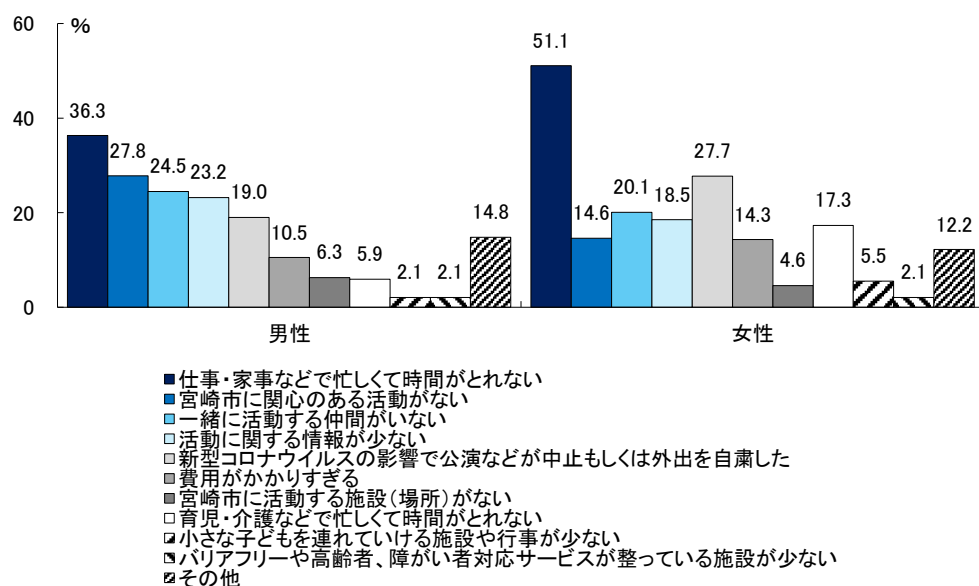
2.2.6. 実践しなかった理由

実践しなかった理由は、「仕事・家事などで忙しくて時間がとれない（44.8%）」が圧倒的に高く、男女別では女性に同傾向が目立つ（図表 23、24）。年代別では、20-60 歳代に同傾向が目立つ（次頁図表 25）。なお、「20 歳未満」においては、「宮崎市に関心のある活動がない（40.0%）」が高い、「70 歳代以上」においては、「新型コロナウイルスの影響で公演などが中止もしくは外出を自粛した（42.0%）」も高い。

図表 23. 実践しなかった理由（全体、複数回答）



図表 24. 男女別 実践しなかった理由（複数回答）



図表 25. 年代別 実践しなかった理由（複数回答）

単位：％

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
費用がかかりすぎる	20.0	12.9	6.6	6.2	14.2	15.6	14.3
宮崎市に関心のある活動がない	40.0	22.6	31.1	16.5	23.9	19.9	13.4
宮崎市に活動する施設(場所)がない	-	6.5	13.1	5.2	4.4	5.7	2.5
一緒に活動する仲間がいない	30.0	25.8	23.0	18.6	21.2	23.4	21.8
新型コロナウイルスの影響で公演などが中止もしくは外出を自粛した	-	3.2	9.8	17.5	22.1	27.0	42.0
活動に関する情報が少ない	20.0	22.6	16.4	18.6	27.4	22.0	16.0
育児・介護などで忙しくて時間がとれない	-	9.7	42.6	20.6	8.8	7.8	3.4
仕事・家事などで忙しくて時間がとれない	30.0	58.1	49.2	66.0	53.1	41.1	20.2
小さな子どもを連れていける施設や行事が少ない	-	12.9	21.3	6.2	-	-	-
バリアフリーや高齢者、障がい者対応サービスが整っている施設が少ない	-	-	1.6	1.0	0.9	0.7	6.7
その他	10.0	9.7	4.9	10.3	13.3	9.2	24.4

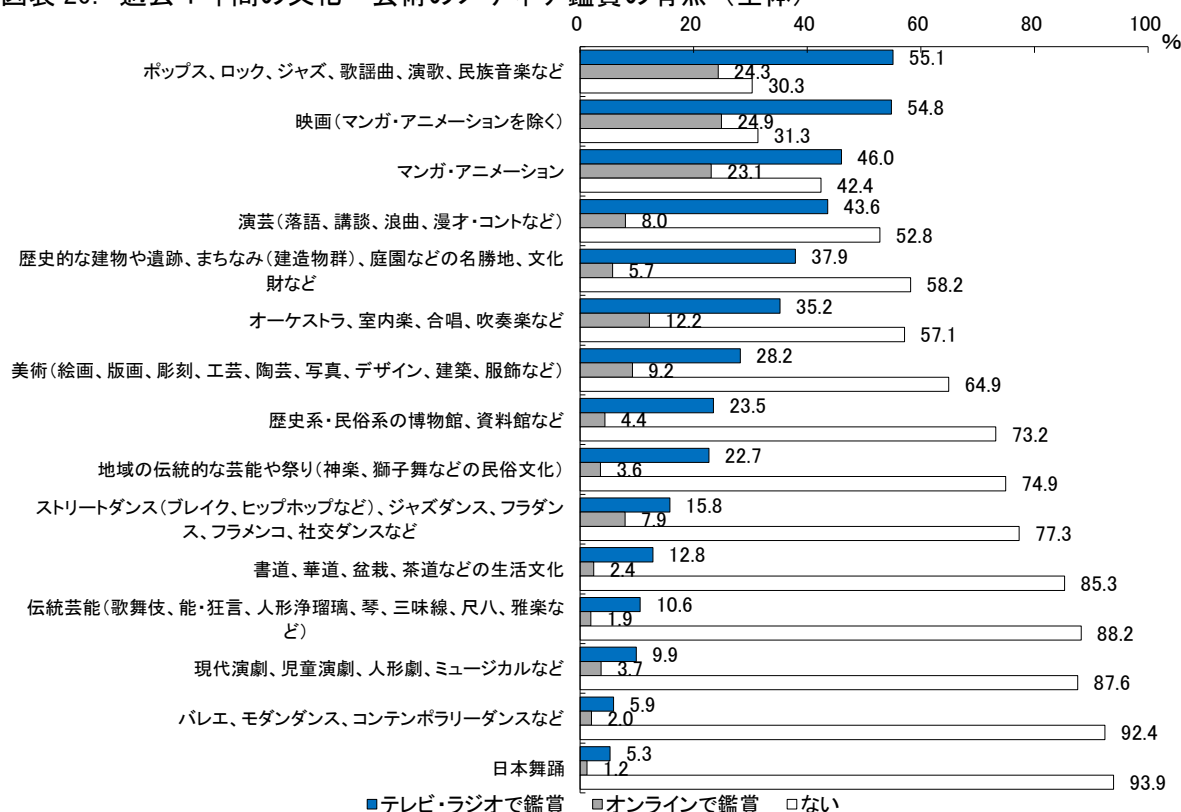
2.2.7. 過去1年間の文化・芸術のメディア鑑賞の有無

過去1年間の文化・芸術のメディア鑑賞の有無においては、テレビ・ラジオで鑑賞は「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など（55.1%）」が最も高く、次いで「映画（マンガ・アニメーションを除く、54.8%）」となった（次頁図表 26）。また、オンラインで鑑賞は「映画（マンガ・アニメーションを除く、24.9%）」が最も高く、次いで「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など（24.3%）」となった。回答者にシニア層が多いことからオンラインではなく、テレビ・ラジオで鑑賞に高い傾向が表れたと考えられる。

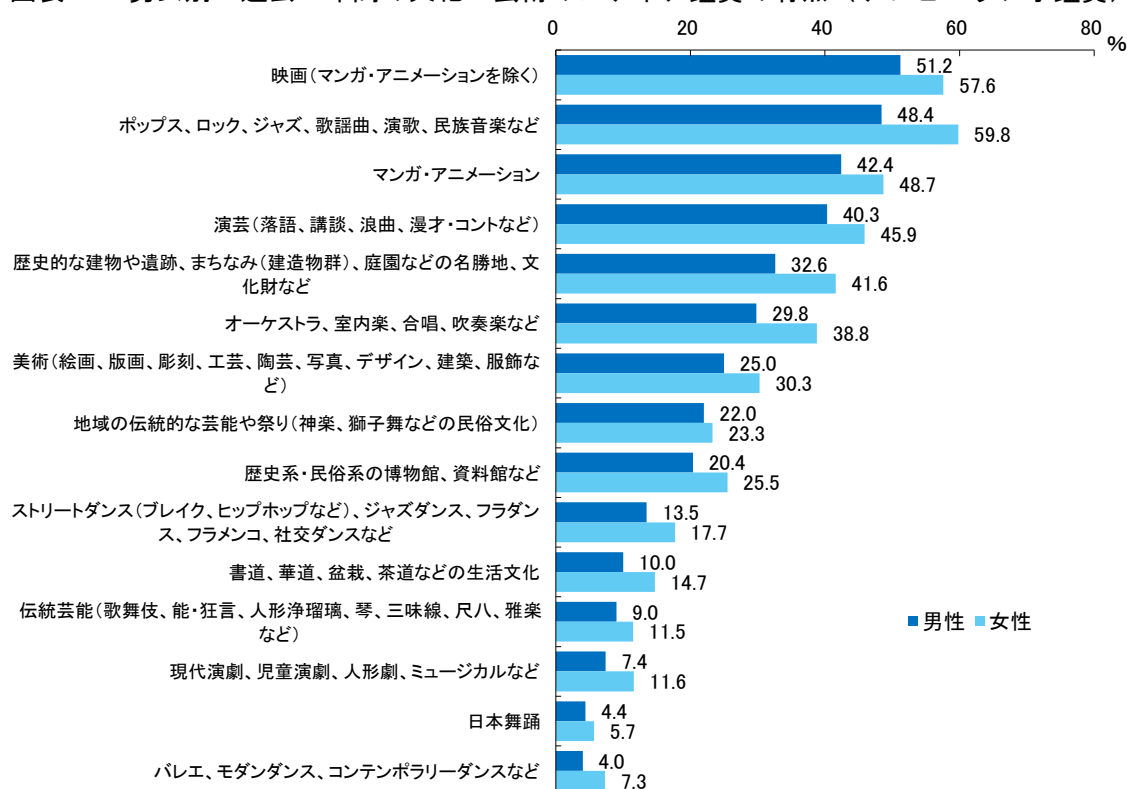
テレビ・ラジオ鑑賞、オンライン鑑賞の男女別の違いをみると、テレビ・ラジオ鑑賞においては、全ての項目で女性が男性を上回る一方、オンライン鑑賞では、多くの項目で男性が女性を上回った（次頁図表 27、次々頁図表 28）。

テレビ・ラジオ鑑賞、オンライン鑑賞の年代別の違いをみると、テレビ・ラジオ鑑賞においては、多くの項目でシニア層に回答率が高い傾向がある一方、オンライン鑑賞においては、「映画（マンガ・アニメーションを除く）」「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など」「マンガ・アニメーション」等で若い年代の回答率が高い傾向がみられた（次々頁図表 29、17 頁図表 30）。

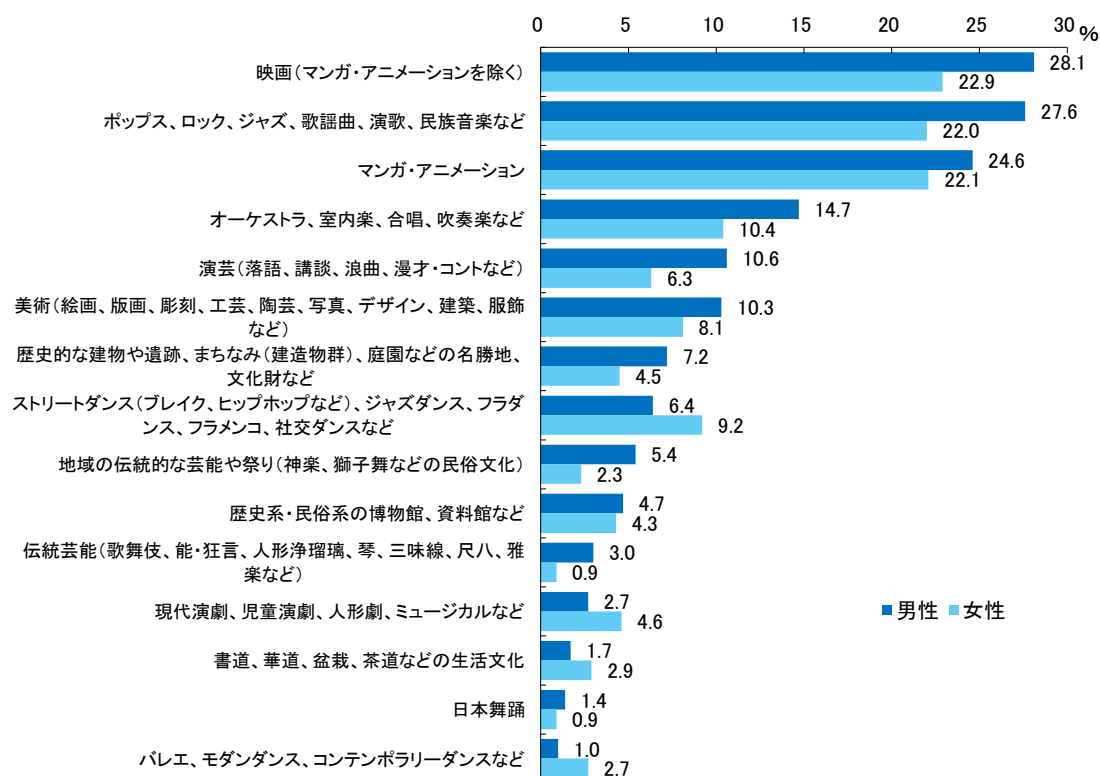
図表 26. 過去 1 年間の文化・芸術のメディア鑑賞の有無（全体）



図表 27. 男女別 過去 1 年間の文化・芸術のメディア鑑賞の有無（テレビ・ラジオ鑑賞）



図表 28. 男女別 過去 1 年間の文化・芸術のメディア鑑賞の有無（オンライン鑑賞）



図表 29. 年代別 過去 1 年間の文化・芸術のメディア鑑賞の有無（テレビ・ラジオ鑑賞）

単位：%

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など	15.4	38.1	41.5	49.6	61.5	55.1	68.2
映画（マンガ・アニメーションを除く）	30.8	45.5	39.3	52.9	59.2	60.0	60.3
マンガ・アニメーション	38.5	43.2	49.4	60.6	46.8	44.3	33.3
演芸（落語、講談、浪曲、漫才・コントなど）	7.7	31.8	28.7	39.3	41.9	48.0	58.9
歴史的な建物や遺跡、まちなみ（建造物群）、庭園などの名勝地、文化財など	7.7	18.6	13.6	27.0	37.4	41.8	64.1
オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽など	23.1	20.5	29.6	36.7	34.0	30.6	48.6
美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など）	7.7	18.6	15.9	21.7	21.3	31.8	48.7
歴史系・民俗系の博物館、資料館など	7.7	13.6	6.1	15.2	20.8	29.5	42.0
地域の伝統的な芸能や祭り（神楽、獅子舞などの民俗文化）	-	13.6	9.0	12.9	17.8	24.4	47.9
ストリートダンス（ブレイク、ヒップホップなど）、ジャズダンス、フラダンス、フラメンコ、社交ダンスなど	-	13.6	4.8	15.1	20.1	14.2	22.7
書道、華道、盆栽、茶道などの生活文化	-	9.3	-	6.4	9.7	12.1	32.0
伝統芸能（歌舞伎、能・狂言、人形浄瑠璃、琴、三味線、尺八、雅楽など）	-	4.5	5.1	7.9	5.2	8.1	27.9
現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカルなど	-	4.7	4.9	8.6	11.0	7.1	19.0
バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど	-	-	1.2	3.6	5.8	3.5	16.1
日本舞踊	-	2.3	2.5	2.9	2.6	3.6	14.8

図表 30. 年代別 過去 1 年間の文化・芸術のメディア鑑賞の有無（オンライン鑑賞）

単位：％

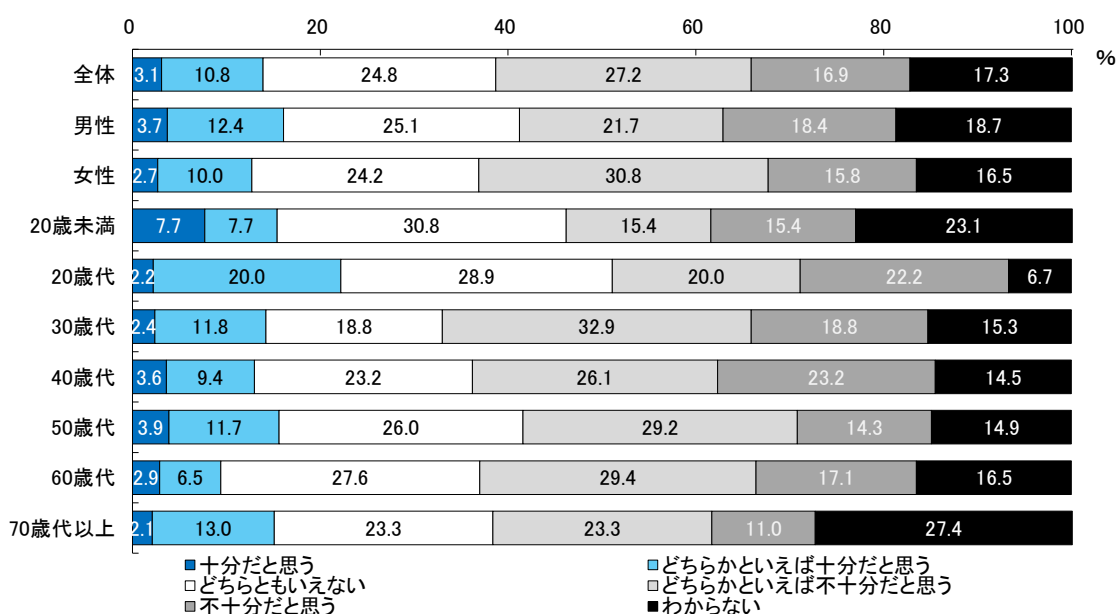
	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
映画（マンガ・アニメーションを除く）	30.8	47.7	35.7	37.1	28.7	18.2	4.6
ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など	30.8	40.5	29.3	36.7	27.6	21.3	5.8
マンガ・アニメーション	38.5	47.7	42.2	34.3	25.0	13.8	1.4
オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽など	7.7	18.2	12.3	15.8	15.7	11.6	4.1
美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など）	15.4	25.6	11.0	15.2	7.7	5.2	3.3
演芸（落語、講談、浪曲、漫才・コントなど）	7.7	15.9	6.3	14.3	10.3	4.6	2.6
ストリートダンス（ブレイク、ヒップホップなど）、ジャズダンス、フラダンス、フラメンコ、社交ダンスなど	25.0	9.1	12.0	10.8	9.1	7.1	0.7
歴史的な建物や遺跡、まちなみ（建造物群）、庭園などの名勝地、文化財など	—	7.0	4.9	8.8	6.5	4.7	3.2
歴史系・民俗系の博物館、資料館など	—	9.1	4.9	5.8	4.5	3.5	2.8
現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカルなど	7.7	7.0	8.5	3.6	3.9	2.4	1.4
地域の伝統的な芸能や祭り（神楽、獅子舞などの民俗文化）	—	6.8	6.4	5.7	2.6	1.2	3.5
書道、華道、盆栽、茶道などの生活文化	—	2.3	1.2	2.1	4.5	2.9	0.7
バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど	—	2.3	1.2	2.9	2.6	2.3	0.7
伝統芸能（歌舞伎、能・狂言、人形浄瑠璃、琴、三味線、尺八、雅楽など）	—	2.3	1.3	2.9	1.3	2.3	1.4
日本舞踊	—	6.8	—	1.4	—	1.8	—

2.2.8. 子ども・若者が文化・芸術に触れる機会

子ども・若者が文化・芸術に触れる機会については、全体、男女別、年代別の傾向を比較すると、全ての年代で十分とはいえないといえる（図表 31）。最も高い「20 歳代」においても、「十分だと思う」「どちらかといえば十分だと思う」合計で 22.2％であった。

※「子ども」は中学生以下、「若者」は中学校卒業から 30 歳未満までと定義

図表 31. 子ども・若者が文化・芸術に触れる機会

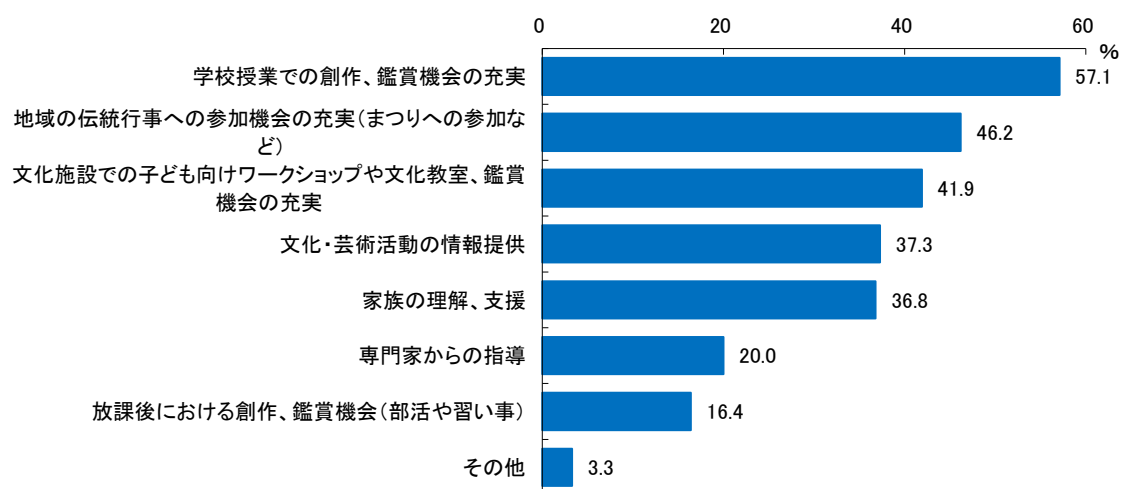


2.2.9. 子ども・若者が文化・芸術により親しめるようになるために必要なもの

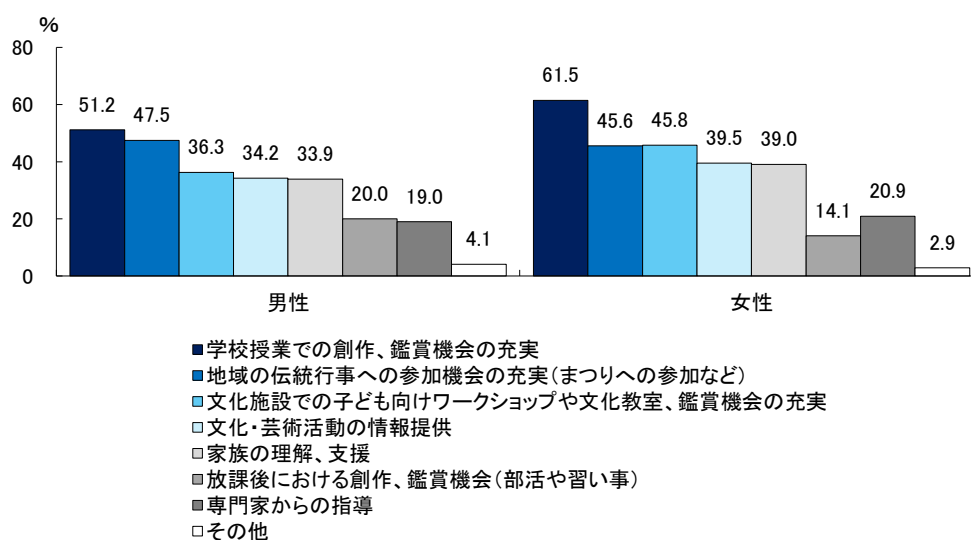
子ども・若者が文化・芸術により親しめるようになるために必要なものは、「学校授業での創作、鑑賞機会の充実（57.1%）」が最も高く、次いで「地域の伝統行事への参加機会の充実（まつりへの参加など、46.2%）」となった（図表 32）。

男女別では、男女ともに「学校授業での創作、鑑賞機会の充実」が最も高いものの、女性が男性比+10.3 P 高い結果となった（図表 33）。年代別では、上位 2 項目は年代別に大差が無いものの、3 番目となった「文化施設での子ども向けワークショップや文化教室、鑑賞機会の充実」は、「30 歳代」「40 歳代」「50 歳代」「60 歳代」に比べ「20 歳未満」「20 歳代」の回答率が低い結果となった（次頁図表 34）。

図表 32. 子ども・若者が文化・芸術により親しめるようになるために必要なもの
（全体、複数回答）



図表 33. 男女別 子ども・若者が文化・芸術により親しめるようになるために必要なもの
（複数回答）



図表 34. 年代別 子ども・若者が文化・芸術により親しめるようになるために必要なもの
(複数回答)

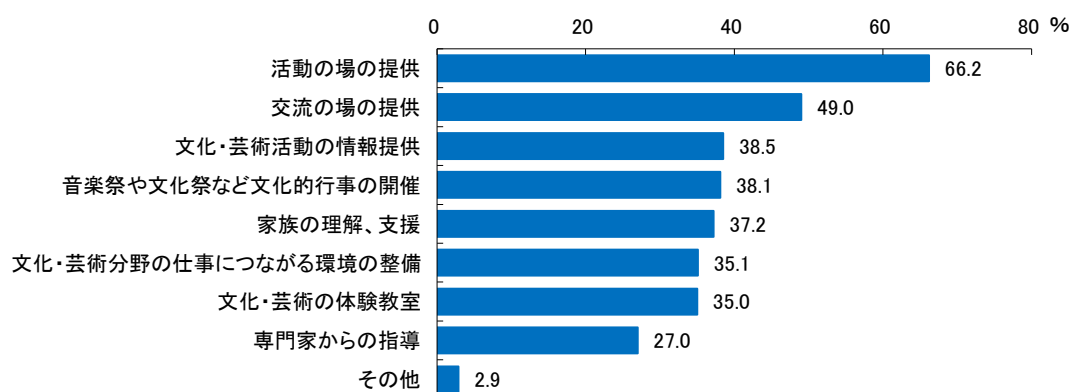
単位: %

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
学校授業での創作、鑑賞機会の充実	69.2	60.0	65.9	64.2	56.7	55.6	46.3
地域の伝統行事への参加機会の充実(まつりへの参加など)	38.5	40.0	40.0	48.9	48.0	45.6	50.3
文化施設での子ども向けワークショップや文化教室、鑑賞機会の充実	23.1	33.3	55.3	39.4	40.7	47.9	36.1
文化・芸術活動の情報提供	23.1	44.4	36.5	41.6	40.7	34.9	31.3
家族の理解、支援	15.4	44.4	41.2	27.0	38.7	40.2	36.7
専門家からの指導	-	11.1	15.3	16.8	22.7	24.9	21.8
放課後における創作、鑑賞機会(部活や習い事)	7.7	28.9	21.2	12.4	22.0	15.4	9.5
その他	-	2.2	-	4.4	2.7	2.4	6.8

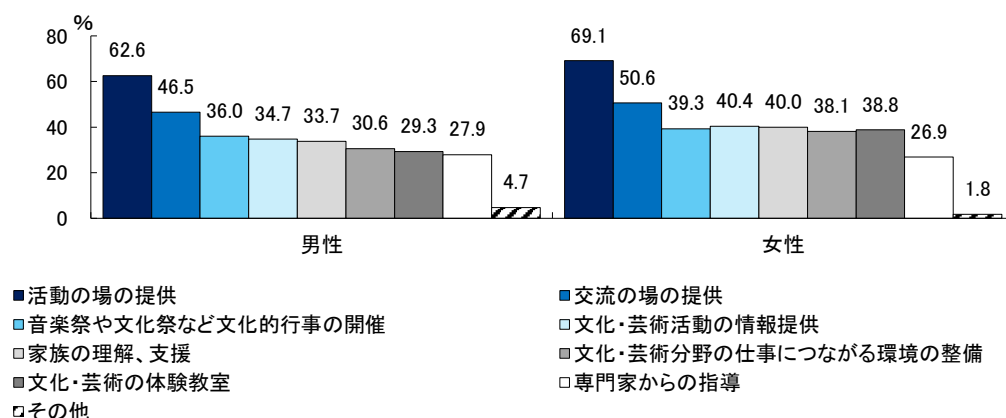
2.2.10. 子ども・若者、障がい者が義務教育を修了した後も文化・芸術活動を続けるために必要なもの

子ども・若者、障がい者が義務教育を修了した後も文化・芸術活動を続けるために必要なものについては、「活動の場の提供 (66.2%)」が最も高く、次いで「交流の場の提供 (49.0%)」となった(図表 35)。男女別では、「その他」を除く全ての項目で女性の方が高い結果となった(次頁図表 36)。年代別では、全年代で「活動の場の提供」が最も高く、「交流の場の提供」は「20 歳未満」を除く年代で高い回答率となった。「20 歳未満」においては、部活動等で練習場所等の確保がなされている可能性があり、低いと考えられる(次頁図表 37)。

図表 35. 子ども・若者、障がい者が義務教育を修了した後も文化・芸術活動を続けるために必要なもの(全体、複数回答)



図表 36. 男女別 子ども・若者、障がい者が義務教育を修了した後も文化・芸術活動を持
けるために必要なもの（複数回答）



図表 37. 年代別 子ども・若者、障がい者が義務教育を修了した後も文化・芸術活動を持
けるために必要なもの（複数回答）

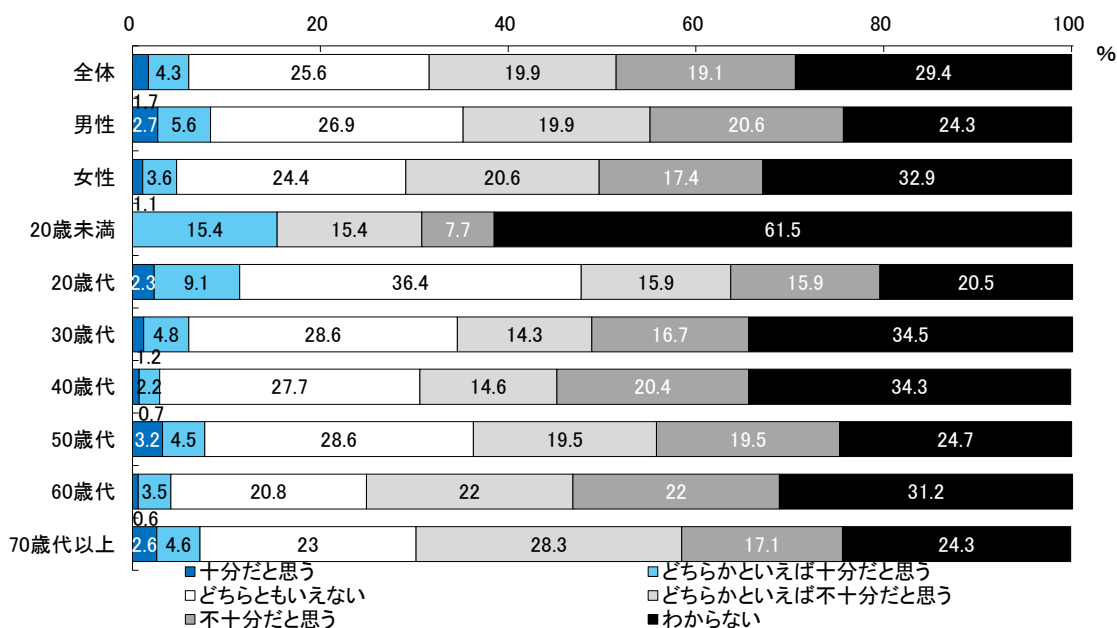
単位: %

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
活動の場の提供	61.5	62.2	70.6	66.4	62.3	72.5	62.2
交流の場の提供	23.1	44.4	51.8	47.4	48.3	52.6	49.3
文化・芸術活動の情報提供	30.8	40.0	40.0	41.6	38.4	36.3	36.5
音楽祭や文化祭など文化的行事の開催	38.5	26.7	49.4	43.8	35.8	36.3	35.1
家族の理解、支援	23.1	35.6	37.6	37.2	38.4	38.6	36.5
文化・芸術の体験教室	23.1	31.1	45.9	27.0	33.8	40.9	33.1
文化・芸術分野の仕事につながる環境の整備	15.4	33.3	40.0	40.1	39.7	31.0	29.7
専門家からの指導	7.7	15.6	21.2	19.7	23.8	36.8	35.1
その他	7.7	4.4	-	5.1	3.3	1.8	2.7

2. 2. 11. 障がい者が文化・芸術に触れる機会

障がい者が文化・芸術に触れる機会は、すべての回答を示す「全体」で「十分だと思う」「どちらかといえば十分だと思う」合計が 6.0% となった（次頁図 38）。男女別、年代別においても全てにおいて両項目を「どちらかといえば不十分だと思う」「不十分だと思う」が上回り、障がい者への配慮や支援が必要との認識が強かうかがえる結果となった。なお、年代別では「20 歳未満」が最も肯定的な回答となったが、「十分だと思う」は回答が皆無であり、「どちらかといえば十分だと思う」が 15.4% となったが、同年代は「わからない（61.5%）」が最も高い回答率となった。

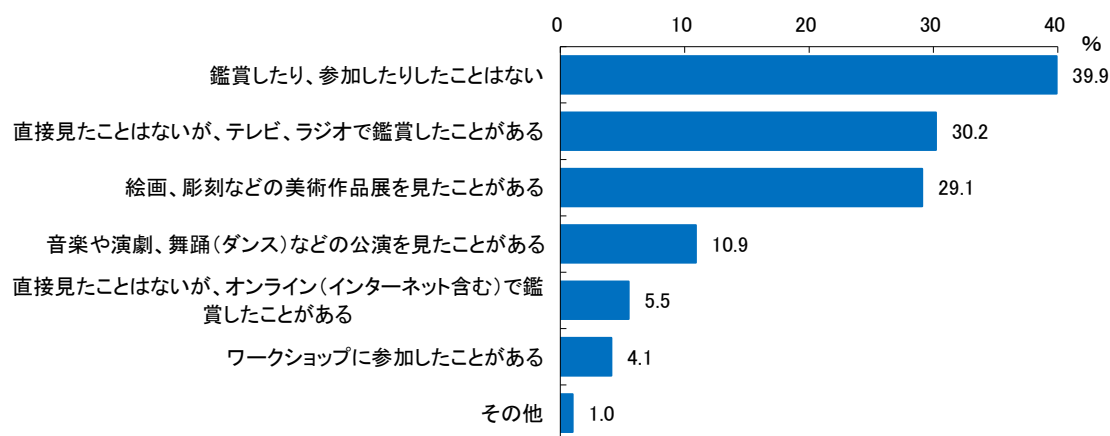
図表 38. 障がい者が文化・芸術に触れる機会



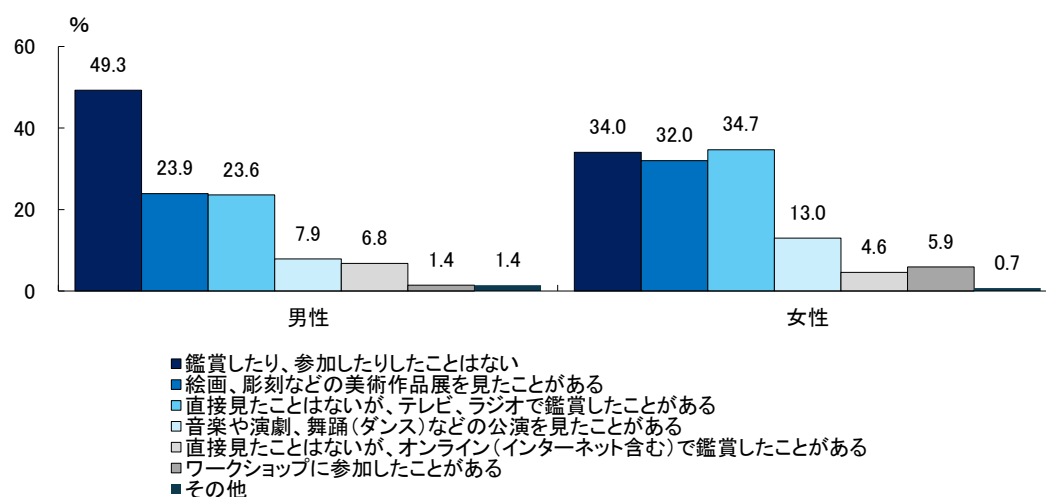
2. 2. 12. 障がい者の美術（絵画、彫刻など）作品展や音楽、演劇、舞踊などの文化・芸術活動についての鑑賞・参加の経験

障がい者の美術（絵画、彫刻など）作品展や音楽、演劇、舞踊などの文化・芸術活動についての鑑賞・参加の経験は、「鑑賞したり、参加したりしたことはない（39.9%）」が最も高く、2 番目「直接見たことはないが、テレビ、ラジオで鑑賞したことがある（30.2%）」、3 番目は「絵画、彫刻などの美術作品展を見たことがある（29.1%）」となり、これら 3 項目と他の項目の差が大きなものとなった（図表 39）。男性と女性の違いは 1 位の項目で大きく、年代別では 1 位の項目では全年代で回答率が高いものの、他の項目では若い年代との経験の差がみられた（次頁図表 40、41）。

図表 39. 障がい者の美術（絵画、彫刻など）作品展や音楽、演劇、舞踊などの文化・芸術活動についての鑑賞・参加の経験（全体、複数回答）



図表 40. 男女別 障がい者の美術（絵画、彫刻など）作品展や音楽、演劇、舞踊などの文化・芸術活動についての鑑賞・参加の経験（複数回答）



図表 41. 年代別 障がい者の美術（絵画、彫刻など）作品展や音楽、演劇、舞踊などの文化・芸術活動についての鑑賞・参加の経験（複数回答）

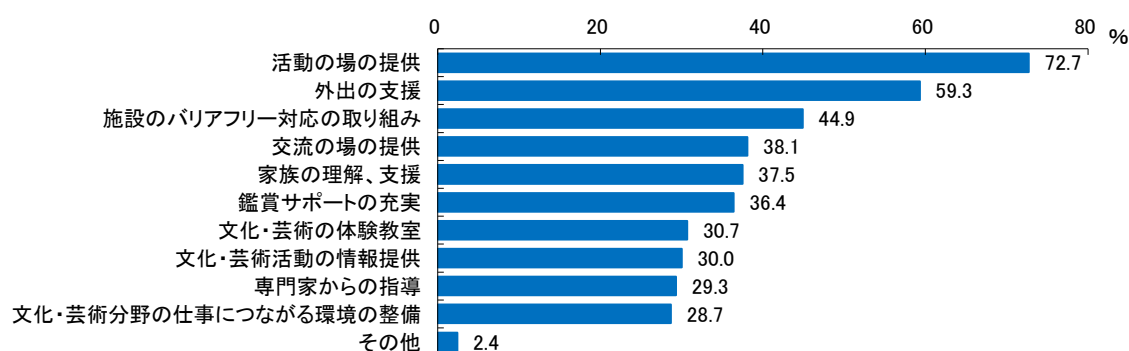
	単位: %						
	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
鑑賞したり、参加したりしたことはない	76.9	50.0	51.9	37.1	38.4	36.1	36.4
直接見たことはないが、テレビ、ラジオで鑑賞したことがある	15.4	14.3	27.2	28.0	28.8	33.1	37.8
絵画、彫刻などの美術作品展を見たことがある	-	28.6	19.8	31.1	30.1	29.6	33.6
音楽や演劇、舞踊(ダンス)などの公演を見たことがある	7.7	2.4	7.4	13.6	13.7	8.3	13.3
直接見たことはないが、オンライン(インターネット含む)で鑑賞したことがある	-	14.3	4.9	6.1	7.5	4.7	1.4
ワークショップに参加したことがある	-	4.8	6.2	3.8	2.7	5.9	2.8
その他	-	-	-	-	2.1	1.2	1.4

2. 2. 13. 障がい者への文化・芸術活動の支援に必要なもの

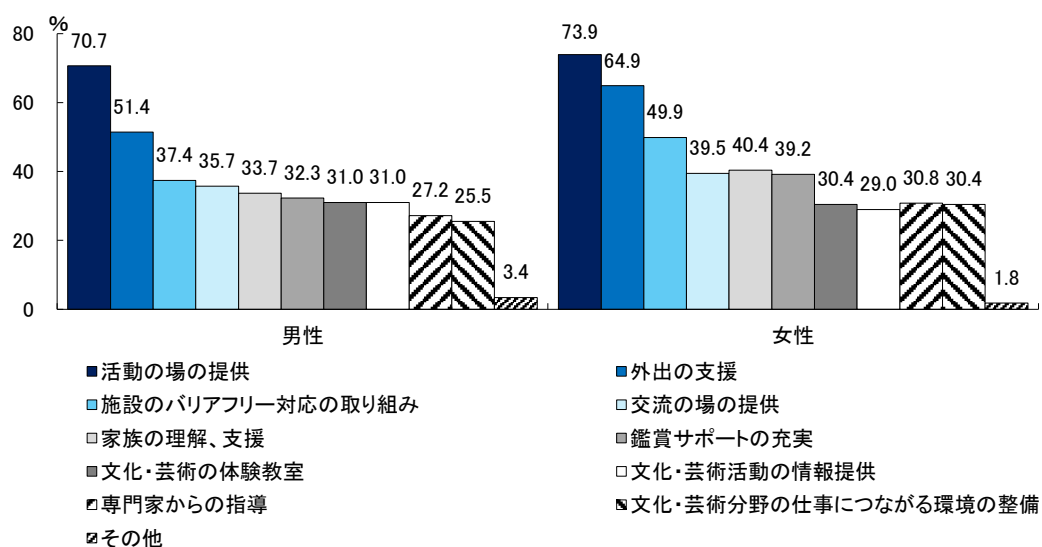
障がい者への文化・芸術活動の支援に必要なものは、「活動の場の提供（72.7%）」が圧倒的に高く、2 番目は「外出の支援（59.3%）」となり、上位 2 つの項目が他の項目より圧倒的に高い（次頁図表 42）。

男女別では、上位 5 項目まで女性の回答率が男性を上回った（次頁図表 43）。年代別では、「活動の場の提供」は全年代が高い回答率となり、最も高いのは「20 歳未満（84.6%）」となった（次頁図表 44）。「外出の支援」も全年代で回答率が高く、「施設のバリアフリー対応の取り組み」は「30 歳代」「40 歳代」が 50%を超えるなど高い結果となった。「鑑賞サポートの充実」を除く他の項目は、年代別の差が大きく、特に「20 歳未満」の低さが目立つ。

図表 42. 障がい者への文化・芸術活動の支援に必要なもの（全体、複数回答）



図表 43. 男女別 障がい者への文化・芸術活動の支援に必要なもの（複数回答）



図表 44. 年代別 障がい者への文化・芸術活動の支援に必要なもの（複数回答）

単位: %

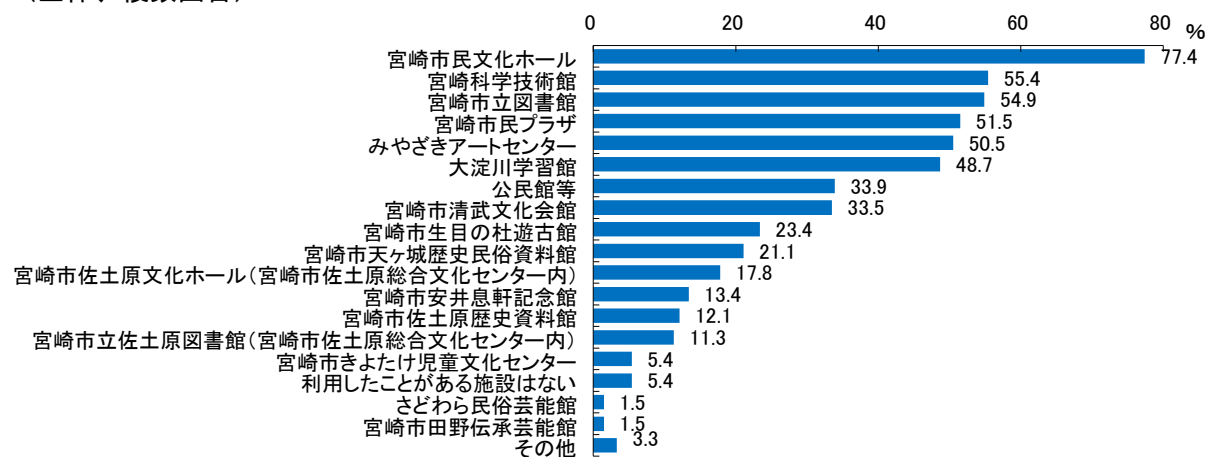
	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
活動の場の提供	84.6	78.6	77.1	73.3	71.1	75.0	66.7
外出の支援	61.5	52.4	60.2	55.6	55.9	66.3	60.5
施設のバリアフリー対応の取り組み	38.5	45.2	56.6	53.3	43.4	44.8	33.3
交流の場の提供	15.4	38.1	41.0	37.8	37.5	40.7	36.7
家族の理解、支援	23.1	38.1	50.6	43.0	35.5	33.1	34.7
鑑賞サポートの充実	38.5	33.3	39.8	42.2	39.5	37.8	26.5
文化・芸術の体験教室	7.7	23.8	30.1	28.9	30.3	33.7	33.3
文化・芸術活動の情報提供	15.4	28.6	33.7	31.9	30.9	29.7	27.2
専門家からの指導	15.4	21.4	22.9	26.7	28.3	34.3	34.0
文化・芸術分野の仕事につながる環境の整備	7.7	26.2	37.3	32.6	28.9	27.9	23.8
その他	7.7	-	-	2.2	4.6	1.2	2.7

2.2.14. 市の運営する文化・芸術関連施設等について、来所、利用したことがある施設

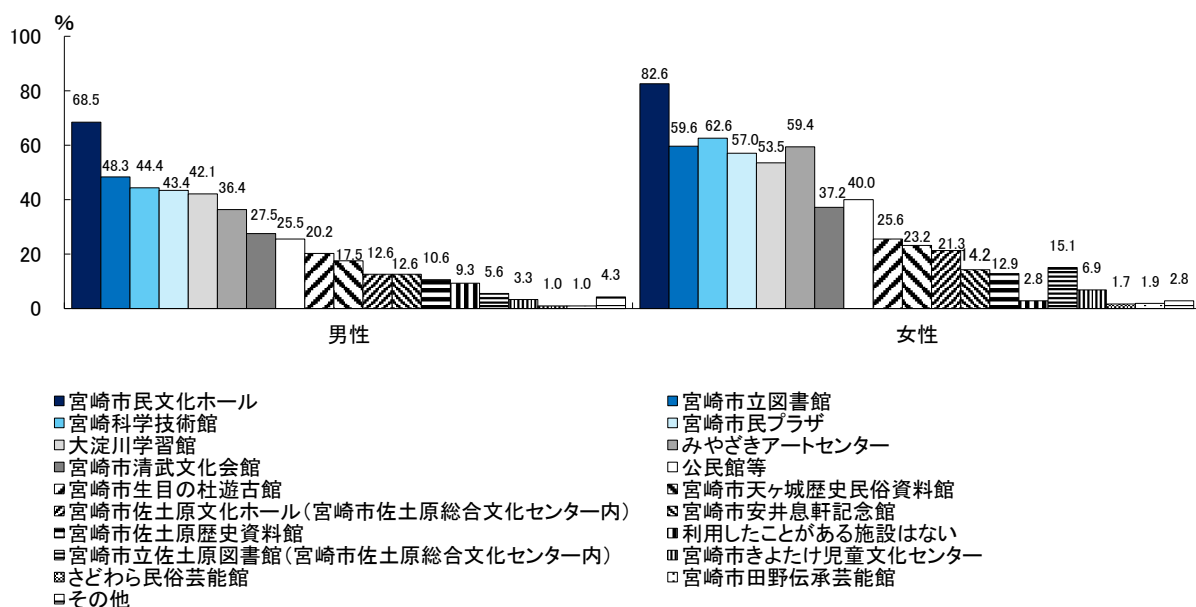
市の運営する文化・芸術関連施設等について、来所、利用したことがある施設は、「宮崎市民文化ホール（77.4%）」が圧倒的に高く、「宮崎科学技術館（55.4%）」「宮崎市立図書館（54.9%）」「宮崎市民プラザ（51.5%）」「みやざきアートセンター（50.5%）」「大淀川学習館（48.7%）」の順で50%前後となるなど、他の施設を大幅に上回った（図表 45）。

男女別では、前述の上位施設で女性の来所、利用回答率が高く、年代別では各施設で中心年代層が異なることが明らかとなった（次頁図表 46、47）。一方、これらの項目以下の施設の来所、利用は全年代で低く、特定施設に集中しているといえる。

図表 45. 市の運営する文化・芸術関連施設等について、来所、利用したことがある施設
（全体、複数回答）



図表 46. 男女別 市の運営する文化・芸術関連施設等について、来所、利用したことがある施設（複数回答）



図表 47. 年代別 市の運営する文化・芸術関連施設等について、来所、利用したことがある施設（複数回答）

単位：％

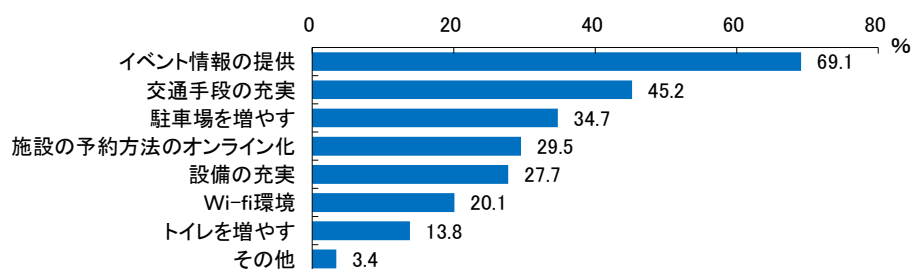
	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
宮崎市民文化ホール	76.9	76.2	74.1	83.1	82.7	73.2	74.5
宮崎科学技術館	53.8	59.5	70.6	64.7	56.4	55.9	38.8
宮崎市立図書館	61.5	64.3	61.2	65.4	56.4	50.8	43.6
宮崎市民プラザ	30.8	50.0	48.2	47.8	51.9	50.8	59.4
みやざきアートセンター	46.2	61.9	68.2	62.5	53.2	41.3	37.0
大淀川学習館	46.2	66.7	56.5	59.6	46.2	46.4	38.2
公民館等	38.5	31.0	31.8	41.2	30.8	31.8	35.8
宮崎市清武文化会館	15.4	21.4	24.7	33.8	37.2	39.1	32.7
宮崎市生目の杜遊古館	30.8	21.4	21.2	27.2	27.6	19.0	23.0
宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館	30.8	14.3	22.4	23.5	16.0	19.0	26.7
宮崎市佐土原文化ホール(宮崎市佐土原総合文化センター内)	7.7	14.3	17.6	17.6	20.5	19.6	15.2
宮崎市安井息軒記念館	23.1	9.5	9.4	12.5	11.5	15.6	16.4
宮崎市佐土原歴史資料館	-	9.5	10.6	10.3	13.5	12.8	13.9
宮崎市立佐土原図書館(宮崎市佐土原総合文化センター内)	15.4	9.5	11.8	13.2	16.7	10.6	5.5
宮崎市きよたけ児童文化センター	7.7	2.4	8.2	7.4	2.6	8.4	2.4
利用したことがある施設はない	-	4.8	1.2	4.4	4.5	6.7	7.3
宮崎市田野伝承芸能館	-	-	-	2.9	2.6	1.1	1.2
さどわら民俗芸能館	-	2.4	-	2.2	1.9	1.1	1.2
その他	7.7	2.4	5.9	0.7	3.8	2.2	4.2

2.2.15. 市の運営する文化・芸術関連施設等の利便性を高めるにあたり、何を改善すれば良いか

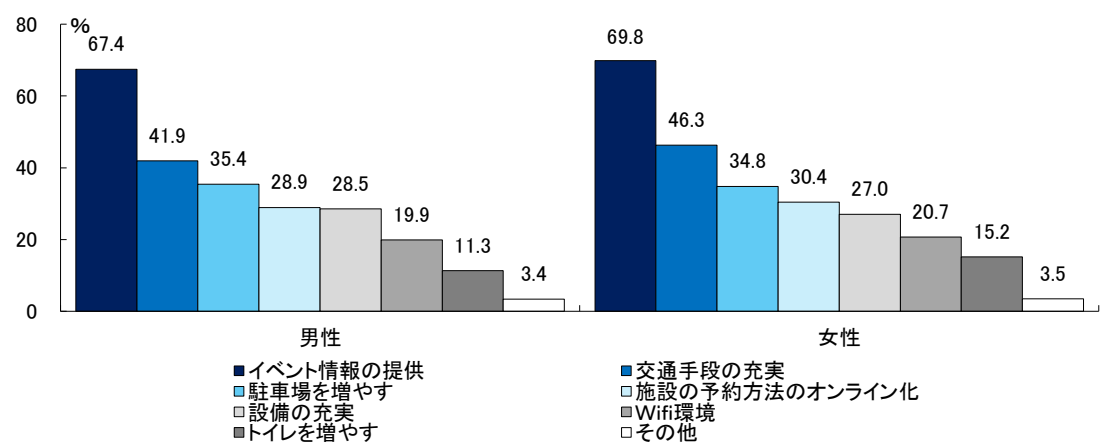
市の運営する文化・芸術関連施設等の利便性を高めるにあたり、何を改善すれば良いかについては、「イベント情報の提供（69.1%）」が最も高く、次いで「交通手段の充実（45.2%）」となり、情報提供が広く求められる様子が明らかとなった（図表 48）。

男女別では大きな差はみられず、男女同様の回答となった（次頁図表 49）。年代別では、「20 歳未満」を除き「イベント情報の提供」を求める回答率が高く、「交通手段の充実」は 20 歳代未満が最も高い（次頁図表 50）。なお、「20 歳未満」においては、「施設の予約方法のオンライン化（76.9%）」が最も高い。「wi-fi 環境」についても同様に「20 歳未満」の高さが目立つ。若い世代にとって、今の時代に合っているのか問われる結果となった。

図表 48. 市の運営する文化・芸術関連施設等の利便性を高めるにあたり、何を改善すれば良いか（全体、複数回答）



図表 49. 男女別 市の運営する文化・芸術関連施設等の利便性を高めるにあたり、何を改善すれば良いか（複数回答）



図表 50. 年代別 市の運営する文化・芸術関連施設等の利便性を高めるにあたり、何を改善すれば良いか（複数回答）

単位: %

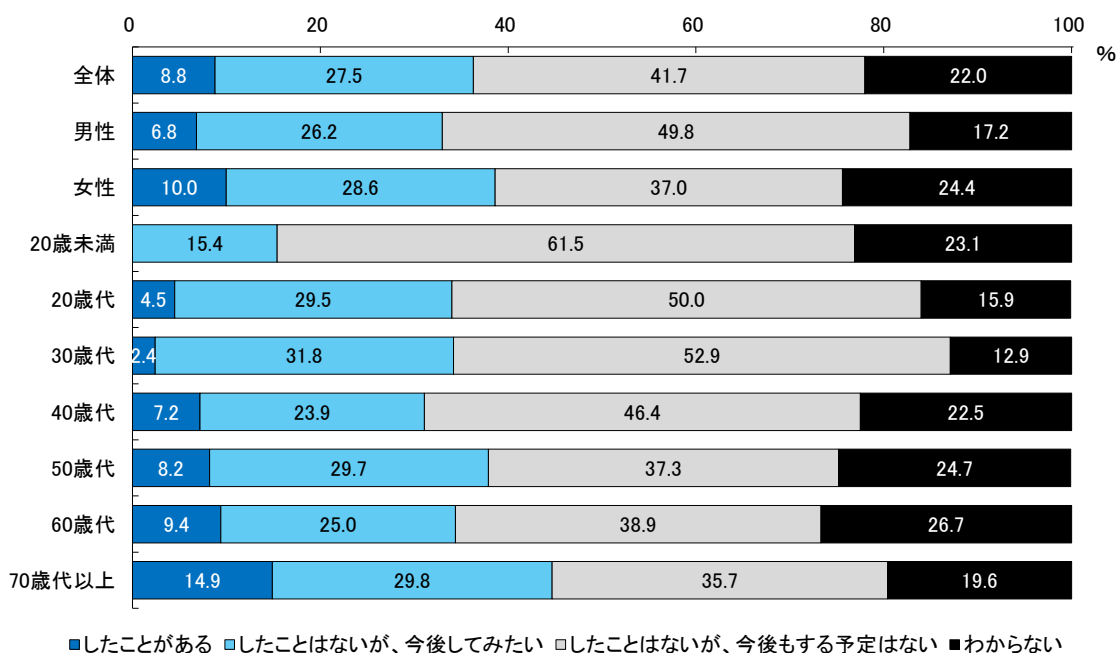
	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
イベント情報の提供	38.5	65.1	72.9	71.9	71.2	67.6	67.3
交通手段の充実	53.8	37.2	41.2	40.7	40.4	52.8	47.7
駐車場の増やす	38.5	27.9	40.0	30.4	39.7	39.2	28.1
施設の予約方法のオンライン化	76.9	51.2	49.4	41.5	32.1	15.9	11.1
設備の充実	46.2	27.9	45.9	34.8	26.3	22.7	17.0
Wi-fi環境	46.2	27.9	32.9	26.7	23.1	15.9	5.2
トイレを増やす	15.4	14.0	10.6	14.1	12.8	17.0	13.1
その他	-	4.7	4.7	3.7	3.2	1.7	4.6

2. 2. 16. 過去 1 年間に文化・芸術振興に関する分野に寄附をしたことがあるか

過去 1 年間に文化・芸術振興に関する分野に寄附をしたことがあるかについては、「全体」で肯定的な回答である「したことがある」「したことはないが、今後してみたい」合計で 36.3%となったものの、「したことはないが、今後もしない予定はない (41.7%)」を下回り、寄附のハードルの高さを示す結果となった（次頁図表 51）。男女別では女性の肯定的な回答率が高く、年代別では「したことがある」は年代が高まるに従い回答率が上昇したが、僅かなものにとどまった。

これらの結果から、寄附については一定の関心はあるものの、寄附への理解が不足していることが明らかとなった。

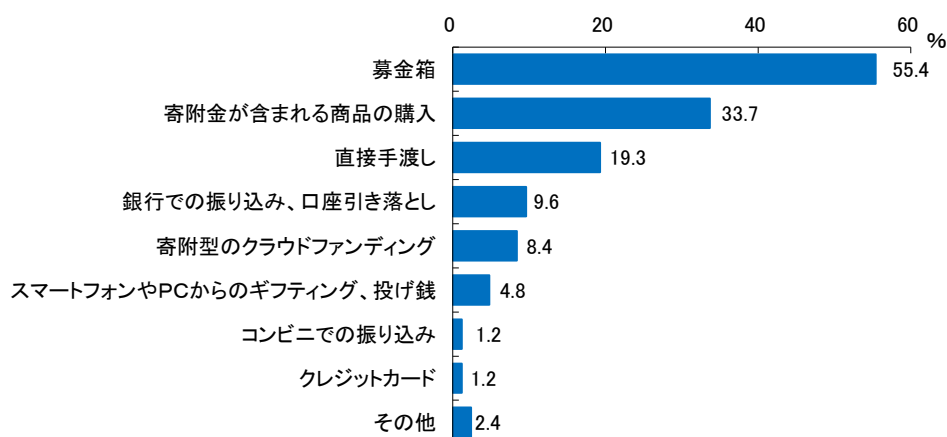
図表 51. 過去 1 年間に文化・芸術振興に関する分野に寄附をしたことがあるか



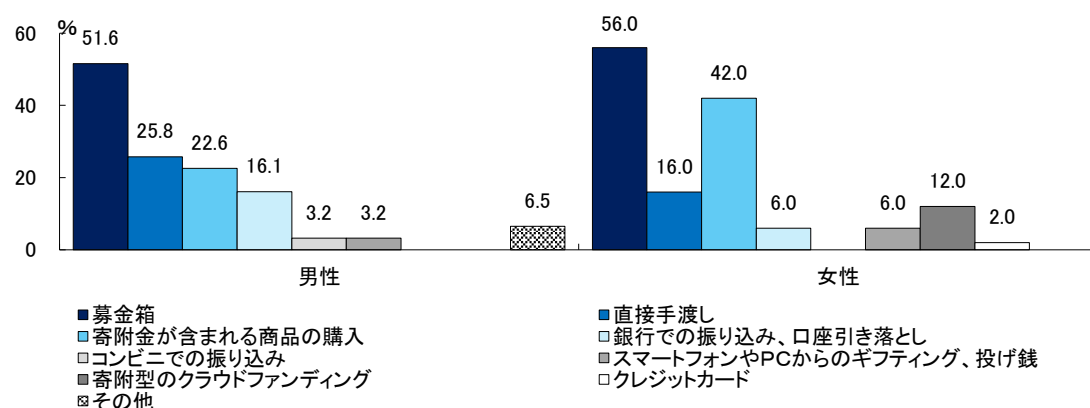
2. 2. 17. 寄附の方法

寄附の方法は、「募金箱（55.4%）」が圧倒的に高く、2 番目が「寄附金が含まれる商品の購入（33.7%）」、3 番目が「直接手渡し（19.3%）」となった（図表 52）。男女ともに「募金箱」が最も高いが、女性は「寄附金が含まれる商品の購入（42.0%）」が男性に比べ+19.4 P となり、特徴的な結果となった（次頁図表 53）。年代別では、「40 歳代」以上は一定の分散がみられるが、「30 歳代」以下は回答数が少なく、特徴的な結果とはいえない（次頁図表 54）。

図表 52. 寄附の方法（全体、複数回答）



図表 53. 男女別 寄附の方法（複数回答）



図表 54. 年代別 寄附の方法（複数回答）

単位：％

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
募金箱	-	33.3	100.0	70.0	37.5	58.8	57.6
寄附金が含まれる商品の購入	-	33.3	100.0	30.0	43.8	17.6	36.4
直接手渡し	100.0	33.3	-	10.0	6.3	11.8	30.3
銀行での振り込み、口座引き落とし	-	-	-	-	6.3	23.5	9.1
寄附型のクラウドファンディング	-	33.3	-	20.0	12.5	11.8	-
スマートフォンやPCからのギフトリング、投げ銭	-	33.3	-	-	6.3	-	6.1
コンビニでの振り込み	-	-	-	-	-	-	3.0
クレジットカード	-	-	-	-	-	-	3.0
その他	-	-	-	-	-	-	6.1

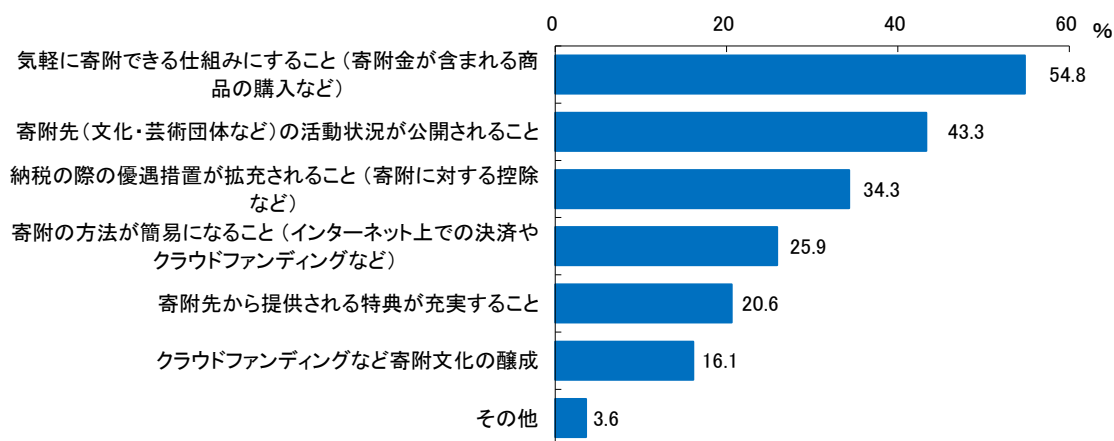
2. 2. 18. どうすれば文化・芸術への寄附がしやすくなる、寄附したいと思うのか

どうすれば文化・芸術への寄附がしやすくなる、寄附したいと思うのかについては、「気軽に寄附できる仕組みにすること（寄附金が含まれる商品の購入など、54.8%）」が最も高く、次いで「寄附先（文化・芸術団体など）の活動状況が公開されること（43.3%）」となった（次頁図表 55）。

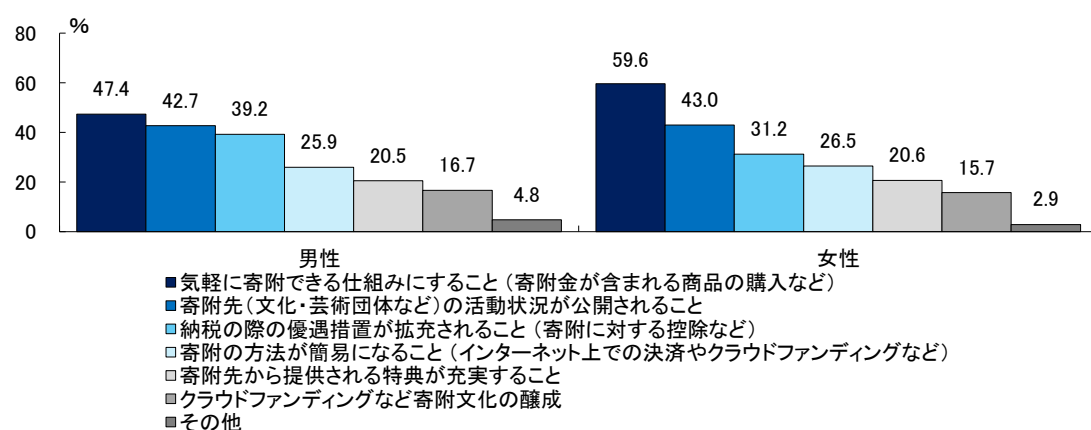
男女別では、男性より女性の方が気軽さを求める傾向が強く、「気軽に寄附できる仕組みにすること（寄附金が含まれる商品の購入など）」は男性比+12.2Pとなった（次頁図表 56）。男性は「納税の際の優遇措置が拡充されること（寄附に対する控除など）」が同+8.0Pとなり、メリットを求める傾向が女性よりやや強いことが明らかとなった。

年代別では、「気軽に寄附できる仕組みにすること（寄附金が含まれる商品の購入など）」は全年代ともに高く、「寄附先（文化・芸術団体など）の活動状況が公開されること」も全年代で大きな差はみられない（次頁図表 57）。「20歳未満」「20歳代」「30歳代」においては、寄附の方法簡素化に関する回答率が高さも目立つ結果となった。

図表 55. どうすれば文化・芸術への寄附がしやすくなる、寄附したいと思うのか
(全体、複数回答)



図表 56. 男女別 どうすれば文化・芸術への寄附がしやすくなる、寄附したいと思うのか
(複数回答)



図表 57. 年代別 どうすれば文化・芸術への寄附がしやすくなる、寄附したいと思うのか
(複数回答)

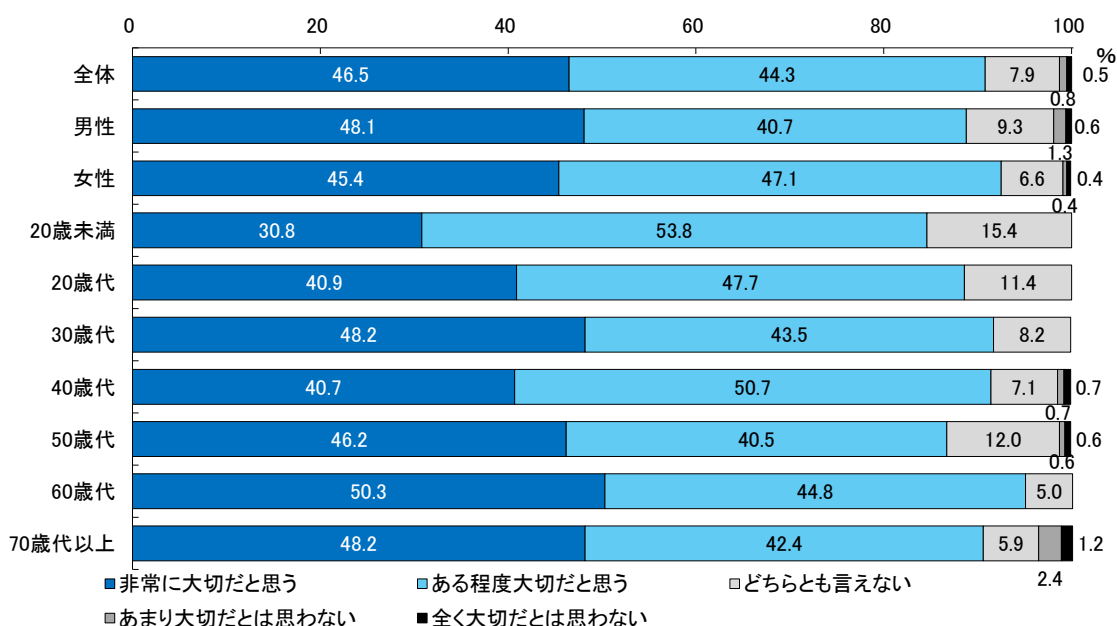
単位: %

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
気軽に寄附できる仕組みにすること(寄附金が含まれる商品の購入など)	53.8	40.5	60.7	44.8	54.2	58.0	61.9
寄附先(文化・芸術団体など)の活動状況が公開されること	38.5	42.9	44.0	44.0	46.4	45.4	36.7
納税の際の優遇措置が拡充されること(寄附に対する控除など)	23.1	38.1	40.5	42.5	41.8	31.6	19.0
寄附の方法が簡易になること(インターネット上での決済やクラウドファンディングなど)	46.2	35.7	45.2	31.3	29.4	21.3	8.2
寄附先から提供される特典が充実すること	30.8	31.0	40.5	25.4	17.0	16.7	9.5
クラウドファンディングなど寄附文化の醸成	-	33.3	26.2	22.4	11.8	10.3	12.9
その他	7.7	-	-	0.7	3.9	4.6	6.8

2.2.19. 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取り組みについての考え方

伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取り組みについての考え方については、回答全体で「非常に大切だと思う」「ある程度大切だと思う」合計で 90.8%となり、男女別、年代別でも総じて同項目の回答率が高い結果となった（図表 58）。伝統芸能や地域の伝統行事の重要性は広く認識されているといえる。

図表 58. 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取り組みについての考え方



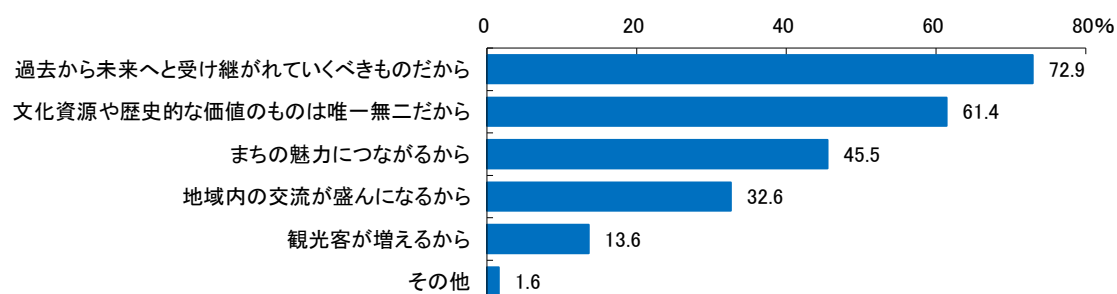
2.2.20. 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取り組みについての考え方が「非常に大切」「ある程度大切」と思う理由

伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取り組みについての考え方が「非常に大切」「ある程度大切」と思う理由は、「過去から未来へと受け継がれていくべきものだから（72.9%）」が最も高く、次いで、「文化資源や歴史的な価値のものは唯一無二だから（61.4%）」となった（次頁図表 59）。観光資源としての考え方については回答率が低いものとなった。

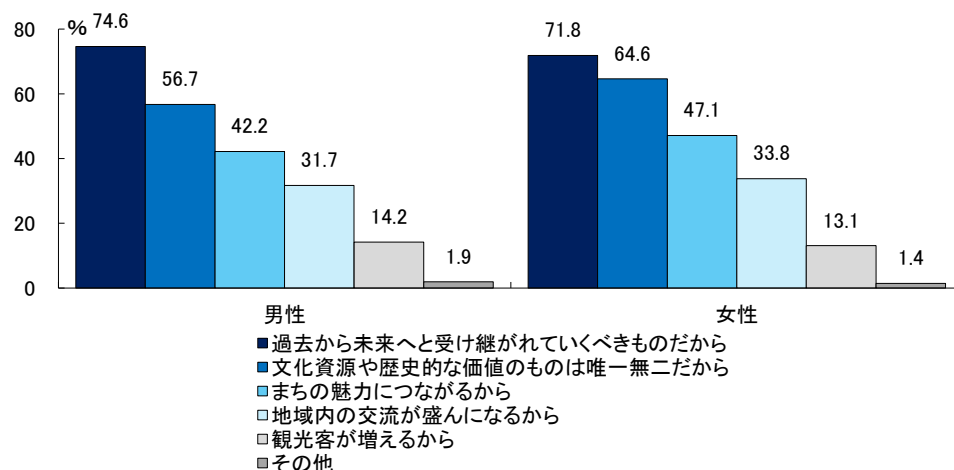
男女別では、男女ともに同様の傾向がみられるが、「文化資源や歴史的な価値のものは唯一無二だから」は男女差が最も大きく、女性が男性比+7.9Pとなった（次頁図表 60）。

年代別では、全ての年代で上位 2 項目の回答率が高い（次頁図表 61）。「まちの魅力につながるから」は「20 歳未満」から「40 歳代」の各回答率が「50 歳代」「60 歳代」「70 歳代以上」の回答率を上回るなど、若い世代は「活用」を意識した項目の回答率が高いといえる。

図表 59. 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取り組みについての考え方が「非常に大切」「ある程度大切」と思う理由（全体、複数回答）



図表 60. 男女別 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取り組みについての考え方が「非常に大切」「ある程度大切」と思う理由（複数回答）



図表 61. 年代別 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取り組みについての考え方が「非常に大切」「ある程度大切」と思う理由（複数回答）

単位: %

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
過去から未来へと受け継がれていくべきものだから	54.5	69.2	74.0	65.9	71.9	76.6	77.7
文化資源や歴史的な価値のものは唯一無二だから	54.5	64.1	70.1	62.7	59.3	59.3	60.1
まちの魅力につながるから	54.5	51.3	55.8	51.6	47.4	45.5	31.1
地域内の交流が盛んになるから	-	38.5	36.4	37.3	30.4	28.1	35.1
観光客が増えるから	-	30.8	22.1	16.7	14.1	11.4	4.7
その他	-	-	-	3.2	3.7	-	0.7

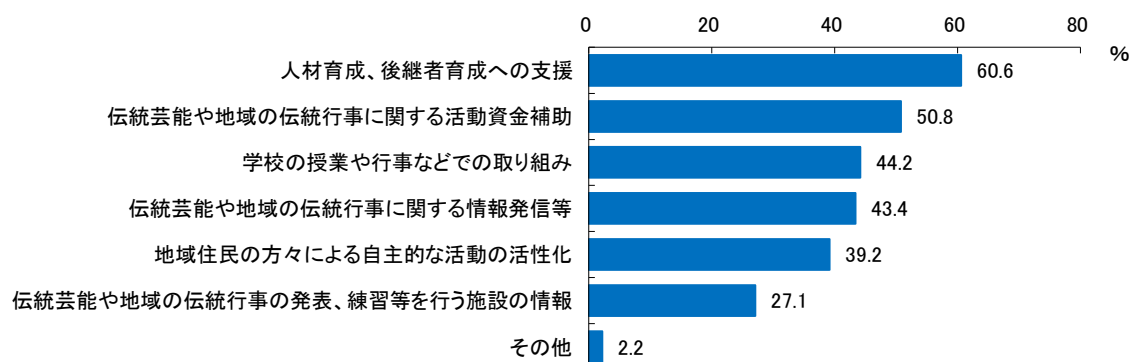
2.2.21. 伝統芸能や地域の伝統行事を保存、持続可能なものとするために必要な対応

伝統芸能や地域の伝統行事を保存、持続可能なものとするために必要な対応は、「人材育成、後継者育成への支援（60.6%）」が最も高く、次いで「伝統芸能や地域の伝統行事に関する活動資金補助（50.8%）」となった（図表 62）。

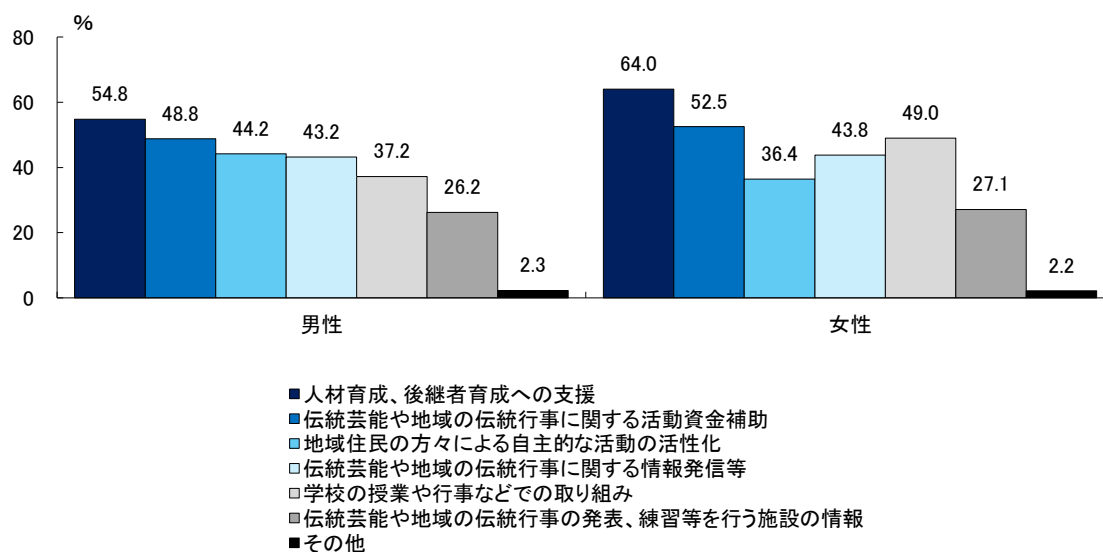
男女別では、多くの項目で男性に比べ女性の回答率が高く、「人材育成、後継者育成への支援」は男性比+9.2Pとなった（図表 63）。男性においては、「地域住民の方々による自主的な活動の活性化」が女性比+7.8Pとなった。

年代別では、「20 歳代」以上の全年代で「人材育成、後継者育成への支援」「伝統芸能や地域の伝統行事に関する活動資金補助」が高い（次頁図表 64）。「伝統芸能や地域の伝統行事に関する情報発信等」は「20 歳代」の回答率が最も高く、若い世代が高いものとなった。

図表 62. 伝統芸能や地域の伝統行事を保存、持続可能なものとするために必要な対応
（全体、複数回答）



図表 63. 男女別 伝統芸能や地域の伝統行事を保存、持続可能なものとするために必要な対応（複数回答）



図表 64. 年代別 伝統芸能や地域の伝統行事を保存、持続可能なものとするために必要な対応（複数回答）

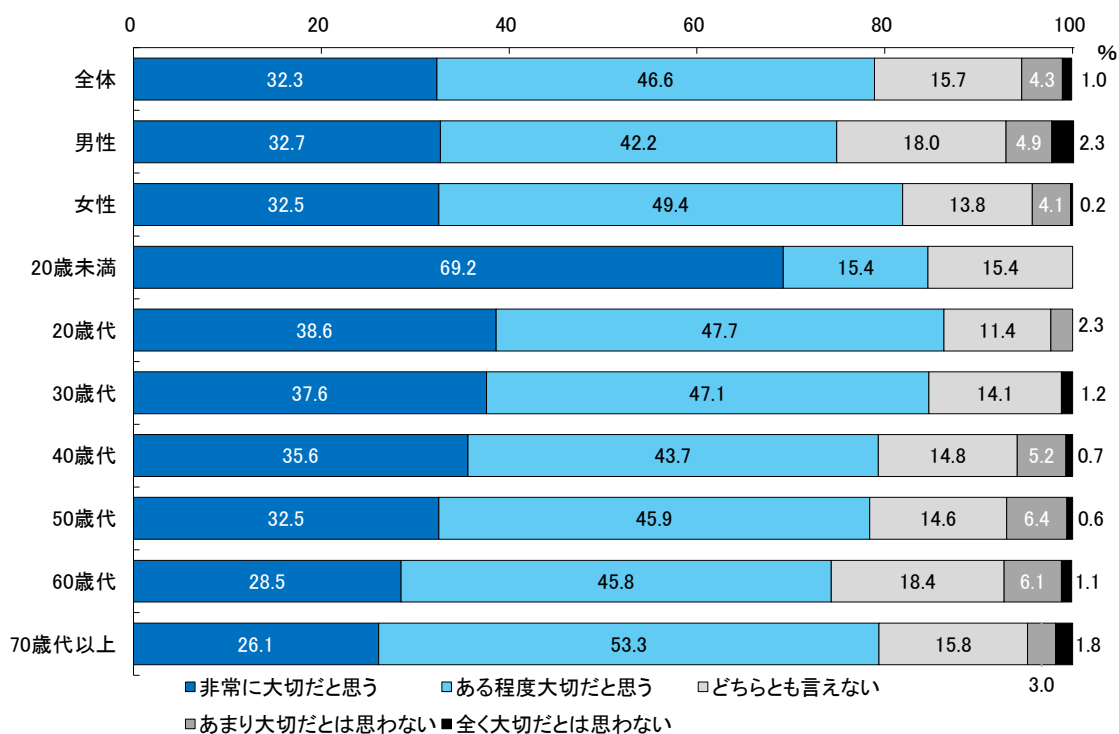
単位：％

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
人材育成、後継者育成への支援	23.1	47.6	60.0	64.4	59.7	67.4	56.1
伝統芸能や地域の伝統行事に関する活動資金補助	15.4	42.9	50.6	58.5	51.3	51.1	49.4
学校の授業や行事などでの取り組み	38.5	57.1	54.1	54.1	48.1	38.8	31.1
伝統芸能や地域の伝統行事に関する情報発信等	46.2	54.8	54.1	48.1	51.3	35.4	31.7
地域住民の方々による自主的な活動の活性化	46.2	42.9	30.6	40.0	37.7	36.0	47.0
伝統芸能や地域の伝統行事の発表、練習等を行う施設の確保	15.4	26.2	16.5	27.4	28.6	33.1	24.4
その他	-	-	-	3.0	3.2	2.2	2.4

2.2.22. 本市の文化・芸術の振興に尽くし、その功績が大変すばらしい市民に対して、表彰することへの思い

本市の文化・芸術の振興に尽くし、その功績が大変すばらしい市民に対して、表彰することへの思いについては、全体、男女、全ての年代において「非常に大切だと思う」「ある程度大切だと思う」合計が 70%以上となった（図表 65）。表彰に対して肯定的であるといえる。

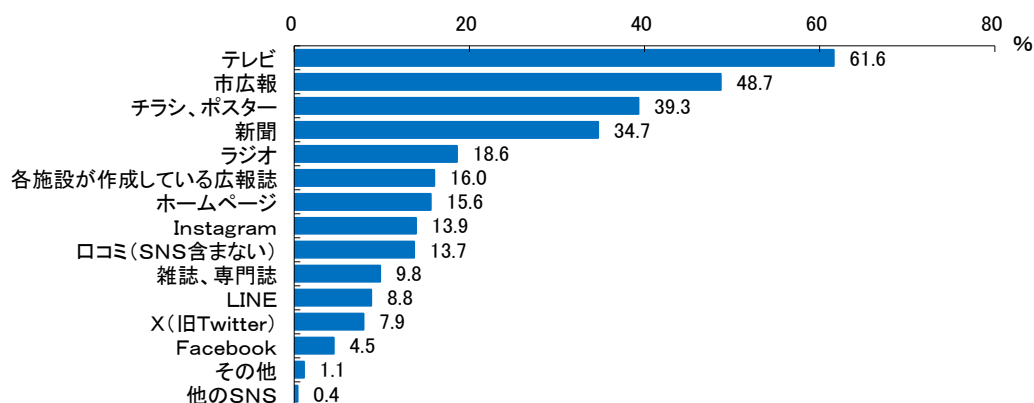
図表 65. 本市の文化・芸術の振興に尽くし、その功績が大変すばらしい市民に対して、表彰することへの思い



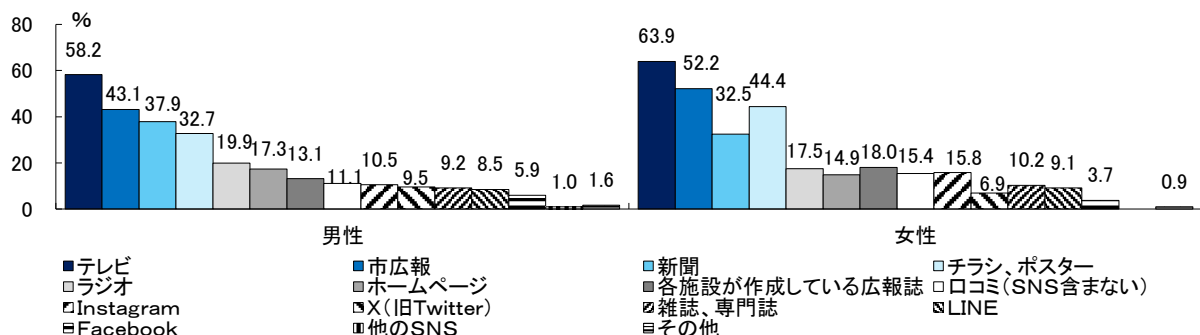
2.2.23. 文化・芸術に関する情報（イベントや講座等）の入手先

文化・芸術に関する情報（イベントや講座等）の入手先は、年代層の高い回答者が多いことから、全体では「テレビ（61.6%）」が最も高く、次いで「市広報（48.7%）」となった（図表 66）。男女別では、ともに「テレビ」が最も高いが、「市広報」「チラシ・ポスター」は女性が男性比+10 P 前後高く、「新聞」は男性が+5.4 P 高い結果となった（図表 67）。年代別では上位 3 項目以外の多くの項目で回答率の低さが目立つ（図表 68）。

図表 66. 文化・芸術に関する情報（イベントや講座等）の入手先（全体、複数回答）



図表 67. 男女別 文化・芸術に関する情報（イベントや講座等）の入手先（複数回答）



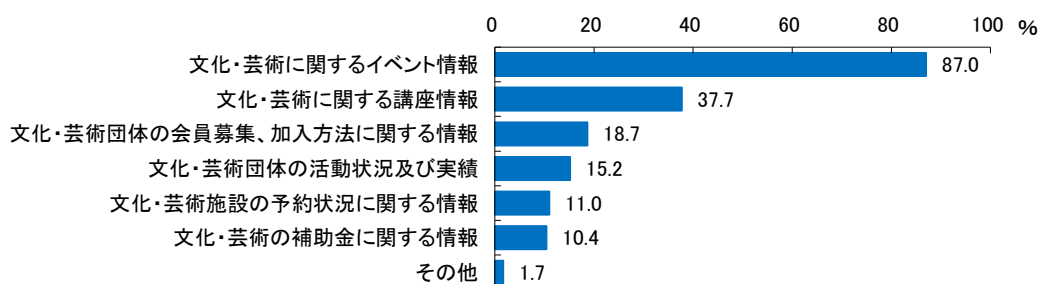
図表 68. 年代別 文化・芸術に関する情報（イベントや講座等）の入手先（複数回答）

	単位: %						
	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
テレビ	38.5	53.5	52.9	56.9	64.1	65.9	66.7
市広報	23.1	20.9	34.1	38.7	45.5	54.2	70.3
チラシ、ポスター	30.8	32.6	37.6	46.0	37.2	39.1	40.0
新聞	-	18.6	18.8	19.0	32.7	47.5	49.1
ラジオ	7.7	9.3	16.5	19.7	22.4	21.8	15.2
各施設が作成している広報誌	7.7	14.0	14.1	18.2	16.0	16.8	15.2
ホームページ	7.7	18.6	20.0	26.3	19.2	11.2	6.1
Instagram	15.4	51.2	34.1	19.7	14.1	3.4	0.6
口コミ(SNS含まない)	7.7	16.3	15.3	19.7	12.2	9.5	13.9
雑誌、専門誌	7.7	9.3	12.9	14.6	8.3	11.2	4.8
LINE	7.7	18.6	16.5	11.7	8.3	8.4	1.2
X(旧Twitter)	15.4	34.9	20.0	9.5	7.7	1.7	-
Facebook	-	11.6	8.2	7.3	5.1	2.2	0.6
他のSNS	-	2.3	1.2	-	0.6	-	-
その他	7.7	-	1.2	0.7	1.3	1.7	0.6

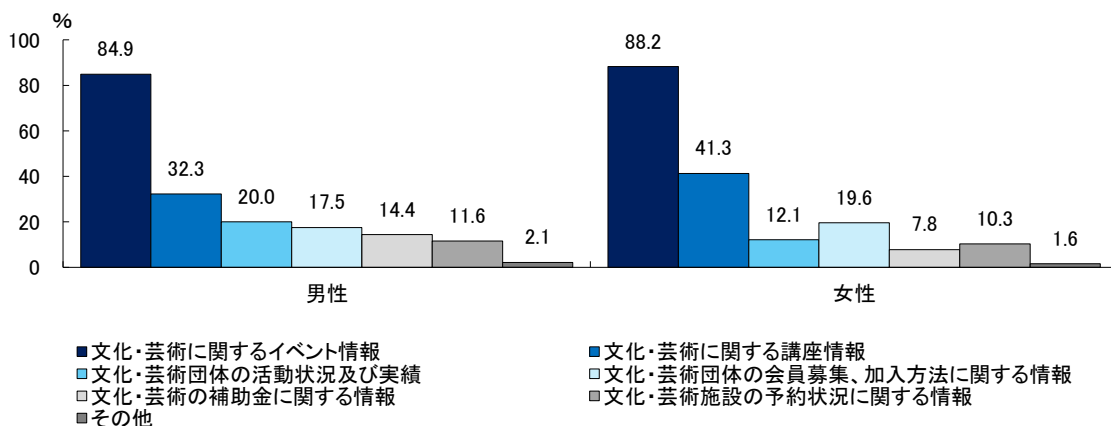
2.2.24. 本市において発信してほしい文化・芸術に関する情報

本市において発信してほしい文化・芸術に関する情報は、「文化・芸術に関するイベント情報（87.0%）」が圧倒的に高く、次いで「文化・芸術に関する講座情報（37.7%）」となった（図表 69）。男女別では、ともに「文化・芸術に関するイベント情報」が圧倒的に高いが、2 番目となる「文化・芸術に関する講座情報」は女性が男性比+9.0 P 高い結果となった（図表 70）。年代別では、全年代ともに「文化・芸術に関するイベント情報」が圧倒的に高く、「文化・芸術に関する講座情報」は「50 歳代（46.7%）」が最も高く、次いで「60 歳代（40.8%）」となった（図表 71）。

図表 69. 本市において発信してほしい文化・芸術に関する情報（全体、複数回答）



図表 70. 男女別 本市において発信してほしい文化・芸術に関する情報（複数回答）



図表 71. 年代別 本市において発信してほしい文化・芸術に関する情報（複数回答）

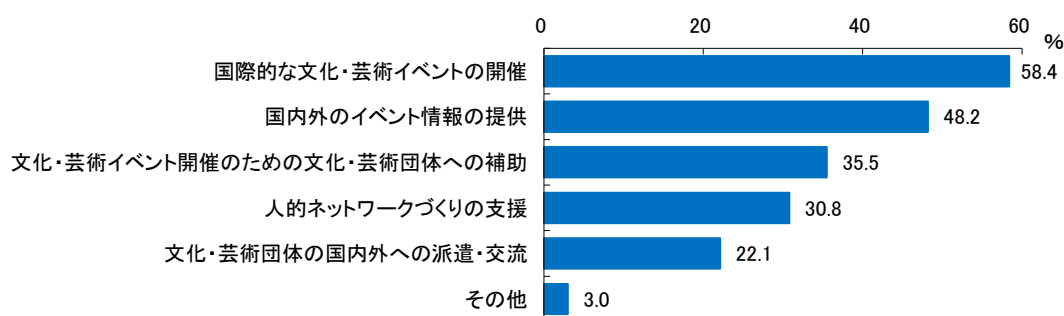
単位: %

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
文化・芸術に関するイベント情報	92.3	88.4	91.6	88.6	88.0	81.1	87.6
文化・芸術に関する講座情報	7.7	32.6	36.1	34.1	46.7	40.8	32.7
文化・芸術団体の会員募集、加入方法に関する情報	-	18.6	16.9	18.9	20.7	21.3	16.3
文化・芸術団体の活動状況及び実績	15.4	16.3	14.5	12.1	19.3	13.6	15.7
文化・芸術施設の予約状況に関する情報	-	25.6	10.8	15.2	12.0	7.7	7.2
文化・芸術の補助金に関する情報	23.1	9.3	13.3	17.4	11.3	7.1	4.6
その他	7.7	-	-	0.8	2.7	1.2	3.3

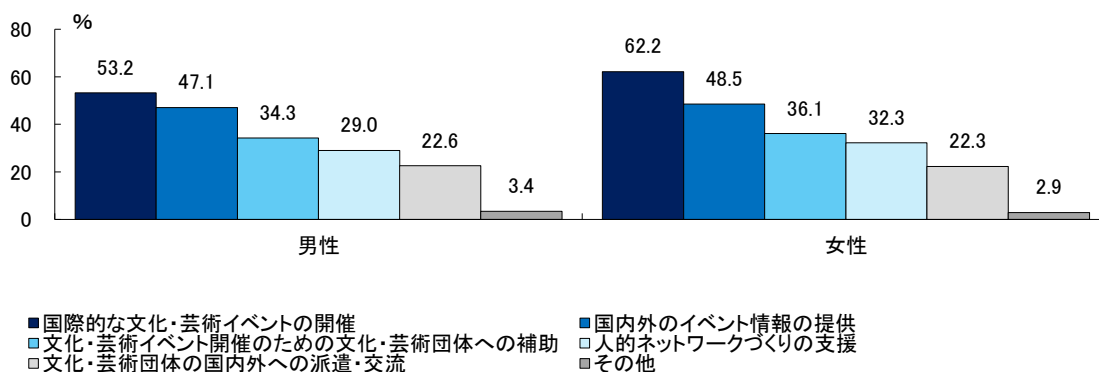
2.2.25. 本市の文化・芸術を通じた国内外の人々の交流を促進するために必要な対応

本市の文化・芸術を通じた国内外の人々の交流を促進するために必要な対応は、「国際的な文化・芸術イベントの開催（58.4%）」が最も高く、次いで「国内外のイベント情報の提供（48.2%）」となった（図表 72）。男女別では、「文化・芸術団体の国内外への派遣・交流」「その他」を除く全ての項目で女性の回答率が男性を上回った（図表 73）。年代別では、「国際的な文化・芸術イベントの開催」は全年代で回答率が高く、特に「20 歳代未満（76.9%）」「30 歳代（71.8%）」の高さが目立った（図表 74）。

図表 72. 本市の文化・芸術を通じた国内外の人々の交流を促進するために必要な対応
（全体、複数回答）



図表 73. 男女別 本市の文化・芸術を通じた国内外の人々の交流を促進するために必要な対応（複数回答）



図表 74. 年代別 本市の文化・芸術を通じた国内外の人々の交流を促進するために必要な対応（複数回答）

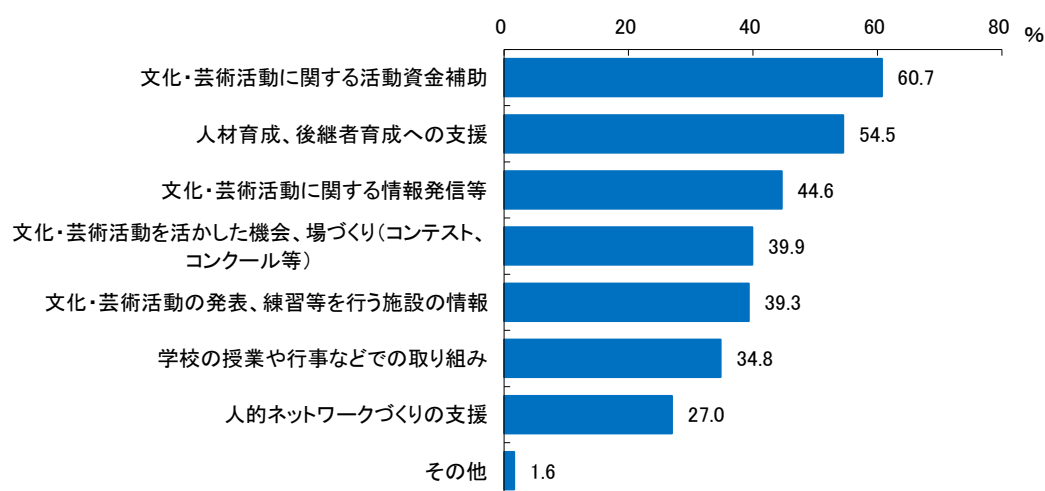
単位: %

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
国際的な文化・芸術イベントの開催	76.9	59.5	71.8	61.0	60.4	57.6	46.5
国内外のイベント情報の提供	38.5	54.8	43.5	49.3	44.8	43.6	56.1
文化・芸術イベント開催のための文化・芸術団体への補助	30.8	26.2	37.6	39.0	30.5	36.6	38.2
人的ネットワークづくりの支援	15.4	38.1	30.6	36.0	33.8	29.7	24.2
文化・芸術団体の国内外への派遣・交流	23.1	9.5	10.6	27.9	20.8	25.0	25.5
その他	-	2.4	1.2	2.9	5.2	1.7	3.8

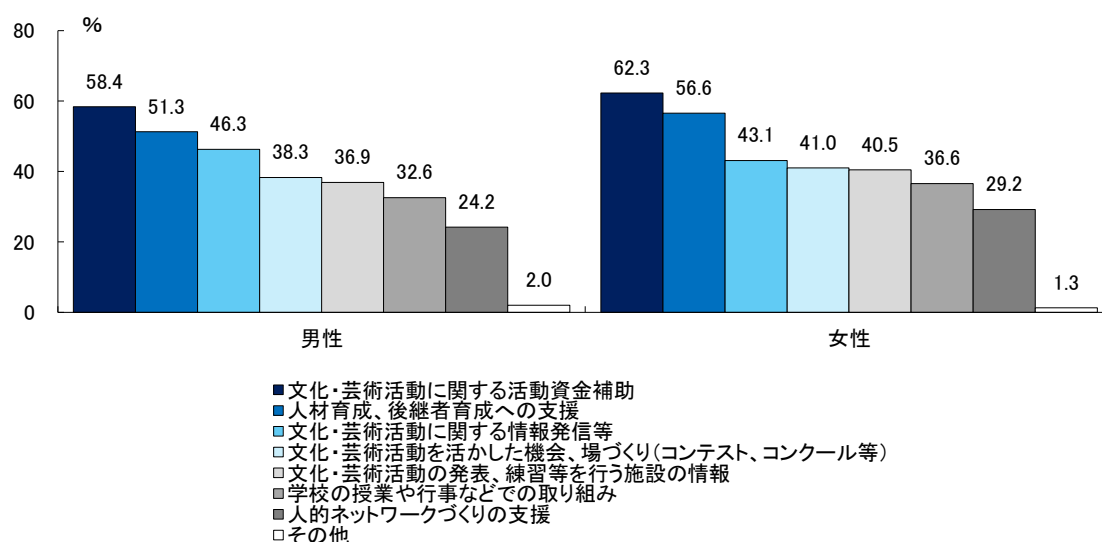
2.2.26. 文化・芸術の担い手となる人材の育成及び確保のためにあると良い支援

文化・芸術の担い手となる人材の育成及び確保のためにあると良い支援は、「文化・芸術活動に関する活動資金補助（60.7%）」が最も高く、次いで「人材育成、後継者育成への支援（54.5%）」となった（図表 75）。男女別では、「文化・芸術活動に関する情報発信等」「その他」を除き、女性の回答率が男性を上回る結果となった（図表 76）。年代別では、「文化・芸術活動に関する活動資金補助」「人材育成、後継者育成への支援」で「40 歳代」が最も高く、「文化・芸術活動に関する情報発信等」は「20 歳未満」が最も高い（次頁図表 77）。

図表 75. 文化・芸術の担い手となる人材の育成及び確保のためにあると良い支援
（全体、複数回答）



図表 76. 男女別 文化・芸術の担い手となる人材の育成及び確保のためにあると良い支援
（複数回答）



図表 77. 年代別 文化・芸術の担い手となる人材の育成及び確保のためにあると良い支援
(複数回答)

単位: %

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
文化・芸術活動に関する活動資金補助	53.8	48.8	63.5	65.9	56.8	65.3	57.9
人材育成、後継者育成への支援	30.8	41.9	51.8	60.7	56.1	57.4	51.6
文化・芸術活動に関する情報発信等	53.8	44.2	51.8	44.4	46.5	41.5	41.5
文化・芸術活動を活かした機会、場づくり(コンテスト、コンクール等)	30.8	37.2	38.8	42.2	47.7	40.3	32.7
文化・芸術活動の発表、練習等を行う施設の 情報	15.4	30.2	41.2	38.5	38.7	44.9	37.1
学校の授業や行事などでの取り組み	15.4	37.2	31.8	40.0	34.8	34.1	34.0
人的ネットワークづくりの支援	7.7	32.6	32.9	34.8	25.8	28.4	17.0
その他	-	-	-	0.7	4.5	-	2.5

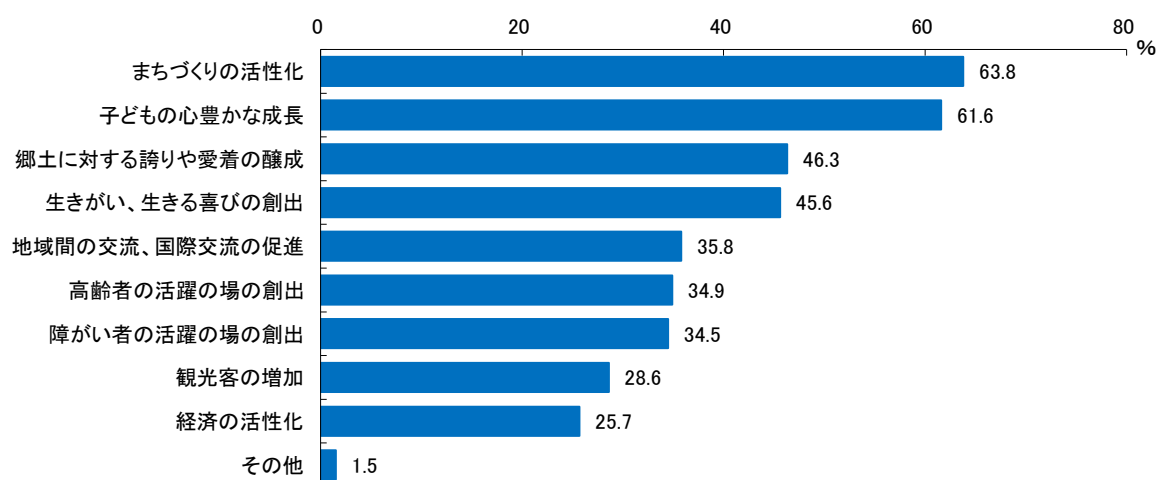
2.2.27. 文化・芸術の振興により社会にもたらされる効果として期待すること

文化・芸術の振興により社会にもたらされる効果として期待することは、「まちづくりの活性化 (63.8%)」が最も高く、2 番目は僅差で「子どもの心豊かな成長 (61.6%)」となった (図表 78)。

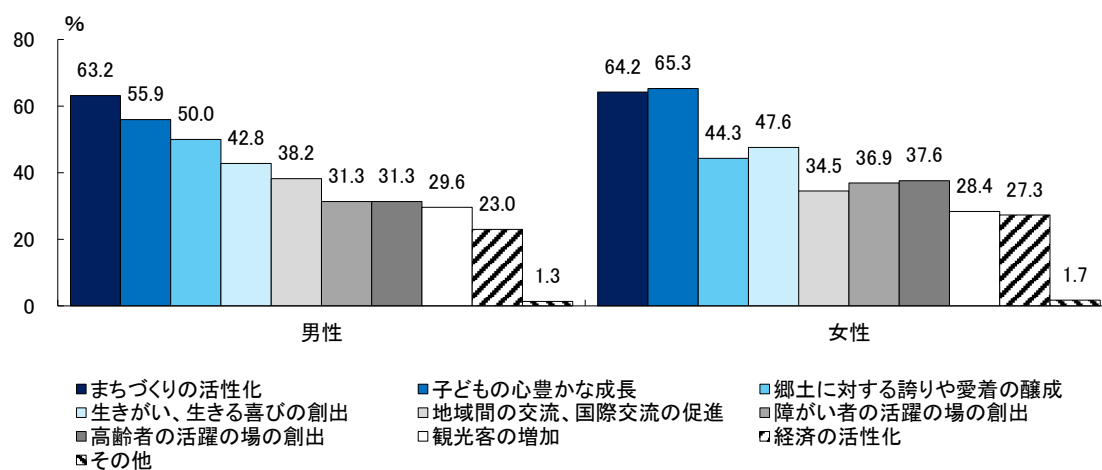
男女別では、男性は「まちづくりの活性化 (63.2%)」が最も高く、女性は「子どもの心豊かな成長 (65.3%)」が最も高い (次頁図表 79)。「郷土に対する誇りや愛着の醸成」は男性が女性比+5.7 P となり、「生きがい、生きる喜びの創出」は女性が男性比+4.8 P となるなど、男女の違いがみられた。

年代別では、「まちづくりの活性化」は「20 歳代 (70.5%)」が最も高く、「子どもの心豊かな成長」は「30 歳代 (70.6%)」が最も高く、年代別の考え方がうかがえる結果となった (次頁図表 80)。

図表 78. 文化・芸術の振興により社会にもたらされる効果として期待すること
(全体、複数回答)



図表 79. 男女別 文化・芸術の振興により社会にもたらされる効果として期待すること
(複数回答)



図表 80. 年代別 文化・芸術の振興により社会にもたらされる効果として期待すること
(複数回答)

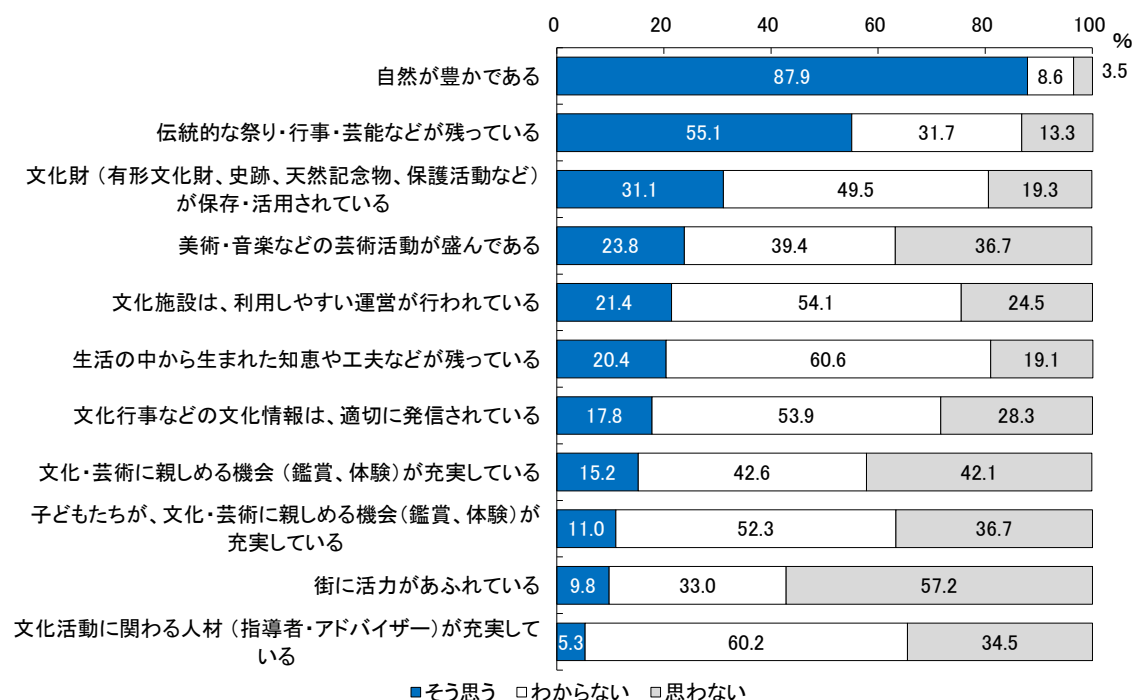
単位: %

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
まちづくりの活性化	61.5	70.5	63.5	65.0	63.6	63.9	61.6
子どもの心豊かな成長	30.8	59.1	70.6	64.2	55.8	69.4	54.7
郷土に対する誇りや愛着の醸成	23.1	45.5	37.6	43.8	50.0	50.0	47.2
生きがい、生きる喜びの創出	23.1	38.6	37.6	43.1	42.2	53.3	50.3
地域間の交流、国際交流の促進	23.1	29.5	38.8	41.6	40.3	31.7	32.1
高齢者の活躍の場の創出	38.5	22.7	41.2	27.7	33.8	40.0	35.8
障がい者の活躍の場の創出	46.2	31.8	41.2	37.2	32.5	35.0	29.6
観光客の増加	38.5	45.5	34.1	27.7	27.9	28.3	22.6
経済の活性化	38.5	31.8	25.9	32.8	26.0	22.8	20.1
その他	-	-	-	2.2	2.6	1.1	1.9

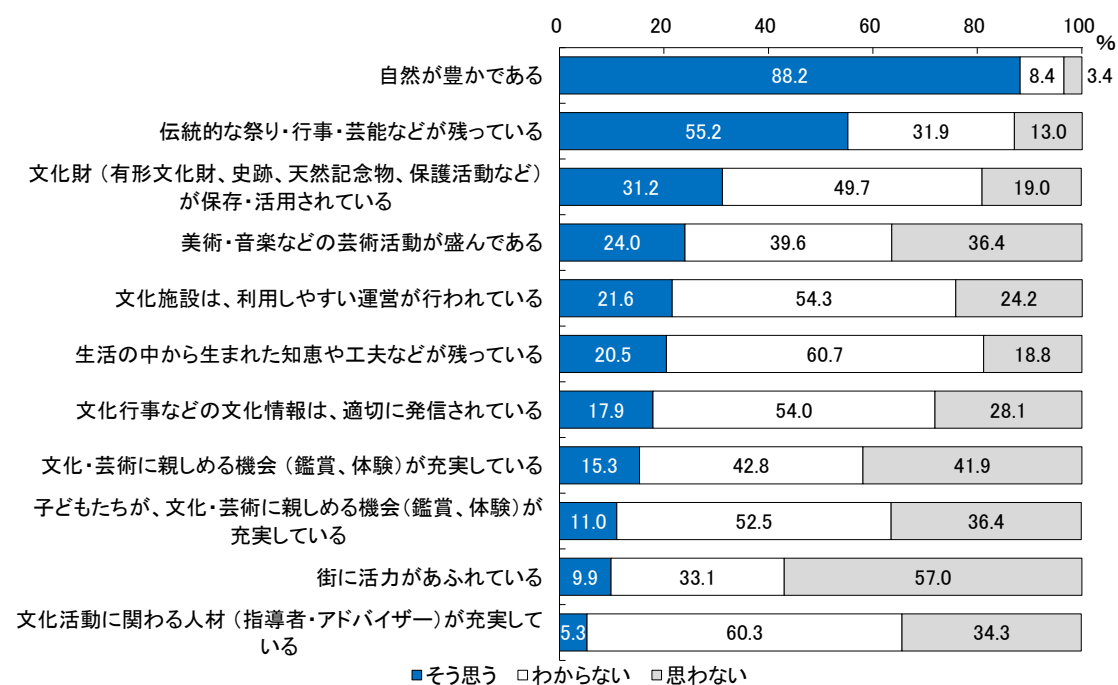
2. 2. 28. 本市の文化・芸術の現状に関するイメージ

本市の文化・芸術の現状に関するイメージの「そう思う」は、全体及び全ての属性で「自然が豊かである」が最も高く、「伝統的な祭り・行事・芸能などが残っている」が2番目となった(次頁図表 81-43 頁図表 90)。3番目は「20歳未満」が「文化施設は、利用しやすい運営が行われている」となり、「40歳代」は「美術・音楽などの芸術活動が盛んである」となった。上位項目の傾向は男女別、年代別で各回答率の差はあるものの傾向としては近いと考えられる。

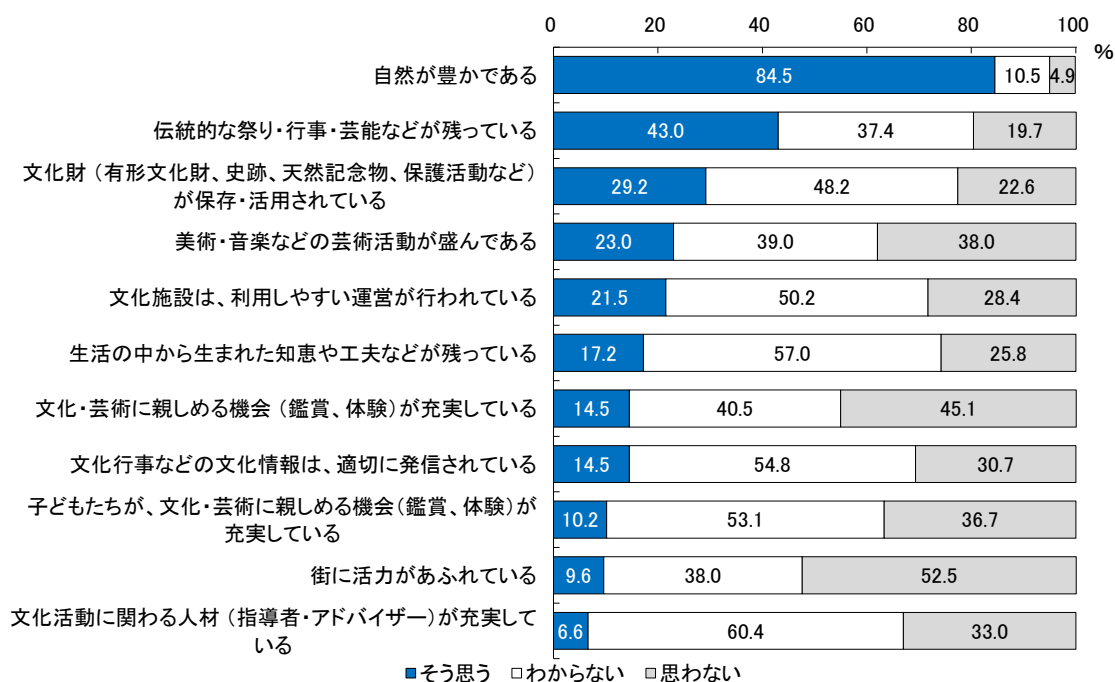
図表 81. 本市の文化・芸術の現状に関するイメージ（全体）



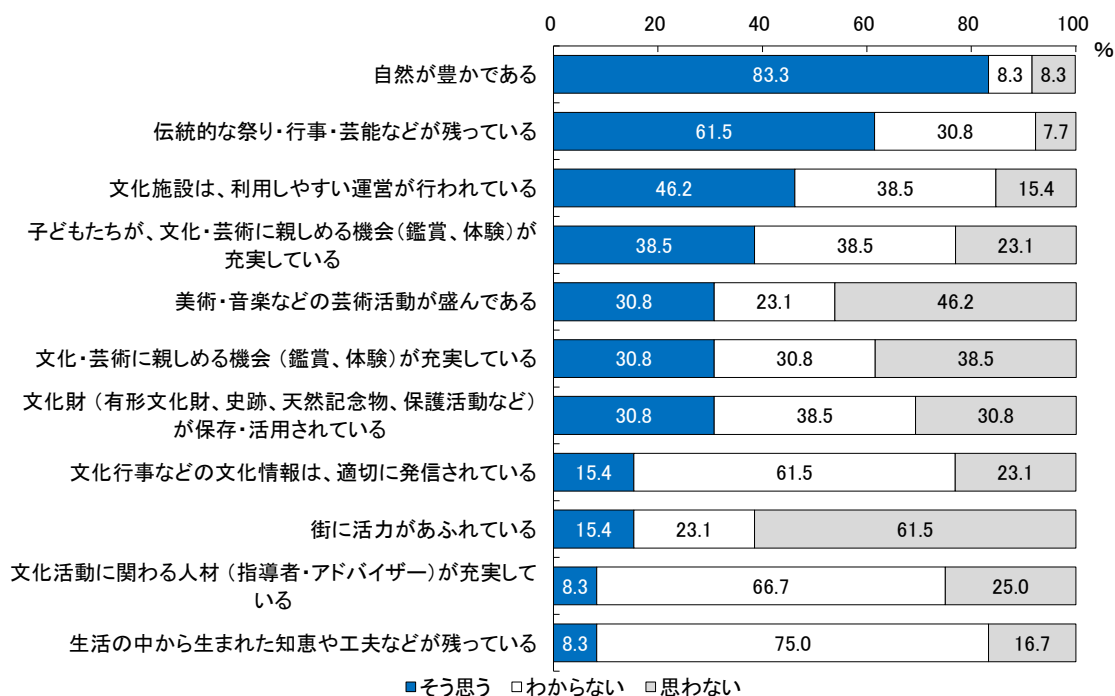
図表 82. 男性 本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



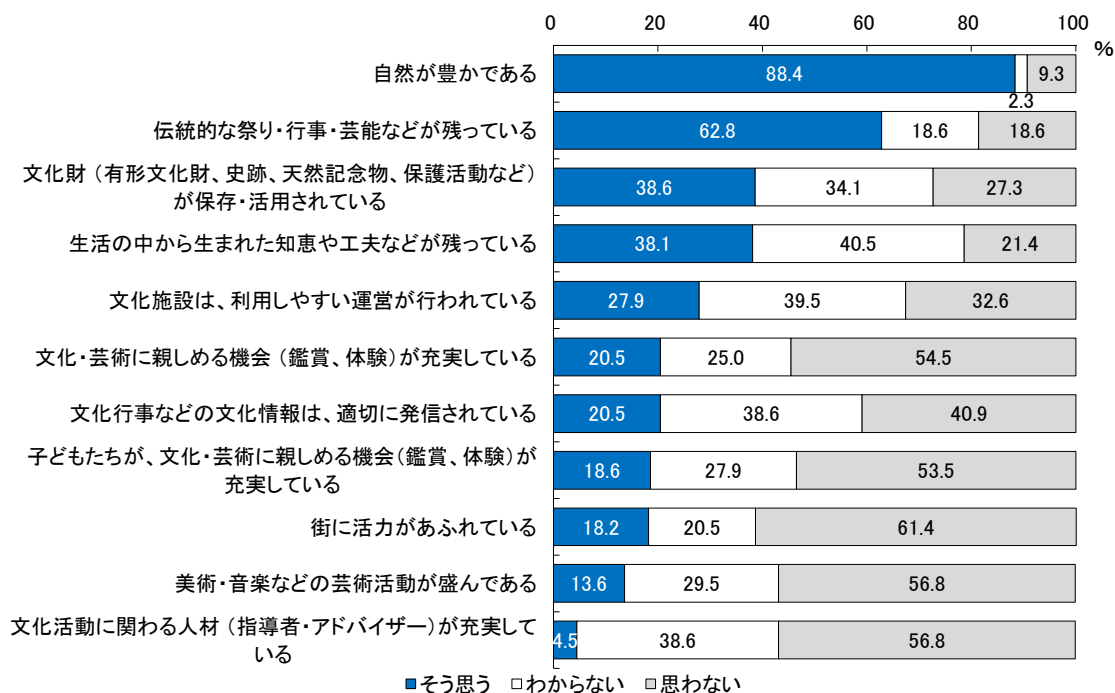
図表 83. 女性 本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



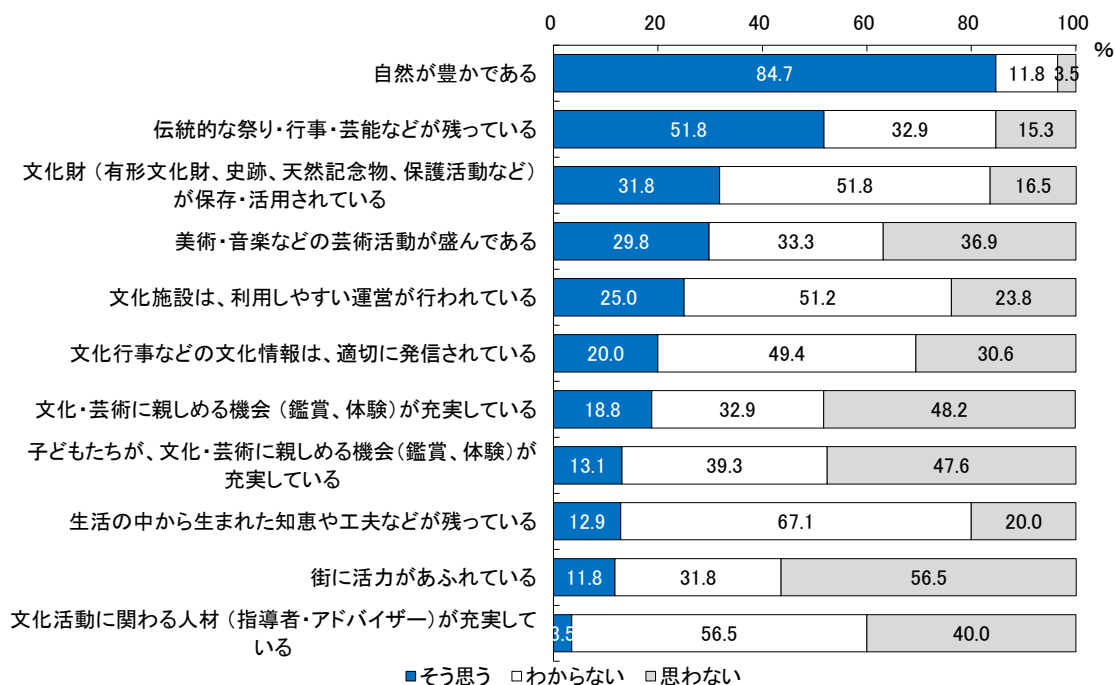
図表 84. 20 歳未満 本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



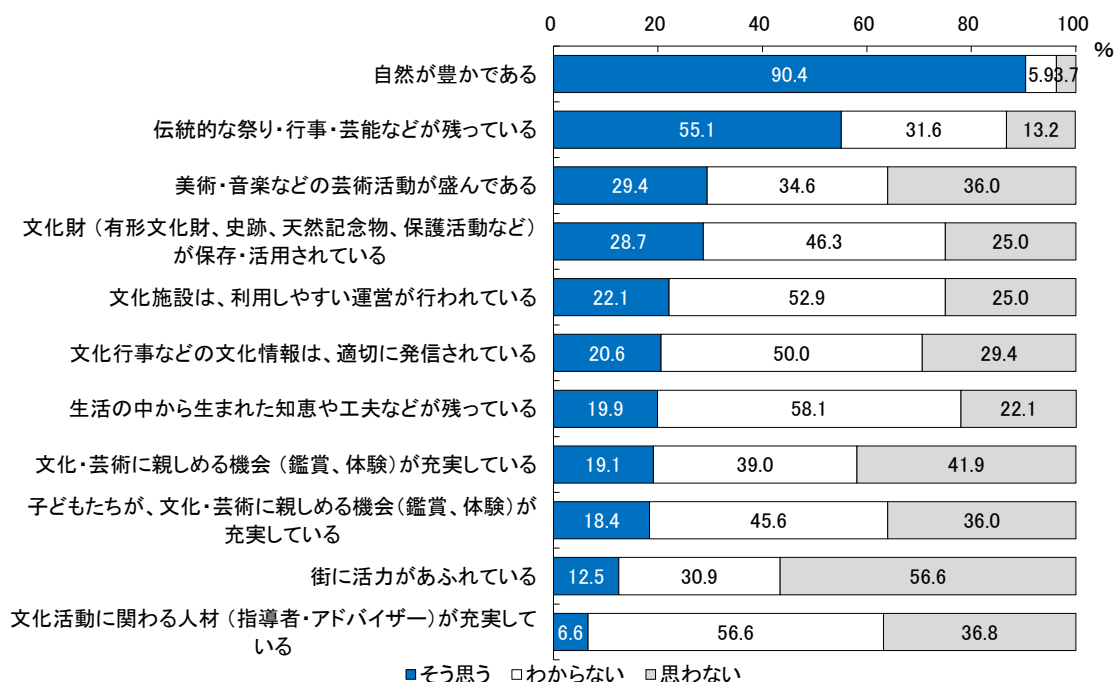
図表 85. 20 歳代 本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



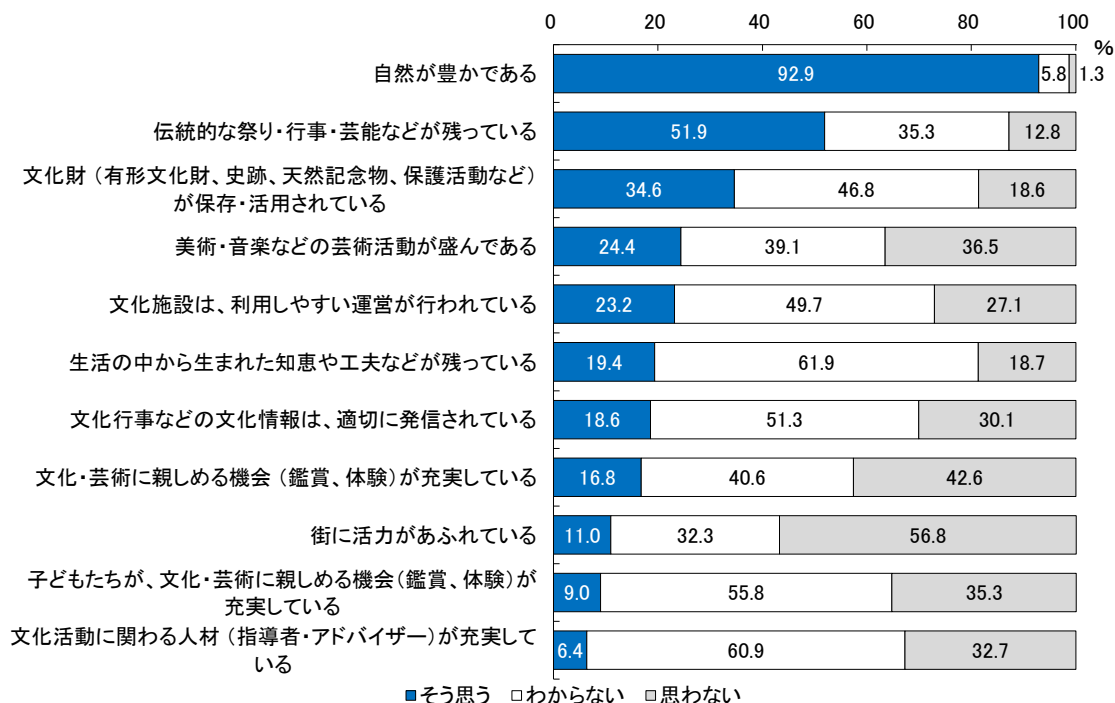
図表 86. 30 歳代 本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



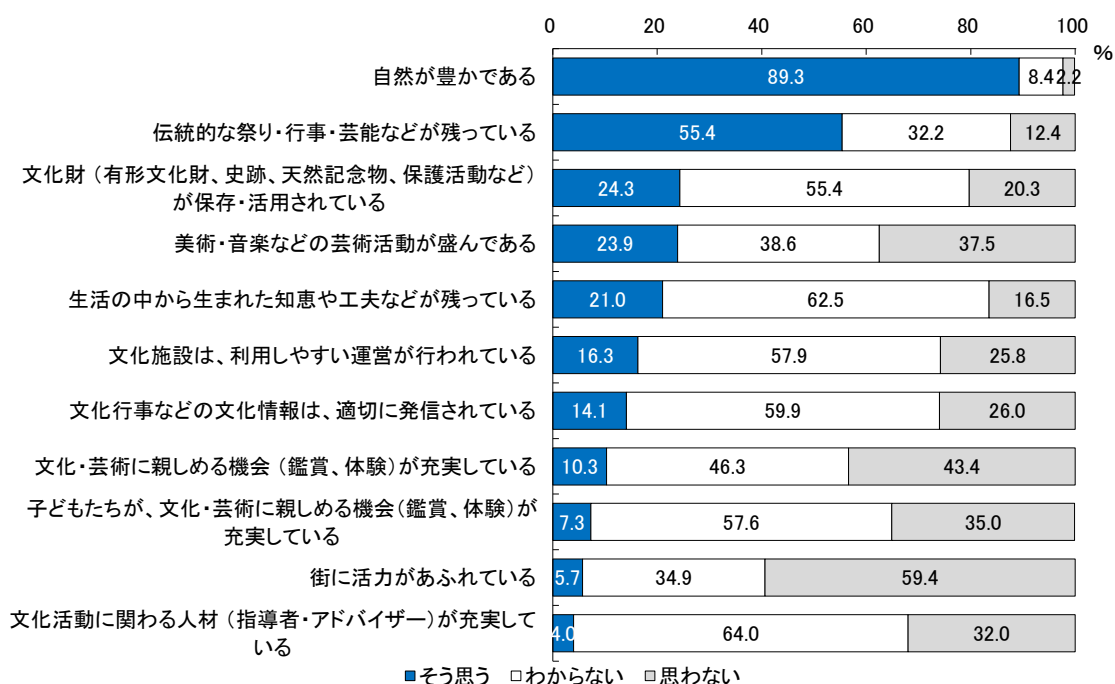
図表 87. 40 歳代 本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



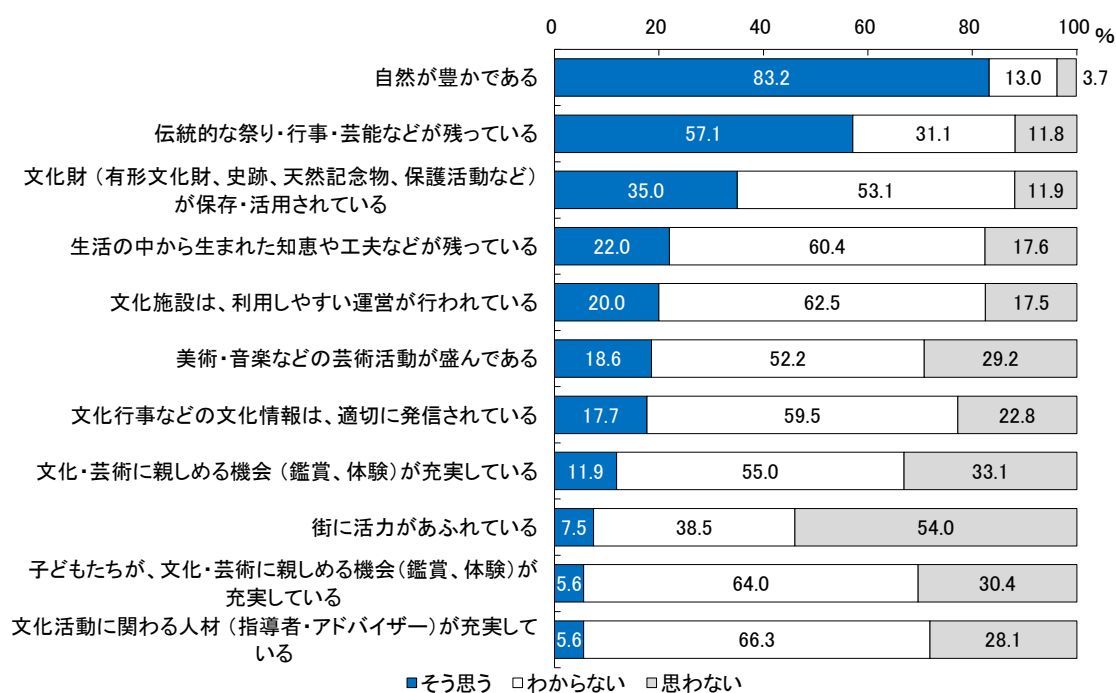
図表 88. 50 歳代 本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



図表 89. 60 歳代 本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



図表 90. 70 歳代以上 本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



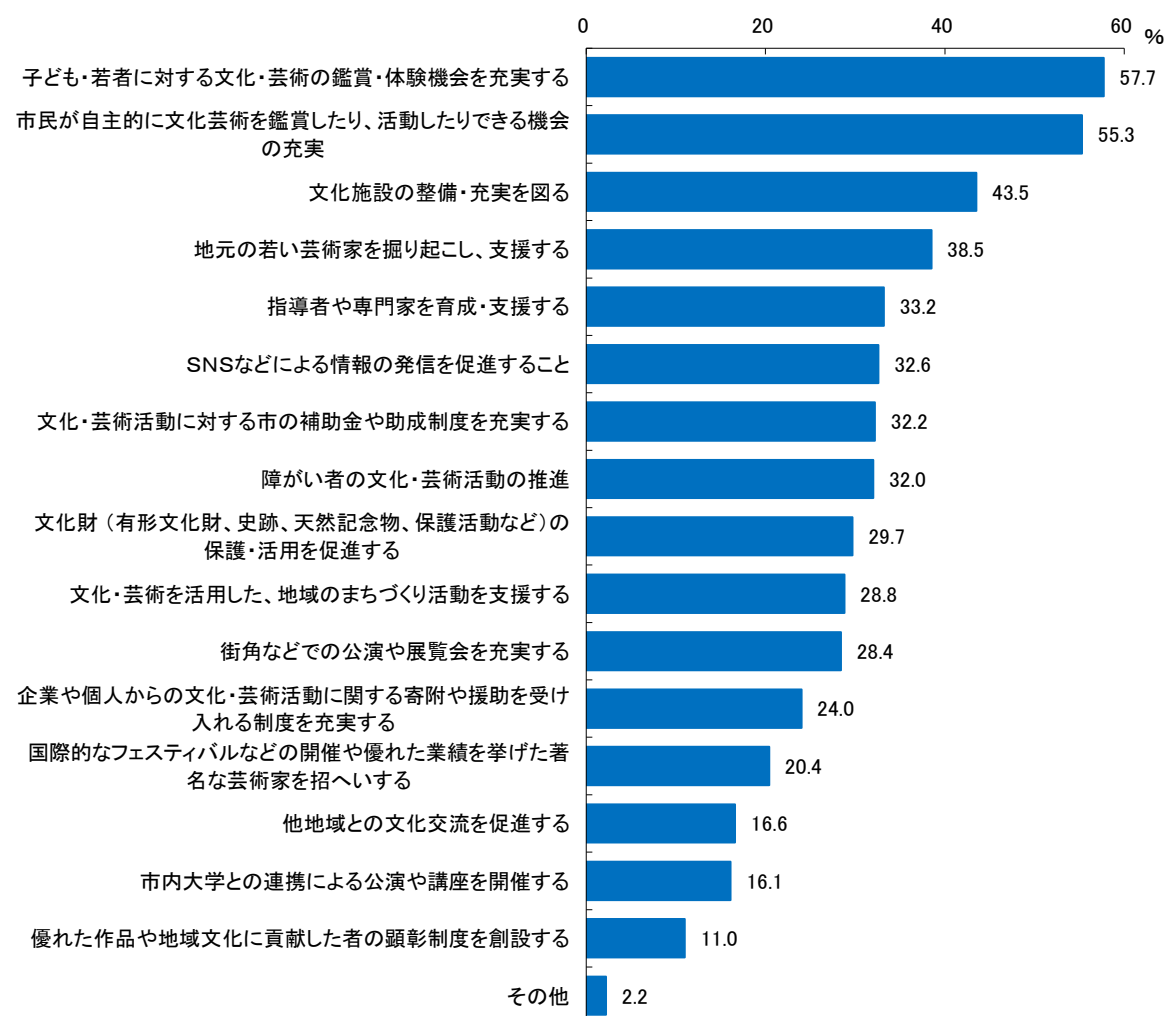
2.2.29. 本市の文化・芸術をより豊かにするために、市（行政）が注力すべきこと

本市の文化・芸術をより豊かにするために、市（行政）が注力すべきことは、「子ども・若者に対する文化・芸術の鑑賞・体験機会を充実する（57.7%）」が最も高く、2 番目が「市民が自主的に文化・芸術を鑑賞したり、活動したりできる機会の充実（55.3%）」となった（図表 91）。

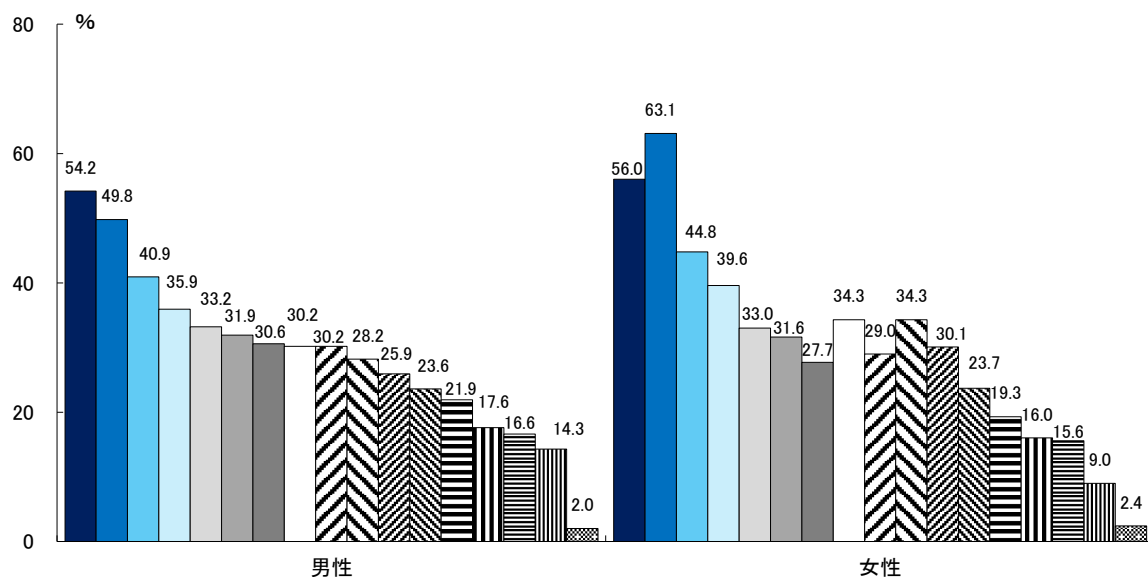
男女別では、男性は「市民が自主的に文化・芸術を鑑賞したり、活動したりできる機会の充実（54.2%）」が最も高く、女性は「子ども・若者に対する文化・芸術の鑑賞・体験機会を充実する（63.1%）」が最も高い結果となった（次頁図表 92）。

年代別では、上位 2 項目において年代別に大きな差はみられないが、「SNS などによる情報の発信を促進すること」においては、若い年代の回答率が高いなどの特徴がみられた（次々頁図表 93）。

図表 91. 本市の文化・芸術をより豊かにするために、市（行政）が注力すべきこと
（全体、複数回答）



図表 92. 男女別 本市の文化・芸術をより豊かにするために、市（行政）が注力すべきこと（複数回答）



- 市民が自主的に文化芸術を鑑賞したり、活動したりできる機会の充実
- 子ども・若者に対する文化・芸術の鑑賞・体験機会を充実する
- 文化施設の整備・充実を図る
- 地元の若い芸術家を掘り起こし、支援する
- 指導者や専門家を育成・支援する
- 文化・芸術活動に対する市の補助金や助成制度を充実する
- 文化・芸術を活用した、地域のまちづくり活動を支援する
- SNSなどによる情報の発信を促進すること
- 文化財（有形文化財、史跡、天然記念物、保護活動など）の保護・活用を促進する
- 障がい者の文化・芸術活動の推進
- 街角などでの公演や展覧会を充実する
- 企業や個人からの文化・芸術活動に関する寄附や援助を受け入れる制度を充実する
- 国際的なフェスティバルなどの開催や優れた業績を挙げた著名な芸術家を招へいする
- 他地域との文化交流を促進する
- 市内大学との連携による公演や講座を開催する
- 優れた作品や地域文化に貢献した者の顕彰制度を創設する
- その他

図表 93. 年代別 本市の文化・芸術をより豊かにするために、市（行政）が注力すべきこと（複数回答）

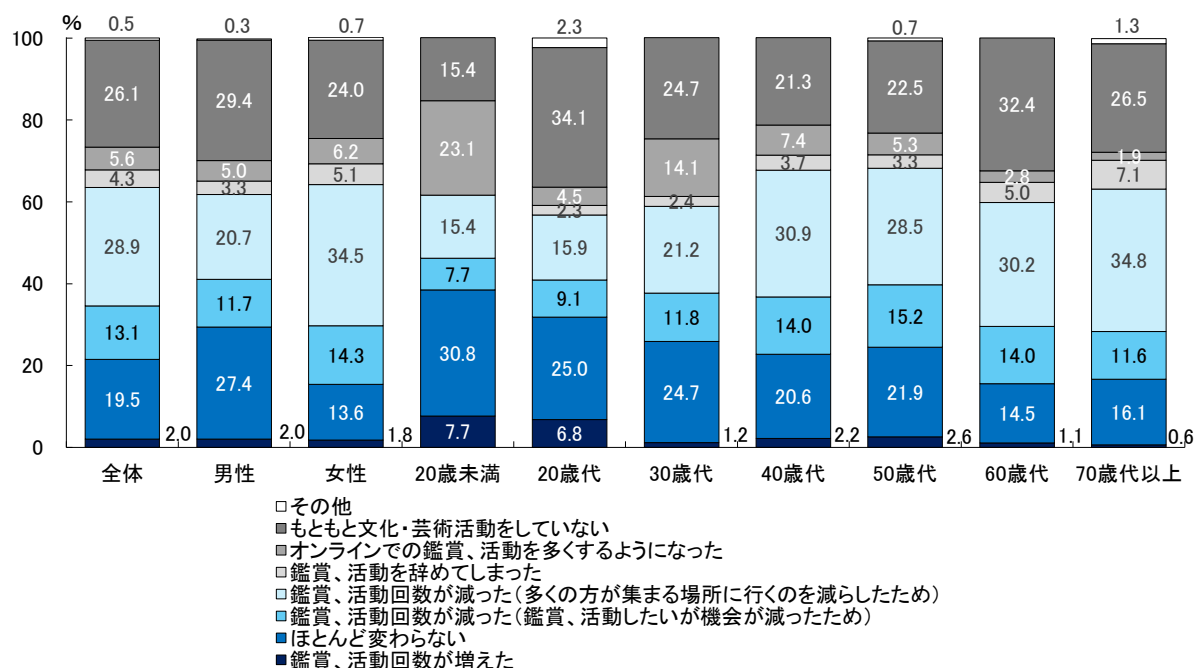
単位：％

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
子ども・若者に対する文化・芸術の鑑賞・体験機会を充実する	46.2	45.5	69.0	57.0	56.2	63.6	52.5
市民が自主的に文化芸術を鑑賞したり、活動したりできる機会の充実	53.8	45.5	47.6	50.4	59.5	54.5	62.5
文化施設の整備・充実を図る	61.5	52.3	44.0	41.5	45.1	43.2	40.0
地元の若い芸術家を掘り起こし、支援する	30.8	36.4	44.0	37.8	30.7	45.5	36.9
指導者や専門家を育成・支援する	15.4	22.7	29.8	31.1	32.7	40.9	33.1
SNSなどによる情報の発信を促進すること	53.8	63.6	57.1	39.3	29.4	27.3	13.8
障がい者の文化・芸術活動の推進	38.5	34.1	33.3	30.4	28.1	38.1	29.4
文化・芸術活動に対する市の補助金や助成制度を充実する	15.4	27.3	28.6	38.5	31.4	36.4	26.9
文化財（有形文化財、史跡、天然記念物、保護活動など）の保護・活用を促進する	38.5	22.7	17.9	28.9	22.2	30.7	43.1
文化・芸術を活用した、地域のまちづくり活動を支援する	23.1	27.3	25.0	25.9	28.8	31.3	31.9
街角などでの公演や展覧会を充実する	15.4	25.0	22.6	30.4	29.4	30.7	28.7
企業や個人からの文化・芸術活動に関する寄附や援助を受け入れる制度を充実する	23.1	20.5	22.6	24.4	26.1	26.1	20.6
国際的なフェスティバルなどの開催や優れた業績を挙げた著名な芸術家を招へいする	30.8	18.2	23.8	21.5	22.9	19.3	16.9
他地域との文化交流を促進する	23.1	13.6	15.5	17.8	11.8	19.3	18.1
市内大学との連携による公演や講座を開催する	30.8	22.7	10.7	14.1	15.0	17.0	17.5
優れた作品や地域文化に貢献した者の顕彰制度を創設する	15.4	11.4	8.3	9.6	8.5	14.8	11.9
その他	-	2.3	-	2.2	2.6	2.3	2.5

2. 2. 30. 新型コロナウイルス感染拡大による文化・芸術活動への影響

新型コロナウイルス感染拡大による文化・芸術活動への影響は、全体で「鑑賞、活動回数が減った（多くの方が集まる場所に行くのを減らしたため、28.9%）」が最も高いが、「20歳未満」から「30歳代」においては同項目の回答率が低い傾向がみられた（次頁図表94）。「ほとんど変わらない」は「20歳未満」が最も高く、2番目は「男性」となった。男女別、各年代の行動の特徴が表れた結果といえる。

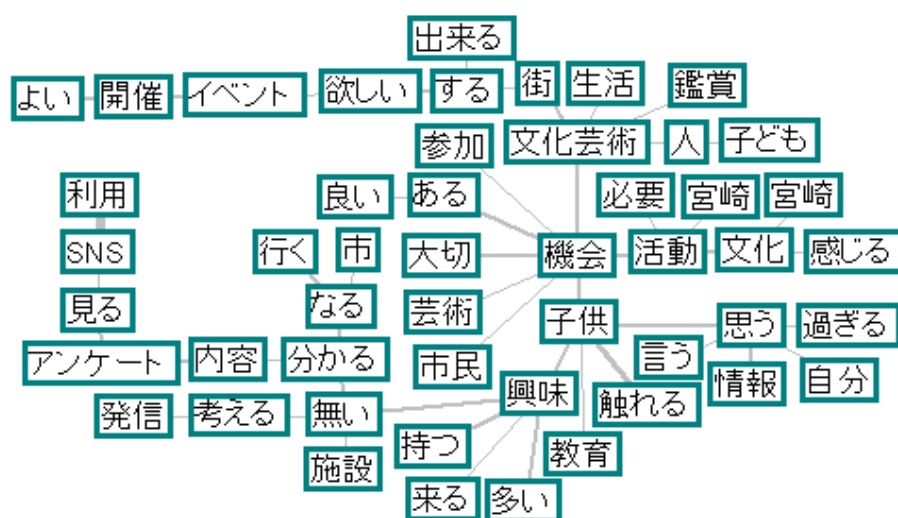
図表 94. 新型コロナウイルス感染拡大による文化・芸術活動への影響



2. 2. 31. 自由意見の分析

自由意見においては、テキストマイニングの分析ソフト「トレンドサーチ 2015」(株) 社会情報サービス社製) を使用して、言語のつながりを分析した。連鎖する言葉が多い起点となる単語をみると、「機会」「子供」が大きな起点となり、「興味」「文化・芸術」が次の起点になったことが見てとれる(図表 95)。全体を通して、イベントを欲する意見と、文化活動機会の重要性、体験的な教育機会の必要性が書かれたものが多いといえる。

図表 95. 自由意見のテキストマイニング



2.3. 若者向けアンケート調査

2.3.1. 属性別回答状況

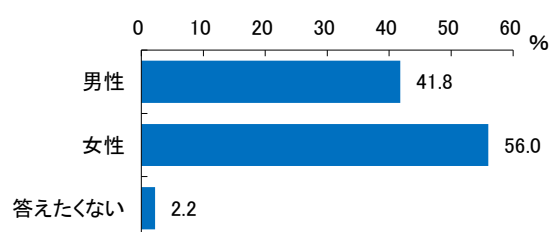
回答属性別には以下のとおりの結果となった（図表 96-次頁図表 104、105）。

【性別】

図表 96. 性別の回答状況

単位：件、%		
	有効回答数	構成比率
男性	136	41.8
女性	182	56.0
答えたくない	7	2.2
合計	325	100.0

図表 97. 性別の回答状況

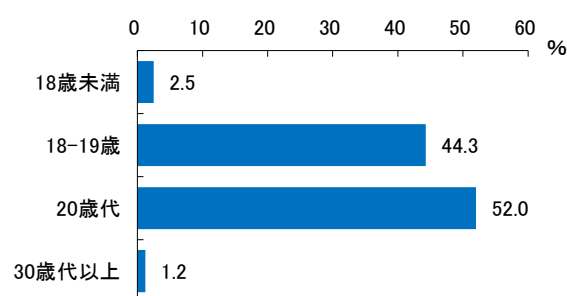


【年代】

図表 98. 年代別の回答状況

単位：件、%		
	有効回答数	構成比率
18歳未満	8	2.5
18-19歳	144	44.3
20歳代	169	52.0
30歳代以上	4	1.2
合計	325	100.0

図表 99. 年代別の回答状況

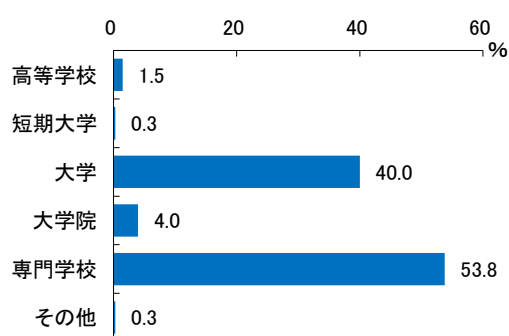


【職業】

図表 100. 所属別の回答状況

単位：件、%		
	有効回答数	構成比率
高等学校	5	1.5
短期大学	1	0.3
大学	130	40.0
大学院	13	4.0
専門学校	175	53.8
その他	1	0.3
合計	325	100.0

図表 101. 所属別の回答状況

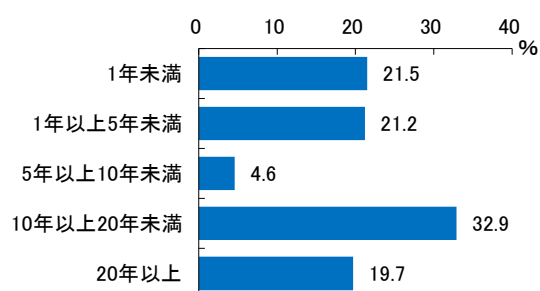


【居住歴】

図表 102. 居住歴別の回答状況

単位：件、%		
	有効回答数	構成比率
1年未満	70	21.5
1年以上5年未満	69	21.2
5年以上10年未満	15	4.6
10年以上20年未満	107	32.9
20年以上	64	19.7
合計	325	100.0

図表 103. 居住歴別の回答状況



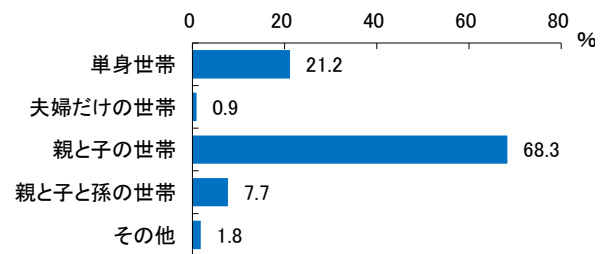
【家族の状況】

図表 104. 家族の状況別の回答状況

単位: 件、%

	有効回答数	構成比率
単身世帯	69	21.2
夫婦だけの世帯	3	0.9
親と子の世帯	222	68.3
親と子と孫の世帯	25	7.7
その他	6	1.8
合計	325	100.0

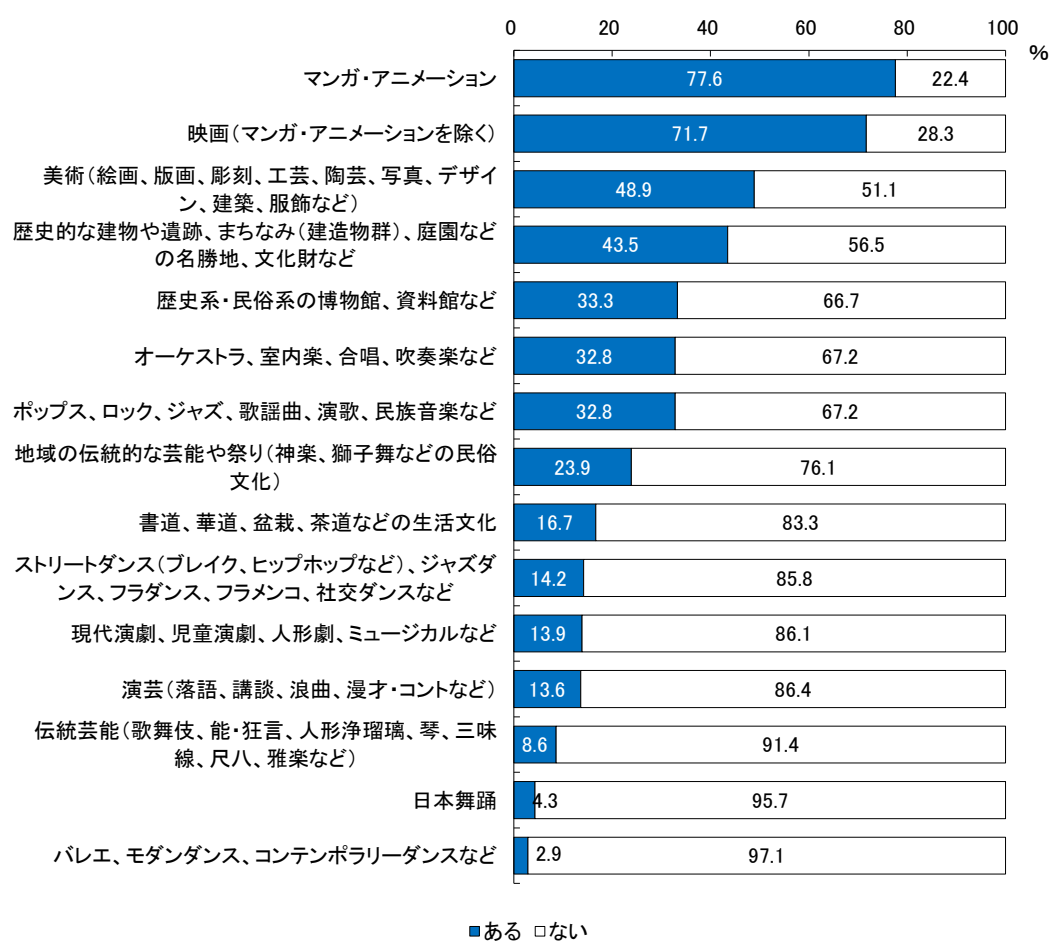
図表 105. 家族の状況別の回答状況



2.3.2. 過去1年間の文化・イベント鑑賞の経験

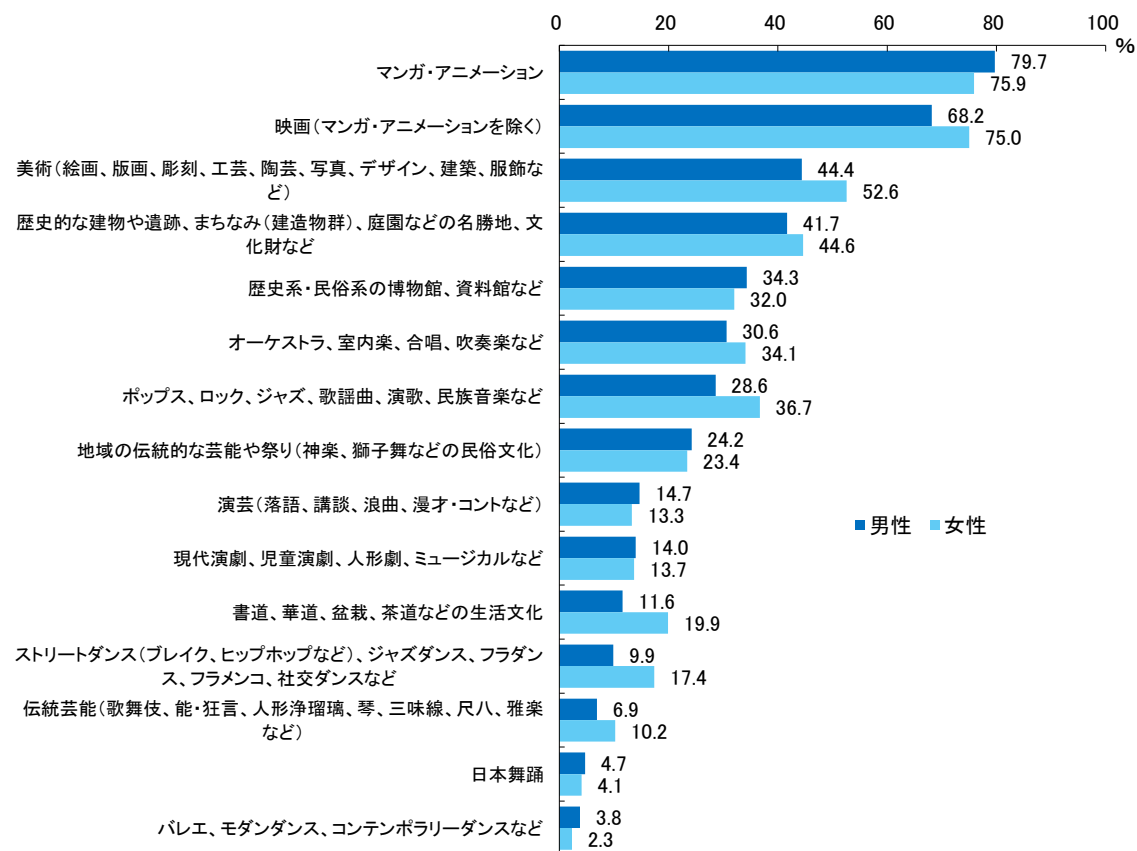
過去1年間のコンサートや美術展、映画、歴史的な文化財の鑑賞、アートや音楽のフェスティバルなどの文化・芸術イベントを鑑賞（テレビ、ラジオ、オンライン（インターネット含む）は除く）した経験は、「マンガ・アニメーション（77.6%）」が最も高く、僅差で「映画（マンガ・アニメーションを除く、71.7%）」が2番目となった（図表106）。若者が少なく50歳代以上が半数を占めた市民向けアンケート調査においては、全ての項目が半数に満たなかったことから、本調査においては、上位2項目の回答率の高さが際立つ結果となった。

図表 106. 過去1年間の文化・イベント鑑賞の経験（全体）



男女別（答えたくないを除く）においては、「マンガ・アニメーション」を除く上位項目で女性の回答率の高さが目立ち、「映画（マンガ・アニメーションを除く）」では男性比+6.8P、「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など）」では同+8.2Pとなった（次頁図表 107）。年代別では、上位2項目での差は「映画（マンガ・アニメーションを除く）」で「18-19歳」の回答率が他の年代より10P以上低いものの、総じて高い（次頁図表 108）。「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など）」では「18歳未満」の高さが目立ち、学校教育での経験が示された。

図表 107. 男女別 過去1年間の文化・イベント鑑賞の経験



図表 108. 年代別 過去1年間の文化・イベント鑑賞の経験

単位: %

	18歳未満	18-19歳	20歳代
マンガ・アニメーション	75.0	76.1	79.3
映画(マンガ・アニメーションを除く)	75.0	62.6	79.3
美術(絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など)	75.0	38.7	56.1
歴史的な建物や遺跡、まちなみ(建造物群)、庭園などの名勝地、文化財など	37.5	31.4	53.0
歴史系・民俗系の博物館、資料館など	25.0	21.9	42.8
オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽など	62.5	25.9	36.7
ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演	50.0	29.3	33.9
地域の伝統的な芸能や祭り(神楽、獅子	14.3	24.3	23.5
書道、華道、盆栽、茶道などの生活文	25.0	16.2	15.9
ストリートダンス(ブレイク、ヒップホッ	28.6	11.8	14.7
現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュー	25.0	14.1	11.7
演芸(落語、講談、浪曲、漫才・コント	14.3	10.3	15.4
伝統芸能(歌舞伎、能・狂言、人形浄瑠	12.5	8.0	7.9
日本舞踊	14.3	6.1	1.2
バレエ、モダンダンス、コンテンポラ	25.0	1.5	1.9

2.3.3. 過去1年間に文化・イベント鑑賞をしなかった理由

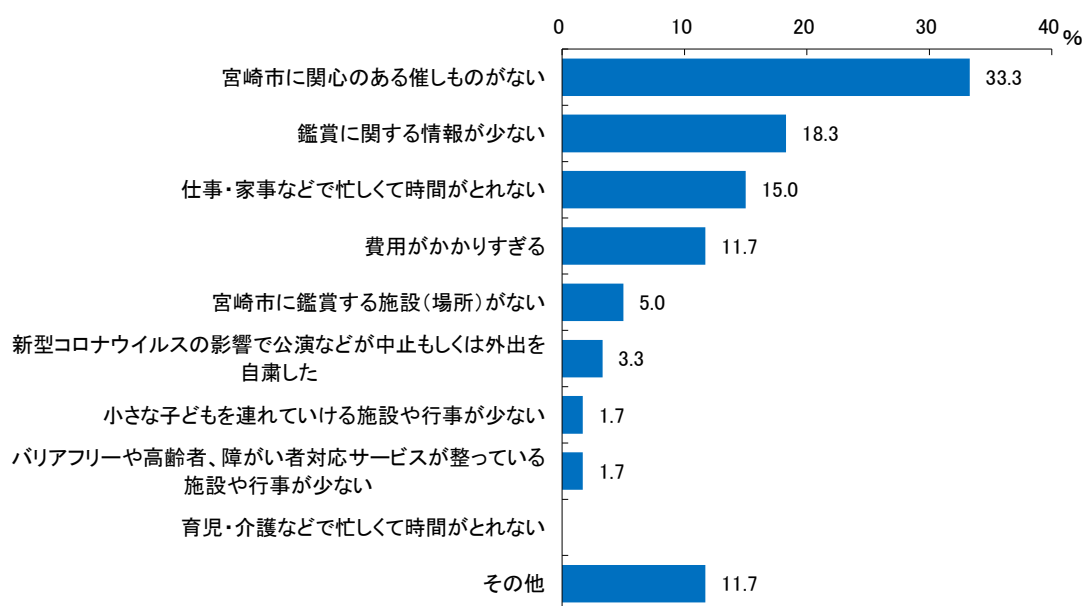
過去1年間に文化・イベント鑑賞をしなかった理由は、「宮崎市に関心のある催しものがない（33.3%）」が最も高く、次いで「鑑賞に関する情報が少ない（18.3%）」となり、市民アンケート調査「仕事・家事などで忙しくて時間がとれない（37.5%）」、2番目となった「新型コロナウイルスの影響で公演などが中止もしくは外出を自粛した（32.9%）」結果と大きく異なる結果となった（図表109）。

男女別（答えたくないを除く）においては、男女で大きく回答の傾向が異なり、男性で2番目の回答率となった「仕事・家事などで忙しくて時間がとれない」は男性が女性比＋15.5Pとなり、「鑑賞に関する情報が少ない」は女性が男性比＋12.1Pとなった（次頁図表110）。

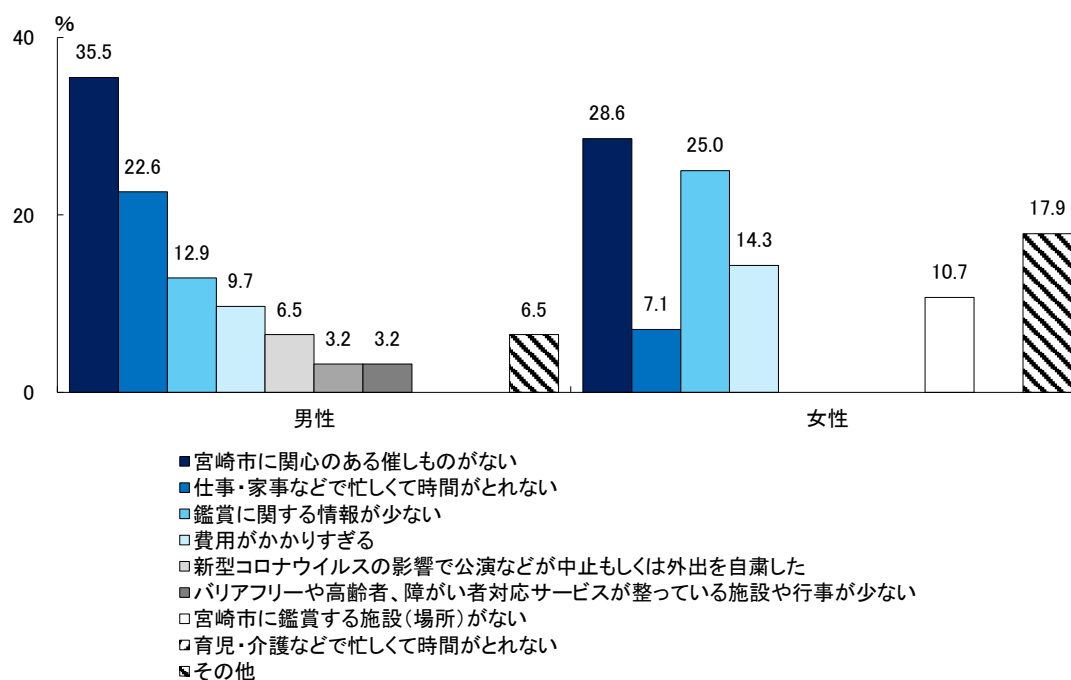
年代別では、「18歳未満」は「費用がかかりすぎる（100.0%）」のみの回答となったが、他の年代は単純集計である図表109と同様の傾向となった（次頁図表111）。

本項目においては、総じて回答率が低いものとなったことも特徴的であった。

図表109. 過去1年間に文化・イベント鑑賞をしなかった理由（全体、複数回答）



図表 110. 男女別 過去 1 年間に文化・イベント鑑賞をしなかった理由（複数回答）



図表 111. 年代別 過去 1 年間に文化・イベント鑑賞をしなかった理由（複数回答）

単位: %

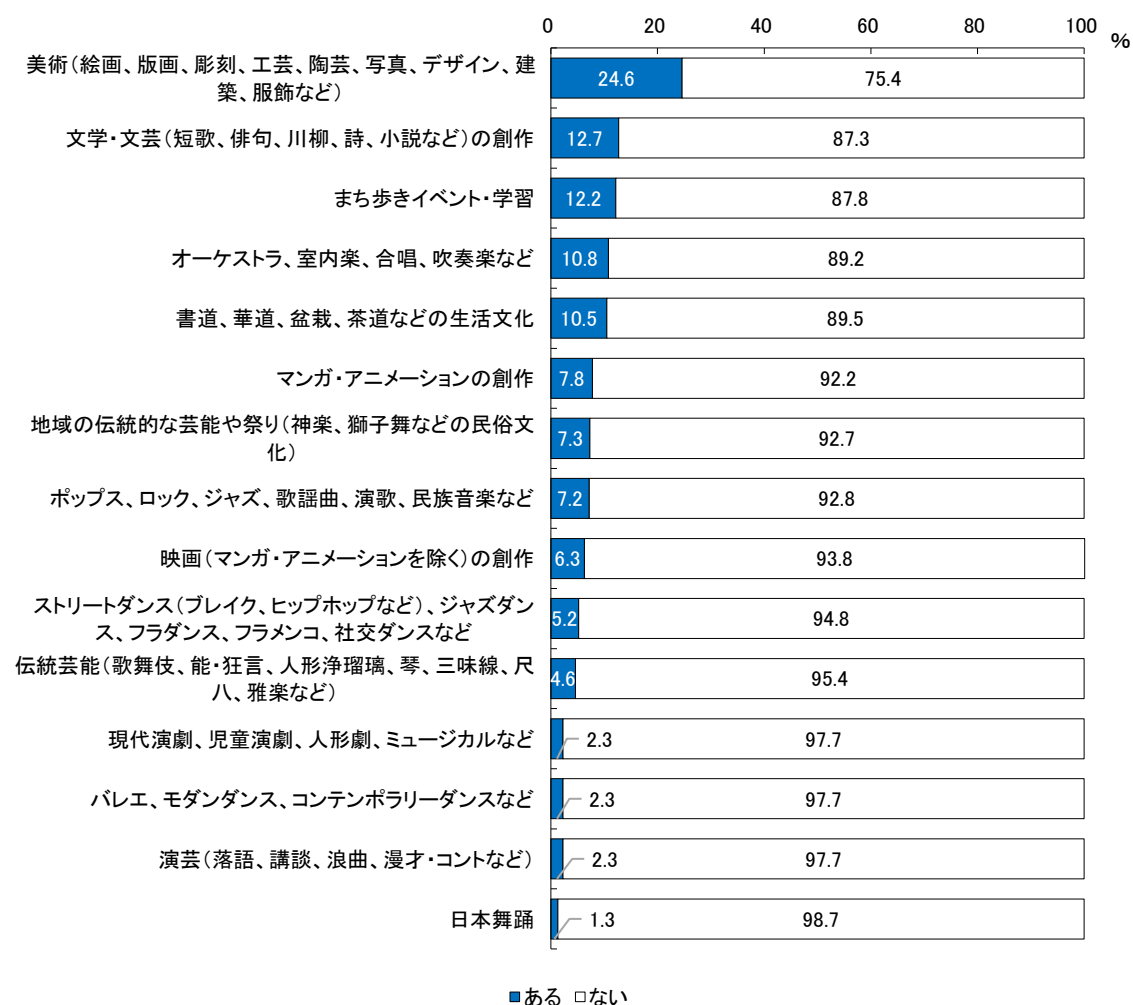
	18歳未満	18-19歳	20歳代
宮崎市に関心のある催しものがない	-	38.7	30.8
鑑賞に関する情報が少ない	-	16.1	23.1
仕事・家事などで忙しくて時間がとれない	-	19.4	11.5
費用がかかりすぎる	100.0	3.2	11.5
宮崎市に鑑賞する施設(場所)がない	-	6.5	3.8
新型コロナウイルスの影響で公演などが中止もしくは外出を自粛した	-	6.5	-
小さな子どもを連れていける施設や行事が少ない	-	-	3.8
バリアフリーや高齢者、障がい者対応サービスが整っている施設や行事が少ない	-	3.2	-
育児・介護などで忙しくて時間がとれない	-	-	-
その他	-	9.7	15.4

2.3.4. 過去1年間の、文化・芸術活動の実践の有無

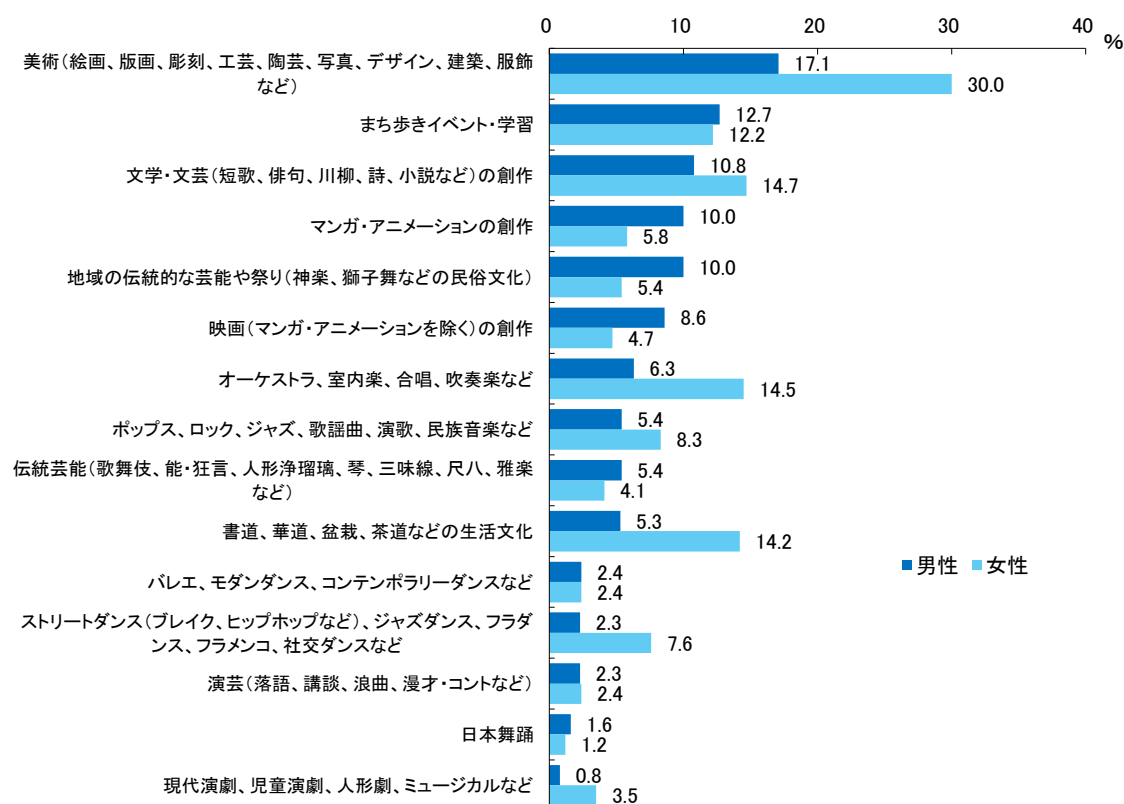
過去1年間に鑑賞ではなく、文化・芸術活動の実践(創作や出演、習い事、祭りや体験活動への参加など)の有無については、経験が「ある」は「美術(絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など、24.6%)」が最も高いものの、同項目を除く全て項目で「ない」が圧倒的に高いことが明らかとなった(図表112)。男女別においては「美術(絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など)」が最も女性の回答率が高く30.0%となり、男性比+12.9Pとなった(次頁図表113)。その他、男女差が大きな項目は「オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽など」「書道、華道、盆栽、茶道などの生活文化」となった。

年代別においては、「18歳未満」の「美術(絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など、71.4%)」が目立つが、他の項目は総じて低い結果となった(次頁図表114)。高校生までの学校教育での実践機会が失われると、同機会が限定的になる様子が見えてくる。

図表112. 過去1年間の、文化・芸術活動の実践の有無(全体)



図表 113. 男女別 過去 1 年間の、文化・芸術活動の実践の有無



図表 114. 年代別 過去 1 年間の、文化・芸術活動の実践の有無

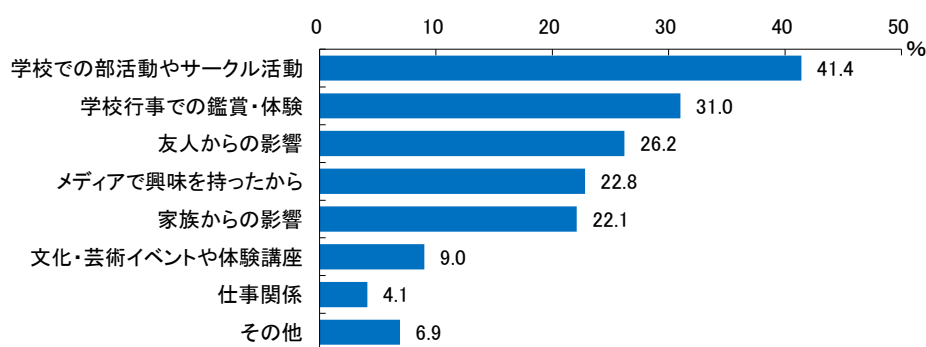
単位: %

	18歳未満	18-19歳	20歳代
美術(絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など)	71.4	20.0	25.6
文学・文芸(短歌、俳句、川柳、詩、小説など)の創作	16.7	10.4	13.6
まち歩きイベント・学習	-	7.5	15.6
オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽など	28.6	8.3	11.1
書道、華道、盆栽、茶道などの生活文化	28.6	9.0	9.9
マンガ・アニメーションの創作	-	5.9	8.7
地域の伝統的な芸能や祭り(神楽、獅子舞などの民俗文化)	-	5.3	8.1
ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など	33.3	4.5	7.4
映画(マンガ・アニメーションを除く)の創作	-	3.7	7.6
ストリートダンス(ブレイク、ヒップホップなど)、ジャズダンス、フラダンス、フラメンコ、社交ダンスなど	33.3	3.0	5.0
伝統芸能(歌舞伎、能・狂言、人形浄瑠璃、琴、三味線、尺八、雅楽など)	14.3	2.2	5.0
現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカルなど	16.7	1.5	1.2
バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど	16.7	0.8	1.9
演芸(落語、講談、浪曲、漫才・コントなど)	-	2.3	1.2
日本舞踊	-	1.5	-

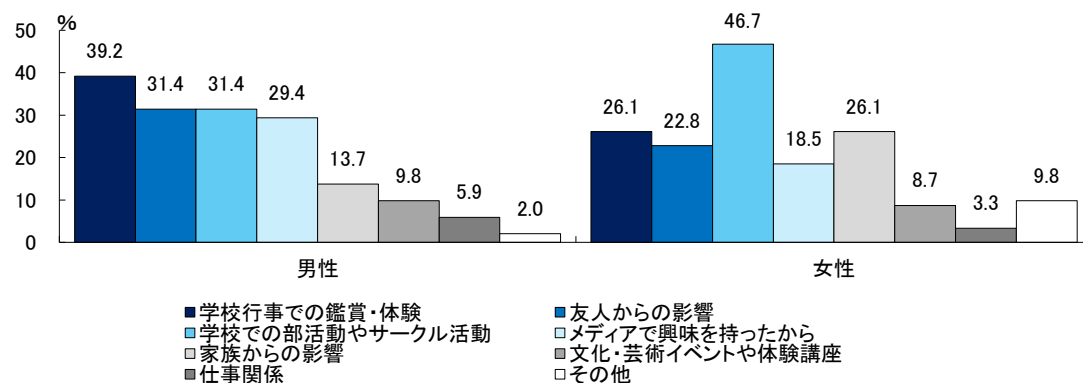
2.3.5. 文化・芸術活動を始めたきっかけ

文化・芸術活動を始めたきっかけは、「学校での部活動やサークル活動（41.4%）」が最も高く、次いで「学校行事での鑑賞・体験（31.0%）」となった（図表 115）。市民向けアンケート調査「友人からの影響（30.4%）」が最も高く、次いで「家族からの影響（26.6%）」結果と比べても、学校の影響が大きいことが明らかとなった。男女別においては女性が「学校での部活動やサークル活動」において男性比+15.3P高く、「家族からの影響」も同+12.4P高い。その他の項目は男性の回答率が高く、男女差が明確な傾向がうかがえる（図表 116）。年代別では、「18-19 歳」「20 歳代」が似た傾向にあり、「18 歳未満」と異なることが明らかになった（図表 117）。

図表 115. 文化・芸術活動を始めたきっかけ（全体、複数回答）



図表 116. 男女別 文化・芸術活動を始めたきっかけ（複数回答）



図表 117. 年代別 文化・芸術活動を始めたきっかけ（複数回答）

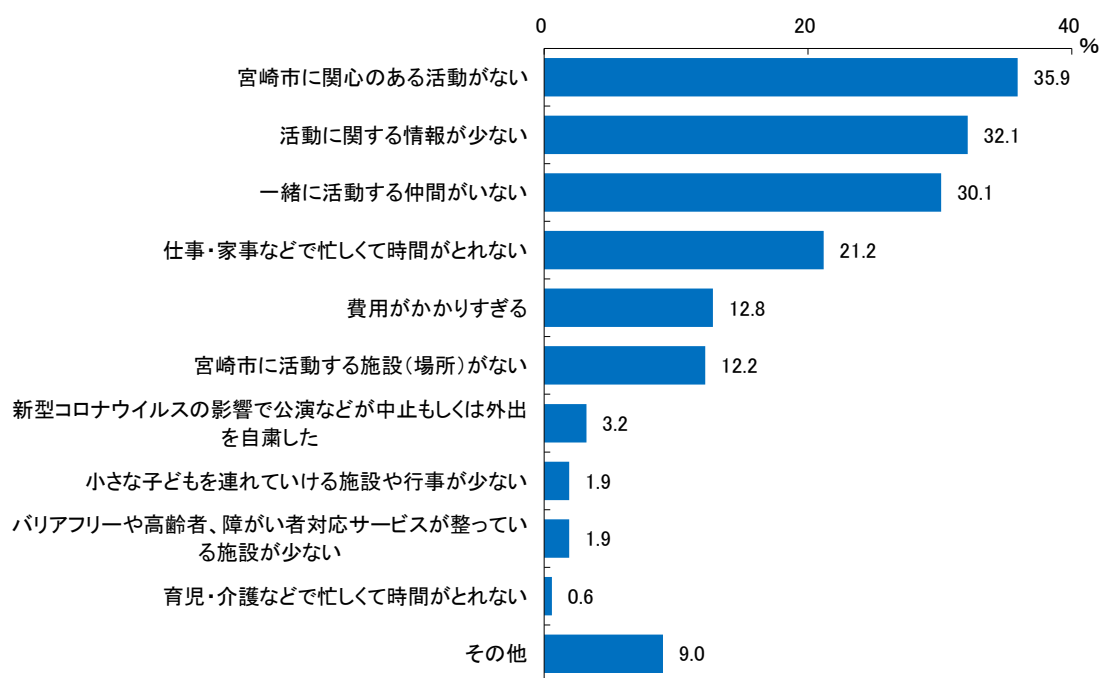
単位: %

	18歳未満	18-19歳	20歳代
学校での部活動やサークル活動	33.3	38.5	44.7
学校行事での鑑賞・体験	33.3	26.9	34.1
友人からの影響	-	26.9	27.1
メディアで興味を持ったから	33.3	23.1	22.4
家族からの影響	16.7	26.9	18.8
文化・芸術イベントや体験講座	-	7.7	9.4
その他	-	7.7	7.1
仕事関係	16.7	3.8	3.5

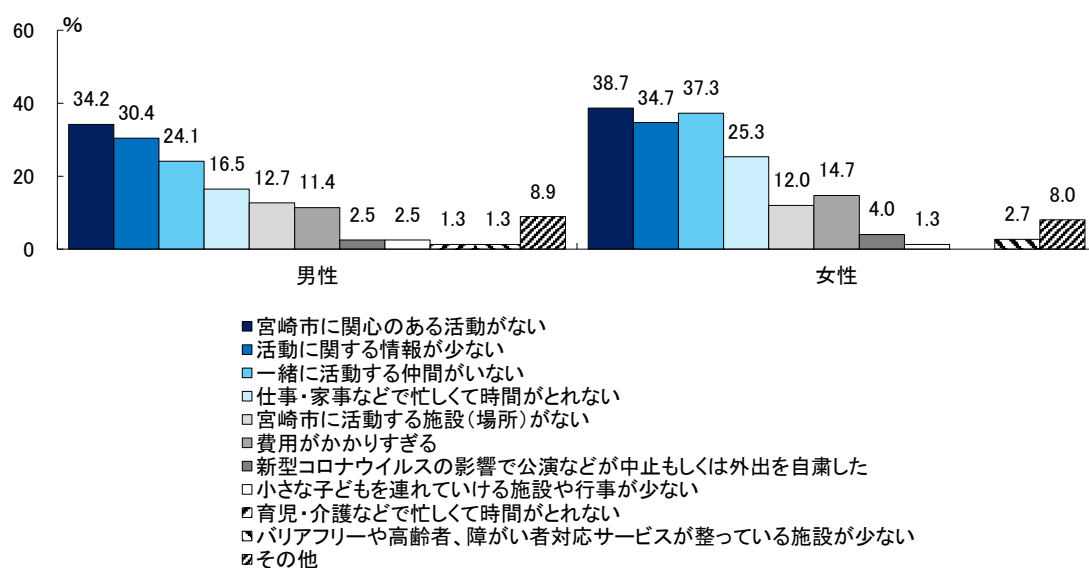
2.3.6. 実践しなかった理由

実践しなかった理由は、「宮崎市に関心のある活動がない（35.9%）」が最も高く、2 番目が「活動に関する情報が少ない（32.1%）」となり、市民向けアンケート調査「[仕事・家事などで忙しくて時間がとれない（44.8%）」が最も高い]との違いが明らかとなった（図表 118）。男女別では多くの項目で女性の回答率の高さが目立つ（図表 119）。年代別では、前項同様に「18-19 歳」「20 歳代」が似た傾向にあり、「18 歳未満」と異なることが明らかになった（次頁図表 120）。

図表 118. 実践しなかった理由（全体、複数回答）



図表 119. 男女別 実践しなかった理由（複数回答）



図表 120. 年代別 実践しなかった理由（複数回答）

単位：％

	18歳未満	18-19歳	20歳代
宮崎市に関心のある活動がない	33.3	31.9	39.0
活動に関する情報が少ない	33.3	30.6	35.1
一緒に活動する仲間がいない	-	29.2	32.5
仕事・家事などで忙しくて時間がとれない	-	22.2	20.8
費用がかかりすぎる	-	12.5	14.3
宮崎市に活動する施設（場所）がない	-	11.1	14.3
新型コロナウイルスの影響で公演などが中止もしくは外出を自粛した	-	1.4	5.2
小さな子どもを連れていける施設や行事が少ない	-	1.4	1.3
バリアフリーや高齢者、障がい者対応サービスが整っている施設が少ない	33.3	1.4	1.3
育児・介護などで忙しくて時間がとれない	-	-	-
その他	-	8.3	9.1

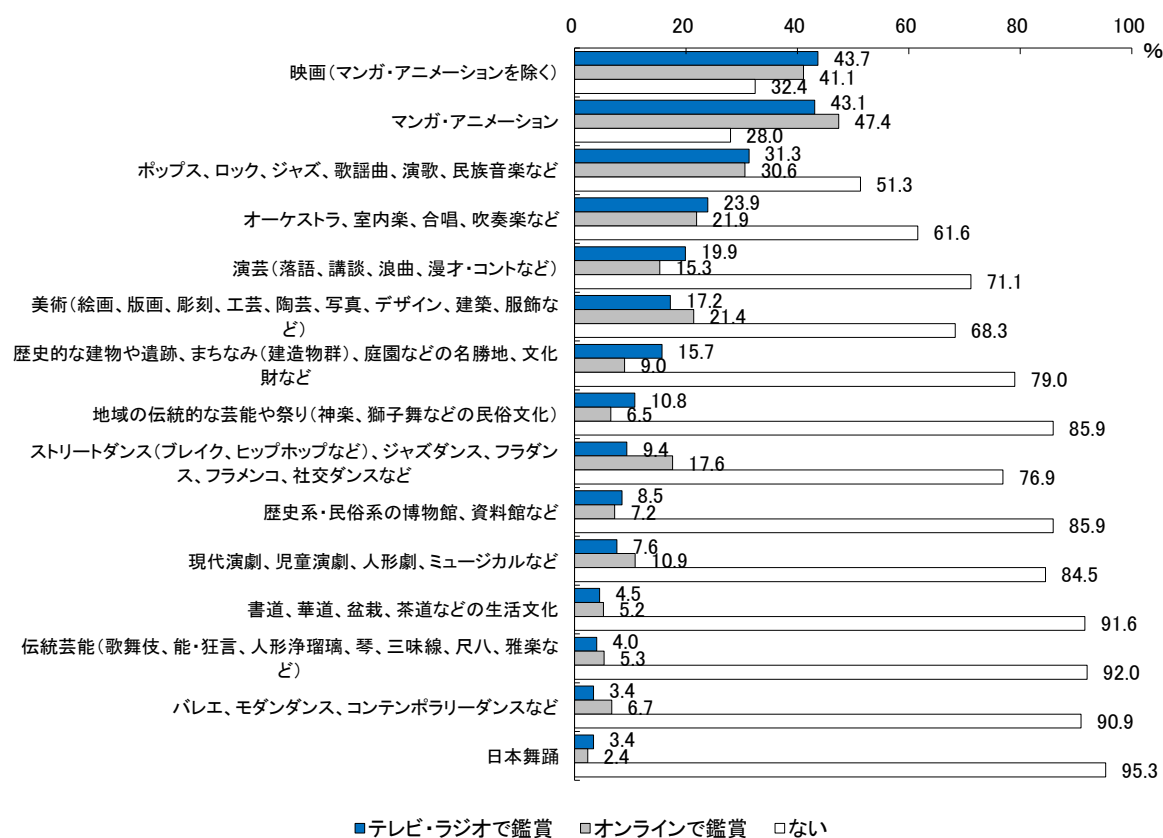
2.3.7. 過去1年間の文化・芸術のメディア鑑賞の有無

過去1年間の文化・芸術のメディア鑑賞の有無においては、テレビ・ラジオで鑑賞は「映画（マンガ・アニメーションを除く、43.7%）」が最も高く、2番目が「マンガ・アニメーション（43.1%）」となり、市民向けアンケート調査「[ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など（55.1%）」が最も高く、2番目が「映画（マンガ・アニメーションを除く、54.8%）」結果との違いが明らかとなった（次頁図表 121）。オンラインで鑑賞は「マンガ・アニメーション（47.4%）」が最も高く、2番目が「映画（マンガ・アニメーションを除く、41.1%）」となり、市民向けアンケート調査「[映画（マンガ・アニメーションを除く、24.9%）」が最も高く、2番目が「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など（24.3%）」結果との違いが明確であり、回答年代の違いが表れた結果となった。

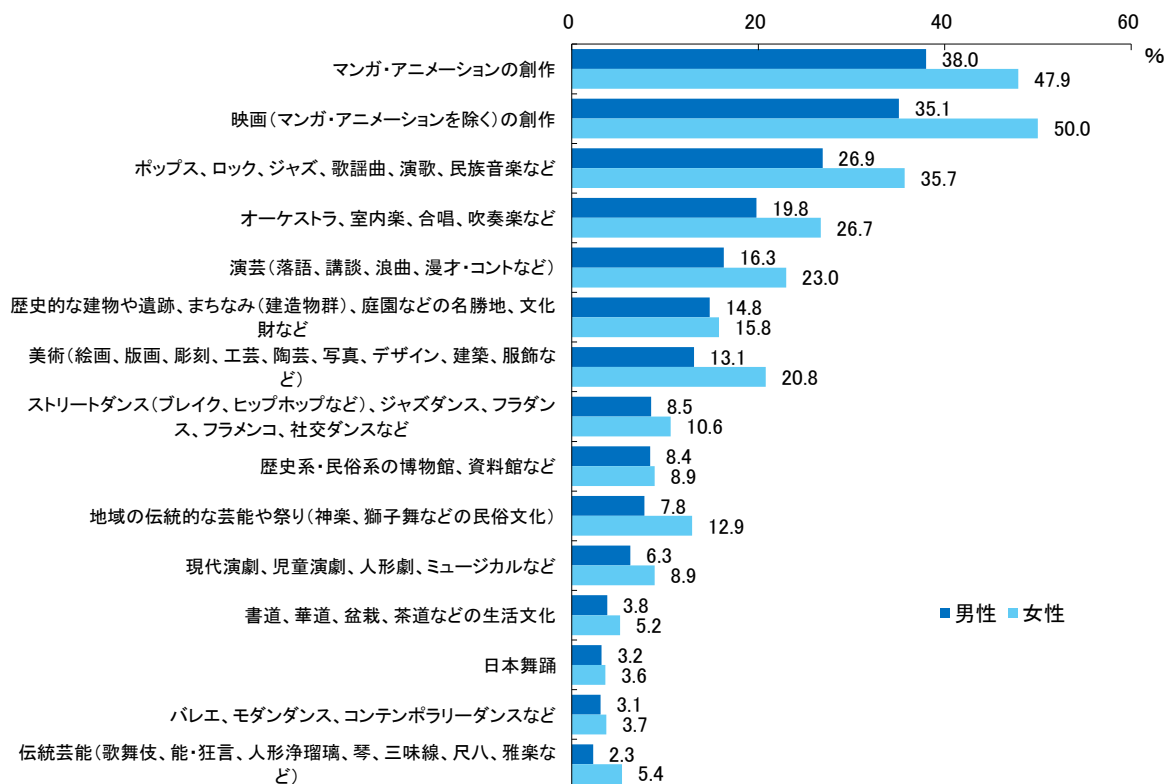
テレビ・ラジオ鑑賞、オンライン鑑賞の男女別の違いをみると、テレビ・ラジオ鑑賞においては、全ての項目で女性が男性を上回った（次頁図表 122）。オンライン鑑賞では、8項目で男性が女性を上回った（次々頁図表 123）。

年代別では、「マンガ・アニメーション」において、「18歳未満」は「テレビ・ラジオ鑑賞」の回答率が「オンライン鑑賞」と同率になったが、「18-19歳」は「オンライン鑑賞」が「テレビ・ラジオ鑑賞」比+9.1Pとなるなど、オンライン視聴の傾向が強いことが明らかとなった（次々頁図表 124、61 頁図表 125）。他の項目においても、年代の違いにより、視聴手段が異なる傾向がみられた。

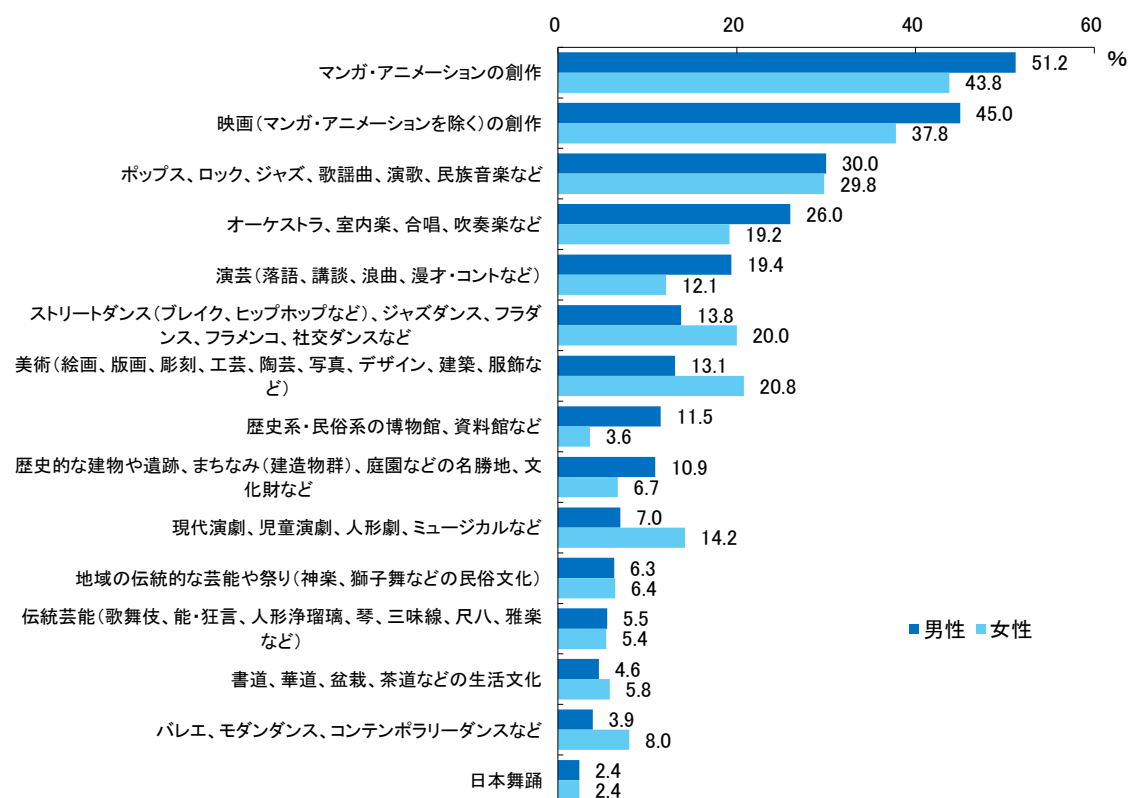
図表 121. 過去 1 年間の文化・芸術のメディア鑑賞の有無（全体）



図表 122. 男女別 過去 1 年間の文化・芸術のメディア鑑賞の有無（テレビ・ラジオ鑑賞）



図表 123. 男女別 過去1年間の文化・芸術のメディア鑑賞の有無（オンライン鑑賞）



図表 124. 年代別 過去1年間の文化・芸術のメディア鑑賞の有無（テレビ・ラジオ鑑賞）

単位：%

	18歳未満	18-19歳	20歳代
映画（マンガ・アニメーションを除く）	50.0	39.1	46.3
マンガ・アニメーション	42.9	39.4	46.0
ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など	25.0	28.6	32.7
オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽など	37.5	20.7	25.0
伝統芸能（歌舞伎、能・狂言、人形浄瑠璃、琴、三味線、尺八、雅楽など）	25.0	17.8	20.6
美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など）	25.0	15.2	17.6
歴史的な建物や遺跡、まちなみ（建造物群）、庭園などの名勝地、文化財など	12.5	14.5	15.9
地域の伝統的な芸能や祭り（神楽、獅子舞などの民俗文化）	12.5	8.4	11.7
ストリートダンス（ブレイク、ヒップホップなど）、ジャズダンス、フラダンス、フラメンコ、社交ダンスなど	37.5	5.9	10.0
歴史系・民俗系の博物館、資料館など	12.5	6.8	8.7
現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカルなど	37.5	7.6	5.0
書道、華道、盆栽、茶道などの生活文化	12.5	4.5	2.5
演芸（落語、講談、浪曲、漫才・コントなど）	12.5	2.3	3.8
バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど	25.0	2.3	1.9
日本舞踊	-	3.1	1.9

図表 125. 年代別 過去 1 年間の文化・芸術のメディア鑑賞の有無（オンライン鑑賞）

単位：％

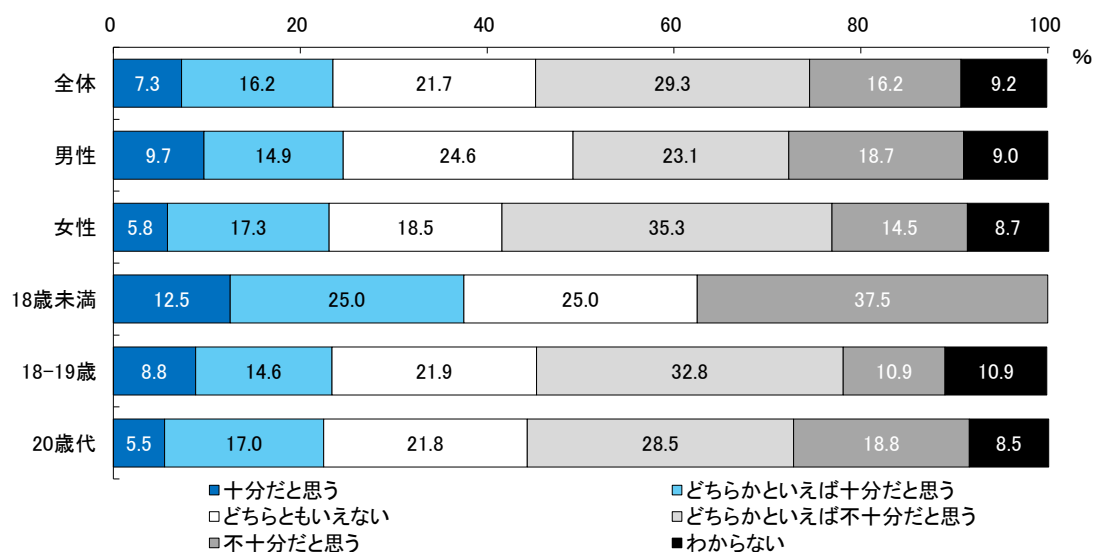
	18歳未満	18-19歳	20歳代
マンガ・アニメーション	42.9	48.5	47.8
映画（マンガ・アニメーションを除く）	25.0	39.1	43.9
ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など	37.5	27.1	34.0
オーケストラ、室内楽、合唱、吹奏楽など	25.0	16.3	26.8
美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など）	37.5	14.4	25.5
ストリートダンス（ブレイク、ヒップホップなど）、ジャズダンス、フラダンス、フラメンコ、社交ダンスなど	25.0	14.1	20.6
演芸（落語、講談、浪曲、漫才・コントなど）	-	11.6	19.4
現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカルなど	25.0	10.7	10.6
歴史的な建物や遺跡、まちなみ（建造物群）、庭園などの名勝地、文化財など	12.5	7.6	9.6
歴史系・民俗系の博物館、資料館など	-	5.3	8.7
バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど	25.0	4.6	7.6
地域の伝統的な芸能や祭り（神楽、獅子舞などの民俗文化）	12.5	3.1	9.2
伝統芸能（歌舞伎、能・狂言、人形浄瑠璃、琴、三味線、尺八、雅楽など）	-	6.2	4.4
書道、華道、盆栽、茶道などの生活文化	-	5.2	5.6
日本舞踊	-	2.3	1.9

2.3.8. 子ども・若者が文化・芸術に触れる機会

子ども・若者が文化・芸術に触れる機会については、全体、男女別、年代別の傾向を比較すると、「18 歳未満」を除き、市民向けアンケート調査と同様に全ての年代で十分とはいえないといえる（図表 126）。最も高い「18 歳未満」においても、「十分だと思う・どちらかといえば十分だと思う」合計で 37.5%にとどまった。

※「子ども」は中学生以下、「若者」は中学校卒業から 30 歳未満までと定義

図表 126. 子ども・若者が文化・芸術に触れる機会

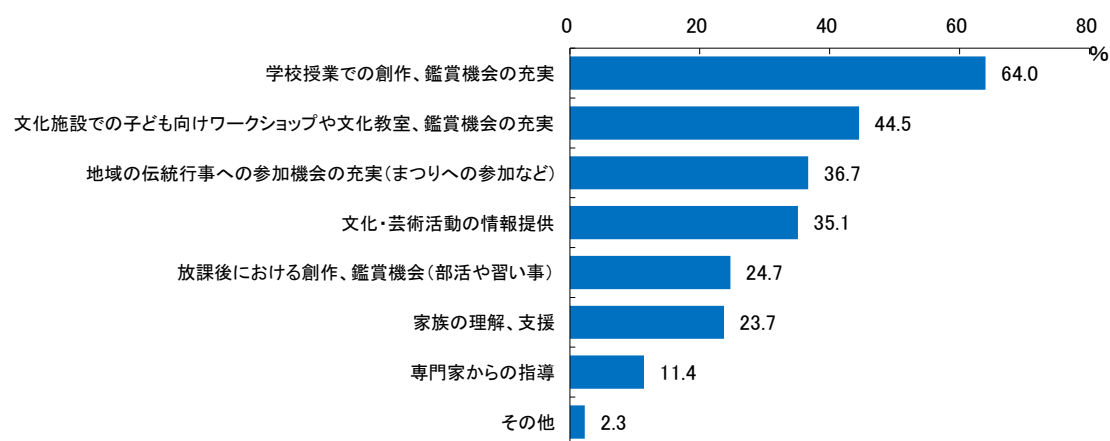


2.3.9. 子ども・若者が文化・芸術により親しめるようになるために必要なもの

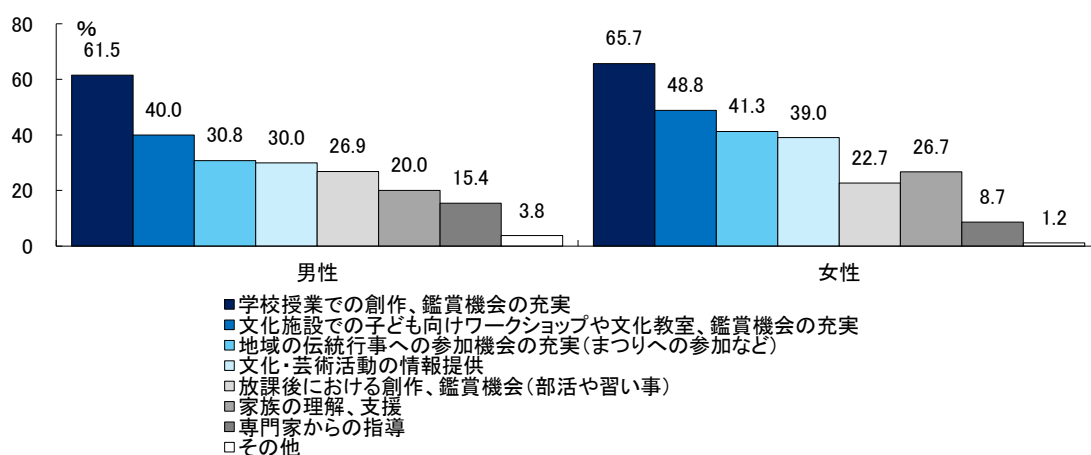
子ども・若者が文化・芸術により親しめるようになるために必要なものは、「学校授業での創作、鑑賞機会の充実（64.0%）」が最も高く、2 番目が「文化施設での子ども向けワークショップや文化教室、鑑賞機会の充実（44.5%）」となり、市民向けアンケート調査〔1 番目の項目は若者向けアンケート調査と同項目で、2 番目は「地域の伝統行事への参加機会の充実（まつりへの参加など、46.2%）」〕とは異なり、若者との認識の違いが明らかとなった（図表 127）。

男女別では、男女ともに「学校授業での創作、鑑賞機会の充実」が最も高いものの、5 つの項目で女性が男性より回答率が高い（図表 128）。年代別では、上位 2 項目は「18 歳未満」が最も低く、3 番目となった「地域の伝統行事への参加機会の充実（まつりへの参加など）」は同年代の回答が皆無となり、年代別に認識が異なることが明らかとなった（次頁図表 129）。

図表 127. 子ども・若者が文化・芸術により親しめるようになるために必要なもの
（全体、複数回答）



図表 128. 男女別 子ども・若者が文化・芸術により親しめるようになるために必要なもの（複数回答）



図表 129. 年代別 子ども・若者が文化・芸術により親しめるようになるために必要なもの（複数回答）

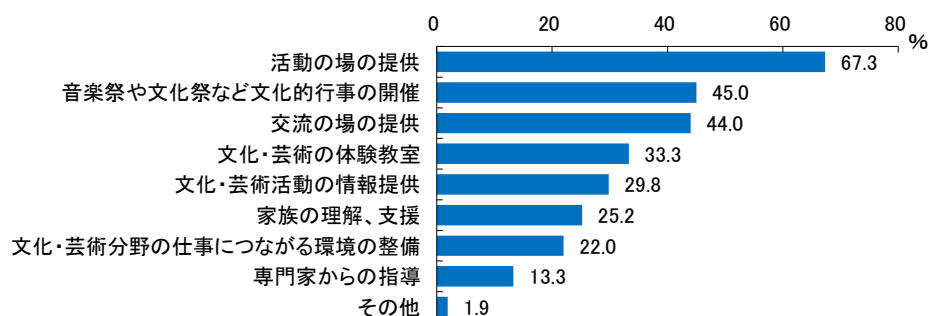
	単位：％		
	18歳未満	18-19歳	20歳代
学校授業での創作、鑑賞機会の充実	50.0	66.4	64.2
文化施設での子ども向けワークショップや文化教室、鑑賞機会の充実	37.5	49.3	40.7
地域の伝統行事への参加機会の充実(まつりへの参加など)	-	33.6	40.7
文化・芸術活動の情報提供	37.5	32.8	37.0
放課後における創作、鑑賞機会(部活や習い事)	25.0	26.9	22.8
家族の理解、支援	25.0	22.4	25.3
専門家からの指導	12.5	8.2	14.2
その他	-	0.7	3.7

2.3.10. 子ども・若者、障がい者が義務教育を修了した後も文化・芸術活動を持続するために必要なもの

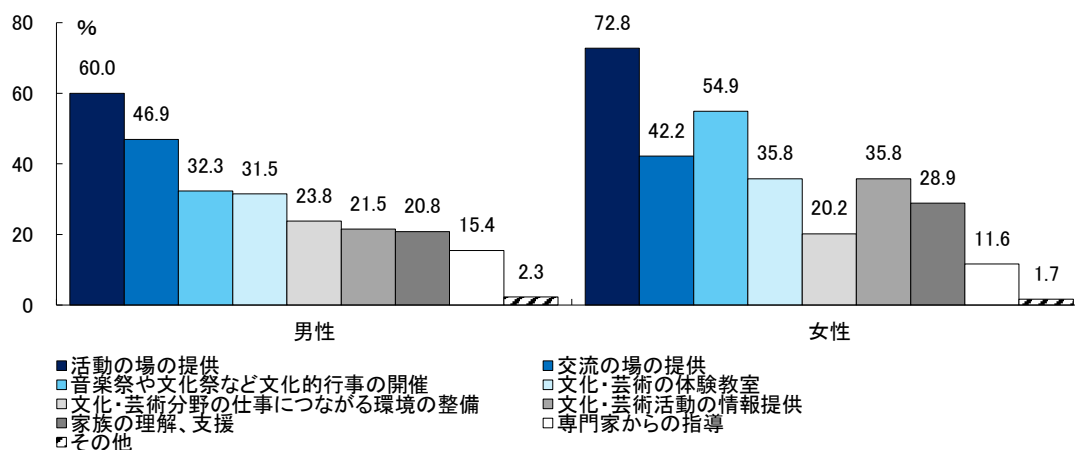
子ども・若者、障がい者が義務教育を修了した後も文化・芸術活動を持続するために必要なものは「活動の場の提供（67.3％）」が最も高く、2 番目が「音楽祭や文化祭など文化的行事の開催（45.0％）」となった（図表 130）。市民向けアンケート調査〔最も高い項目は本調査と同様であったが、2 番目は「交流の場の提供（49.0％）」〕と比較しても、イベントを求める若い世代との違いが明らかとなった。

男女別では、「活動の場の提供」「音楽祭や文化祭など文化的行事の開催」で女性が男性の回答率を大幅に上回った（次頁図表 131）。年代別では、全年代で「活動の場の提供」が最も高く、他の多くの項目で、「18 歳未満」と他の年代の違いがみられた（次頁図表 132）。

図表 130. 子ども・若者、障がい者が義務教育を修了した後も文化・芸術活動を持続するために必要なもの（全体、複数回答）



図表 131. 男女別 子ども・若者、障がい者が義務教育を修了した後も文化・芸術活動を続けるために必要なもの（複数回答）



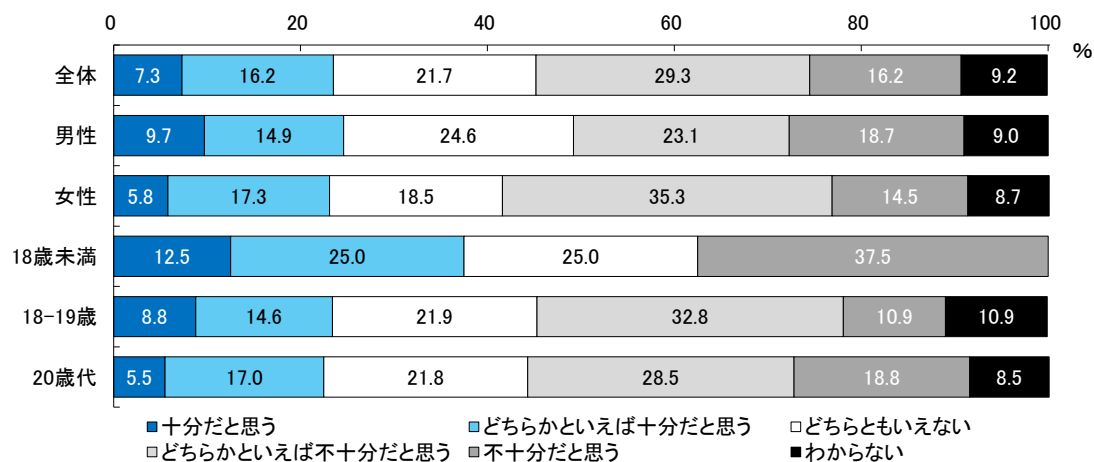
図表 132. 年代別 子ども・若者、障がい者が義務教育を修了した後も文化・芸術活動を続けるために必要なもの（複数回答）

	単位：％		
	18歳未満	18-19歳	20歳代
活動の場の提供	50.0	72.6	63.6
音楽祭や文化祭など文化的行事の開催	—	40.7	50.0
交流の場の提供	62.5	45.2	43.2
文化・芸術の体験教室	12.5	38.5	30.2
文化・芸術活動の情報提供	37.5	27.4	32.1
家族の理解、支援	25.0	23.7	26.5
文化・芸術分野の仕事につながる環境の整備	25.0	16.3	25.9
専門家からの指導	12.5	14.8	12.3
その他	—	0.7	3.1

2.3.11. 障がい者が文化・芸術に触れる機会

障がい者が文化・芸術に触れる機会は、全ての回答を示す「全体」で「十分だと思う」「どちらかといえば十分だと思う」合計が 23.5%となり、市民向けアンケート調査と同様の傾向がみられた（次頁図 133）。男女別、「18 歳未満」を除く年代別においても全てにおいて両項目を「どちらかといえば不十分だと思う」「不十分だと思う」が上回り、障がい者への配慮や支援が必要との認識が強くうかがえる結果となった。なお、年代別では「18 歳未満」が最も肯定的な回答となったが、「十分だと思う」「どちらかといえば十分だと思う」合計が 37.5%であり、「不十分だと思う」と同率となった。

図表 133. 障がい者が文化・芸術に触れる機会

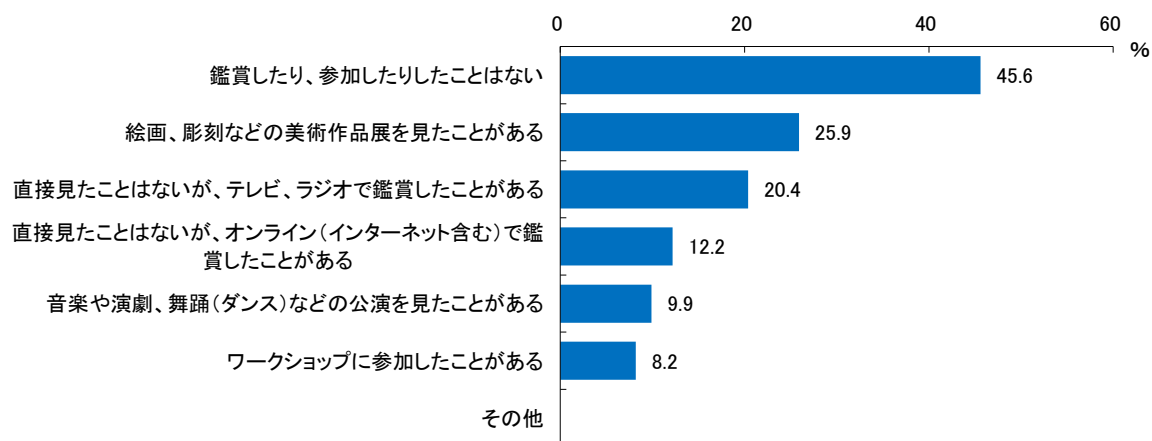


2.3.12. 障がい者の美術（絵画、彫刻など）作品展や音楽、演劇、舞踊などの文化・芸術活動についての鑑賞・参加の経験

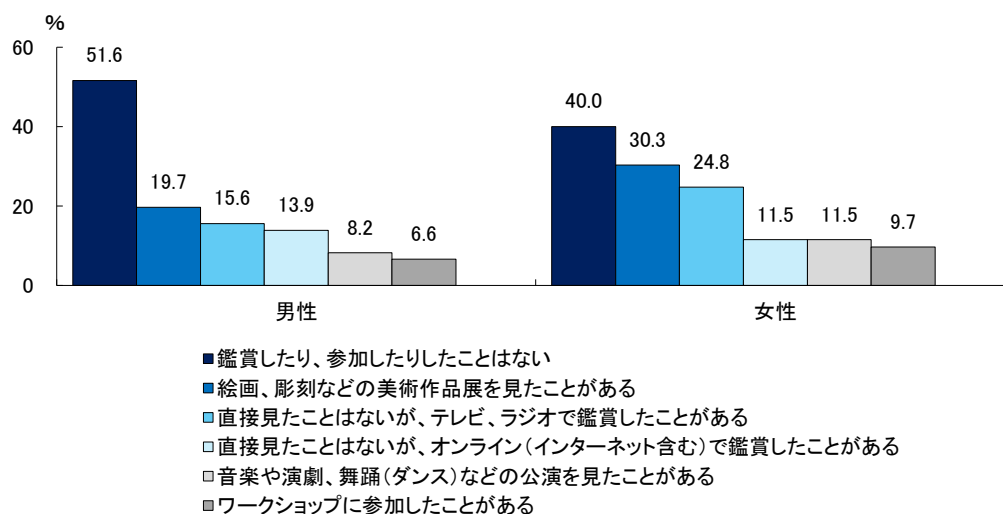
障がい者の美術（絵画、彫刻など）作品展や音楽、演劇、舞踊などの文化・芸術活動についての鑑賞・参加の経験は、「鑑賞したり、参加したりしたことはない（45.6%）」が最も高く、市民向けアンケート調査と同様の結果となった（図表 134）。2 番目は「絵画、彫刻などの美術作品展を見たことがある（25.9%）」となり。3 番目が「直接見たことはないが、テレビ、ラジオで鑑賞したことがある（20.4%）」となった。2 番目、3 番目の項目は市民アンケートより低い回答率となった。

男性と女性の違いは 1 位の項目で男性が女性より大幅に高いものの、2、3 番目の項目は女性の高さが目立つ（次頁図表 135）。年代別では「鑑賞したり、参加したりしたことはない」は「18-19 歳」が最も高く、同年代の半数が経験していないことが明らかとなった（次頁図表 136）。

図表 134. 障がい者の美術（絵画、彫刻など）作品展や音楽、演劇、舞踊などの文化・芸術活動についての鑑賞・参加の経験（全体、複数回答）



図表 135. 男女別 障がい者の美術（絵画、彫刻など）作品展や音楽、演劇、舞踊などの文化・芸術活動についての鑑賞・参加の経験（複数回答）



図表 136. 年代別 障がい者の美術（絵画、彫刻など）作品展や音楽、演劇、舞踊などの文化・芸術活動についての鑑賞・参加の経験（複数回答）

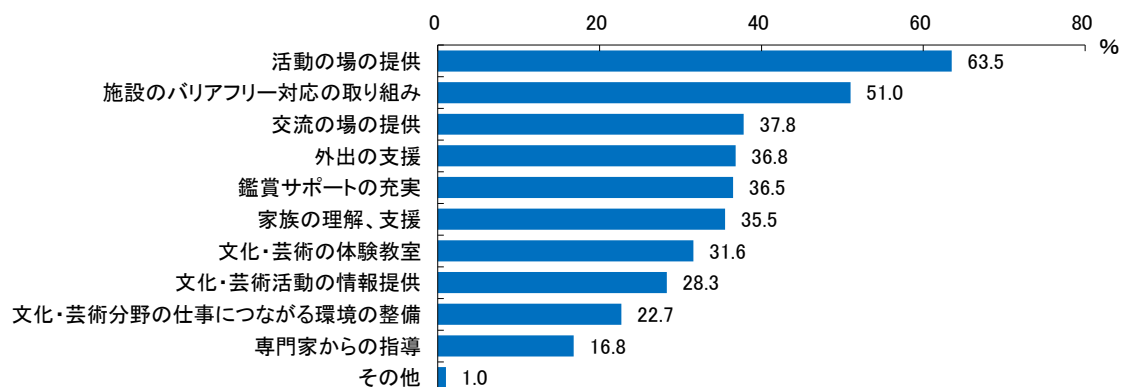
	単位：％		
	18歳未満	18-19歳	20歳代
鑑賞したり、参加したりしたことはない	42.9	51.2	41.4
絵画、彫刻などの美術作品展を見たことがある	28.6	22.8	27.4
直接見たことはないが、テレビ、ラジオで鑑	28.6	16.5	23.6
直接見たことはないが、オンライン（インター	14.3	7.9	15.9
ネット含む）で鑑賞したことがある			
音楽や演劇、舞踊（ダンス）などの公演を見	14.3	7.9	11.5
たことがある			
ワークショップに参加したことがある	14.3	7.1	8.9
その他	-	-	-

2.3.13. 障がい者への文化・芸術活動の支援に必要なもの

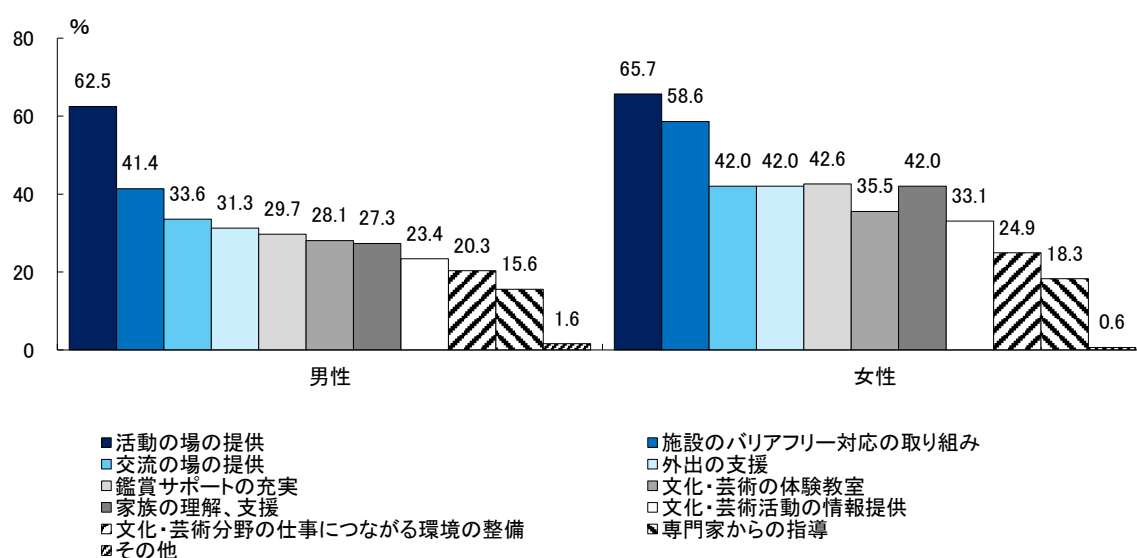
障がい者への文化・芸術活動の支援に必要なものは、「活動の場の提供（63.5%）」が最も高く、2番目は「施設のバリアフリー対応の取り組み（51.0%）」となり、上位2つの項目が他の項目より圧倒的に高い（次頁図表 137）。市民向けアンケート調査と比べると、1位の項目は同調査と同様の結果であったが、2番目の項目は同調査の「30歳代」「40歳代」の結果と同様になった。

男女別では、「その他」を除く全ての項目で女性の回答率が男性を上回った（次頁図表 138）。年代別では、「活動の場の提供」は「18-19歳（68.7%）」が最も高い回答率となり、「施設のバリアフリー対応の取り組み」は「20歳代（56.0%）」が最も高い（次頁図表 139）。なお、同項目は「18歳未満（28.6%）」と大きく異なる結果となり、年代による考え方の違いがうかがえる。

図表 137. 障がい者への文化・芸術活動の支援に必要なもの（全体、複数回答）



図表 138. 男女別 障がい者への文化・芸術活動の支援に必要なもの（複数回答）



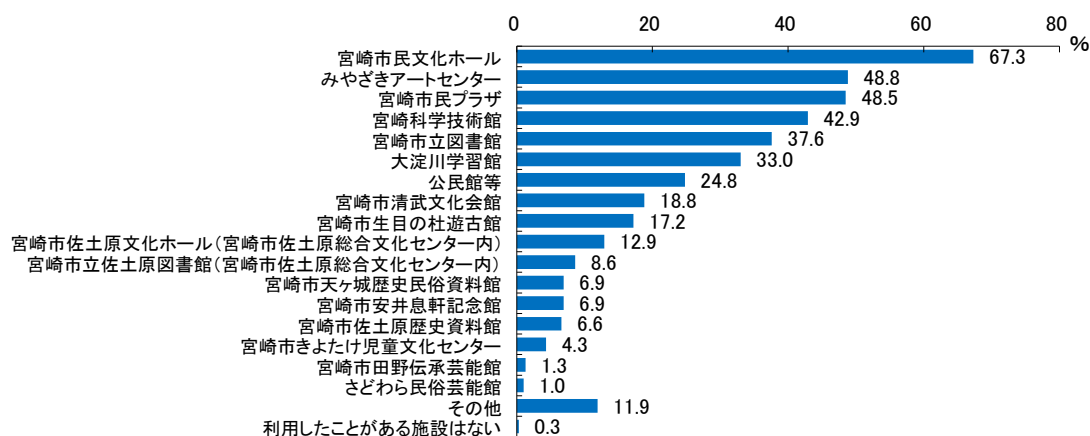
図表 139. 年代別 障がい者への文化・芸術活動の支援に必要なもの（複数回答）

	単位: %		
	18歳未満	18-19歳	20歳代
活動の場の提供	50.0	72.6	63.6
音楽祭や文化祭など文化的行事の開催	-	40.7	50.0
交流の場の提供	62.5	45.2	43.2
文化・芸術の体験教室	12.5	38.5	30.2
文化・芸術活動の情報提供	37.5	27.4	32.1
家族の理解、支援	25.0	23.7	26.5
文化・芸術分野の仕事につながる環境の整備	25.0	16.3	25.9
専門家からの指導	12.5	14.8	12.3
その他	-	0.7	3.1

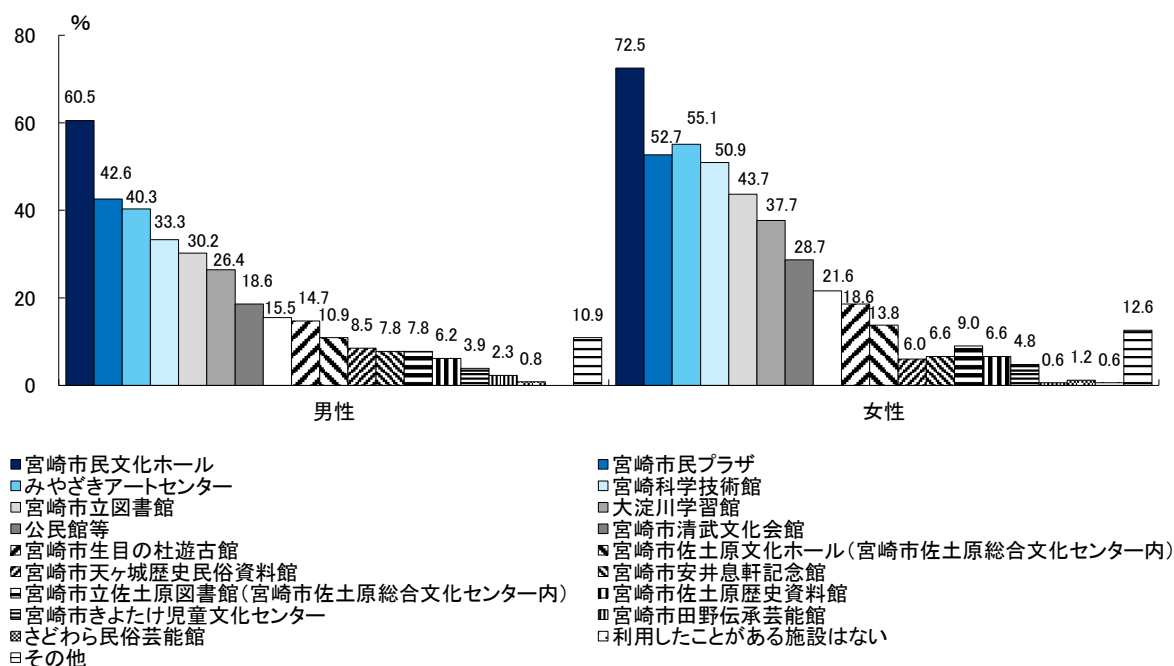
2.3.14. 市の運営する文化・芸術関連施設等について、来所、利用したことがある施設

市の運営する文化・芸術関連施設等について、来所、利用したことがある施設は、「宮崎市民文化ホール（67.3%）」が市民向けアンケート調査と同様に圧倒的に高く、2 番目が「みやざきアートセンター（48.8%）」となった（図表 140）。なお、3 番目は僅差で「宮崎市民プラザ（48.5%）」となった。2 番目以降は市民向けアンケート調査と異なる結果となった。男女別では、市民向けアンケート調査と同様に回答上位の施設で女性の回答率が高く、年代別では上位項目で「18 歳未満」と他の年代の違いがうかがえる結果となった（図表 141、次頁図表 142）。

図表 140. 市の運営する文化・芸術関連施設等について、来所、利用したことがある施設（全体、複数回答）



図表 141. 男女別 市の運営する文化・芸術関連施設等について、来所、利用したことがある施設（複数回答）



図表 142. 年代別 市の運営する文化・芸術関連施設等について、来所、利用したことがある施設（複数回答）

単位：％

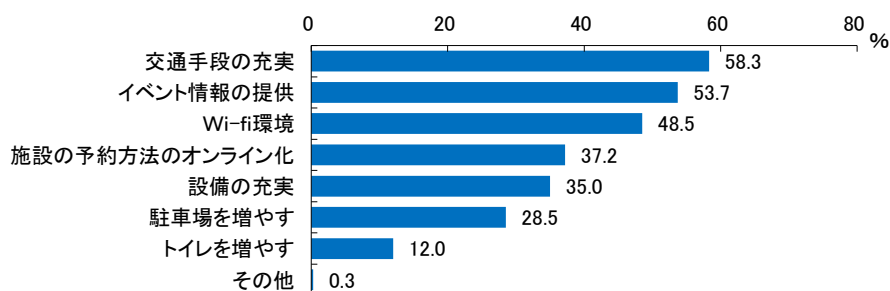
	18歳未満	18-19歳	20歳代
宮崎市民文化ホール	57.1	65.2	69.6
みやざきアートセンター	71.4	44.7	50.9
宮崎市民プラザ	57.1	46.2	50.3
宮崎科学技術館	42.9	37.9	47.2
宮崎市立図書館	28.6	28.0	46.0
大淀川学習館	57.1	28.0	36.0
公民館等	42.9	23.5	25.5
宮崎市清武文化会館	14.3	15.9	21.1
宮崎市生目の杜遊古館	14.3	15.2	18.6
宮崎市佐土原文化ホール(宮崎市佐土原総合文化センター内)	42.9	16.7	8.7
宮崎市立佐土原図書館(宮崎市佐土原総合文化センター内)	28.6	8.3	8.1
宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館	14.3	3.0	9.9
宮崎市安井息軒記念館	-	6.8	7.5
宮崎市佐土原歴史資料館	-	8.3	5.6
宮崎市きよたけ児童文化センター	14.3	3.0	5.0
宮崎市田野伝承芸能館	-	0.8	1.9
さどわら民俗芸能館	14.3	-	1.2
利用したことがある施設はない	-	0.8	-
その他	-	14.4	10.6

2.3.15. 市の運営する文化・芸術関連施設等の利便性を高めるにあたり、何を改善すれば良いか

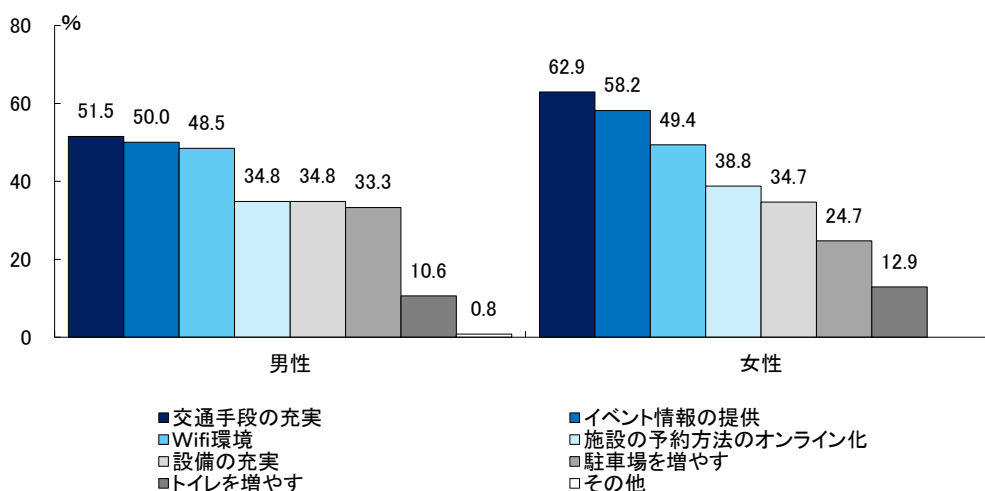
市の運営する文化・芸術関連施設等の利便性を高めるにあたり、何を改善すれば良いかについては、「交通手段の充実（58.3％）」が最も高く、2 番目が「イベント情報の提供（53.7％）」となり、若者にとっては交通便利性と情報提供が求められる様子が明らかとなった（図表 143）。

男女別では大きな差はみられず、男女同様の回答となったが、上位 2 項目において女性の高さが目立つ結果となった（次頁図表 144）。年代別では、「18 歳未満」とその他の年代の違いが大きく、特に「イベント情報の提供」は差が大きいといえる（次頁図表 145）。

図表 143. 市の運営する文化・芸術関連施設等の利便性を高めるにあたり、何を改善すれば良いか（全体、複数回答）



図表 144. 男女別 市の運営する文化・芸術関連施設等の利便性を高めるにあたり、何を改善すれば良いか（複数回答）



図表 145. 年代別 市の運営する文化・芸術関連施設等の利便性を高めるにあたり、何を改善すれば良いか（複数回答）

単位: %

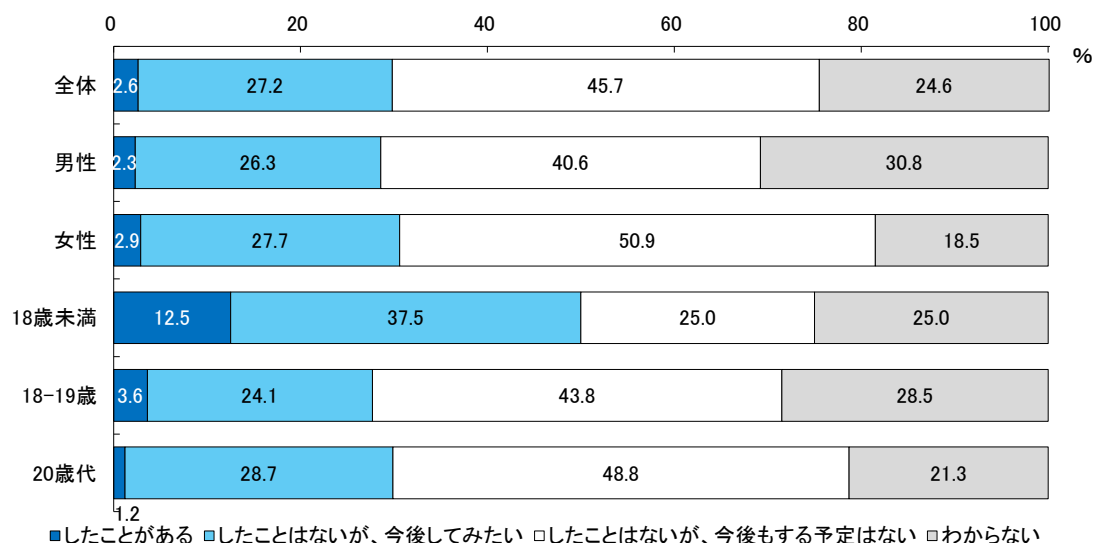
	18歳未満	18-19歳	20歳代
交通手段の充実	37.5	58.5	59.9
イベント情報の提供	25.0	51.1	57.4
Wi-fi環境	50.0	60.0	40.1
施設の予約方法のオンライン化	12.5	41.5	35.8
設備の充実	37.5	38.5	31.5
駐車場を増やす	25.0	30.4	27.8
トイレを増やす	12.5	15.6	9.3
その他	-	-	0.6

2.3.16. 過去1年間に文化・芸術振興に関する分野に寄附をしたことがあるか

過去1年間に文化・芸術振興に関する分野に寄附をしたことがあるかについては、「全体」で肯定的な回答である「したことがある」「したことはないが、今後してみたい」合計で 29.8%となり、「したことはないが、今後もする予定はない（24.6%）」との差は僅かなものになった（次頁図表 146）。男女別では男性の否定的な回答率が高く、年代別では「18 歳未満」の「したことがある」「したことはないが、今後してみたい」ともに他の年代より圧倒的に高い。

これらの結果から、市民向けアンケート調査に比べ若い世代の方が寄附に否定的な考えが低いことがわかる。

図表 146. 過去 1 年間に文化・芸術振興に関する分野に寄附をしたことがあるか

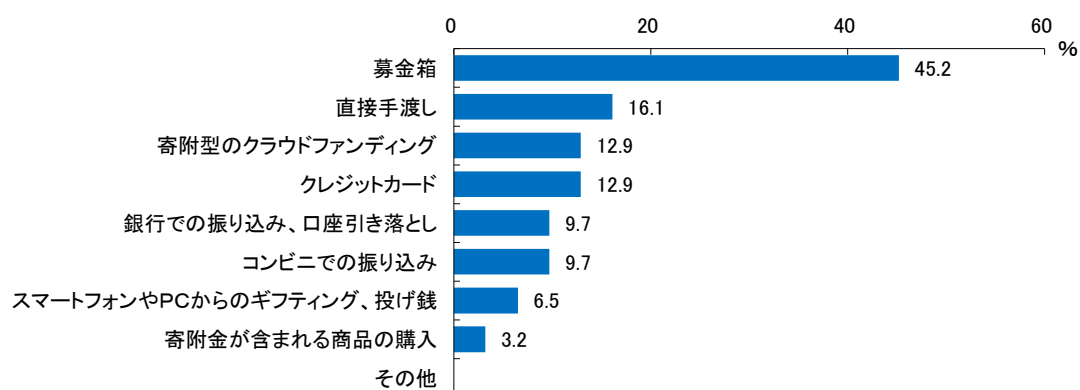


2.3.17. 寄附の方法

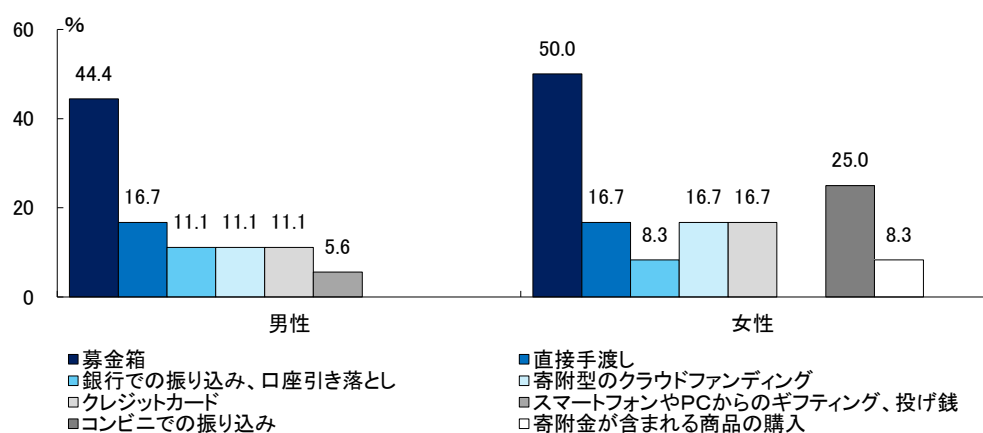
寄附の方法は、「募金箱（45.2%）」が圧倒的に高く、市民向けアンケート調査と同様の結果となった（図表 147）。2 番目は「直接手渡し（16.1%）」となり、3 番目は「寄附型のクラウドファンディング（12.9%）」となった。

男女ともに「募金箱」が最も高いが、女性は「コンビニでの振り込み（25.0%）」が男性に比べ+19.4Pとなり、特徴的な結果となった（次頁図表 148）。年代別では、全ての年代で寄附の選択肢が狭いことが明らかとなり、若い世代の特徴的な方法として、「20 歳代」で「寄附型のクラウドファンディング（28.6%）」「クレジットカード（28.6%）」等の項目も一定数の回答がみられた（次頁図表 149）。

図表 147. 寄附の方法（全体、複数回答）



図表 148. 男女別 寄附の方法（複数回答）



図表 149. 年代別 寄附の方法（複数回答）

単位: %

	18歳未満	18-19歳	20歳代
募金箱	100.0	50.0	35.7
直接手渡し	-	28.6	7.1
寄附型のクラウドファンディング	-	-	28.6
クレジットカード	-	-	28.6
銀行での振り込み、口座引き落とし	-	7.1	7.1
コンビニでの振り込み	-	7.1	14.3
スマートフォンやPCからのギフトング、投げ銭	-	7.1	7.1
寄附金が含まれる商品の購入	-	-	7.1
その他	-	-	-

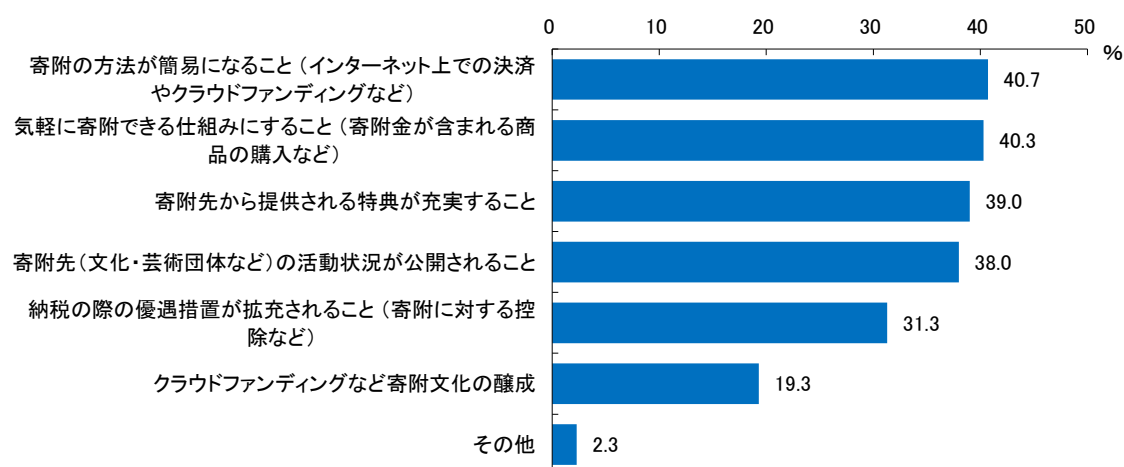
2. 3. 18. どうすれば文化・芸術への寄附がしやすくなる、寄附したいと思うのか

どうすれば文化・芸術への寄附がしやすくなる、寄附したいと思うのかについては、「寄附の方法が簡易になること（インターネット上での決済やクラウドファンディングなど、40.7%）」が最も高く、2番目が「気軽に寄附できる仕組みにすること（寄附金が含まれる商品の購入など、40.3%）」となった（次頁図表 150）。市民向けアンケート調査と異なり、今どきのトレンドを反映した考え方がうかがえた。

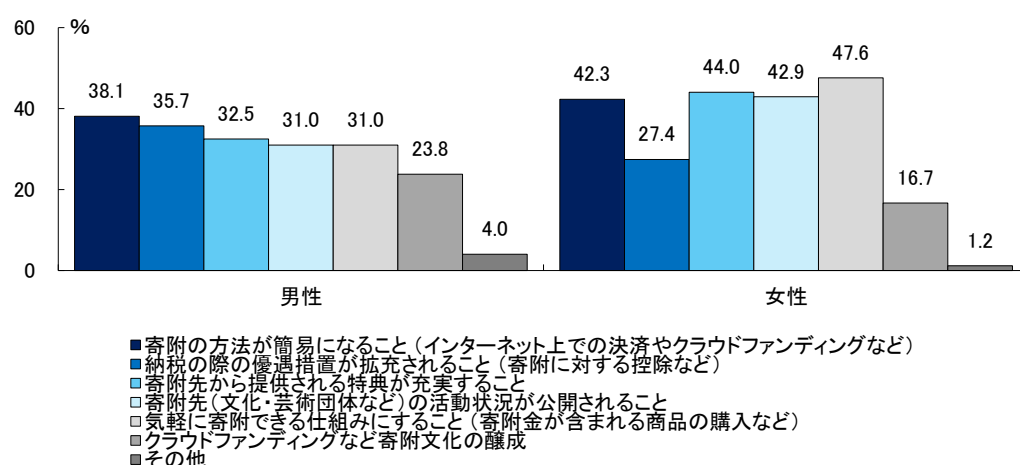
男女別では、男性より女性の方が回答率の高い項目が多く、寄附の手軽さに関心が高いと考えられる（次頁図表 151）。

年代別では、「寄附の方法が簡易になること（インターネット上での決済やクラウドファンディングなど）」は「18歳未満」と他の年代で大きく異なる結果となった（次頁図表 152）。2番目の項目である「気軽に寄附できる仕組みにすること（寄附金が含まれる商品の購入など）」は全年代ともに大きな差がなく、「寄附先から提供される特典が充実すること」は年代が上がるに従い回答率が上昇した。

図表 150. どうすれば文化・芸術への寄附がしやすくなる、寄附したいと思うのか
(全体、複数回答)



図表 151. 男女別 どうすれば文化・芸術への寄附がしやすくなる、寄附したいと思うのか（複数回答）



図表 152. 年代別 どうすれば文化・芸術への寄附がしやすくなる、寄附したいと思うのか（複数回答）

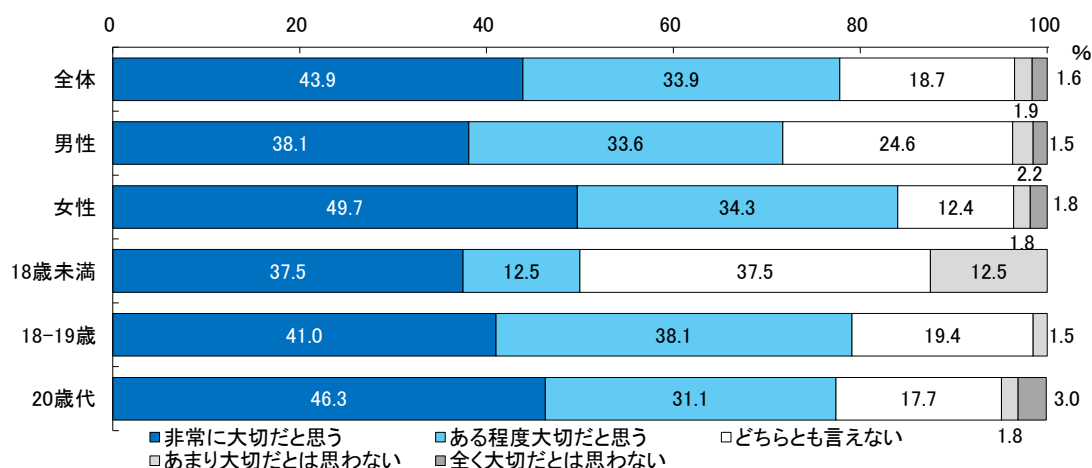
単位: %

	18歳未満	18-19歳	20歳代
寄附の方法が簡易になること（インターネット上での決済やクラウドファンディングなど）	25.0	41.2	40.8
気軽に寄附できる仕組みにすること（寄附金が含まれる商品の購入など）	37.5	42.7	38.9
寄附先から提供される特典が充実すること	12.5	35.1	43.9
寄附先（文化・芸術団体など）の活動状況が公開されること	50.0	36.6	39.5
納税の際の優遇措置が拡充されること（寄附に対する控除など）	25.0	29.0	33.8
クラウドファンディングなど寄附文化の醸成	-	19.1	20.4
その他	-	0.8	3.8

2.3.19. 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取り組みについての考え方

伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取り組みについての考え方については、全体で「非常に大切だと思う」「ある程度大切だと思う」合計で 77.8% となり、男女別、年代別でも総じて同項目の回答率が高い結果となった（図表 153）。全体を市民向けアンケート調査（90.8%）と比較すると、若い世代向けアンケートの回答率が低いといえる。男女においては、女性の方が同項目の回答率が高く、年代別では「18 歳未満」の「ある程度大切だと思う」の低さが目立つ結果となった。

図表 153. 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取り組みについての考え方

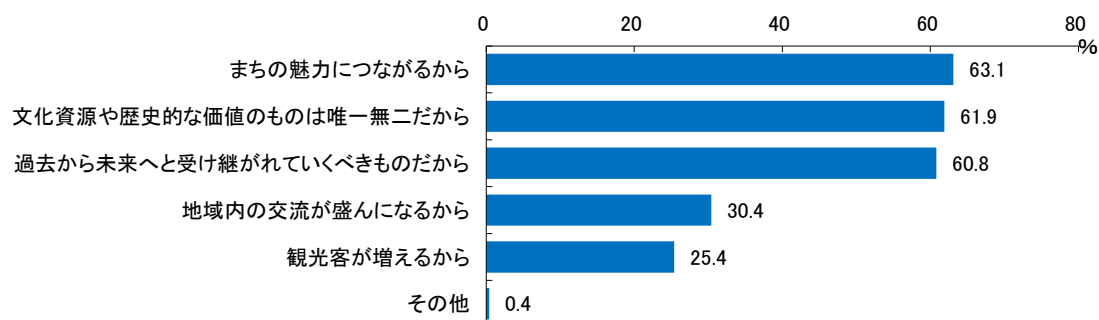


2.3.20. 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取り組みについての考え方が「非常に大切」「ある程度大切」と思う理由

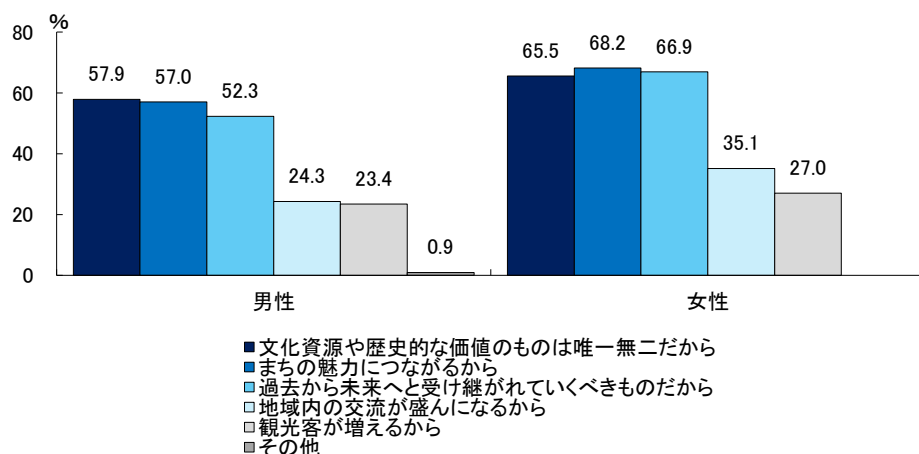
伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取り組みについての考え方が「非常に大切」「ある程度大切」と思う理由は、「まちの魅力につながるから（63.1%）」が最も高く、「文化資源や歴史的な価値のものは唯一無二だから（61.9%）」「過去から未来へと受け継がれていくべきものだから（60.8%）」と続いた（次頁図表 154）。市民向けアンケート調査「過去から未来へと受け継がれていくべきものだから（72.9%）」が最も高く、次いで、「文化資源や歴史的な価値のものは唯一無二だから（61.4%）」と比較すると、若い世代との違いがうかがえた。

男女別では、男女ともに同様の傾向がみられるが、「その他」を除く全ての項目で女性の回答率が男性を上回った（次頁図表 155）。年代別では、全ての年代で上位 3 項目の回答率が高い（次頁図表 156）。

図表 154. 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取組みについての考え方が「非常に大切」「ある程度大切」と思う理由（全体、複数回答）



図表 155. 男女別 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取組みについての考え方が「非常に大切」「ある程度大切」と思う理由（複数回答）



図表 156. 年代別 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取組みについての考え方が「非常に大切」「ある程度大切」と思う理由（複数回答）

単位: %

	18歳未満	18-19歳	20歳代
まちの魅力につながるから	66.7	61.6	64.5
文化資源や歴史的な価値のものは唯一無二だから	50.0	62.5	62.3
過去から未来へと受け継がれていくべきものだから	50.0	65.2	58.0
地域内の交流が盛んになるから	16.7	27.7	32.6
観光客が増えるから	33.3	24.1	25.4
その他	-	-	0.7

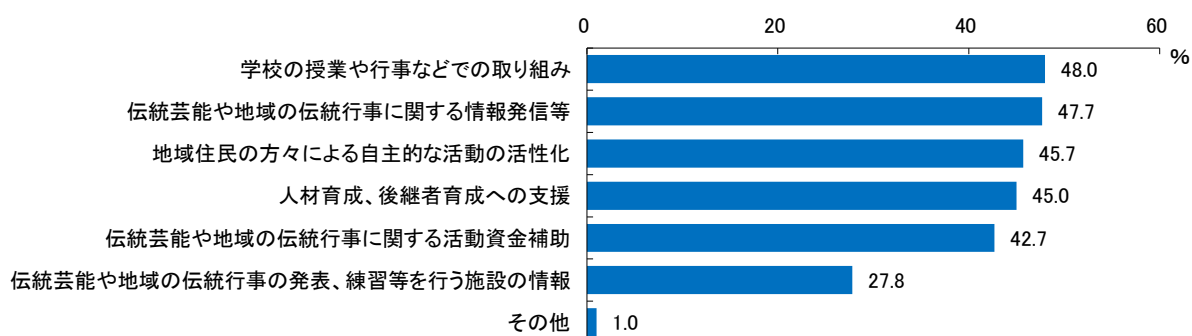
2.3.21. 伝統芸能や地域の伝統行事を保存、持続可能なものとするために必要な対応

伝統芸能や地域の伝統行事を保存、持続可能なものとするために必要な対応は、「学校の授業や行事などでの取り組み（48.0%）」が最も高く、「伝統芸能や地域の伝統行事に関する情報発信等（47.7%）」となった（図表 157）。市民向けアンケート調査[「人材育成、後継者育成への支援（60.6%）」が最も高い]と比較すると、若者向けアンケートとの違いがうかがえた。

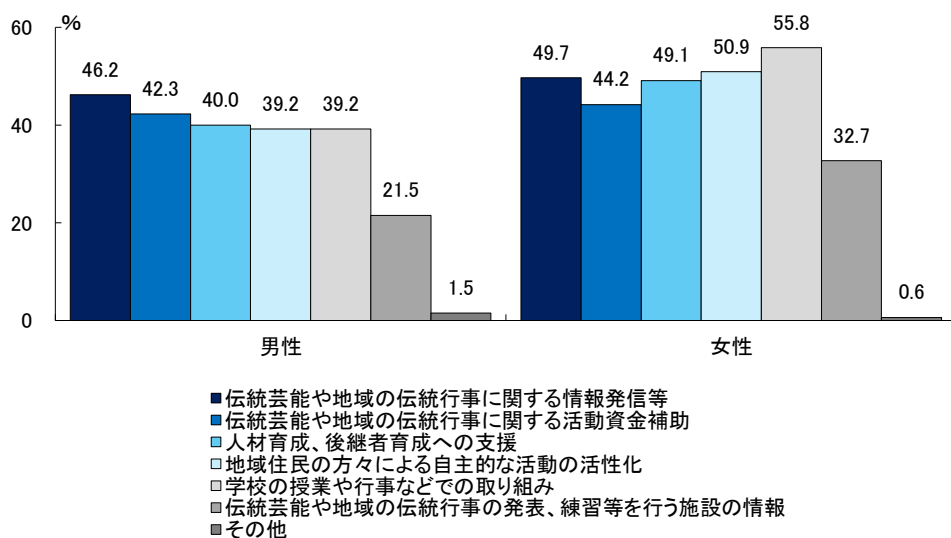
男女別では、「その他」を除く項目で男性に比べ女性の回答率が高く、特に「人材育成、後継者育成への支援」は男性比+9.1Pとなった（図表 158）。男性においては、「地域住民の方々による自主的な活動の活性化」が女性比+11.7Pとなった。

年代別では、年代が上がるに従い「学校の授業や行事などでの取り組み」「地域住民の方々による自主的な活動の活性化」「人材育成、後継者育成への支援」の回答率が上昇した（次頁図表 159）。

図表 157. 伝統芸能や地域の伝統行事を保存、持続可能なものとするために必要な対応（全体、複数回答）



図表 158. 男女別 伝統芸能や地域の伝統行事を保存、持続可能なものとするために必要な対応（複数回答）



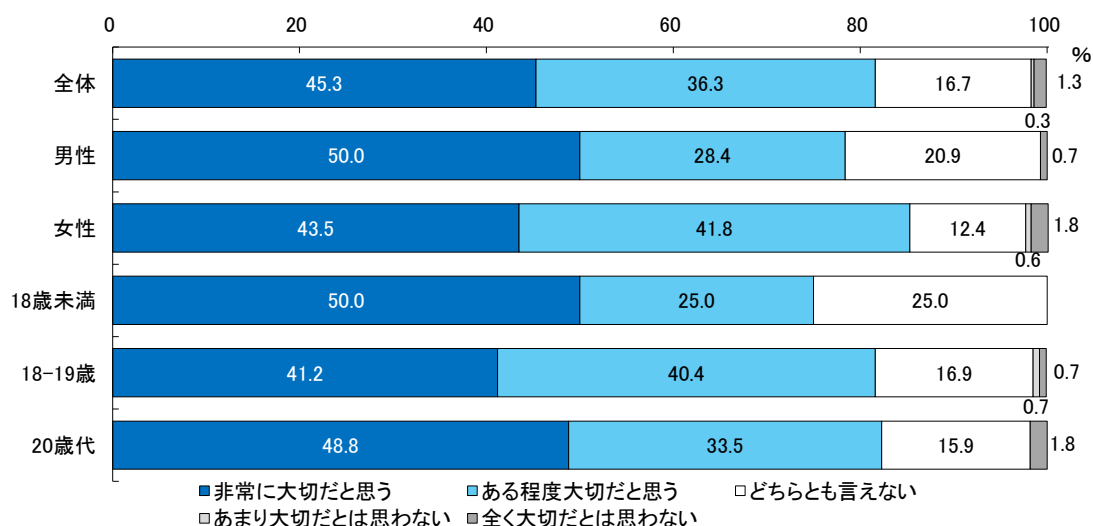
図表 159. 年代別 伝統芸能や地域の伝統行事を保存、持続可能なものとするために必要な対応（複数回答）

	単位：％		
	18歳未満	18-19歳	20歳代
学校の授業や行事などでの取り組み	28.6	45.0	51.9
伝統芸能や地域の伝統行事に関する情報発信等	57.1	43.5	50.0
地域住民の方々による自主的な活動の活性化	28.6	50.4	42.5
人材育成、後継者育成への支援	14.3	41.2	50.0
伝統芸能や地域の伝統行事に関する活動資金補助	42.9	43.5	42.5
伝統芸能や地域の伝統行事の発表、練習等を行う施設の情報	28.6	25.2	30.0
その他	-	-	1.9

2.3.22. 本市の文化・芸術の振興に尽くし、その功績が大変すばらしい市民に対して、表彰することへの思い

本市の文化・芸術の振興に尽くし、その功績が大変すばらしい市民に対して、表彰することへの思いについては、全体、男女、全ての年代において「非常に大切だと思う」「ある程度大切だと思う」合計が 70%以上となり、市民向けアンケート調査と同様の結果となった（図表 160）。総じて表彰に対して肯定的といえる。

図表 160. 本市の文化・芸術の振興に尽くし、その功績が大変すばらしい市民に対して、表彰することへの思い

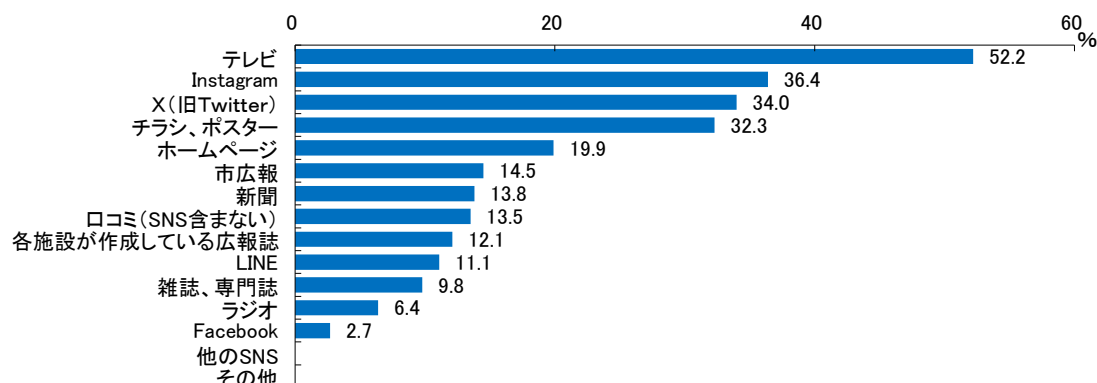


2.3.23. 文化・芸術に関する情報（イベントや講座等）の入手先

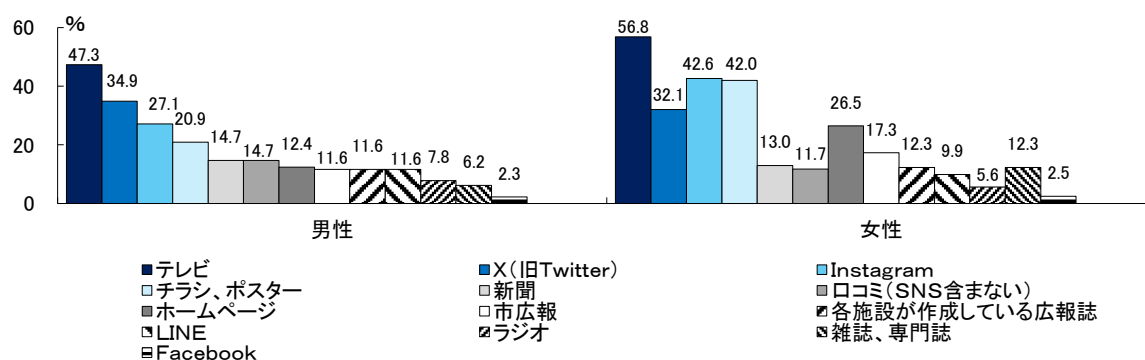
文化・芸術に関する情報（イベントや講座等）の入手先は、若い世代の回答のみであるにもかかわらず、全体では「テレビ（52.2%）」が最も高く、次いで「Instagram（36.4%）」となった（次図表 161）。市民向けアンケート調査〔2 番目が「市広報

(48.7%)」、「Instagram」は 13.9%と低い」と比べると、同世代の特徴が表れた結果となった。男女別では、ともに「テレビ」が最も高いが、「Instagram」「チラシ・ポスター」は女性が大幅に高い（図表 162）。年代別では「18 歳未満」と他の年代の違いが目立つ結果となり、「Instagram」「X（旧 Twitter）」には特にその傾向がみられた（図表 163）。

図表 161. 文化・芸術に関する情報（イベントや講座等）の入手先（全体、複数回答）



図表 162. 男女別 文化・芸術に関する情報（イベントや講座等）の入手先（複数回答）



図表 163. 年代別 文化・芸術に関する情報（イベントや講座等）の入手先（複数回答）

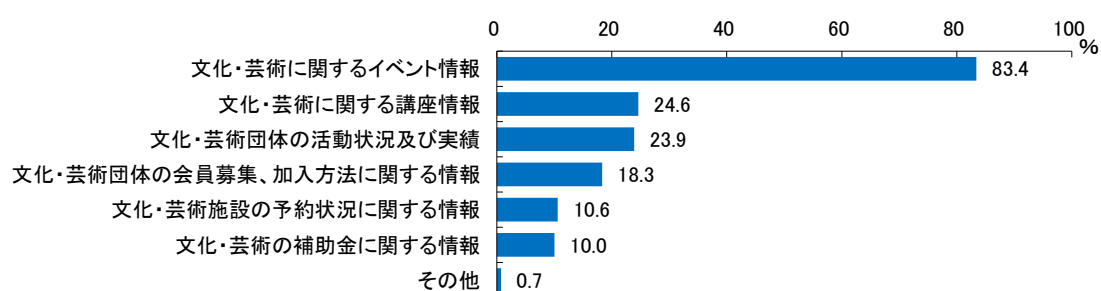
単位: %

	18歳未満	18-19歳	20歳代
テレビ	37.5	57.4	49.0
Instagram	25.0	38.0	36.3
X(旧Twitter)	12.5	37.2	33.1
チラシ、ポスター	37.5	29.5	35.0
ホームページ	12.5	20.9	19.1
市広報	-	11.6	17.8
新聞	12.5	14.7	13.4
ロコミ(SNS含まない)	-	17.8	10.8
各施設が作成している広報誌	-	7.8	15.9
LINE	12.5	9.3	11.5
雑誌、専門誌	12.5	7.8	11.5
ラジオ	-	5.4	7.6
Facebook	-	1.6	3.2
他のSNS	-	-	-
その他	-	-	-

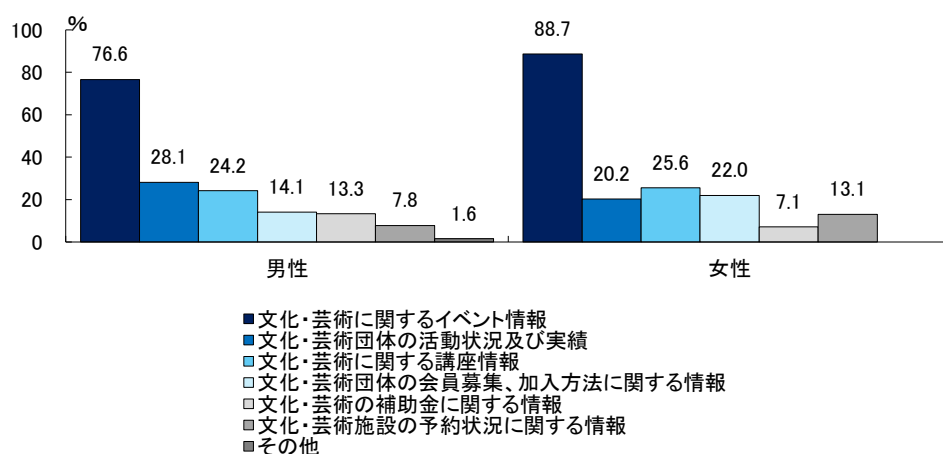
2.3.24. 本市において発信してほしい文化・芸術に関する情報

本市において発信してほしい文化・芸術に関する情報は、市民向けアンケート調査と同様に「文化・芸術に関するイベント情報（83.4%）」が圧倒的に高く、次いで「文化・芸術に関する講座情報（24.6%）」となった（図表 164）。男女別では、ともに「文化・芸術に関するイベント情報」が圧倒的に高いが、2 番目となる「文化・芸術に関する講座情報」は男性が女性比+7.9 P 高い結果となった（図表 165）。年代別では、全年代ともに「文化・芸術に関するイベント情報」が圧倒的に高く、「文化・芸術に関する講座情報」は「20 歳代（29.9%）」が最も高い（図表 166）。

図表 164. 本市において発信してほしい文化・芸術に関する情報（全体、複数回答）



図表 165. 男女別 本市において発信してほしい文化・芸術に関する情報（複数回答）



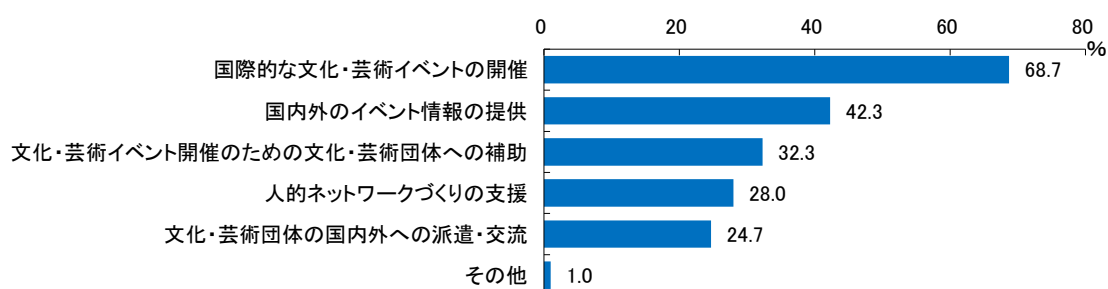
図表 166. 年代別 本市において発信してほしい文化・芸術に関する情報（複数回答）

	単位: %		
	18歳未満	18-19歳	20歳代
文化・芸術に関するイベント情報	75.0	84.8	82.8
文化・芸術に関する講座情報	12.5	18.9	29.9
文化・芸術団体の活動状況及び実績	-	25.8	23.6
文化・芸術団体の会員募集、加入方法に関する情報	37.5	16.7	17.8
文化・芸術施設の予約状況に関する情報	-	9.8	11.5
文化・芸術の補助金に関する情報	12.5	12.1	7.6
その他	-	-	1.3

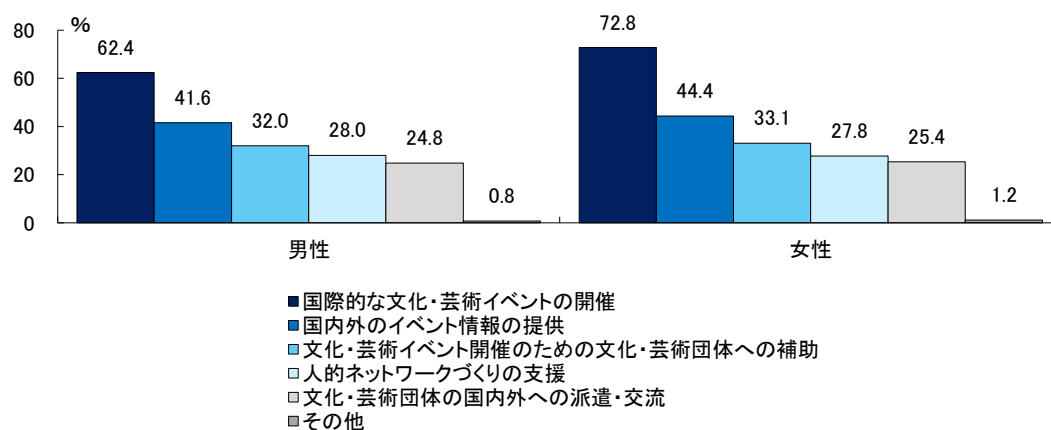
2.3.25. 本市の文化・芸術を通じた国内外の人々の交流を促進するために必要な対応

本市の文化・芸術を通じた国内外の人々の交流を促進するために必要な対応は、市民向けアンケート調査と同様に「国際的な文化・芸術イベントの開催（68.7%）」が最も高く、次いで「国内外のイベント情報の提供（42.3%）」となった（図表 167）。男女別では、上位 3 項目で女性の回答率が男性を上回った（図表 168）。年代別では、「国際的な文化・芸術イベントの開催」は全年代で回答率が高く、特に「18-19 歳（71.0%）」が最も高い（図表 169）。

図表 167. 本市の文化・芸術を通じた国内外の人々の交流を促進するために必要な対応（全体、複数回答）



図表 168. 男女別 本市の文化・芸術を通じた国内外の人々の交流を促進するために必要な対応（複数回答）



図表 169. 年代別 本市の文化・芸術を通じた国内外の人々の交流を促進するために必要な対応（複数回答）

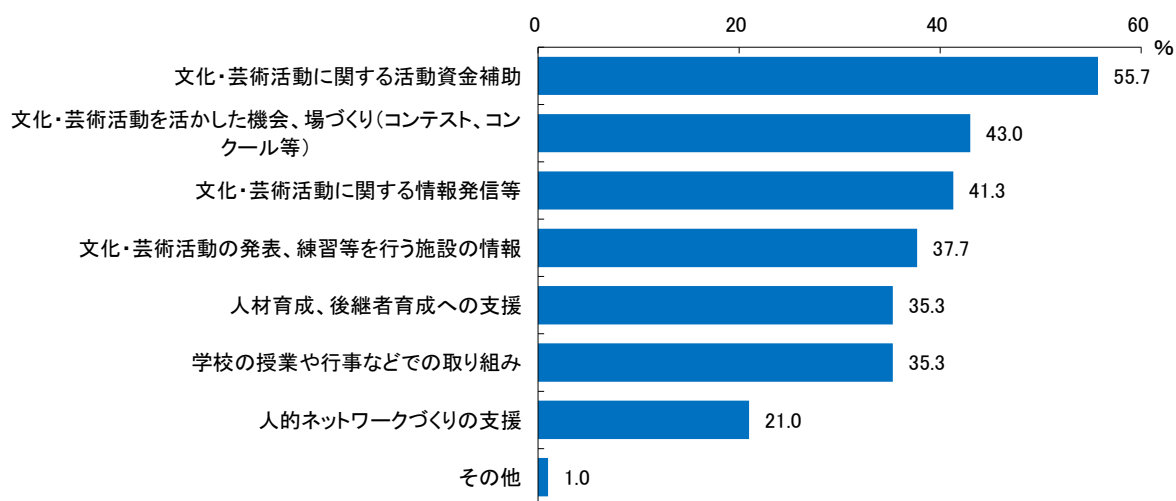
	単位: %		
	18歳未満	18-19歳	20歳代
国際的な文化・芸術イベントの開催	62.5	71.0	66.9
国内外のイベント情報の提供	25.0	42.0	43.9
文化・芸術イベント開催のための文化・芸術団体への補助	37.5	30.5	33.1
人的ネットワークづくりの支援	-	31.3	26.8
文化・芸術団体の国内外への派遣・交流	37.5	24.4	24.2
その他	-	-	1.9

2.3.26. 文化・芸術の担い手となる人材の育成及び確保のためにあると良い支援

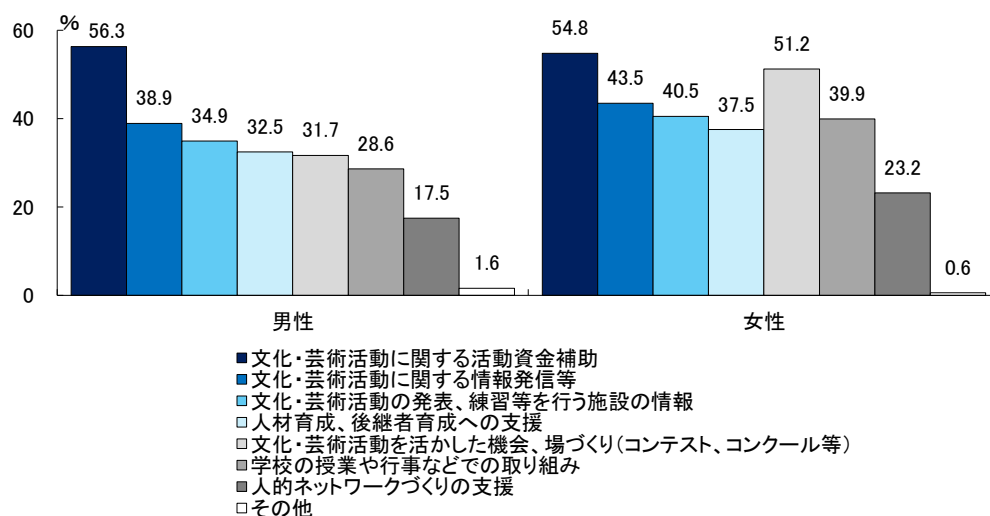
文化・芸術の担い手となる人材の育成及び確保のためにあると良い支援は、「文化・芸術活動に関する活動資金補助（55.7%）」が最も高く、次いで「文化・芸術活動を活かした機会、場づくり（コンテスト、コンクール等、43.0%）」となった（図表 170）。なお、市民向けアンケート調査では1番目の項目は同様であったが、2番目の項目[「人材育成、後継者育成への支援（54.5%）」]は異なった。

男女別では、女性の回答率が男性を上回る項目が多く、「文化・芸術活動を活かした機会、場づくり（コンテスト、コンクール等）」は男性比+19.5Pとなった（図表 171）。年代別では、「18歳未満」と他の年代の違いが目立つ結果となった（次頁図表 172）。

図表 170. 文化・芸術の担い手となる人材の育成及び確保のためにあると良い支援
（全体、複数回答）



図表 171. 男女別 文化・芸術の担い手となる人材の育成及び確保のためにあると良い支援（複数回答）



図表 172. 年代別 文化・芸術の担い手となる人材の育成及び確保のためにあると良い支援（複数回答）

	単位：％		
	18歳未満	18-19歳	20歳代
文化・芸術活動に関する活動資金補助	62.5	56.5	54.8
文化・芸術活動を活かした機会、場づくり(コンテスト、コンクール等)	50.0	38.9	47.1
文化・芸術活動に関する情報発信等	12.5	40.5	43.3
文化・芸術活動の発表、練習等を行う施設の情報	37.5	40.5	36.3
人材育成、後継者育成への支援	25.0	36.6	34.4
学校の授業や行事などでの取り組み	-	36.6	36.3
人的ネットワークづくりの支援	-	25.2	18.5
その他	-	-	1.9

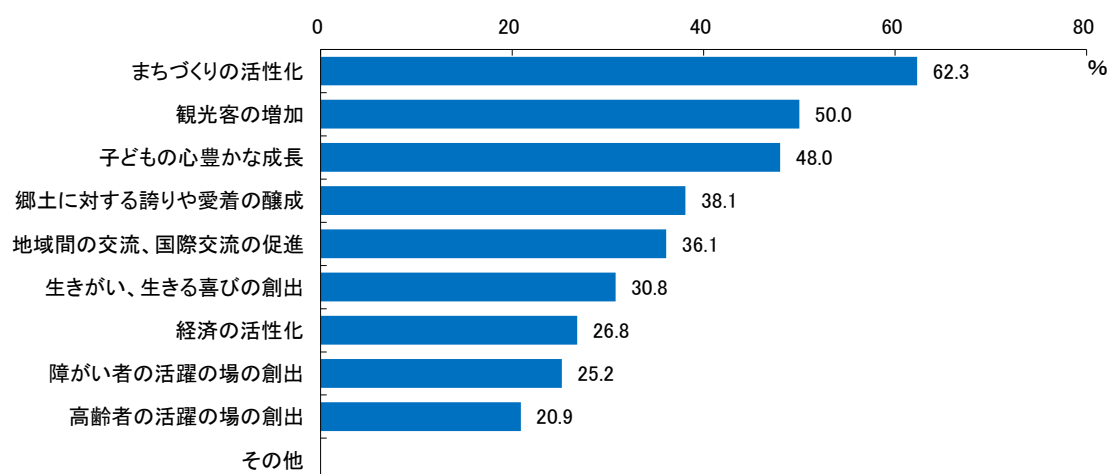
2.3.27. 文化・芸術の振興により社会にもたらされる効果として期待すること

文化・芸術の振興により社会にもたらされる効果として期待することは、「まちづくりの活性化（62.3%）」が最も高く、2 番目は僅差で「観光客の増加（50.0%）」となった（図表 173）。市民向けアンケート調査「「まちづくりの活性化（63.8%）」が最も高く、2 番目は僅差で「子どもの心豊かな成長（61.6%）」と比較すると、2 番目の項目に違いがみられた。

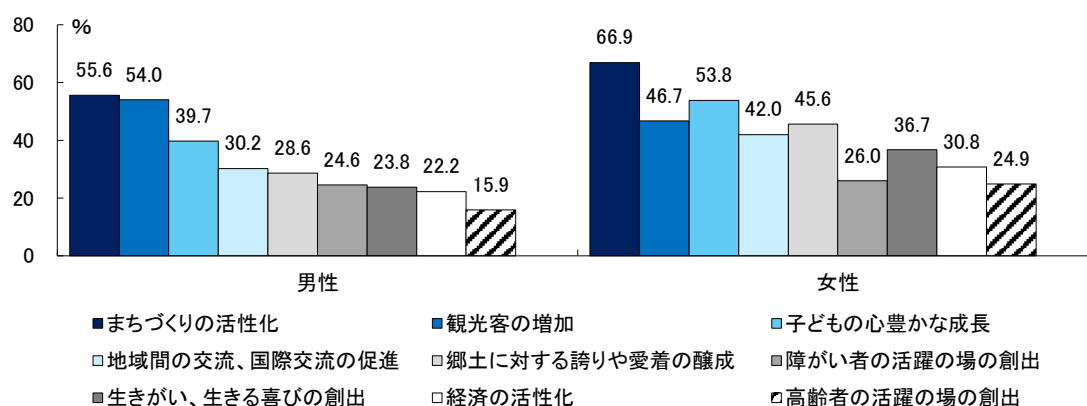
男女別では、男女ともには「まちづくりの活性化」が最も高いが、女性の回答率が男性比+11.3Pとなり、3-5 番目の項目で女性回答率の高さが目立つ結果となった（次頁図表 174）。

年代別では、「18 歳未満」と他の年代の違いが目立つ結果となり、「まちづくりの活性化」においては、「18 歳未満」が他の年代より 25%以上低い結果となった（次頁図表 175）。

図表 173. 文化・芸術の振興により社会にもたらされる効果として期待すること（全体、複数回答）



図表 174. 男女別 文化・芸術の振興により社会にもたらされる効果として期待すること
(複数回答)



図表 175. 年代別 文化・芸術の振興により社会にもたらされる効果として期待すること
(複数回答)

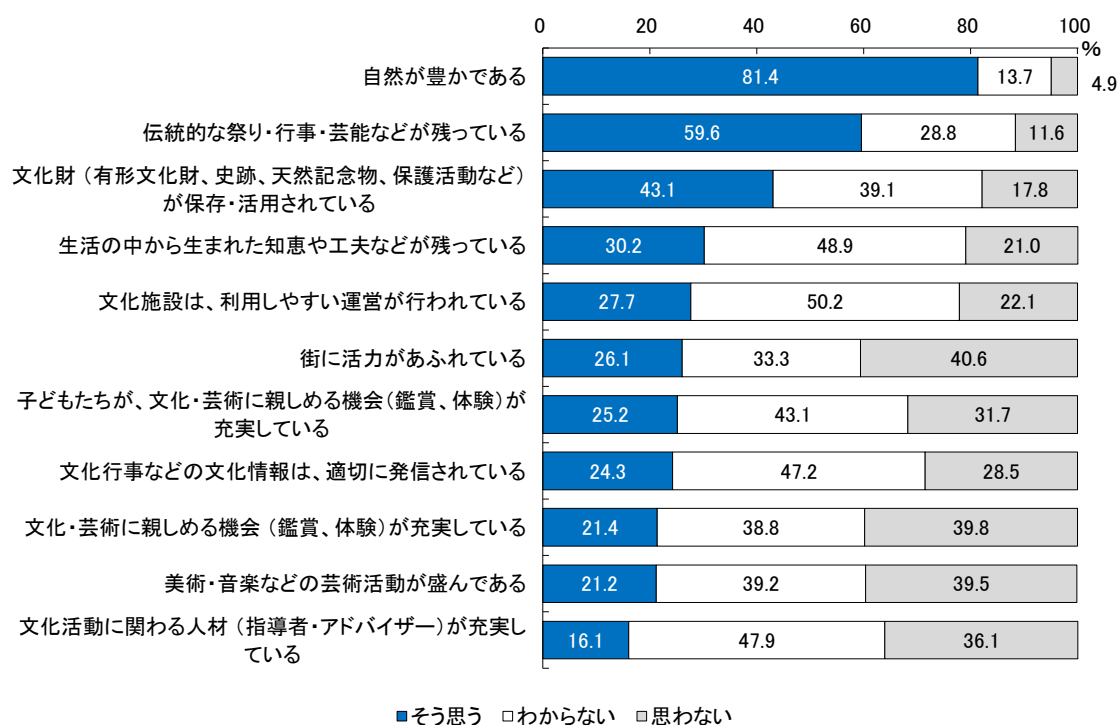
単位: %

	18歳未満	18-19歳	20歳代
まちづくりの活性化	37.5	62.9	63.9
観光客の増加	50.0	52.3	47.5
子どもの心豊かな成長	50.0	47.0	48.7
郷土に対する誇りや愛着の醸成	25.0	34.1	42.4
地域間の交流、国際交流の促進	12.5	36.4	37.3
生きがい、生きる喜びの創出	25.0	27.3	34.2
経済の活性化	37.5	29.5	24.1
障がい者の活躍の場の創出	-	25.8	25.9
高齢者の活躍の場の創出	-	17.4	24.1
その他	-	-	-

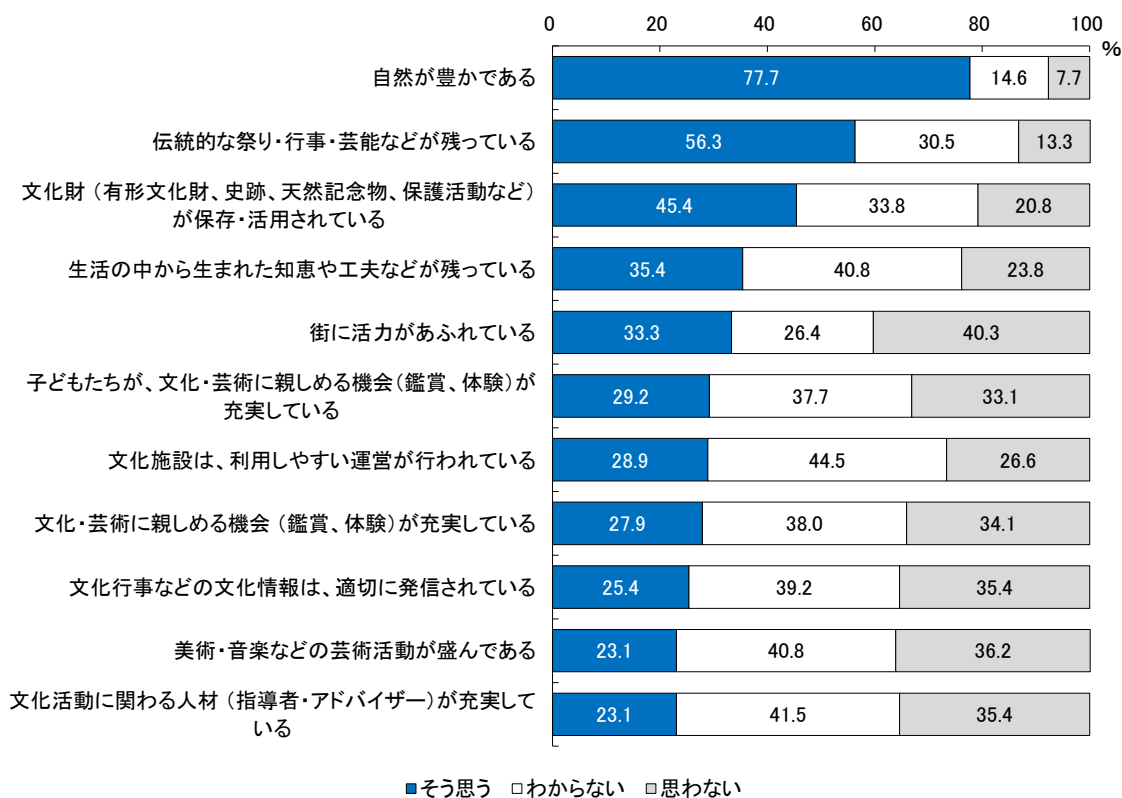
2.3.28. 本市の文化・芸術の現状に関するイメージ

本市の文化・芸術の現状に関するイメージの「そう思う」は、全体及び全ての属性で「自然が豊かである」が最も高く、「伝統的な祭り・行事・芸能などが残っている」が2番目となり、市民向けアンケート調査と同様の結果となった(次頁図表 176-86 頁図表 181)。3番目は、「18歳代未満」は「生活の中から生まれた知恵や工夫などが残っている」となり、他の年代は「文化財(有形文化財、史跡、天然記念物、保護活動など)が保存・活用されている」となった。上位項目の傾向は男女別、年代別で各回答率の差はあるものの傾向としては近いと考えられる。

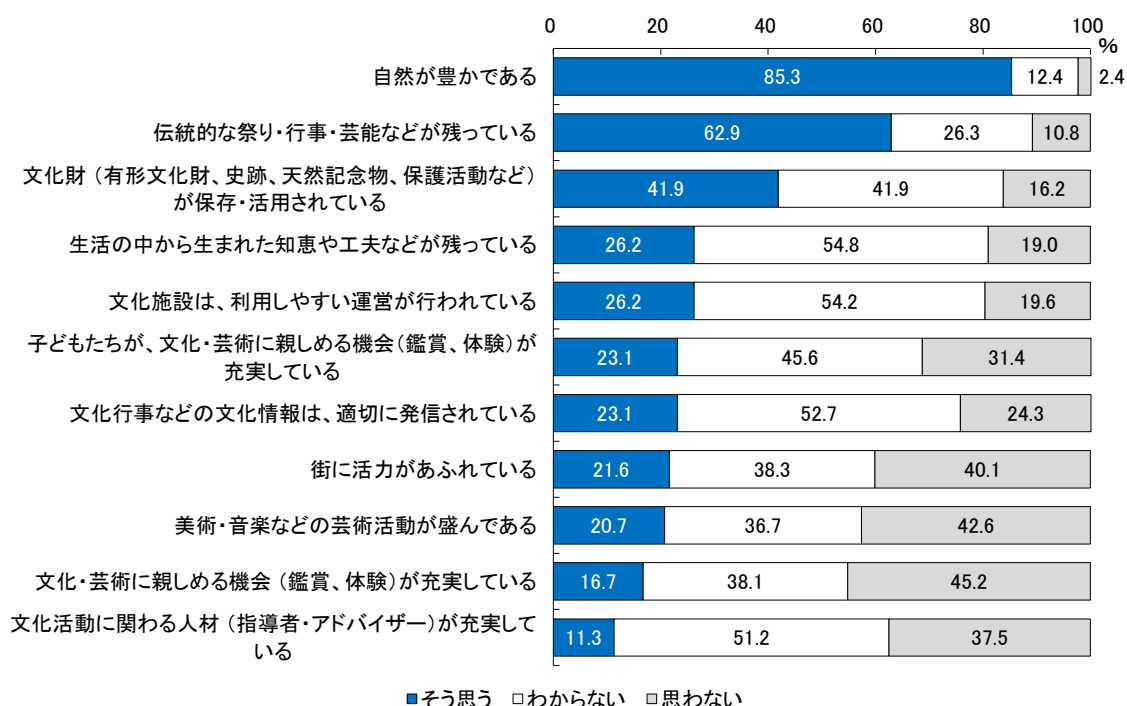
図表 176. 本市の文化・芸術の現状に関するイメージ（全体）



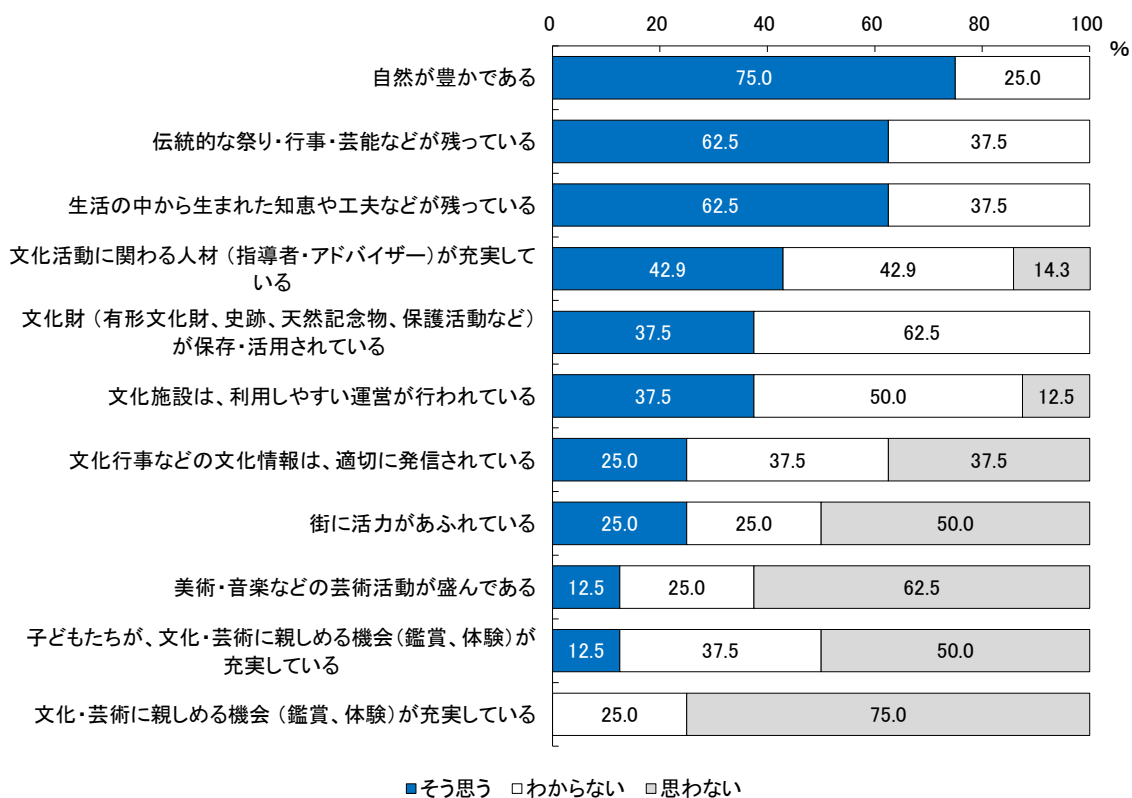
図表 177. 男性 本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



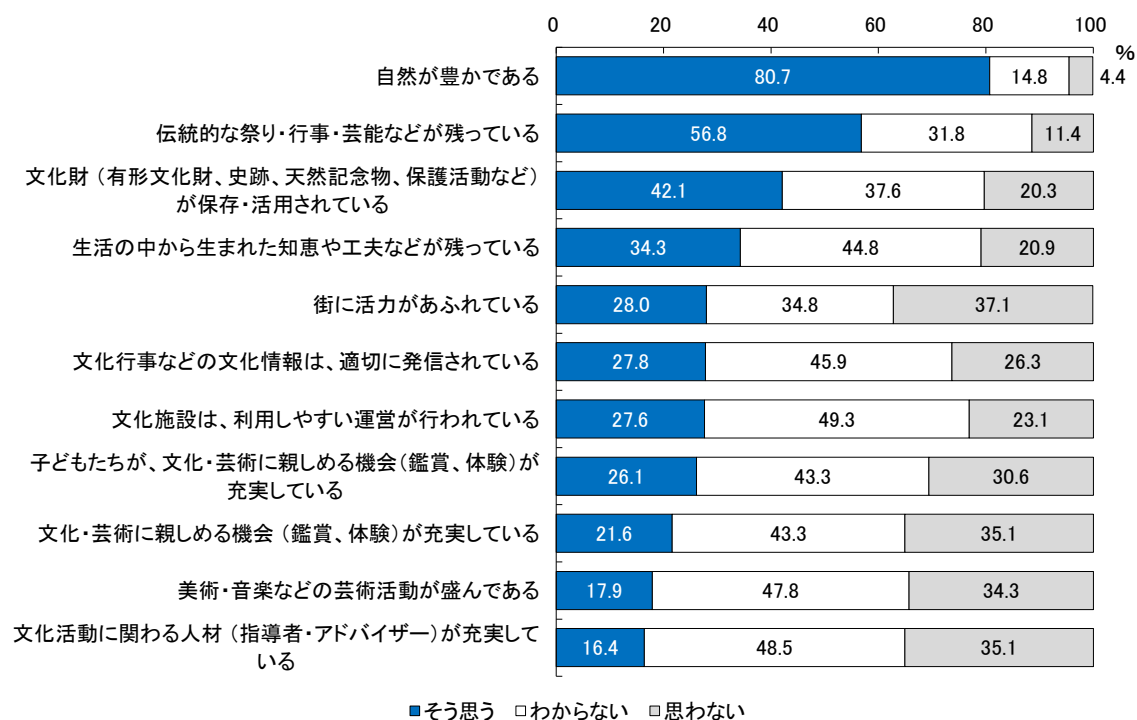
図表 178. 女性 本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



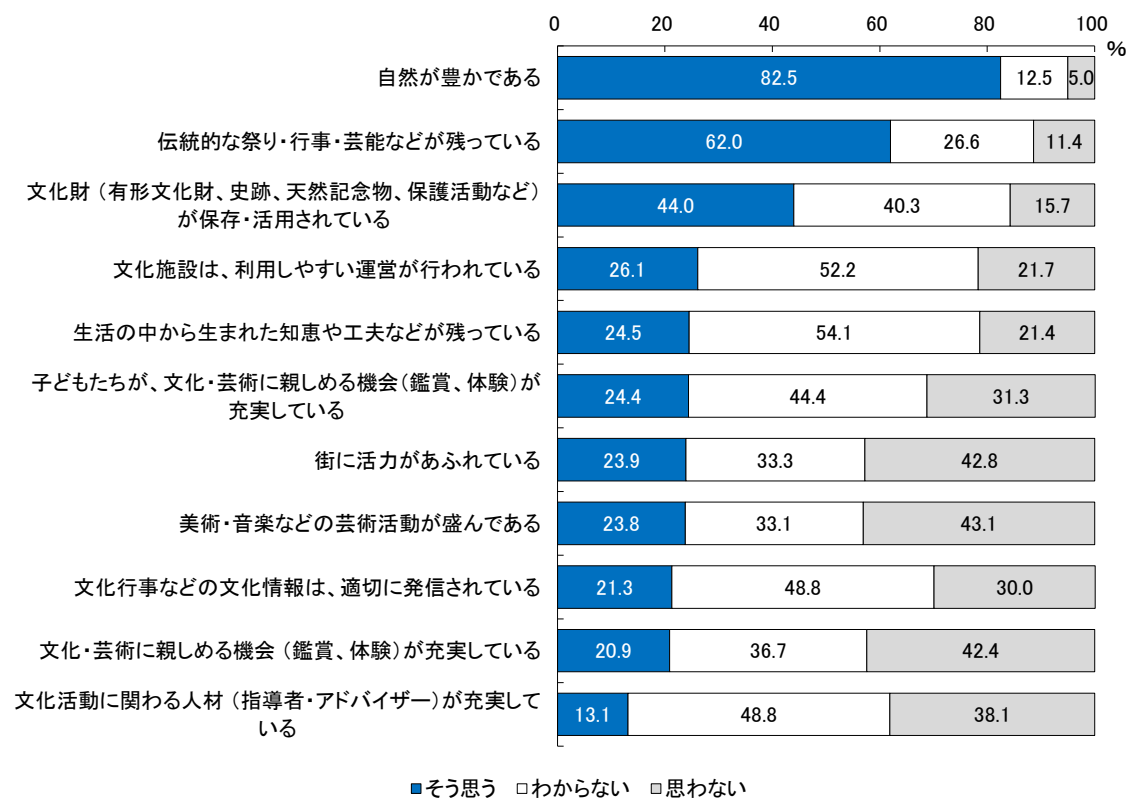
図表 179. 18 歳未満 本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



図表 180. 18-19 歳 本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



図表 181. 20 歳代 本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



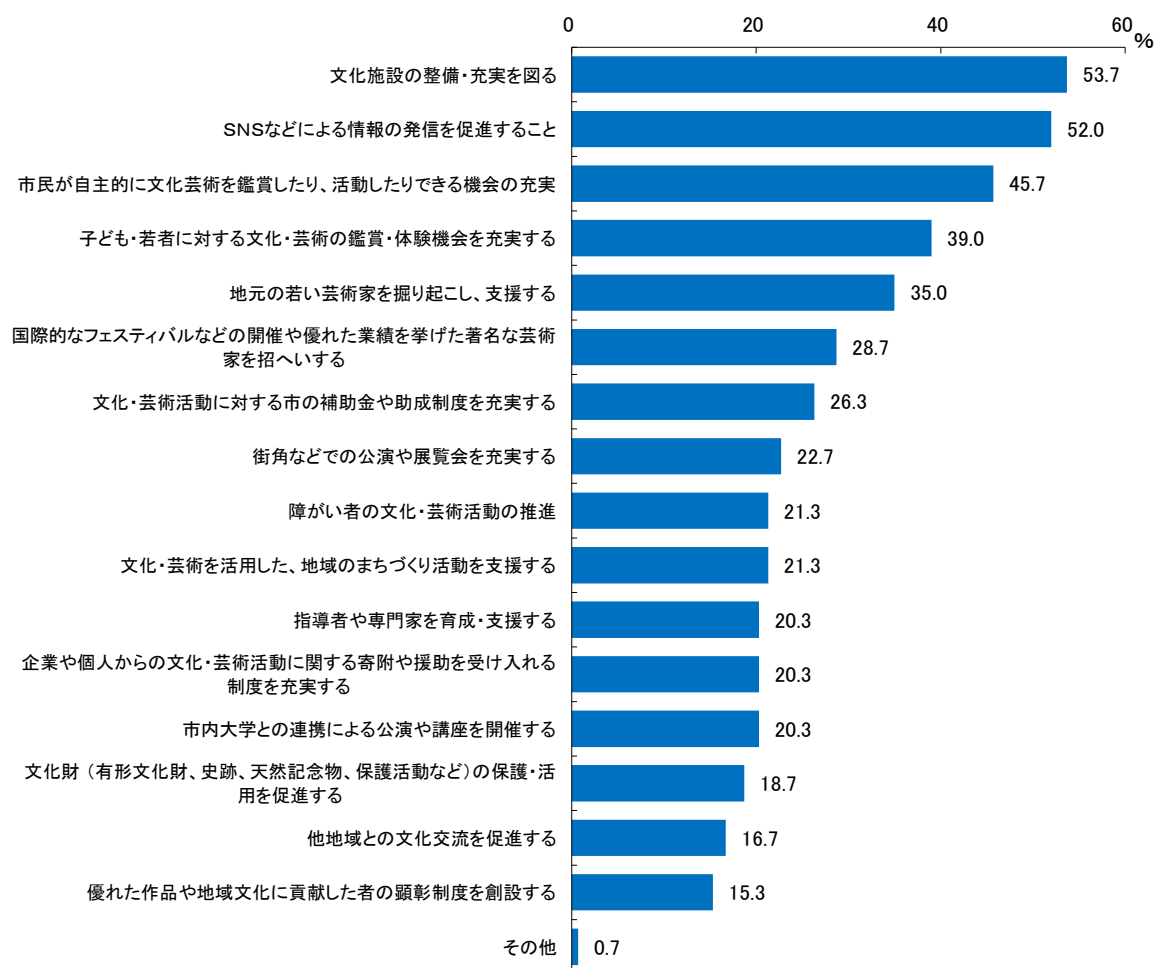
2.3.29. 本市の文化・芸術をより豊かにするために、市（行政）が注力すべきこと

本市の文化・芸術をより豊かにするために、市（行政）が注力すべきことは、「文化施設の整備・充実を図る（53.7%）」が最も高く、2 番目が「SNS などによる情報の発信を促進すること（52.0%）」となった（図表 182）。市民向けアンケート調査[「子ども・若者に対する文化・芸術の鑑賞・体験機会を充実する（57.7%）」が最も高く、2 番目が「市民が自主的に文化・芸術を鑑賞したり、活動したりできる機会の充実（55.3%）」]と比較すると、若者の考え方との違いがうかがえる。

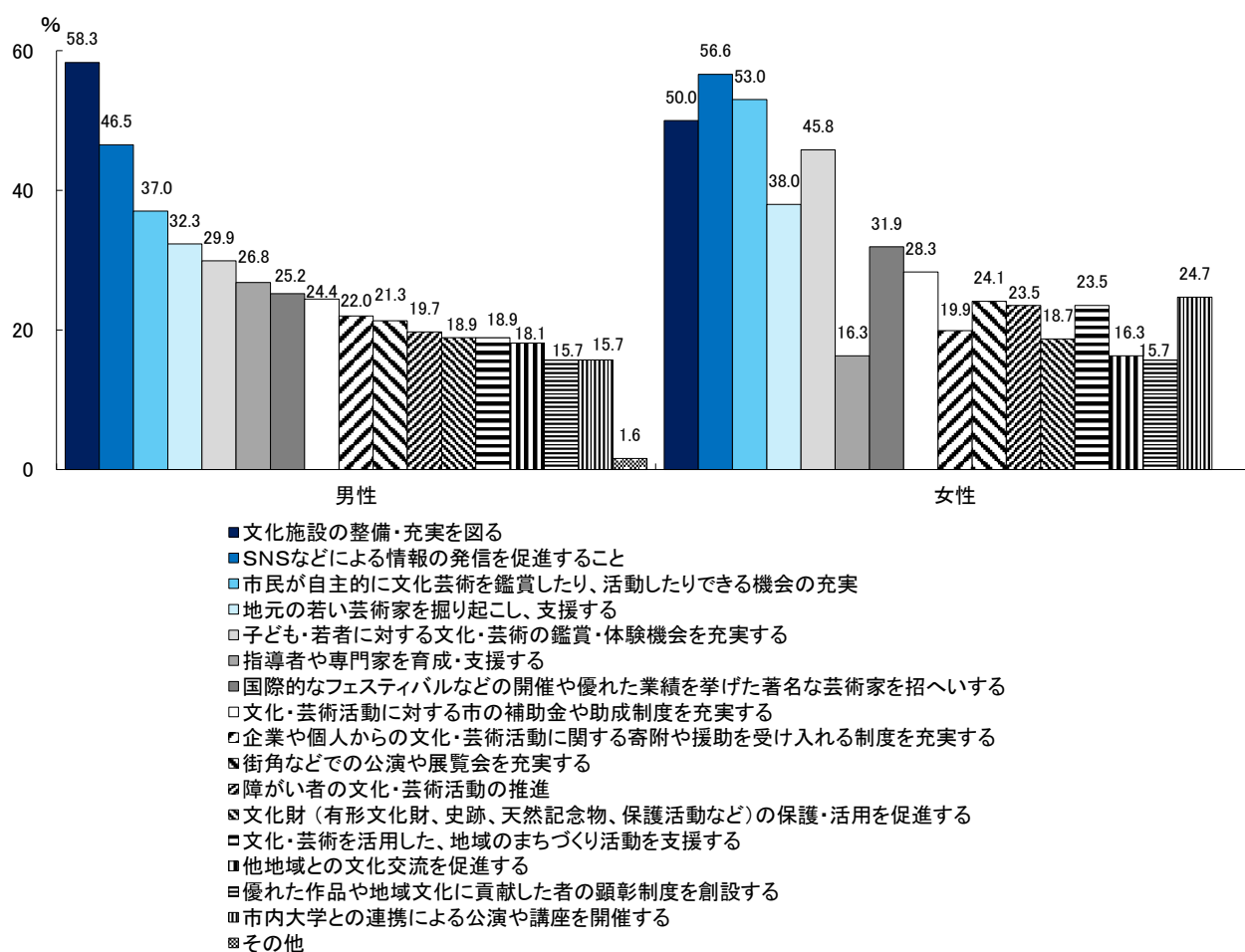
男女別では、男性は「文化施設の整備・充実を図る（58.3%）」が最も高く、女性は「SNS などによる情報の発信を促進すること（56.6%）」が最も高い結果となった（次頁図表 183）。若い女性における SNS の重要性がうかがえる結果と考えられる。

年代別では、「文化施設の整備・充実を図る」は年代が上昇するに従い回答率が低下した（次々頁図表 184）。「SNS などによる情報の発信を促進すること」は「18 歳未満」が他の年代の半数となるなど、年代別の差が顕著なものとなった。

図表 182. 本市の文化・芸術をより豊かにするために、市（行政）が注力すべきこと（全体、複数回答）



図表 183. 男女別 本市の文化・芸術をより豊かにするために、市（行政）が注力すべきこと（複数回答）



図表 184. 年代別 本市の文化・芸術をより豊かにするために、市（行政）が注力すべきこと（複数回答）

単位：％

	18歳未満	18-19歳	20歳代
文化施設の整備・充実を図る	62.5	59.8	47.4
SNSなどによる情報の発信を促進すること	25.0	53.0	52.6
市民が自主的に文化芸術を鑑賞したり、活動したりできる機会の充実	25.0	41.7	50.6
子ども・若者に対する文化・芸術の鑑賞・体験機会を充実する	37.5	37.9	39.7
地元の若い芸術家を掘り起こし、支援する	25.0	31.1	39.1
国際的なフェスティバルなどの開催や優れた業績を挙げた著名な芸術家を招へいする	25.0	33.3	25.0
文化・芸術活動に対する市の補助金や助成制度を充実する	37.5	22.7	28.2
街角などでの公演や展覧会を充実する	12.5	20.5	25.0
障がい者の文化・芸術活動の推進	—	24.2	19.9
文化・芸術を活用した、地域のまちづくり活動を支援する	12.5	21.2	21.2
指導者や専門家を育成・支援する	12.5	28.8	13.5
企業や個人からの文化・芸術活動に関する寄附や援助を受け入れる制度を充実する	12.5	21.2	19.9
市内大学との連携による公演や講座を開催する	—	19.7	21.2
文化財（有形文化財、史跡、天然記念物、保護活動など）の保護・活用を促進する	12.5	20.5	17.3
他地域との文化交流を促進する	12.5	15.9	17.3
優れた作品や地域文化に貢献した者の顕彰制度を創設する	25.0	15.2	14.7
その他	—	—	1.3

2.3.30. 新型コロナウイルス感染拡大による文化・芸術活動への影響

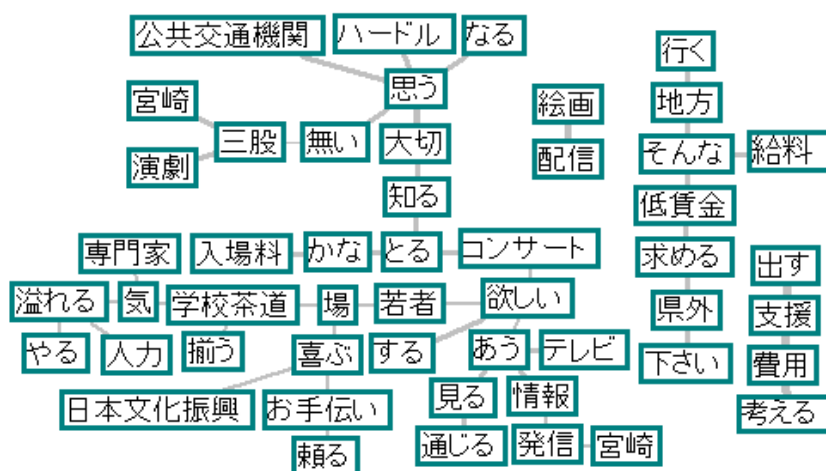
新型コロナウイルス感染拡大による文化・芸術活動への影響は、全体で「ほとんど変わらない（32.1%）」が最も高く、市民向けアンケート調査で1番目となった「鑑賞、活動回数が減った（多くの方が集まる場所に行くのを減らしたため、28.9%）」との違いが明らかとなった（次頁図表 185）。

男女別においては、男性・女性ともに「もともと文化・芸術活動をしていない」が最も高く、特に男性の高さが目立った。年代別では、全年代で同項目が最も高いものの、「18歳未満」の高さが際立つ結果となった。

Category	Other (その他)	Appreciation, stopped activities (鑑賞、活動を辞めてしまった)	Appreciation, increased frequency (鑑賞、活動回数が増えた)	Appreciation, increased frequency (Online) (オンラインでの鑑賞、活動を多くするようになった)	Appreciation, decreased frequency (many places) (鑑賞、活動回数が減った(多くの方が集まる場所に行くのを減らしたため))	Appreciation, decreased frequency (opportunities) (鑑賞、活動回数が減った(鑑賞、活動したいが機会が減ったため))	Not doing cultural/artistic activities (もともと文化・芸術活動をしていない)	Basically unchanged (ほとんど変わらない)
全体	0.3	7.0	9.9	9.9	17.9	20.5	32.1	2.3
男性		18.6	9.3	3.9	8.5	13.2	38.0	8.5
女性	0.6	21.1	10.8	10.8	21.7	27.7	6.0	1.2
18歳未満		12.5	12.5	12.5	62.5			
18-19歳	0.8	28.5	10.0	11.5	15.4	25.4	5.4	3.1
20歳代		15.0	10.0	9.4	18.8	36.3	8.8	1.9

自由意見においては、市民向けアンケート調査と同様に、テキストマイニングの分析ソフト「トレンドサーチ 2015」〔株）社会情報サービス社製〕を使用して、言語のつながりを分析した。連鎖する言葉が多い起点となる単語をみると、「思う」「欲しい」「場」等が起点となり、ここにハードルとなる単語や「コンサート」「喜ぶ」などの単語が続いた。

図表 186. 自由意見のテキストマイニング



2.4. 文化・芸術団体向けアンケート調査

2.4.1. 属性別回答状況

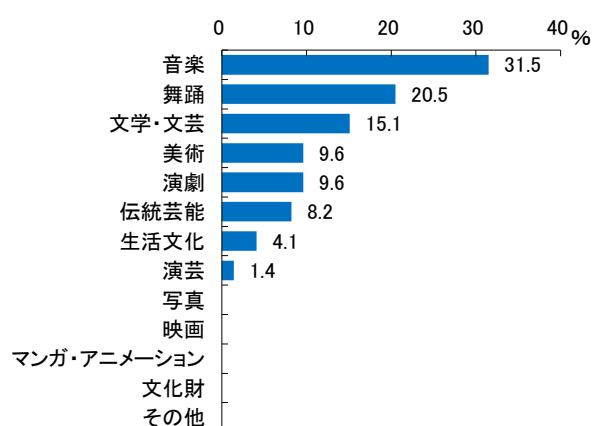
回答属性別には以下のとおりの結果となった（図表 187-192、次頁図表 193-200）。

【団体の活動分野】

図表 187. 活動分野別の回答状況

単位：件、%		
	有効回答数	構成比率
音楽	23	31.5
舞踊	15	20.5
文学・文芸	11	15.1
美術	7	9.6
演劇	7	9.6
伝統芸能	6	8.2
生活文化	3	4.1
演芸	1	1.4
写真	0	—
映画	0	—
マンガ・アニメーション	0	—
文化財	0	—
その他	0	—
合計	73	100.0

図表 188. 活動分野別の回答状況

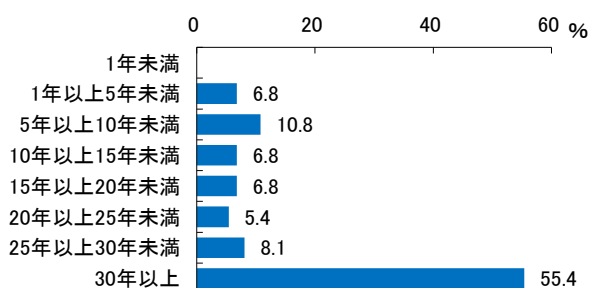


【活動年数】

図表 189. 活動年数別の回答状況（詳細）

単位：件、%		
	有効回答数	構成比率
1年未満	0	—
1年以上5年未満	5	6.8
5年以上10年未満	8	10.8
10年以上15年未満	5	6.8
15年以上20年未満	5	6.8
20年以上25年未満	4	5.4
25年以上30年未満	6	8.1
30年以上	41	55.4
合計	74	100.0

図表 190. 活動年数別の回答状況（詳細）

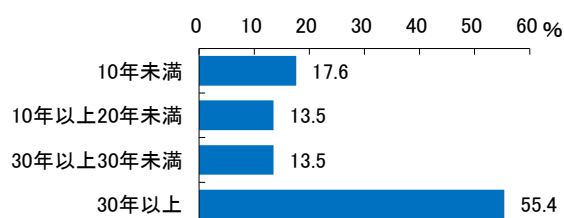


図表 191. 活動年数別の回答状況（4 階級）

※本調査においては4階級別にて分析

単位：件、%		
	有効回答数	構成比率
10年未満	13	17.6
10年以上20年未満	10	13.5
30年以上30年未満	10	13.5
30年以上	41	55.4
合計	74	100.0

図表 192. 活動年数別の回答状況（4 階級）



【会員数】

図表 193. 会員数別の回答状況（詳細）

単位: 件、%		
	有効回答数	構成比率
10人未満	23	30.7
10人以上20人未満	23	30.7
20人以上30人未満	12	16.0
30人以上40人未満	1	1.3
40人以上50人未満	5	6.7
50人以上100人未満	7	9.3
100人以上	4	5.3
合計	75	100.0

図表 195. 会員数別の回答状況（4 階級）

※本調査においては4階級別にて分析

単位: 件、%		
	有効回答数	構成比率
10人未満	23	30.7
10人以上20人未満	23	30.7
20人以上30人未満	12	16.0
30人以上	17	22.7
合計	75	100.0

【会員の中心世代】

図表 197. 会員の中心世代別の回答状況（詳細）

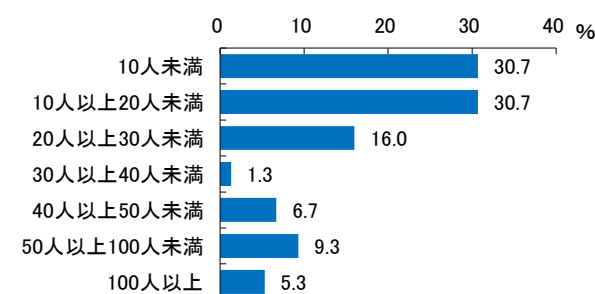
単位: 件、%		
	有効回答数	構成比率
10歳未満	2	2.7
10歳代	2	2.7
20歳代	1	1.4
30歳代	4	5.4
40歳代	5	6.8
50歳代	10	13.5
60歳代	11	14.9
70歳代	33	44.6
80歳代以上	6	8.1
合計	74	100.0

図表 199. 会員の中心世代別の回答状況（4 階級）

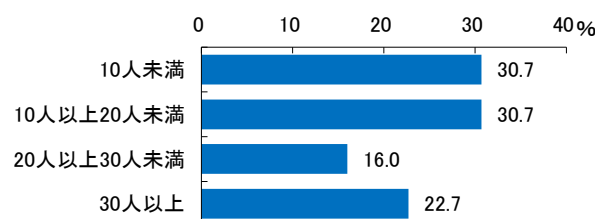
※本調査においては4階級別にて分析

単位: 件、%		
	有効回答数	構成比率
40歳代以下	14	18.9
50歳代	10	13.5
60歳代	11	14.9
70歳代以上	39	52.7
合計	74	100.0

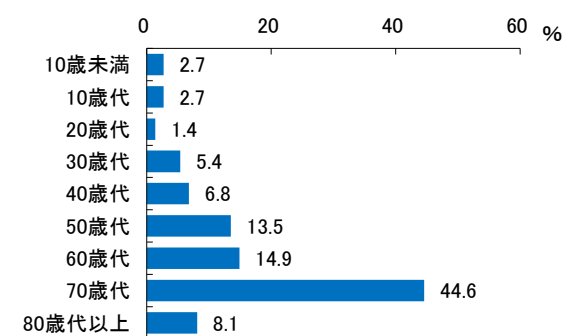
図表 194. 会員数別の回答状況（詳細）



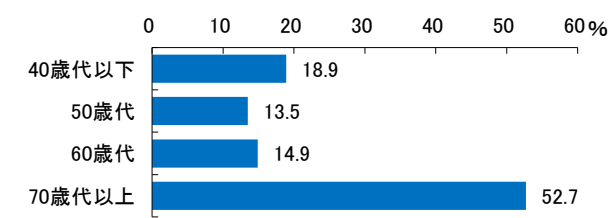
図表 196. 会員数別の回答状況（4 階級）



図表 198. 会員の中心世代別の回答状況（詳細）



図表 200. 会員の中心世代別の回答状況（4 階級）



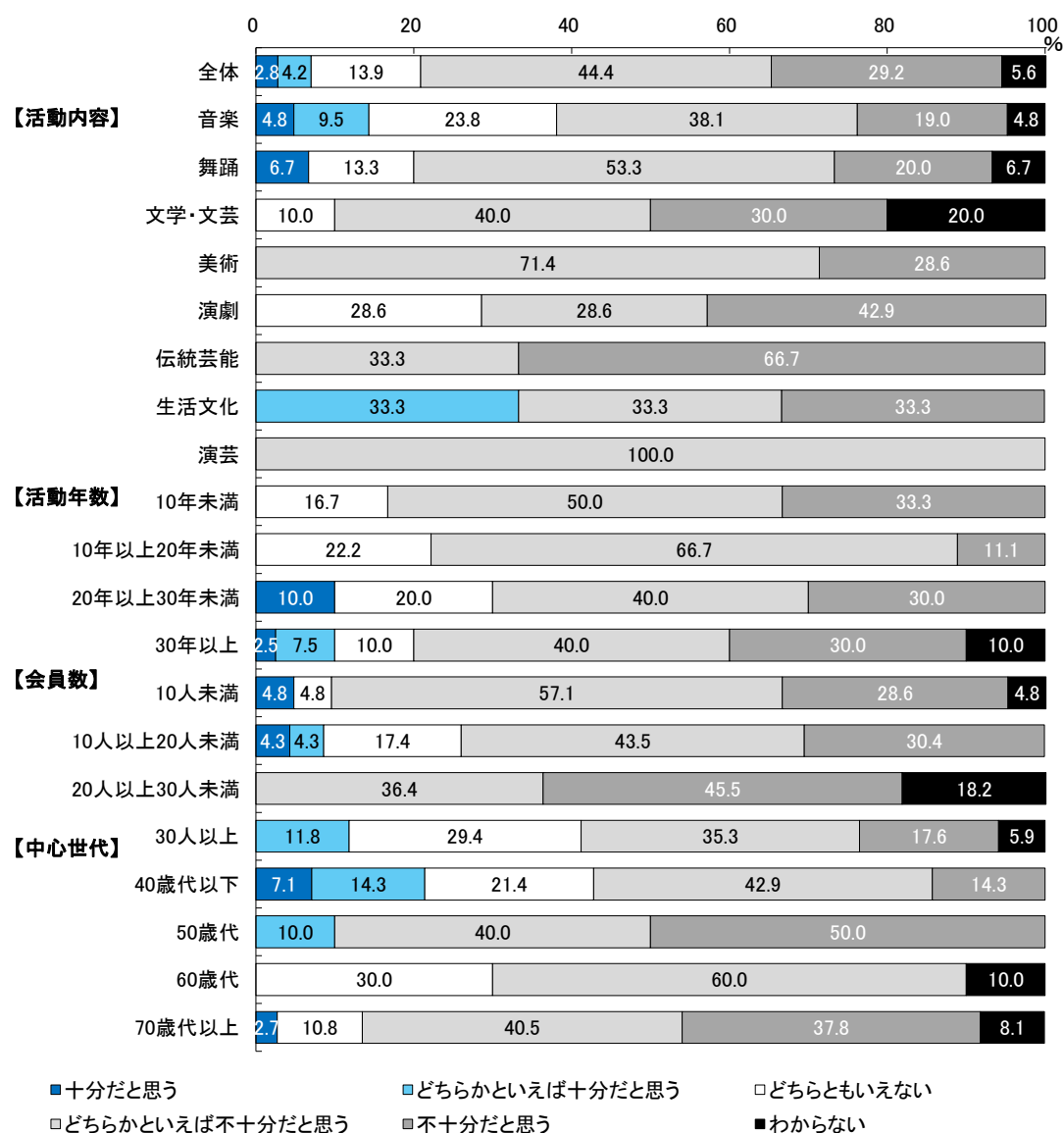
2.4.2. 子ども・若者が文化・芸術に触れる機会

子ども・若者が文化・芸術に触れる機会については、全体、活動年数別、会員数別、中心世代年齢別の傾向を比較すると、「生活分野」を除く全ての項目で、市民向けアンケート調査、若者向けアンケート調査と同様に、全体では「どちらかといえば不十分」「不十分だと思う」が圧倒的に高い（図表 201）。

これにより、本市においては、個人、団体双方が文化・芸術に触れる機会が不十分と認識されていることが明らかとなった。

※「子ども」は中学生以下、「若者」は中学校卒業から30歳未満までと定義

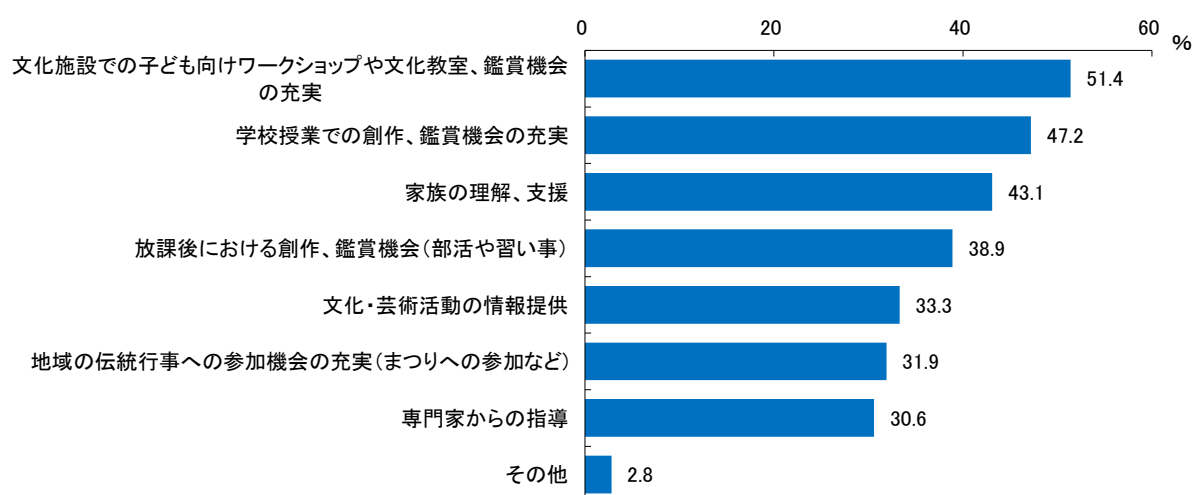
図表 201. 子ども・若者が文化・芸術に触れる機会



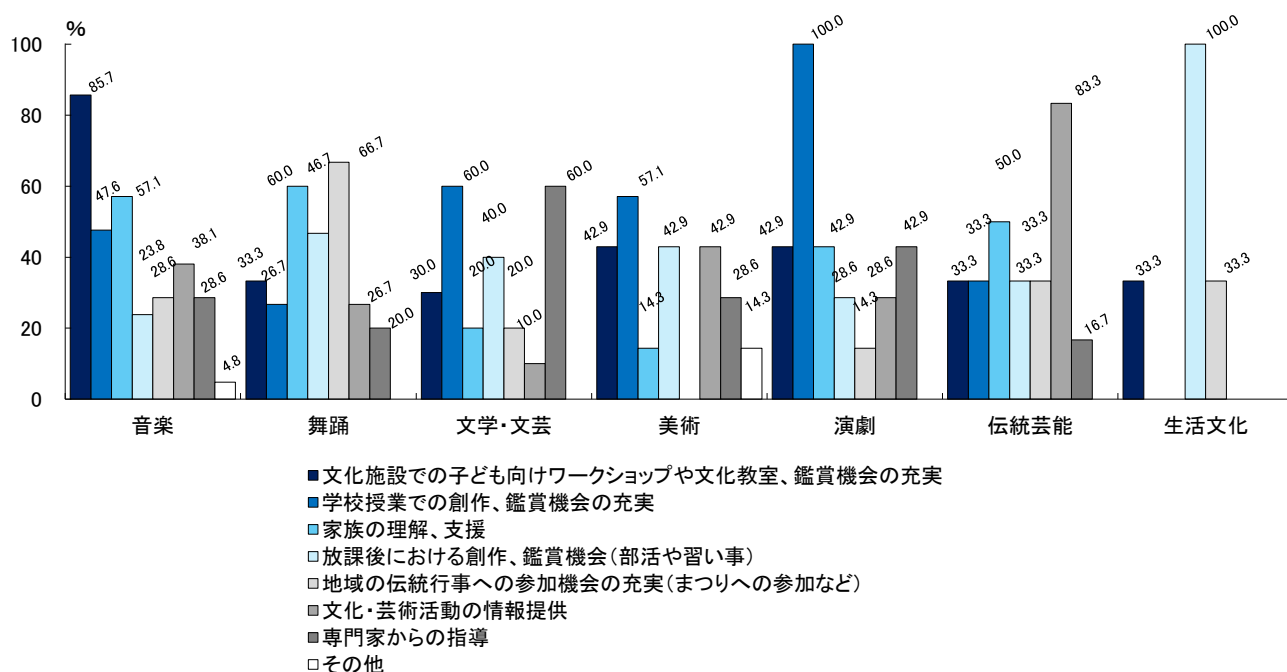
2.4.3. 子ども・若者が文化・芸術により親しめるようになるために必要なもの

子ども・若者が文化・芸術により親しめるようになるために必要なものは、「文化施設での子ども向けワークショップや文化教室、鑑賞機会の充実（51.4%）」が最も高く、2 番目が「学校授業での創作、鑑賞機会の充実（47.2%）」となり、「学校授業での創作、鑑賞機会の充実」が最も高い市民向けアンケート調査、若者向けアンケート調査とは異なる結果となったものの、同項目の回答率はこれら 2 つのアンケート調査と同等の高さとなった（図表 202）。実施する側と参加する側の違いがうかがえる結果となったといえる。「文化施設での子ども向けワークショップや文化教室、鑑賞機会の充実」については、活動分野別では「音楽（85.7%）」が最も高く、活動年数別では「10 年以上 20 年未満（77.8%）」が、会員数別では「10 人以上 20 人未満（65.2%）」が、会員の中心世代別では「40 歳代以下（85.7%）」が最も高い（次頁図表 203、204、次々頁図 205、206）。

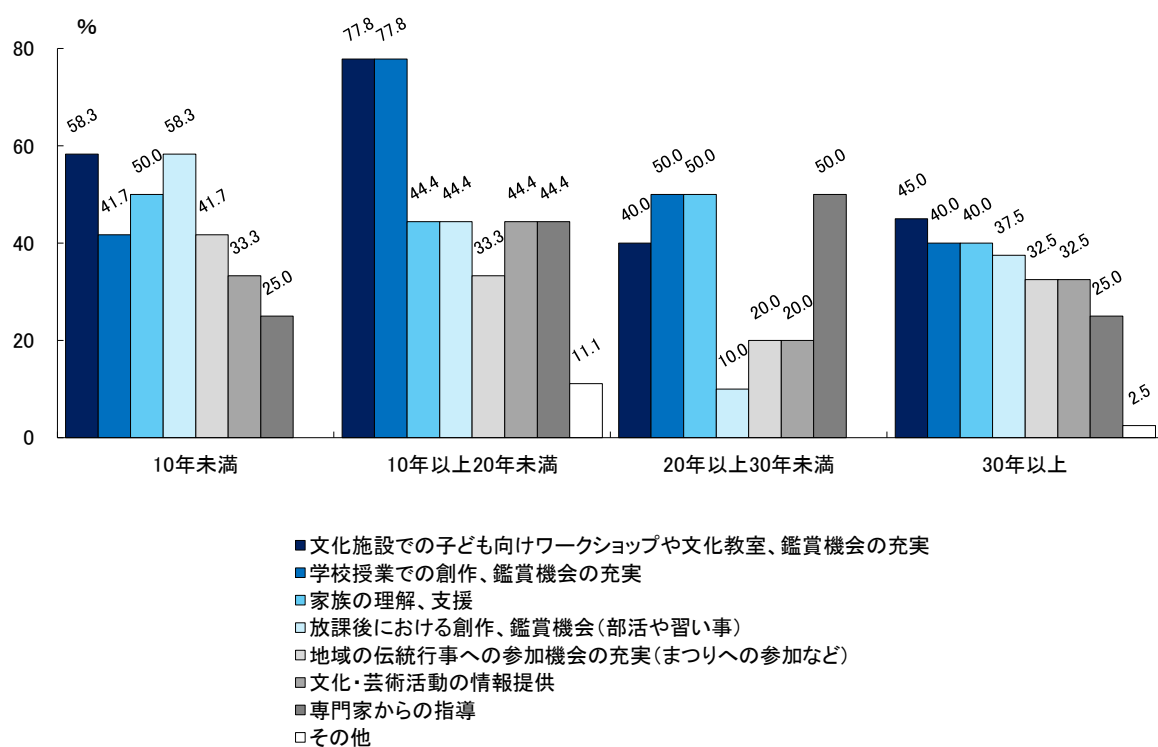
図表 202. 子ども・若者が文化・芸術により親しめるようになるために必要なもの
（全体、複数回答）



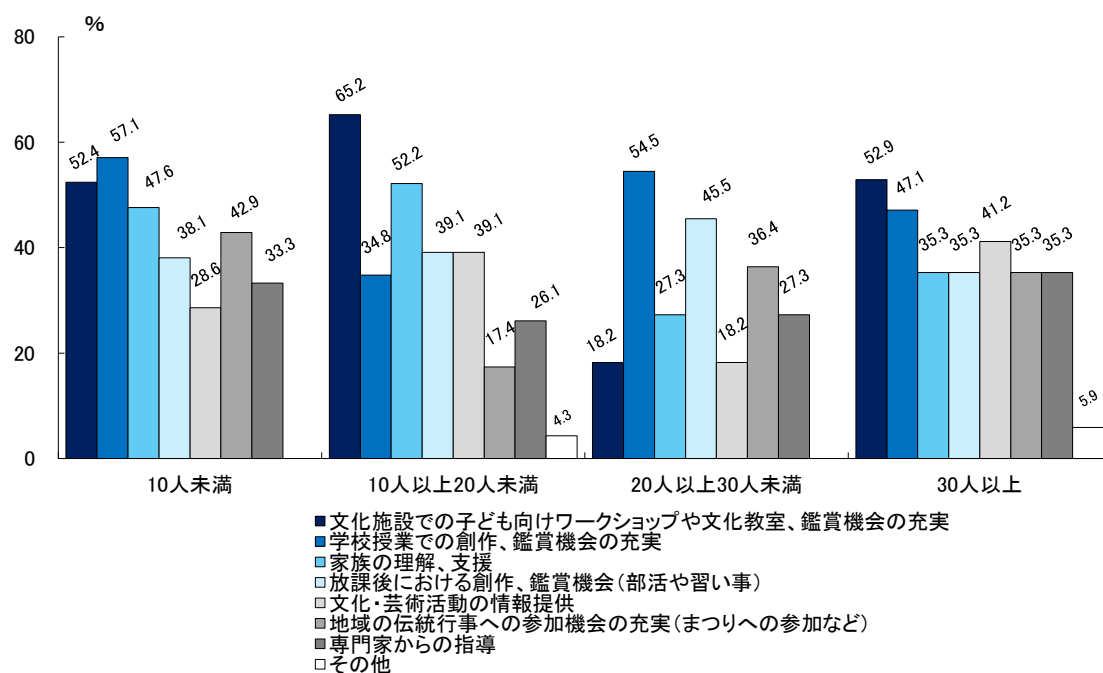
図表 203. 活動分野別 子ども・若者が文化・芸術により親しめるようになるために必要なもの（複数回答）



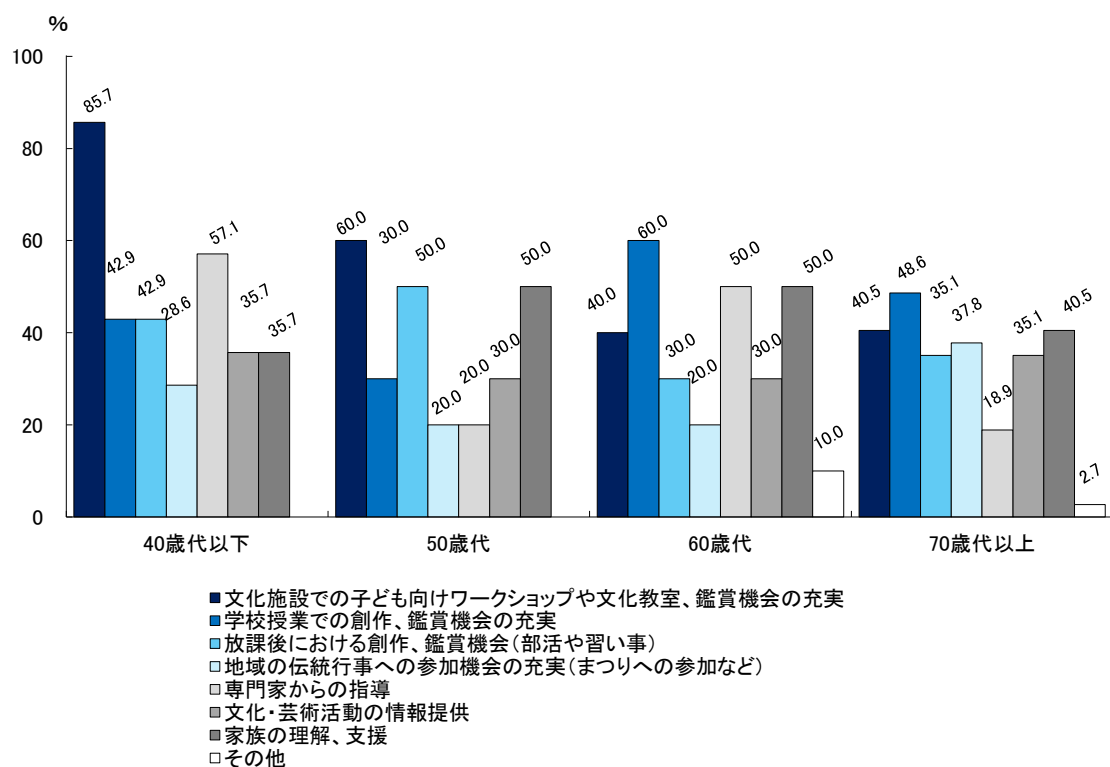
図表 204. 活動年数別 子ども・若者が文化・芸術により親しめるようになるために必要なもの（複数回答）



図表 205. 会員数別 子ども・若者が文化・芸術により親しめるようになるために必要なもの（複数回答）



図表 206. 会員の中心世代別 子ども・若者が文化・芸術により親しめるようになるために必要なもの（複数回答）

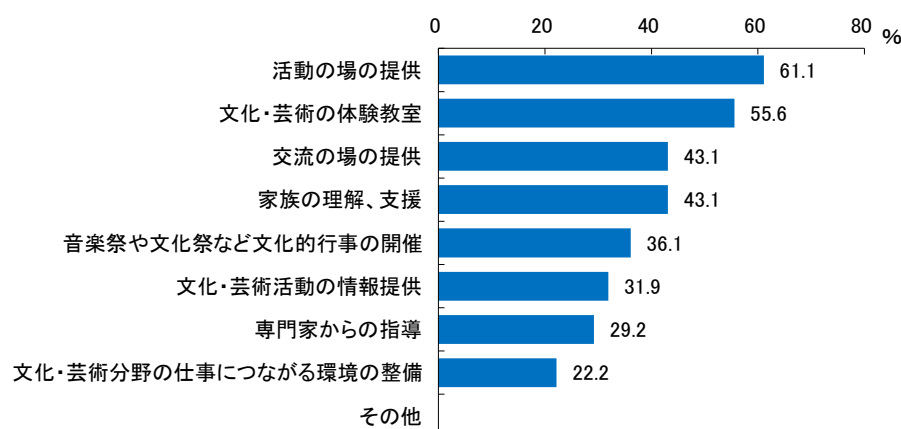


2.4.4. 子ども・若者、障がい者が義務教育を修了した後も文化・芸術活動を続けるために必要なもの

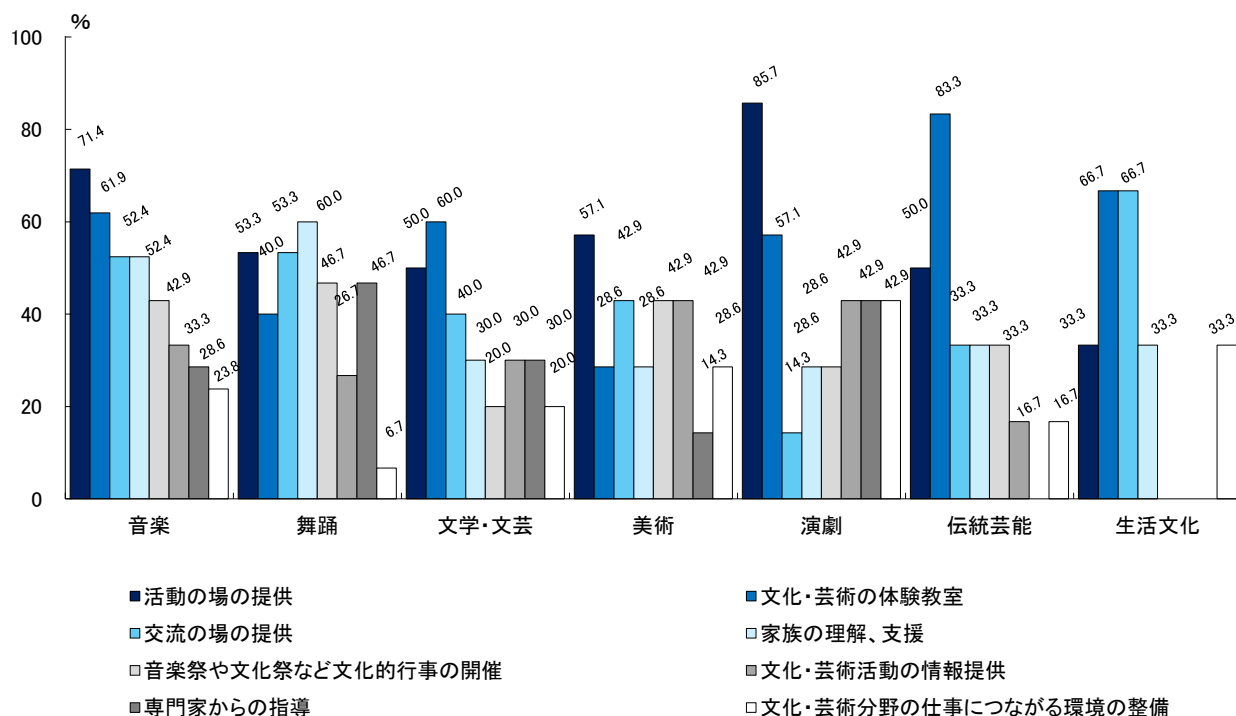
子ども・若者、障がい者が義務教育を修了した後も文化・芸術活動を続けるために必要なものは「活動の場の提供（61.1%）」が最も高く、2 番目が「文化・芸術の体験教室（55.6%）」となった（図表 207）。市民向けアンケート調査、若者向けアンケート調査においても、最も高い項目は本調査と同様となった。文化・芸術団体の回答率上位 3 項目をみると、活動や周知、共有等の「場」の必要性を重視する考え方がうかがえる。

活動分野別では、同項目は「演劇（85.7%）」が最も高く、「文化・芸術の体験教室」は「伝統芸能（83.3%）」が最も高い（次頁図表 208）。活動年数別では、「10 年以上 20 年未満」の「活動の場の提供（88.9%）」が最も高く、会員数別では「20 人以上 30 人未満」の「文化・芸術の体験教室（81.8%）」が、会員の中心世代別では、「文化・芸術の体験教室（71.4%）」が最も高い（次頁図表 209-次々頁図表 211）。

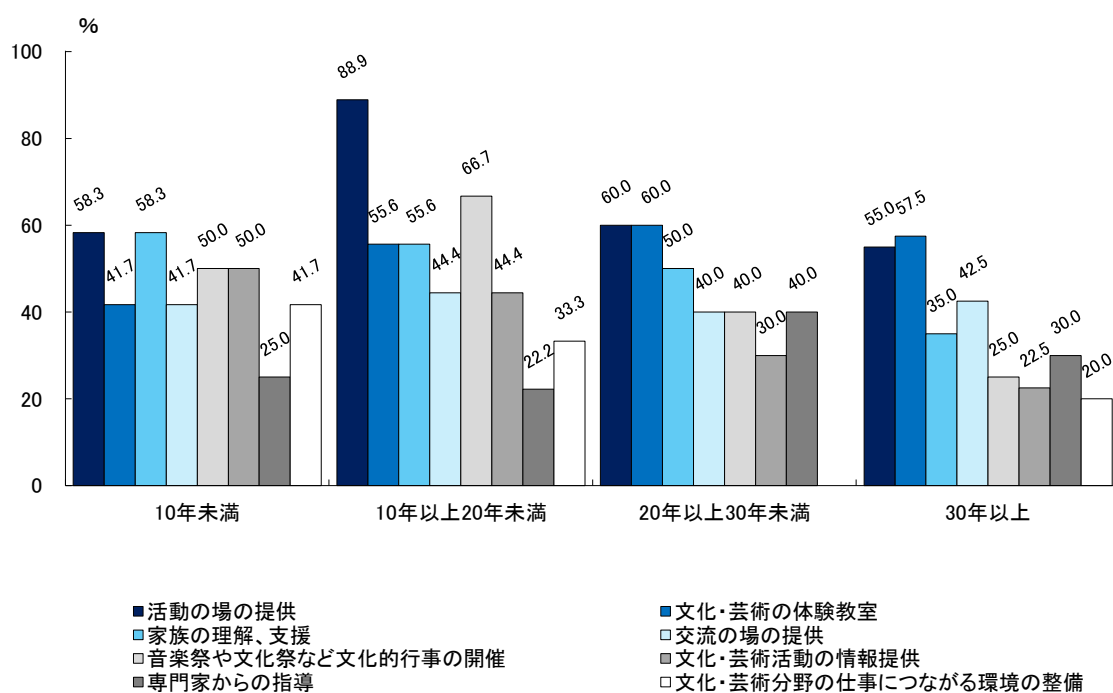
図表 207. 子ども・若者、障がい者が義務教育を修了した後も文化・芸術活動を続けるために必要なもの（全体、複数回答）



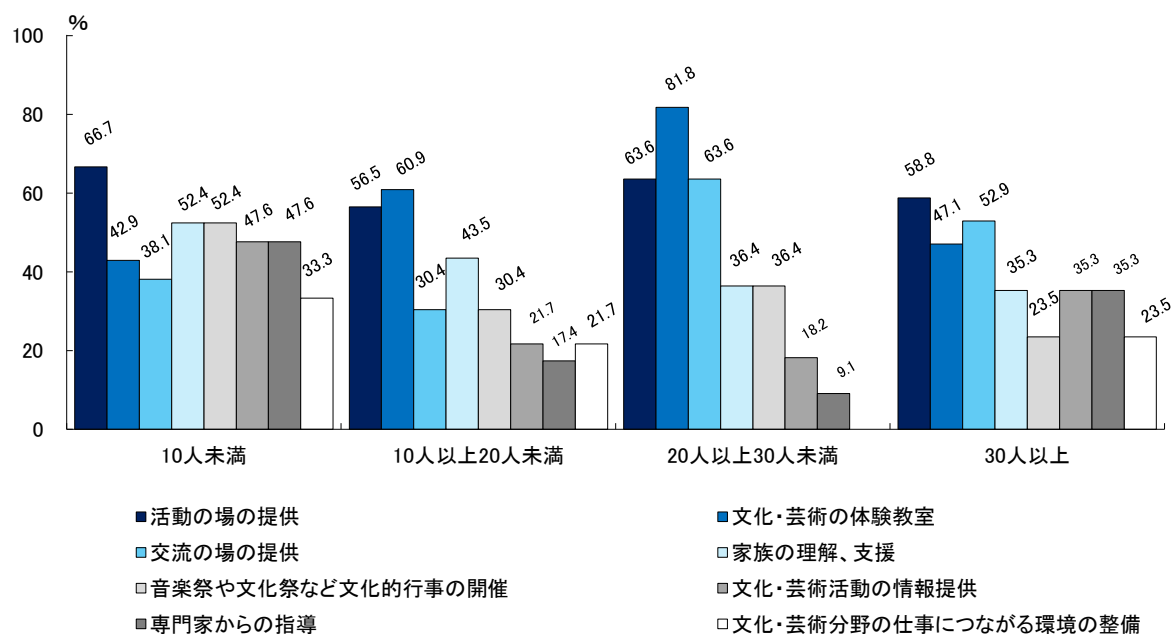
図表 208. 活動分野別 子ども・若者、障がい者が義務教育を修了した後も文化・芸術活動を続けるために必要なもの（複数回答）



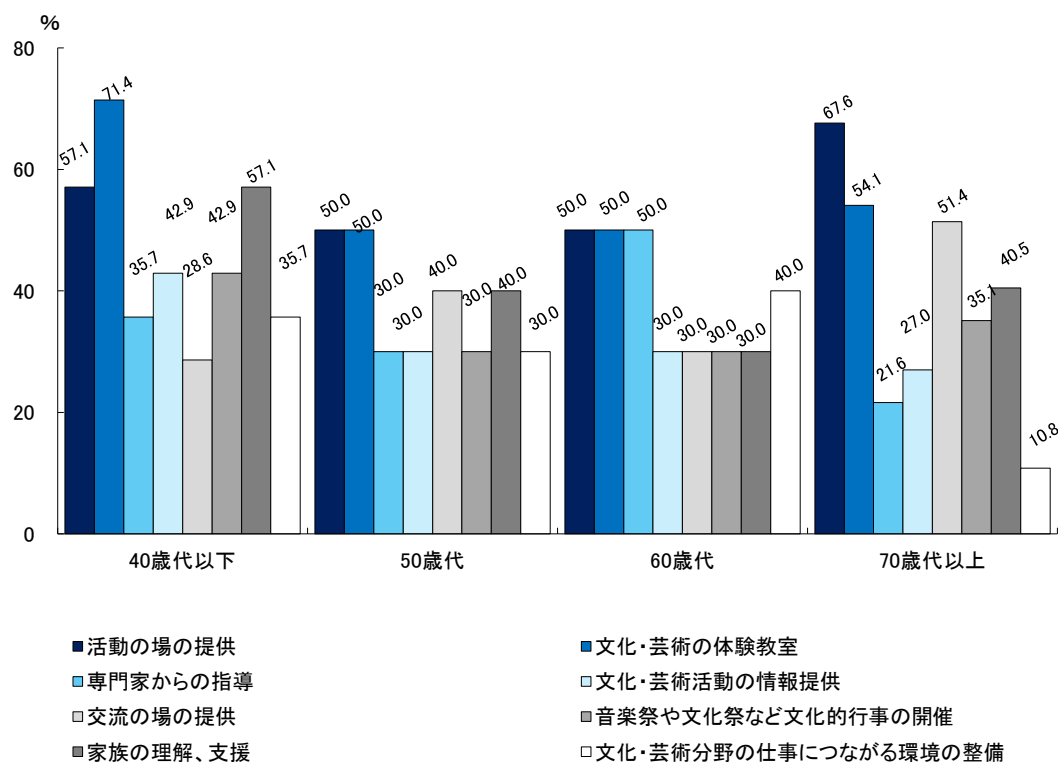
図表 209. 活動年数別 子ども・若者、障がい者が義務教育を修了した後も文化・芸術活動を続けるために必要なもの（複数回答）



図表 210. 会員数別 子ども・若者、障がい者が義務教育を修了した後も文化・芸術活動を続けるために必要なもの（複数回答）



図表 211. 会員の中心世代別 子ども・若者、障がい者が義務教育を修了した後も文化・芸術活動を続けるために必要なもの（複数回答）



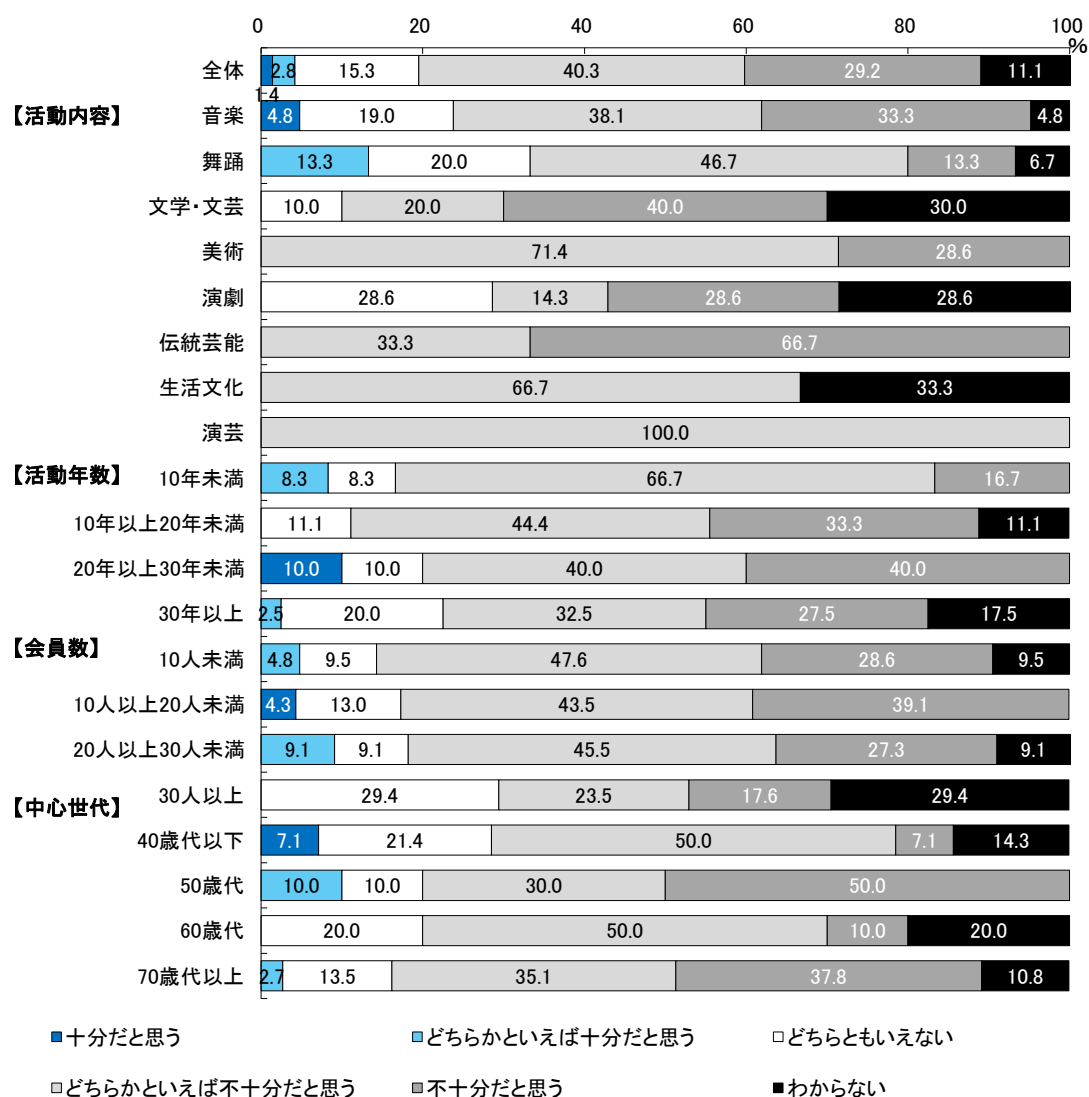
2.4.5. 障がい者が文化・芸術に触れる機会

子ども・若者が文化・芸術に触れる機会については、全体、活動年数別、会員数別、中心世代年齢別の傾向を比較すると、全ての項目で、市民向けアンケート調査、若者向けアンケート調査と同様に、全体では「どちらかといえば不十分」「不十分だと思う」が圧倒的に高い（図表 212）。

93 頁図表 201(子ども・若者が文化・芸術に触れる機会)と同様に、本市においては、個人、団体双方が障がい者が文化・芸術に触れる機会が不十分と認識されていることが明らかとなった。

※「子ども」は中学生以下、「若者」は中学校卒業から30歳未満までと定義

図表 212. 障がい者が文化・芸術に触れる機会

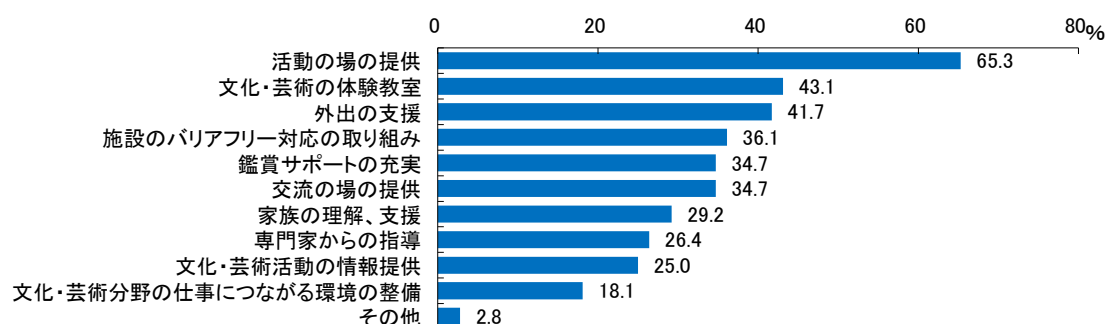


2.4.6. 障がい者への文化・芸術活動の支援に必要なもの

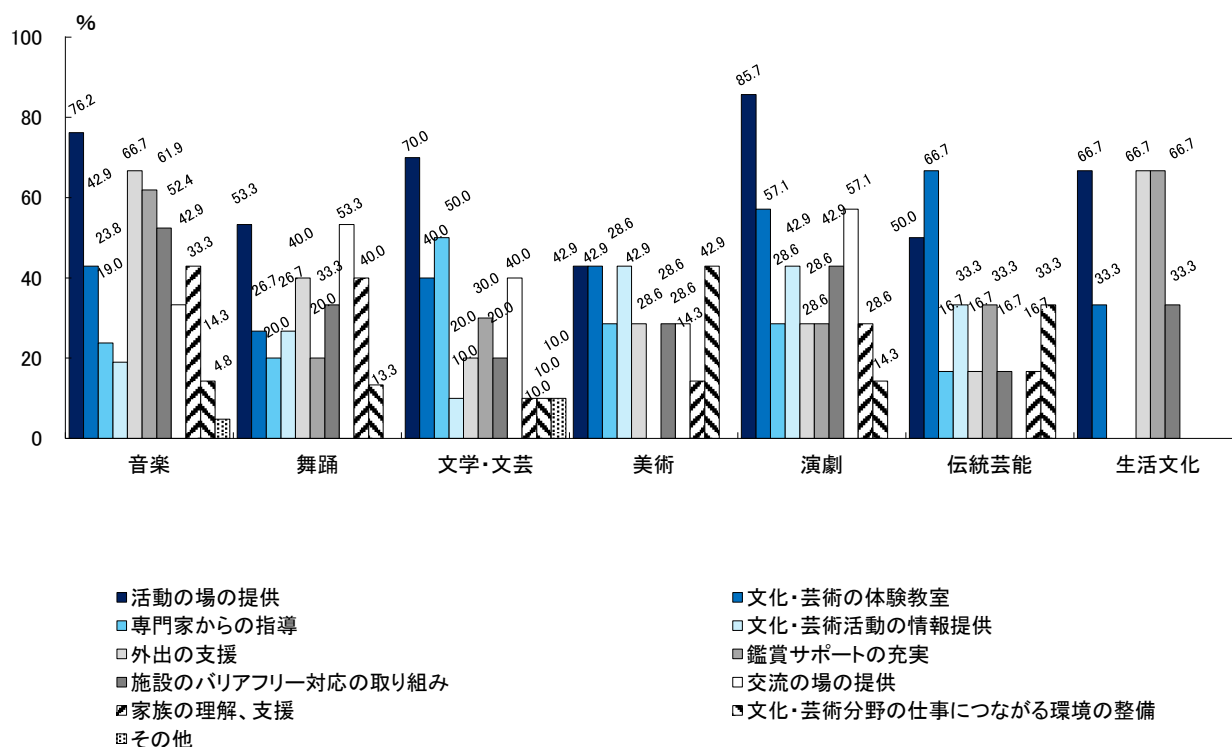
障がい者への文化・芸術活動の支援に必要なものは、「活動の場の提供（65.3%）」が最も高く、市民向けアンケート調査、若者向けアンケート調査と同様の結果となった（図表 213）。2 番目は「文化・芸術の体験教室（43.1%）」となり、体験機会を広げたいとの意向を示す団体側の意向がうかがえた。

「活動の場の提供」は、活動分野別では「演劇（85.7%）」が最も高く、活動年数別では「20 年以上 30 年未満（100.0%）」が、会員数別では「10 人未満（76.2%）」が、会員の中心世代別では「50 歳代」「60 歳代」がともに 70.0%で最も高い結果となった（図表 214、次頁図表 215、216、次々頁図表 217）。

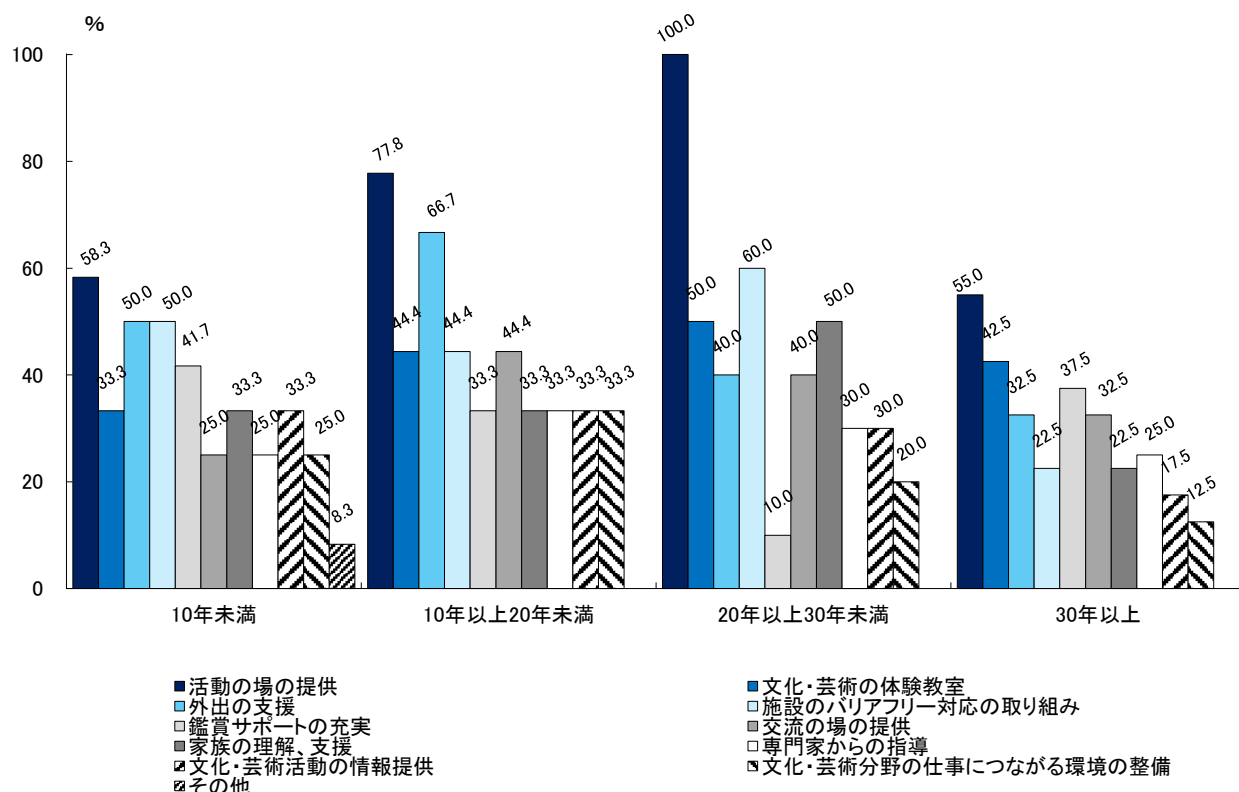
図表 213. 障がい者への文化・芸術活動の支援に必要なもの（全体、複数回答）



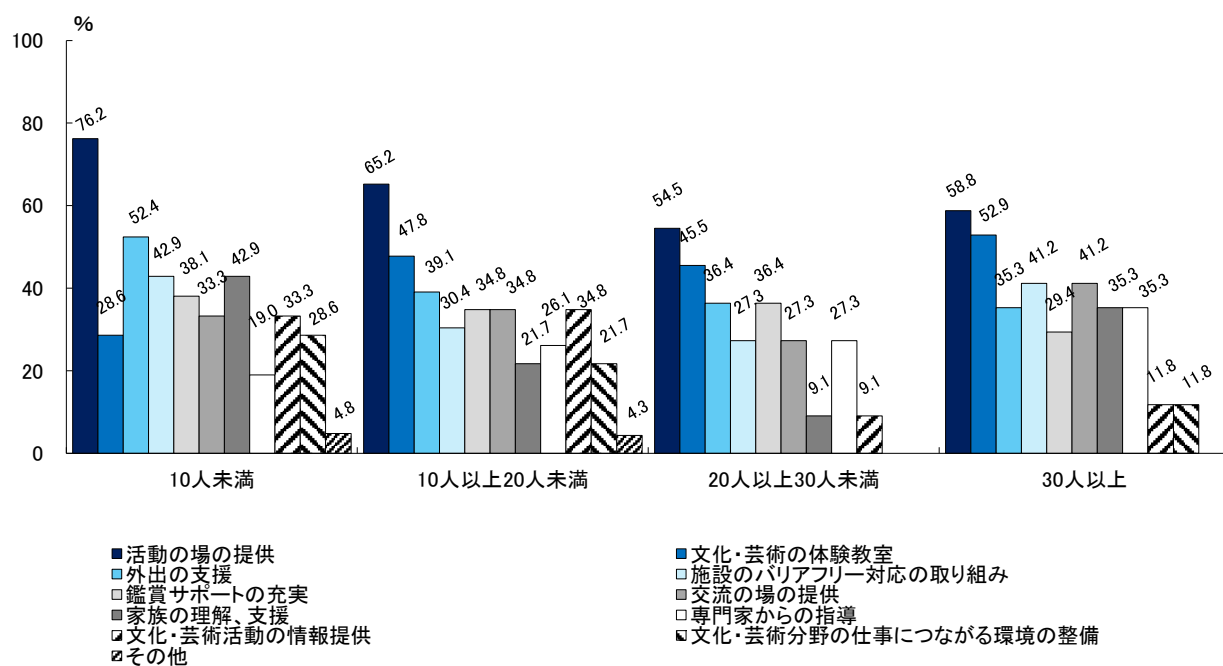
図表 214. 活動分野別 障がい者への文化・芸術活動の支援に必要なもの（複数回答）



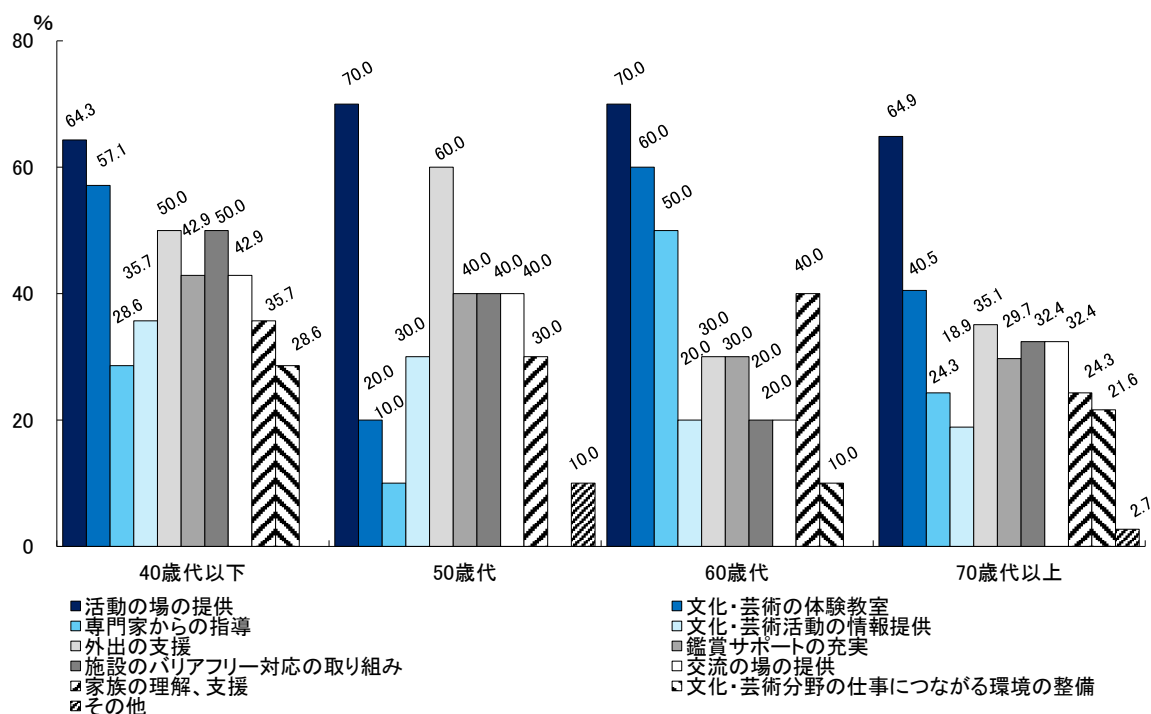
図表 215. 活動年数別 障がい者への文化・芸術活動の支援に必要なもの（複数回答）



図表 216. 会員数別 障がい者への文化・芸術活動の支援に必要なもの（複数回答）



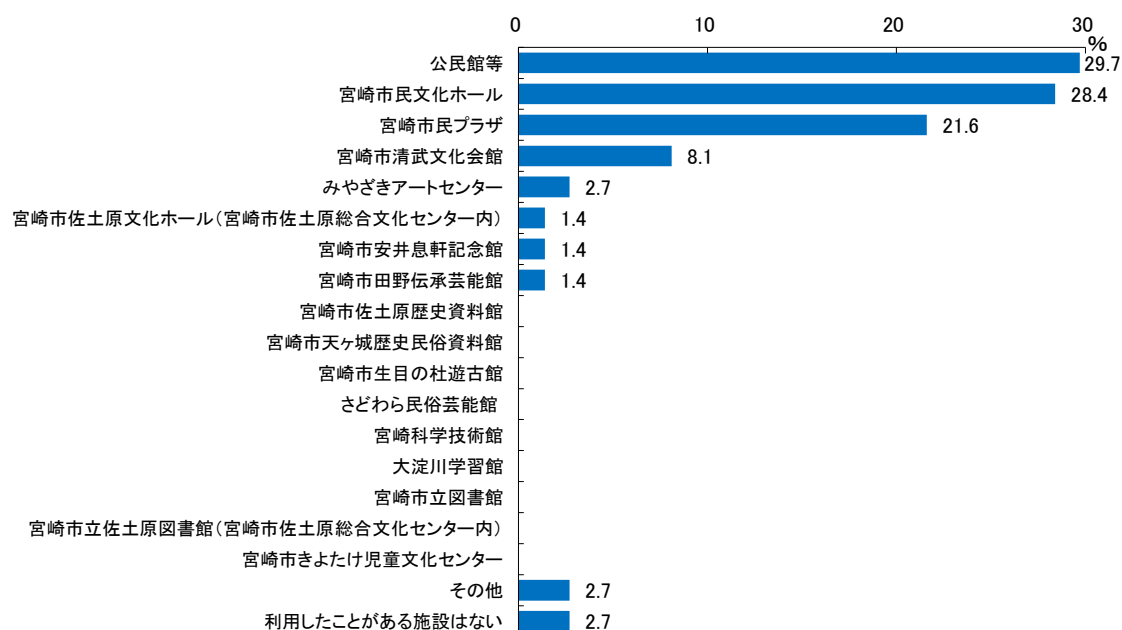
図表 217. 会員の中心世代別 障がい者への文化・芸術活動の支援に必要なもの
(複数回答)



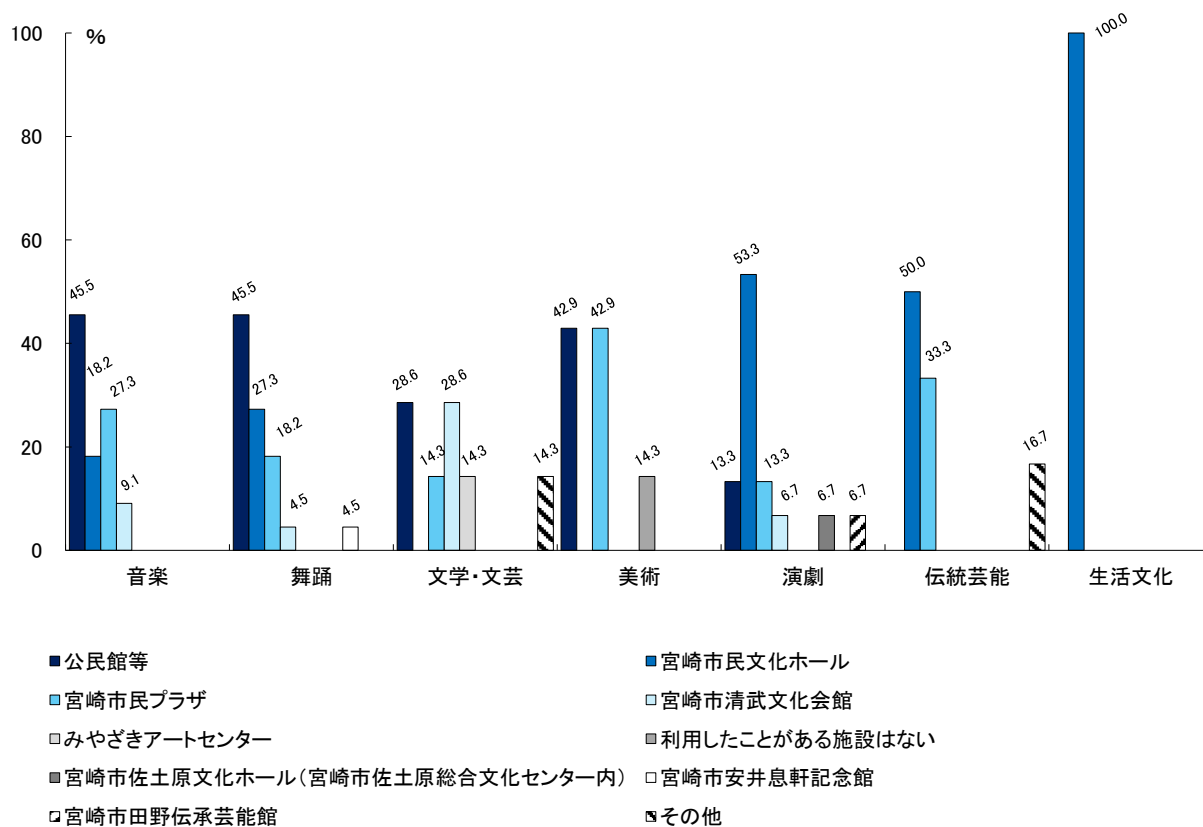
2.4.7. 本市の運営する文化・芸術関連施設等について、活動（練習等）で主に利用する施設

本市の運営する文化・芸術関連施設等について、活動（練習等）で主に利用する施設では、「公民館等（29.7%）」が最も高く、2番目が「宮崎市民文化ホール（28.4%）」、3番目が「宮崎市民プラザ（21.6%）」となった（次頁図表 218）。「公民館等」においては、活動分野別で「音楽等（45.5%）」となり、活動年数別で「20年以上30年未満（80.0%）」、会員数別で「10人以上20人未満（43.5%）」、会員の中心世代別で「60歳代（45.5%）」となった（次頁図表 219、次々頁図表 220、221、106頁図表 222）。

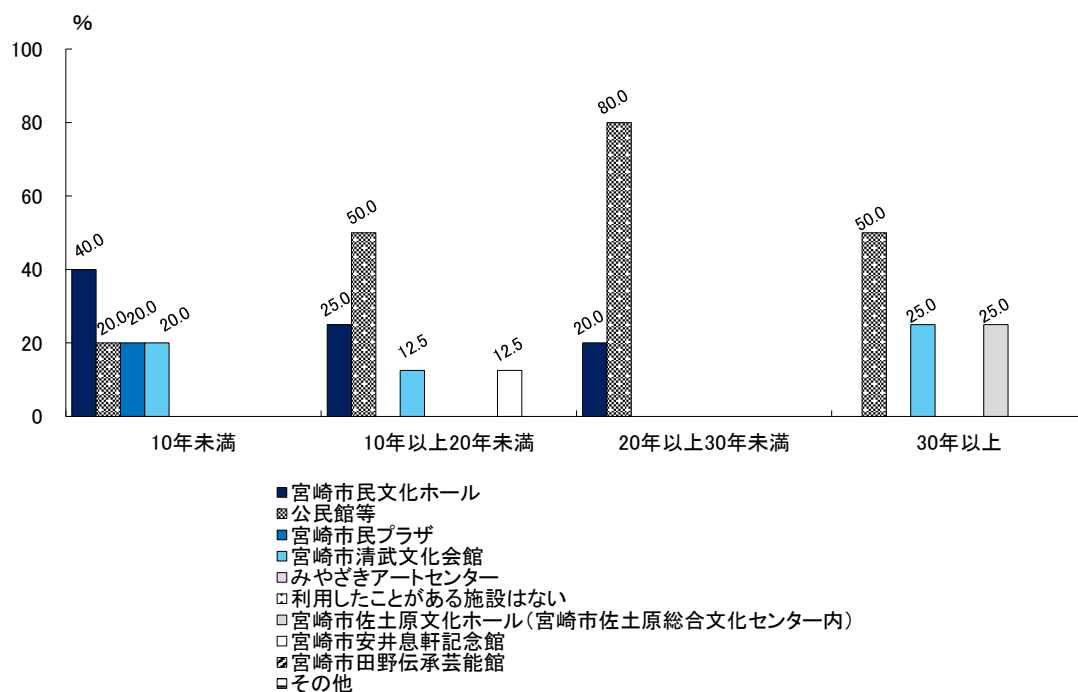
図表 218. 本市の運営する文化・芸術関連施設等について、活動（練習等）で主に利用する施設（全体）



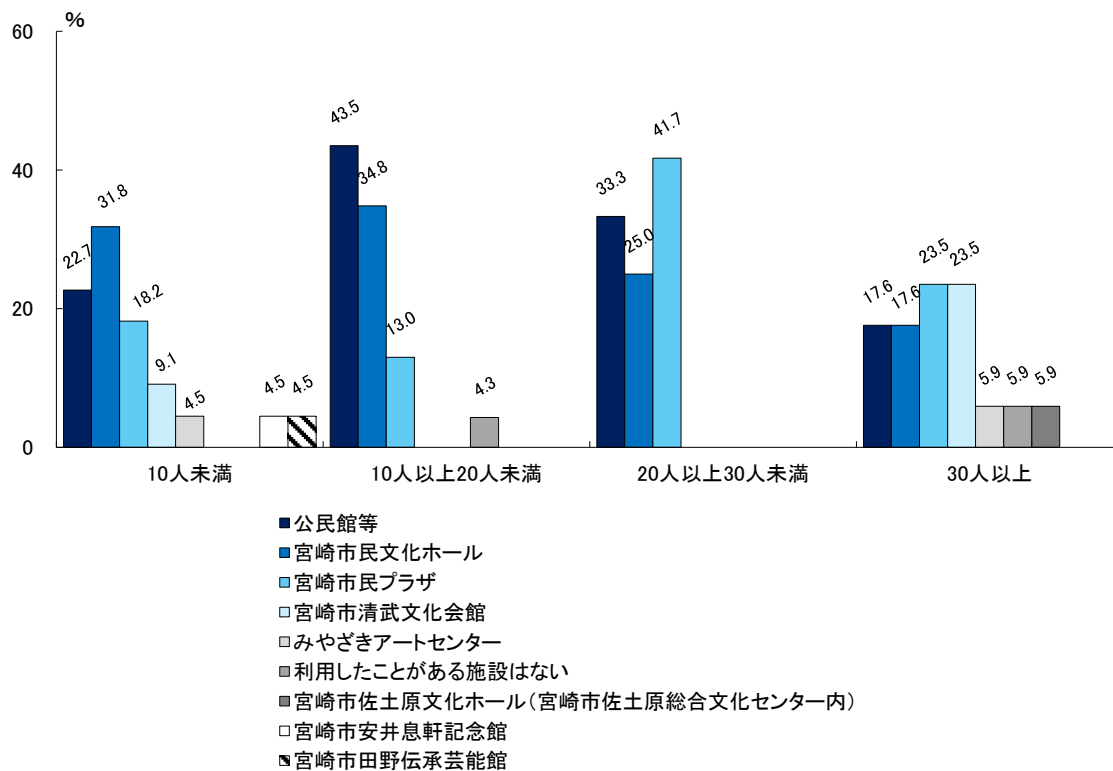
図表 219. 活動分野別 本市の運営する文化・芸術関連施設等について、活動（練習等）で主に利用する施設



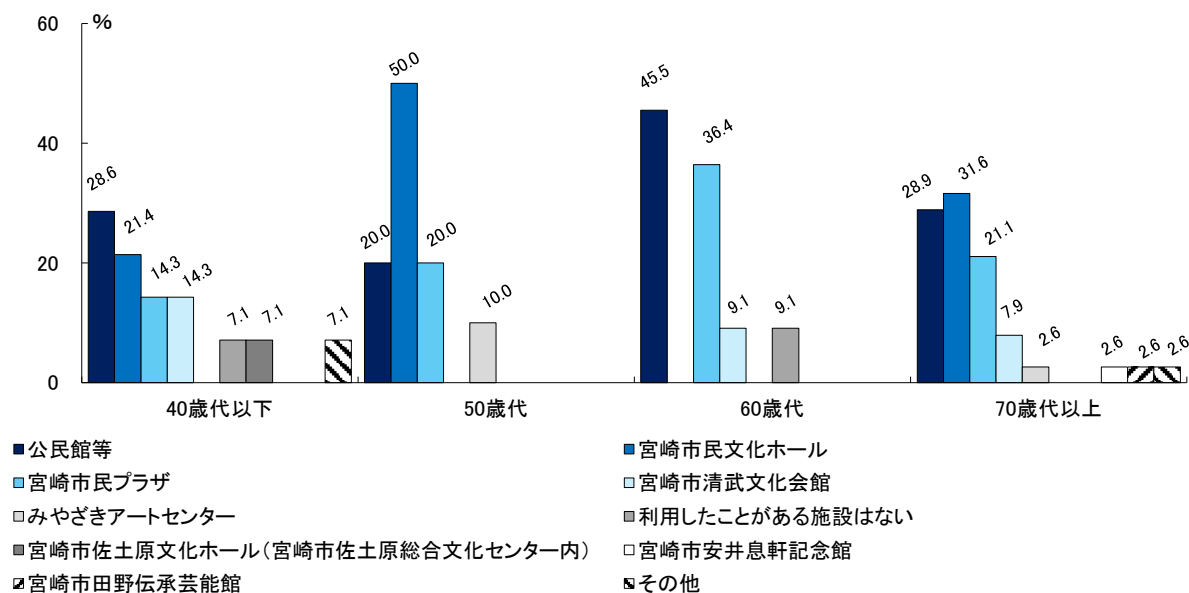
図表 220. 活動年数別 本市の運営する文化・芸術関連施設等について、活動（練習等）で主に利用する施設



図表 221. 会員数別 本市の運営する文化・芸術関連施設等について、活動（練習等）で主に利用する施設



図表 222. 会員の中心世代別 本市の運営する文化・芸術関連施設等について、活動（練習等）で主に利用する施設

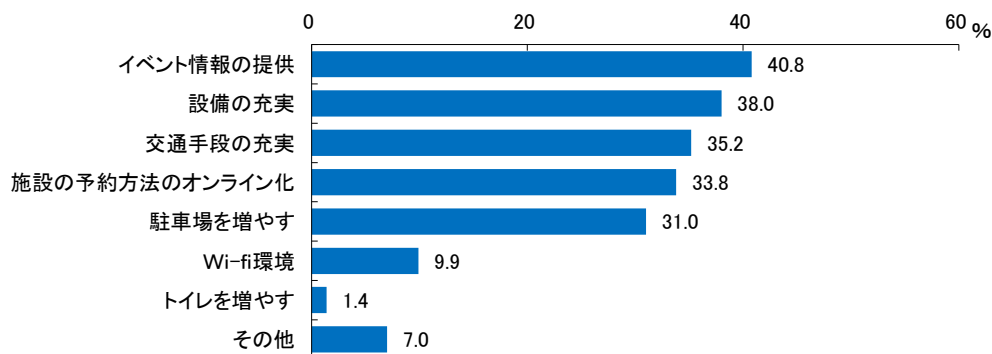


2.4.8. 市の運営する文化・芸術関連施設等の利便性を高めるにあたり、何を改善すれば良いか

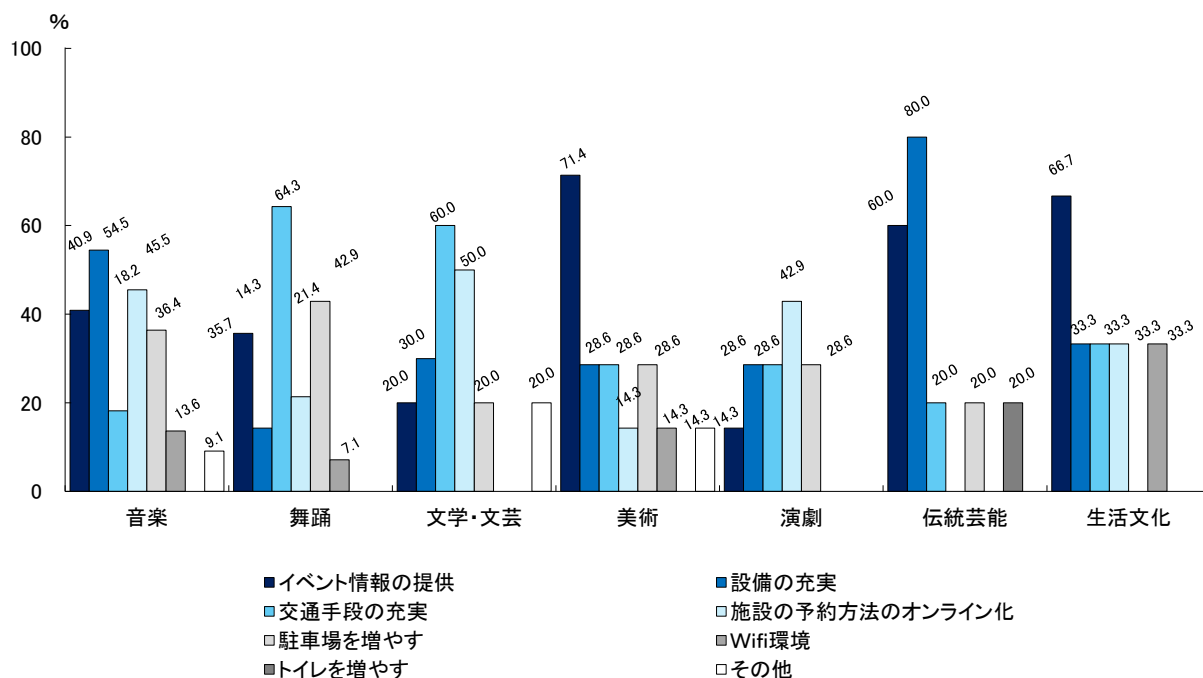
市の運営する文化・芸術関連施設等の利便性を高めるにあたり、何を改善すれば良いかについては、「イベント情報の提供（40.8%）」が最も高く、市民向けアンケート、若い世代向けアンケートと同様の結果となった（図表 223）。個人・団体双方から情報提供が広く求められること明らかとなった。

同項目は、活動分野別では「美術（71.4%）」が最も高く、活動年数別では「20 年以上 30 年未満（50.0%）」が、会員数別では「30 人以上（46.7%）」、会員の中心年代別では「50 歳代（60.0%）」が最も高い（次頁図表 224、225、次々頁図表 226、227）。

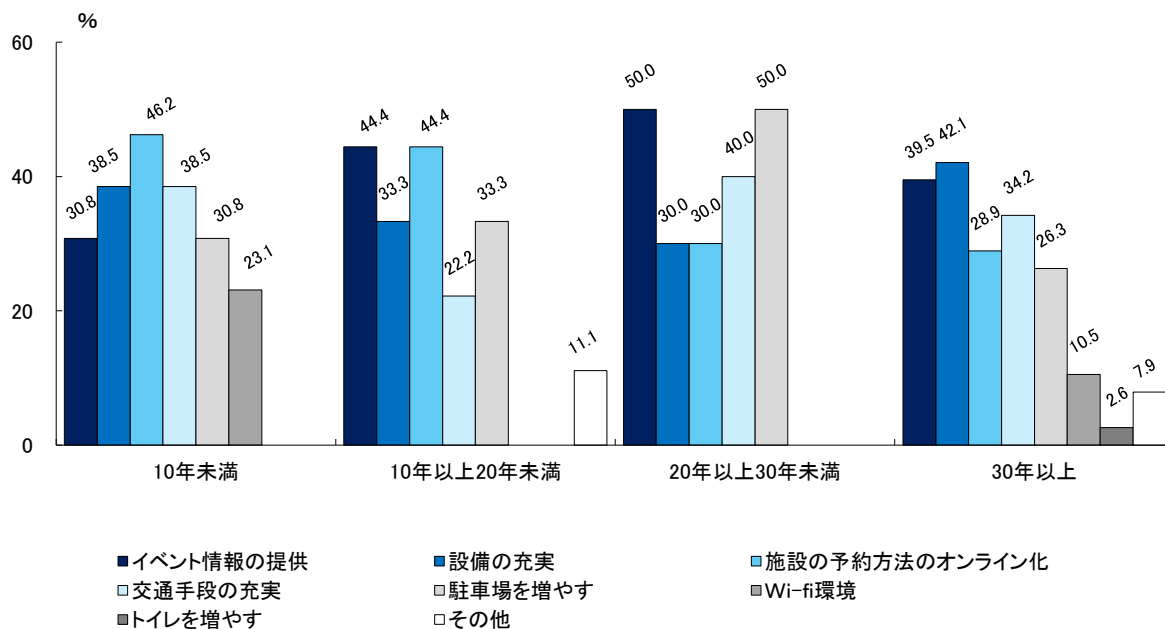
図表 223. 市の運営する文化・芸術関連施設等の利便性を高めるにあたり、何を改善すれば良いか（全体、複数回答）



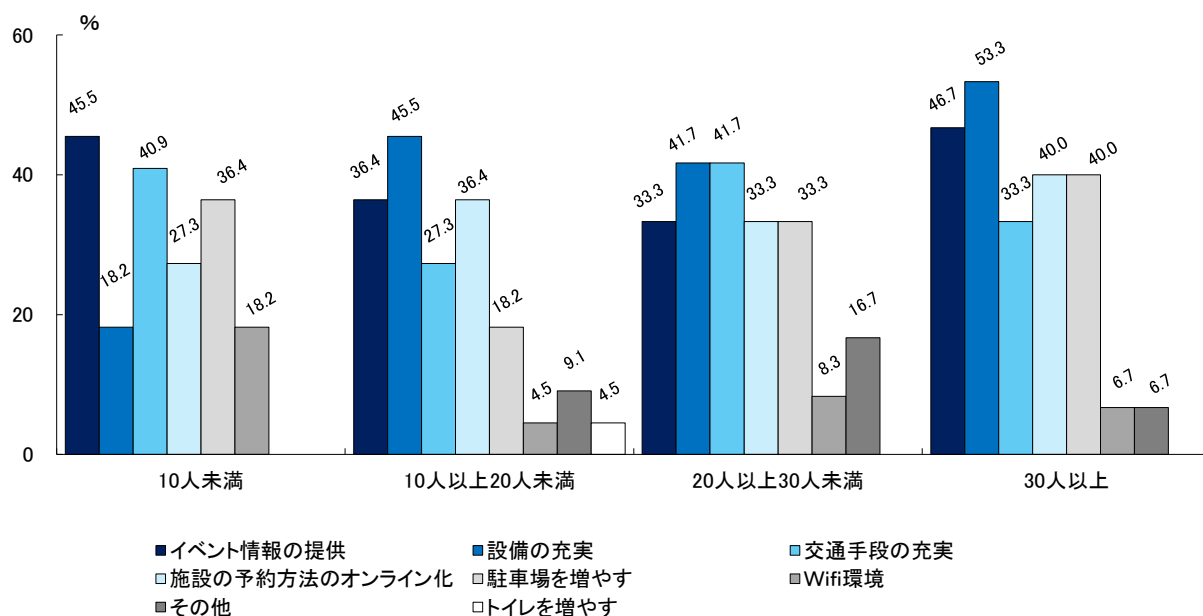
図表 224. 活動分野別 市の運営する文化・芸術関連施設等の利便性を高めるにあたり、何を改善すれば良いか（複数回答）



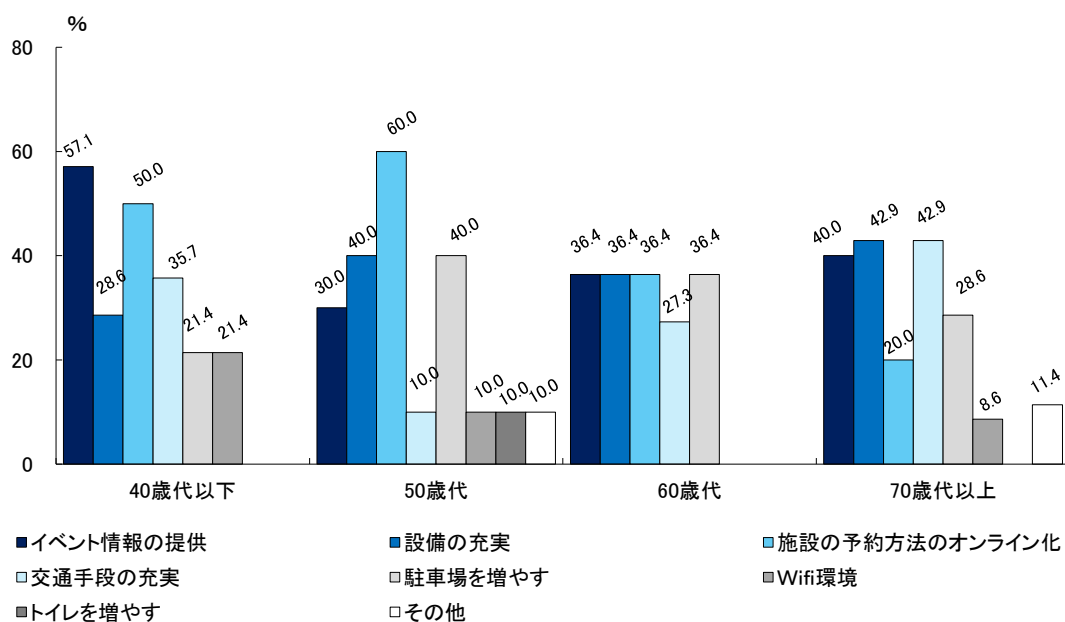
図表 225. 活動年数別 市の運営する文化・芸術関連施設等の利便性を高めるにあたり、何を改善すれば良いか（複数回答）



図表 226. 会員数別 市の運営する文化・芸術関連施設等の利便性を高めるにあたり、何を改善すれば良いか（複数回答）



図表 227. 会員の中心世代別 市の運営する文化・芸術関連施設等の利便性を高めるにあたり、何を改善すれば良いか（複数回答）

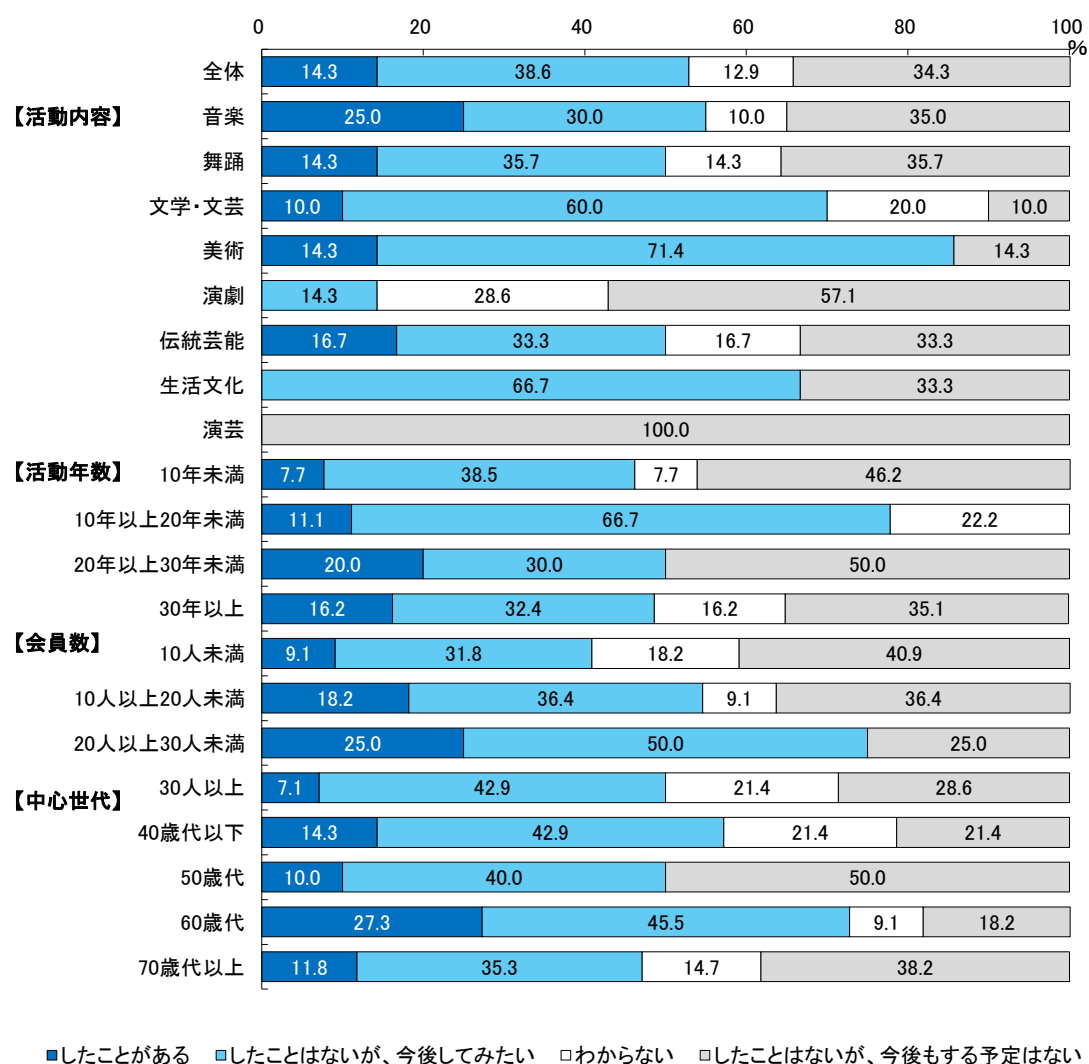


2.4.9. 団体にて過去1年間に文化・芸術振興に関する分野に寄附をしたことがあるか

過去1年間に文化・芸術振興に関する分野に寄附をしたことがあるかについては、「全体」で肯定的な回答である「したことがある」「したことはないが、今後してみたい」合計で52.9%となり、「したことがある」「したことはないが、今後してみたい」合計の回答率が高い市民向けアンケート調査、若者向けアンケート調査とは大きく異なる結果となった（図表228）。

「したことがある」「したことはないが、今後してみたい」合計について、活動内容別では、「美術」が最も高く、活動年数では「20年以上30年未満」、会員数では「20人以上30人未満」、会員の中心世代では「60歳代」が最も高い。

図表228. 団体にて過去1年間に文化・芸術振興に関する分野に寄附をしたことがあるか

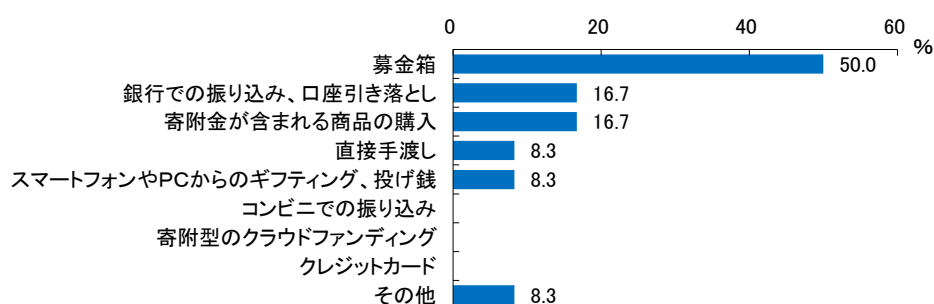


2.4.10. 寄附の方法（複数回答）

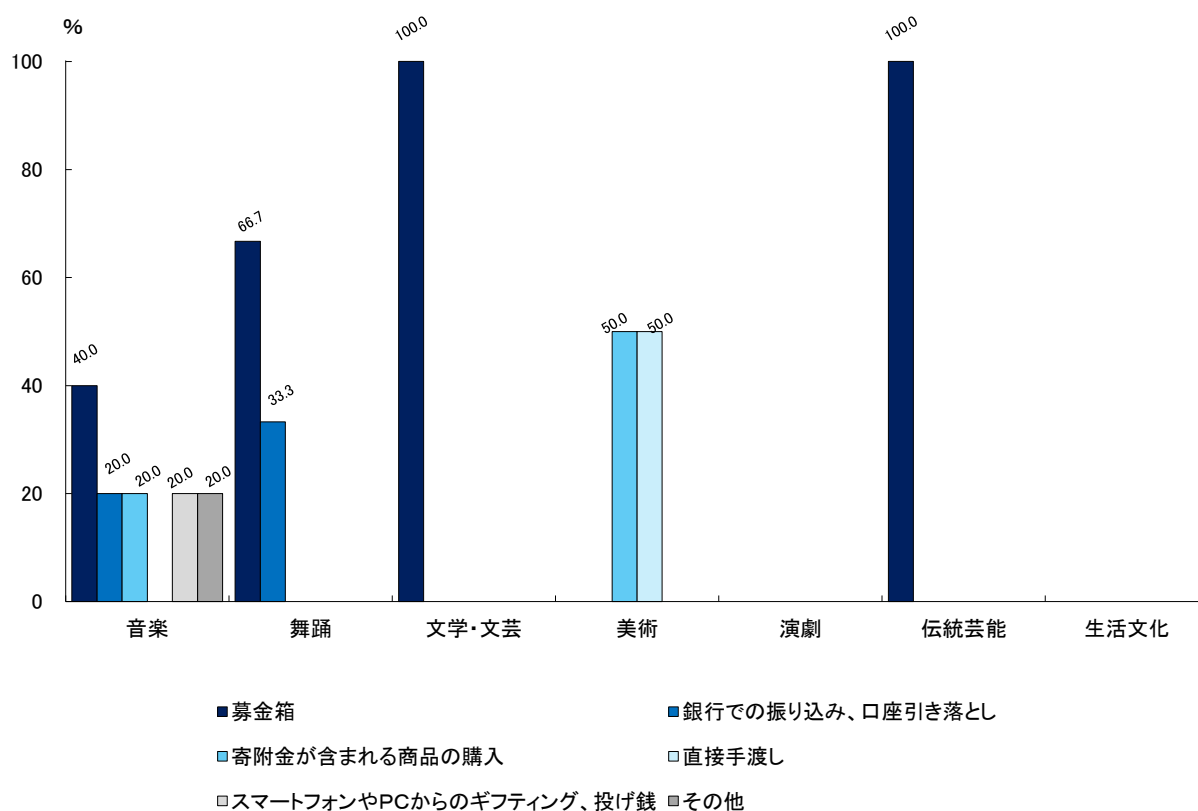
寄附の方法は、「募金箱（50.0%）」が圧倒的に高く、市民向けアンケート調査、若い世代向けアンケート調査と同様の結果となった（図表 229）。2 番目は「銀行での振り込み、口座引き落とし（16.7%）」「寄附が含まれる商品の購入（16.7%）」となった。

活動分野別、活動年数別、会員数別、会員の中心世代別にみると、「募金箱」に回答率 100.0%多く、アナログな方法が有効と認識されていることが明らかとなった（図表 230、次頁図表 231、232、次々頁図表 233）。

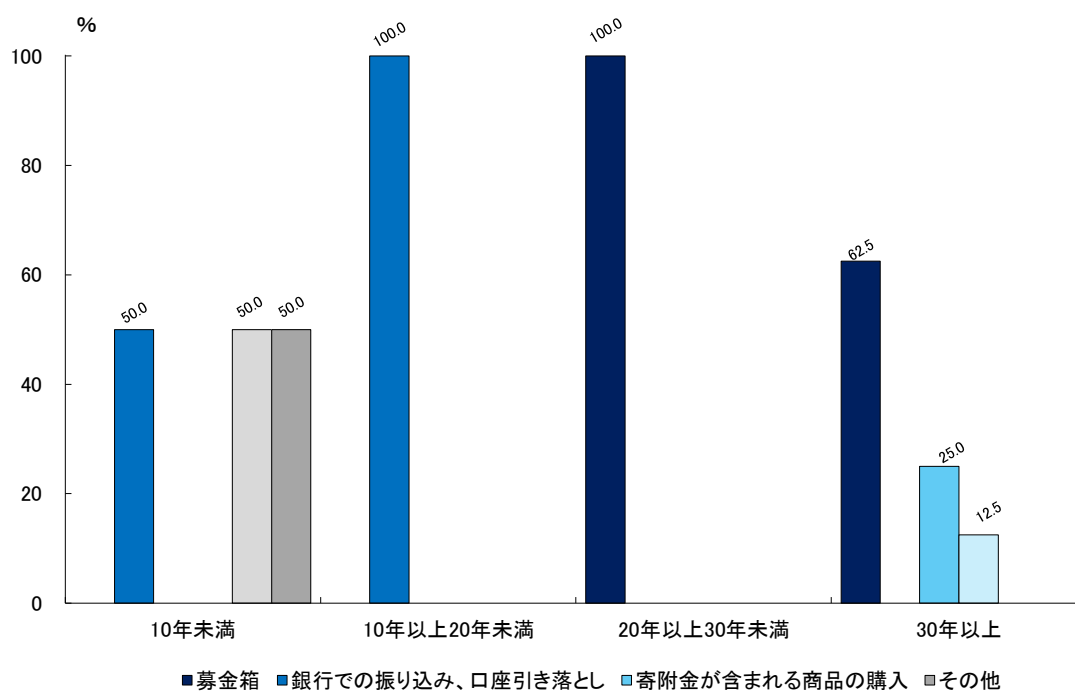
図表 229. 寄附の方法（全体、複数回答）



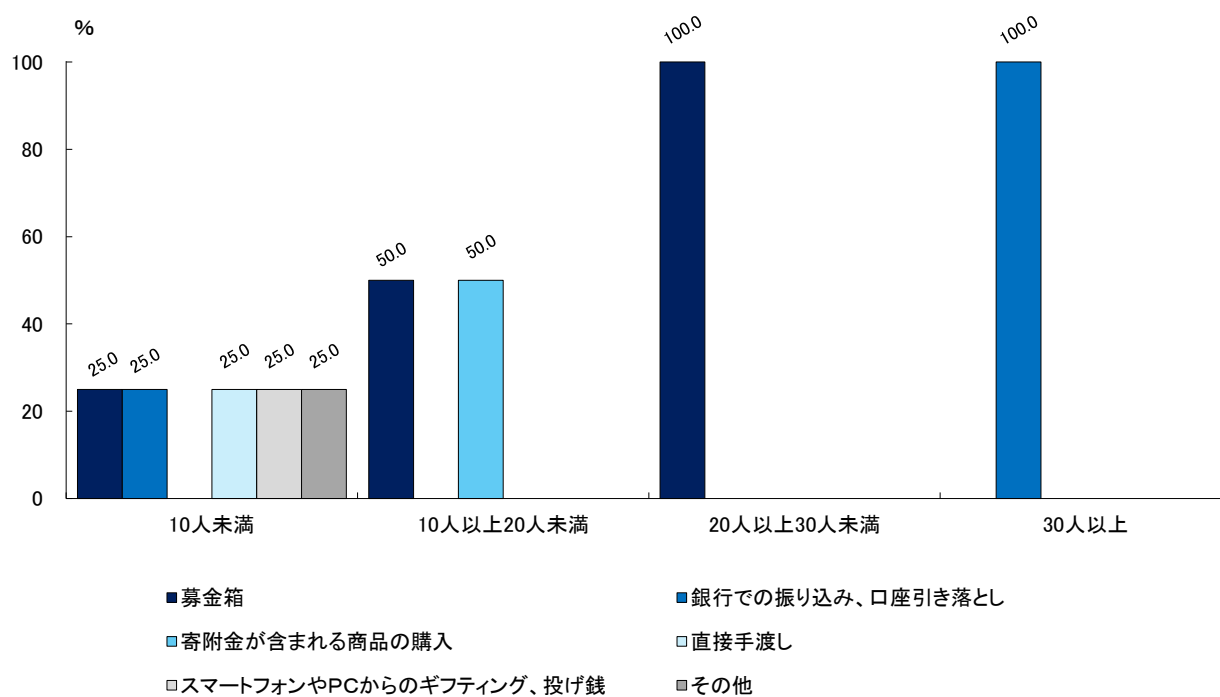
図表 230. 活動分野別 寄附の方法（複数回答）



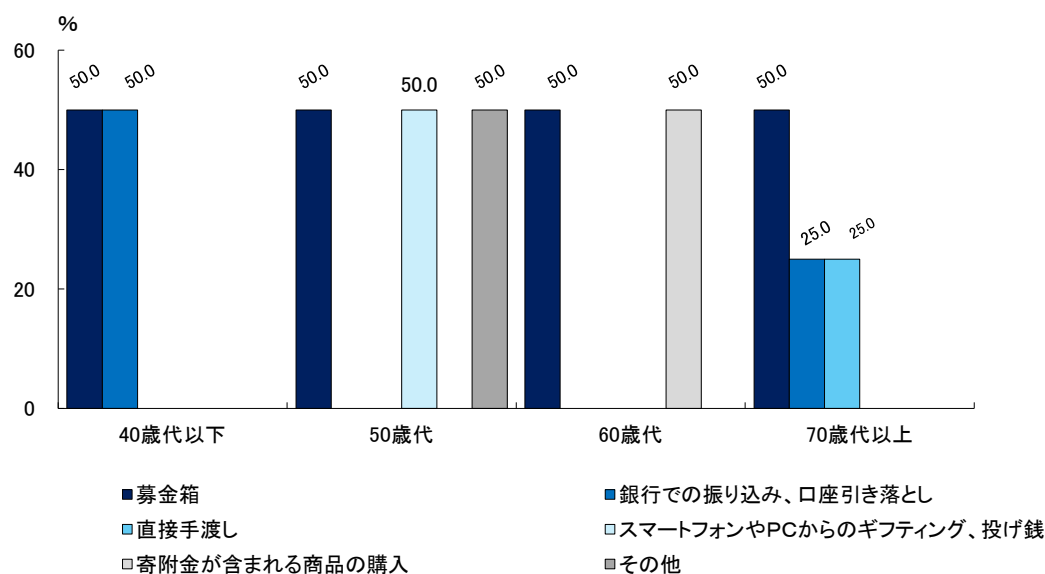
図表 231. 活動年数別 寄附の方法（複数回答）



図表 232. 会員数別 寄附の方法（複数回答）



図表 233. 会員の中心世代別 寄附の方法（複数回答）

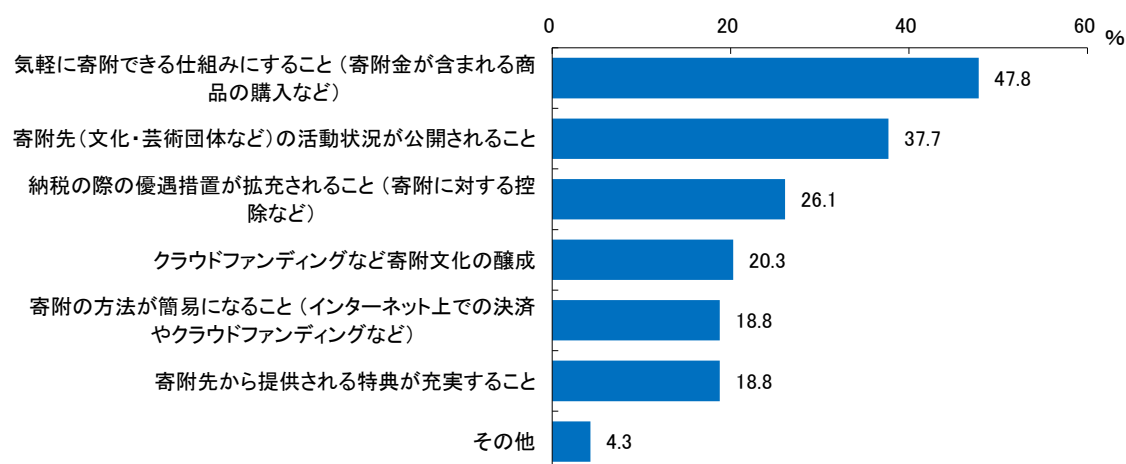


2.4.11. どうすれば文化・芸術への寄附がしやすくなる、寄附したいと思うのか

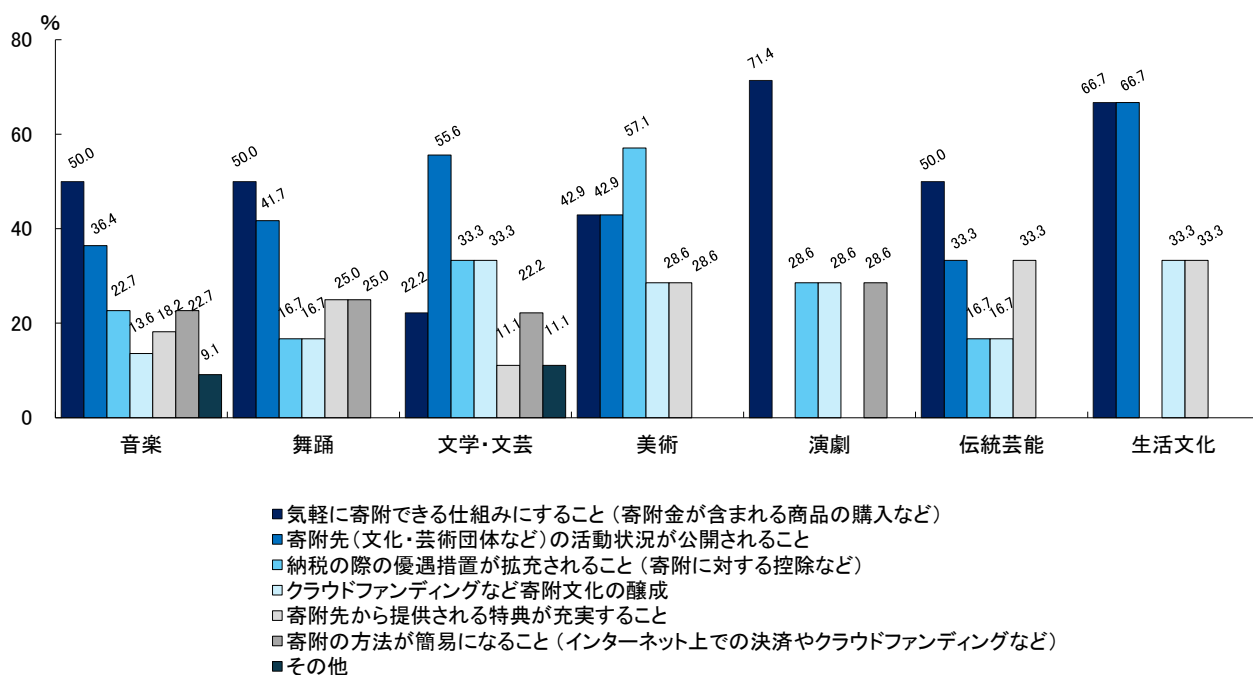
どうすれば文化・芸術への寄附がしやすくなる、寄附したいと思うのかについては、「気軽に寄附できる仕組みにすること（寄附金が含まれる商品の購入など、47.8%）」が最も高く、市民向けアンケート調査と同様の結果となり、若者向けアンケート調査と異なる結果となった（図表 234）。

同項目については、「演劇（71.4%）」が最も高く、活動年数別は「10 年以上 20 年未満（55.6%）」が、会員数別では「30 人以上（64.3%）」が、会員の中心世代別では「70 歳代以上（60.6%）」が最も高い（次頁図表 235、236、次々頁図表 237、238）。

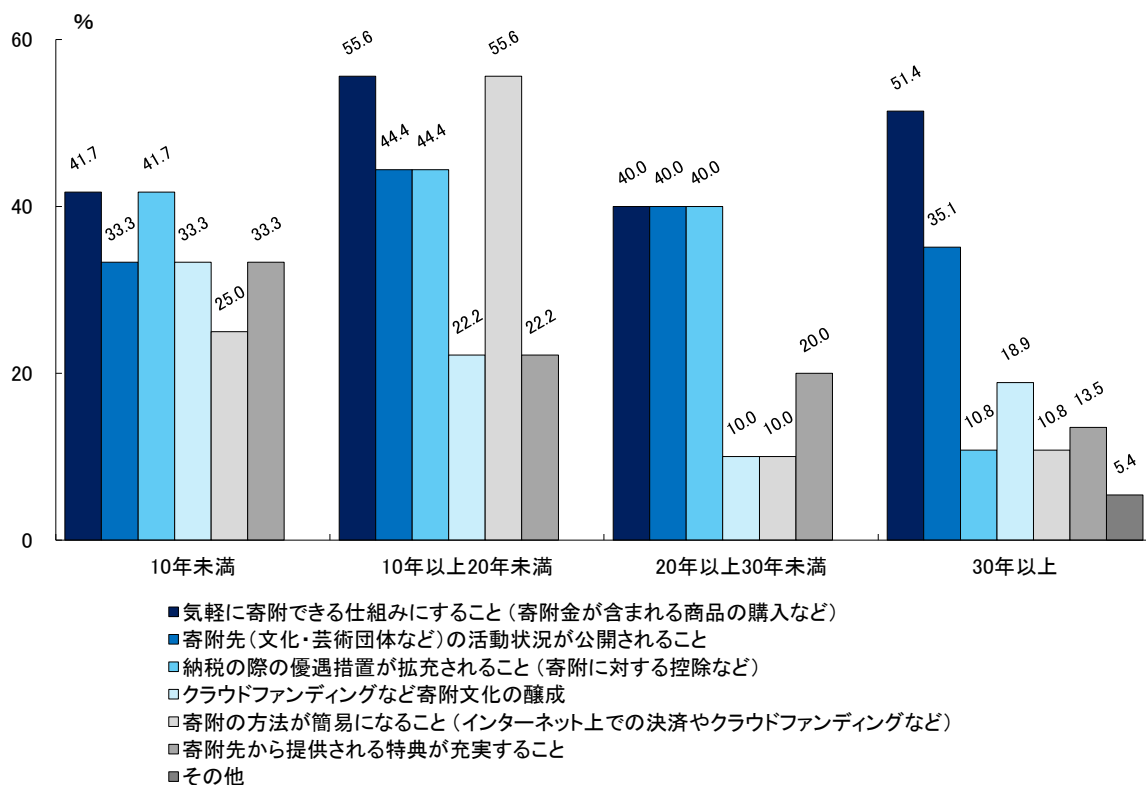
図表 234. どうすれば文化・芸術への寄附がしやすくなる、寄附したいと思うのか（全体、複数回答）



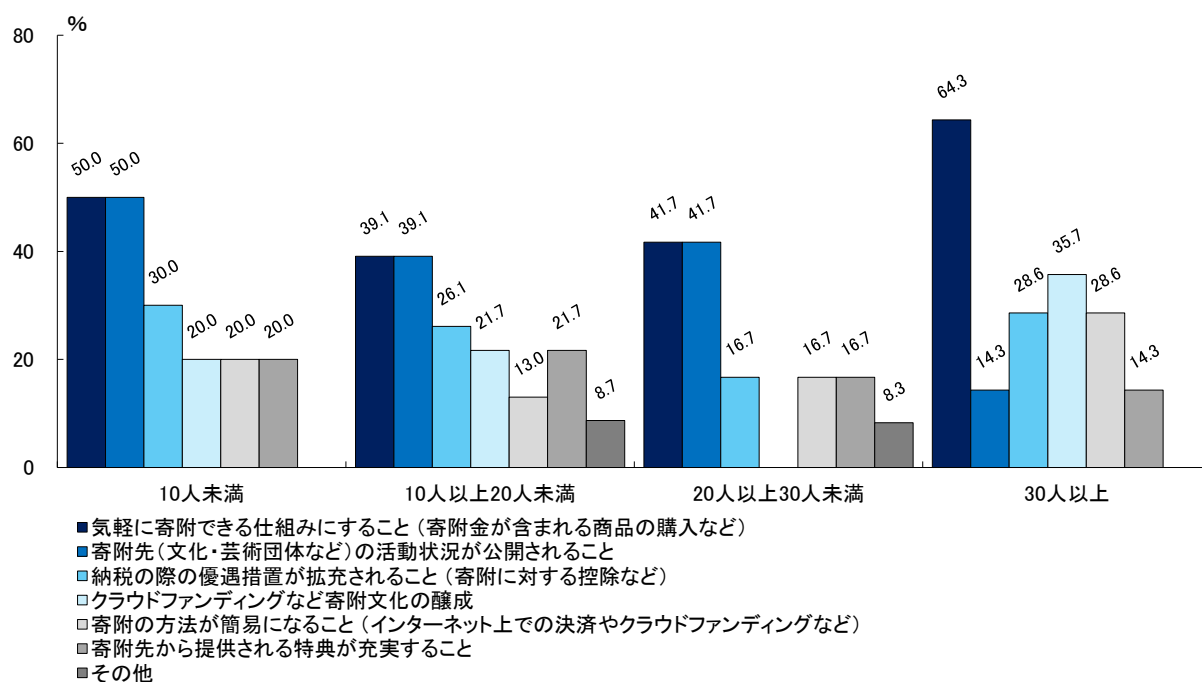
図表 235. 活動分野別 どうすれば文化・芸術への寄附がしやすくなる、寄附したいと思うのか（複数回答）



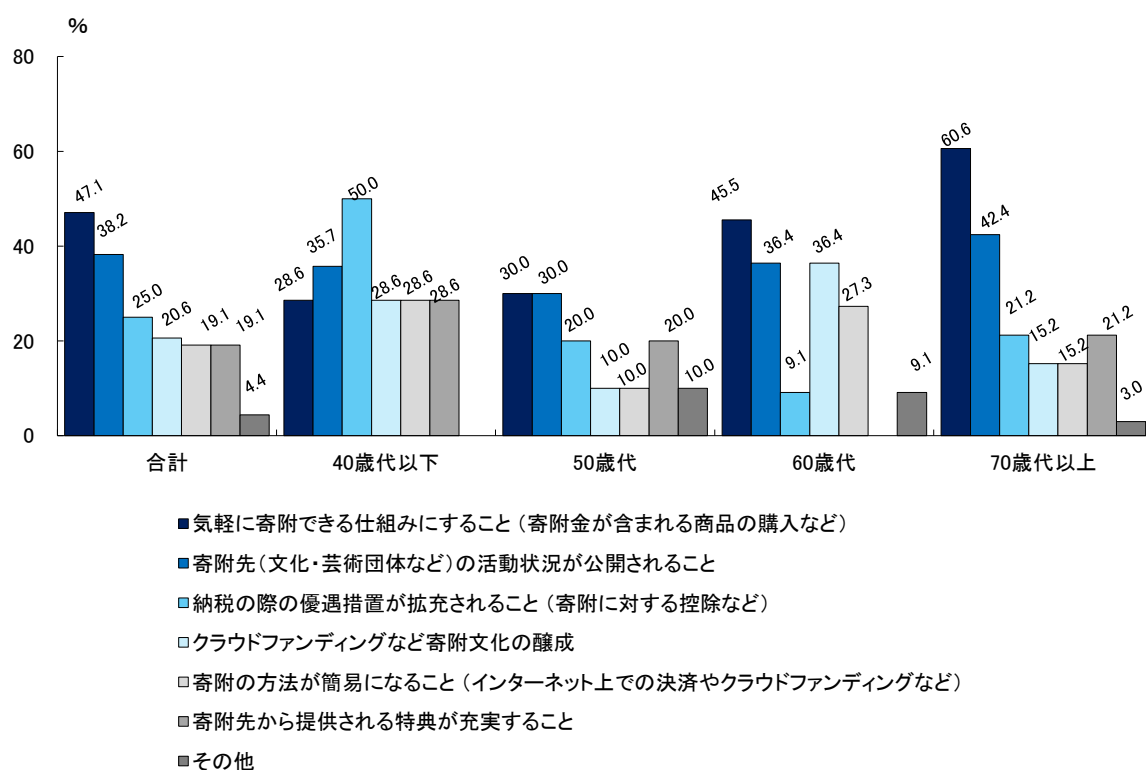
図表 236. 活動年数別 どうすれば文化・芸術への寄附がしやすくなる、寄附したいと思うのか（複数回答）



図表 237. 会員数別 どうすれば文化・芸術への寄附がしやすくなる、寄附したいと思うのか（複数回答）



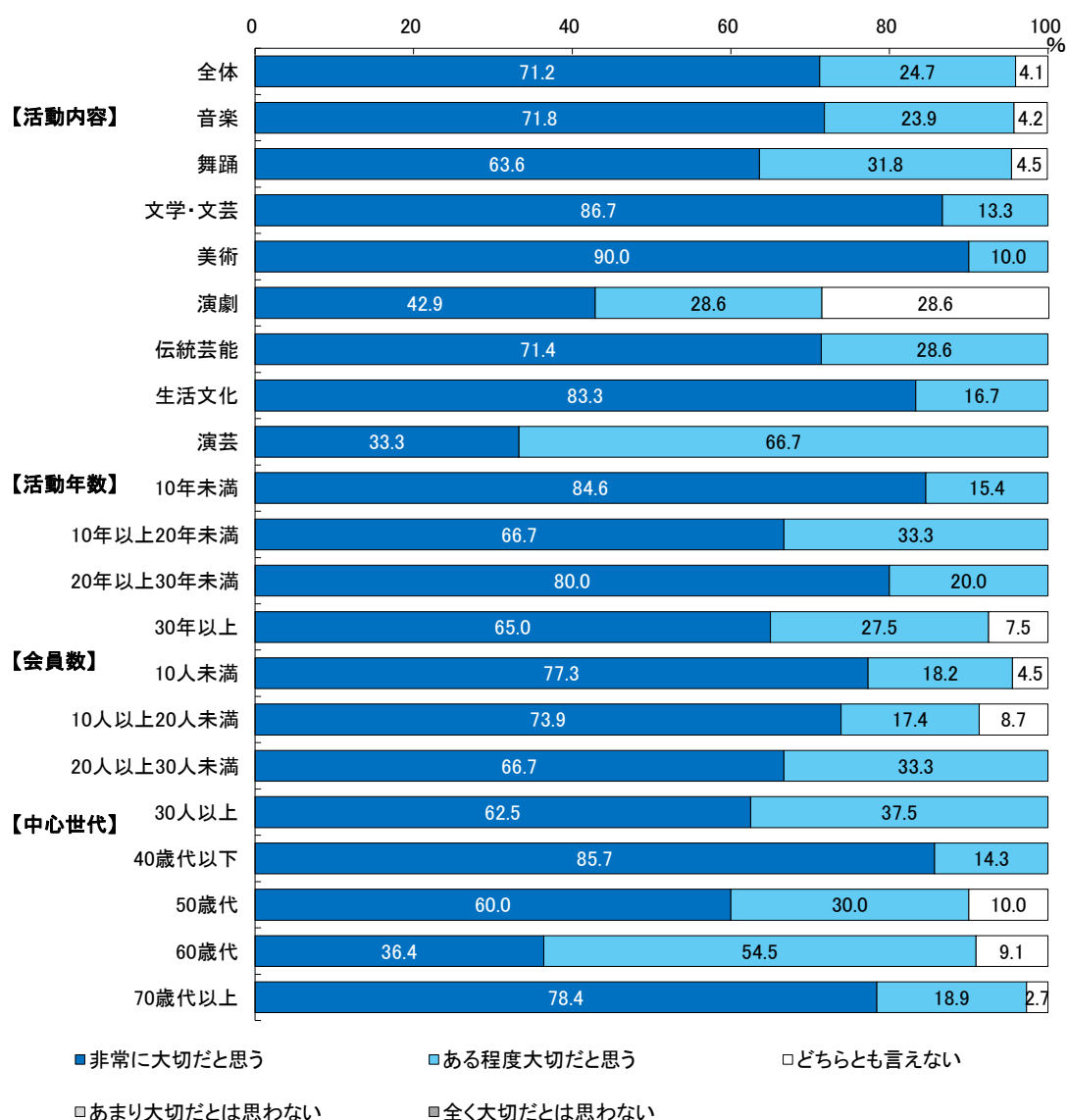
図表 238. 会員の中心世代別 どうすれば文化・芸術への寄附がしやすくなる、寄附したいと思うのか（複数回答）



2.4.12. 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取組みについての考え方

伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取組みについての考え方については、回答全体で「非常に大切だと思う」「ある程度大切だと思う」合計で 95.9%となり、市民向けアンケート調査、若者向けアンケート調査より高い回答率となった（図表 239）。属性別においても、「演劇」を除く全ての属性の全項目で 90%以上が大切であると認識していることが明らかとなった。市民向けアンケート調査、若者向けアンケート調査より総じて回答率が高いことも特徴となった。

図表 239. 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取組みについての考え方

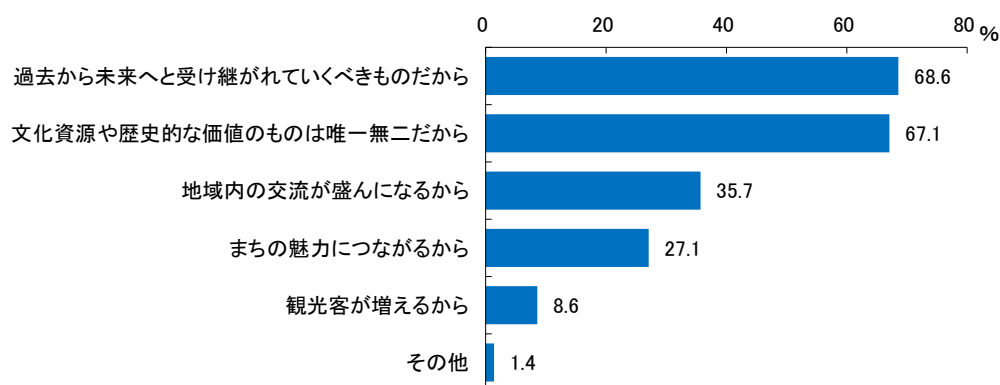


2.4.13. 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取組みについて「非常に大切」「ある程度大切」と思う理由

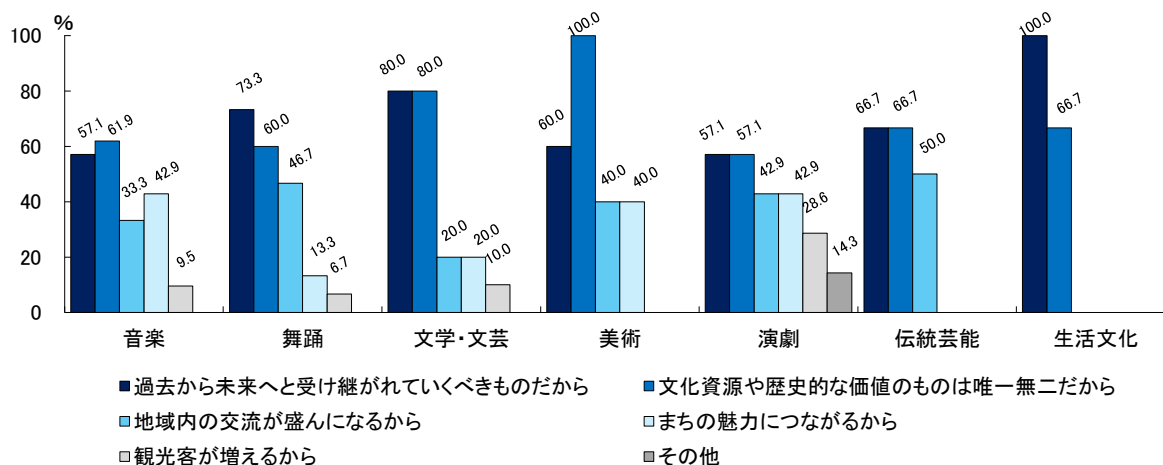
伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取組みについての考え方が「非常に大切」「ある程度大切」と思う理由は、市民向けアンケート調査と同様に「過去から未来へと受け継がれていくべきものだから（68.6%）」が最も高い。若者向けアンケート調査で最も回答率が高かった「まちの魅力につながるから」は、若者は63.1%の回答率となったが、文化・芸術団体は27.1%となり、若者が持つイメージとの格差が大きいものとなった（図表240）。

活動団体別では、「過去から未来へと受け継がれていくべきものだから」と同様に「舞踏」「生活文化」等で「文化資源や歴史的な価値のものは唯一無二だから」の回答率の高さが目立つ（次頁図表241）。活動年数別では「10年以上20年未満」「20年以上30年未満」で「文化資源や歴史的な価値のものは唯一無二だから」が圧倒的に高いものの、会員数別では両項目がほぼ同等の回答率となった（次頁図表242、243）。会員の中心年代別では、「50歳代」で「文化資源や歴史的な価値のものは唯一無二だから」が突出した（次々頁図表244）。

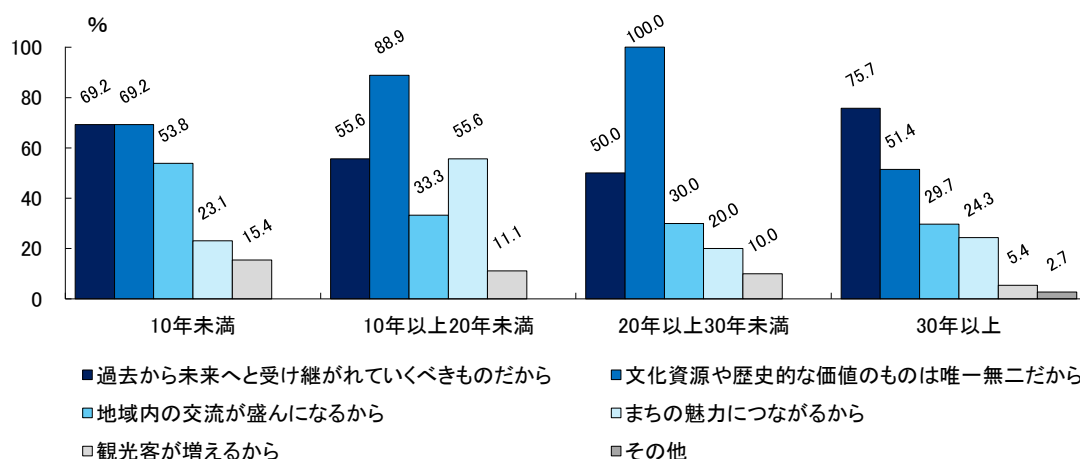
図表 240. 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取組みについて「非常に大切」「ある程度大切」と思う理由（全体、複数回答）



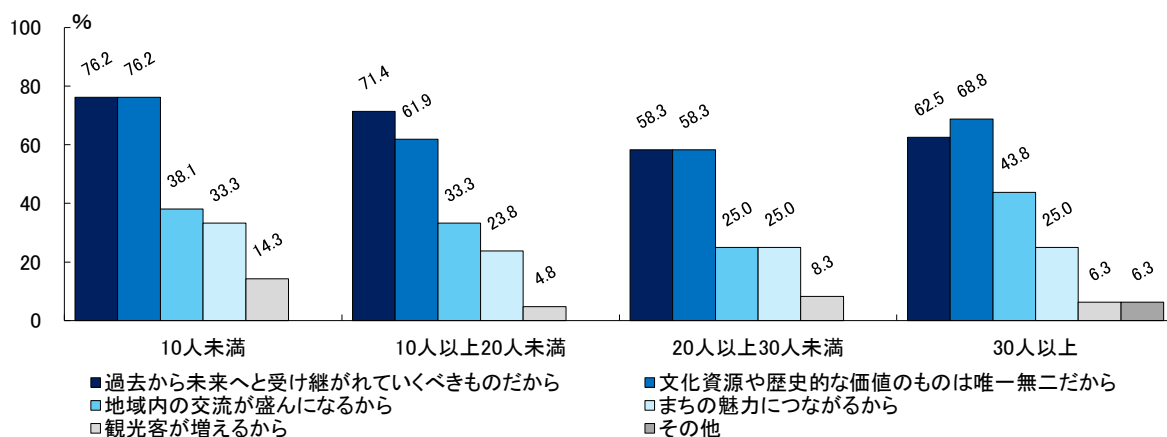
図表 241. 活動分野別 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取組みについて「非常に大切」「ある程度大切」と思う理由（複数回答）



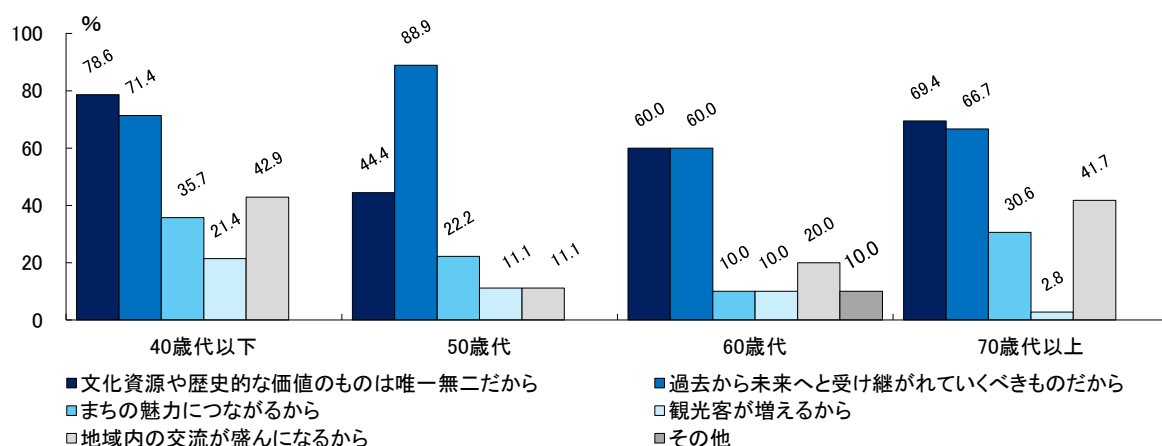
図表 242. 活動年数別 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取組みについて「非常に大切」「ある程度大切」と思う理由（複数回答）



図表 243. 会員数別 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取組みについて「非常に大切」「ある程度大切」と思う理由（複数回答）



図表 244. 会員の中心世代別 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取組みについて「非常に大切」「ある程度大切」と思う理由（複数回答）

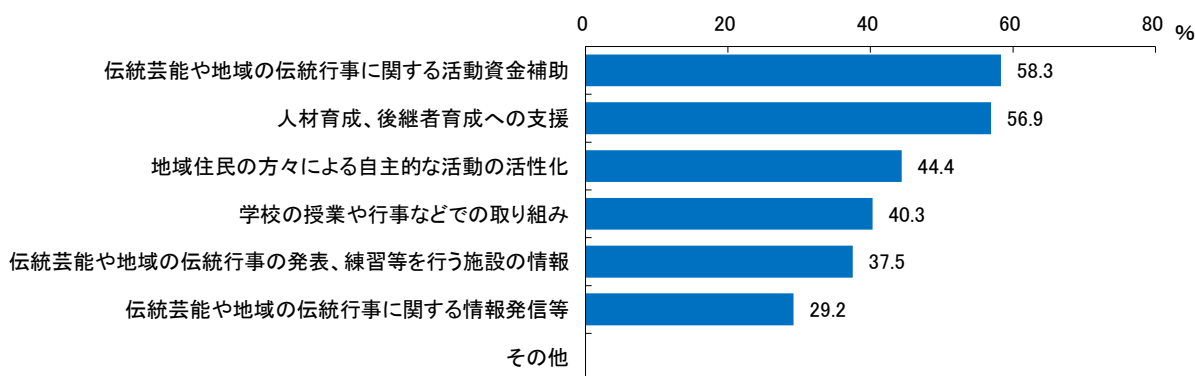


2. 4. 14. 伝統芸能や地域の伝統行事を保存、持続可能なものとするために必要な対応

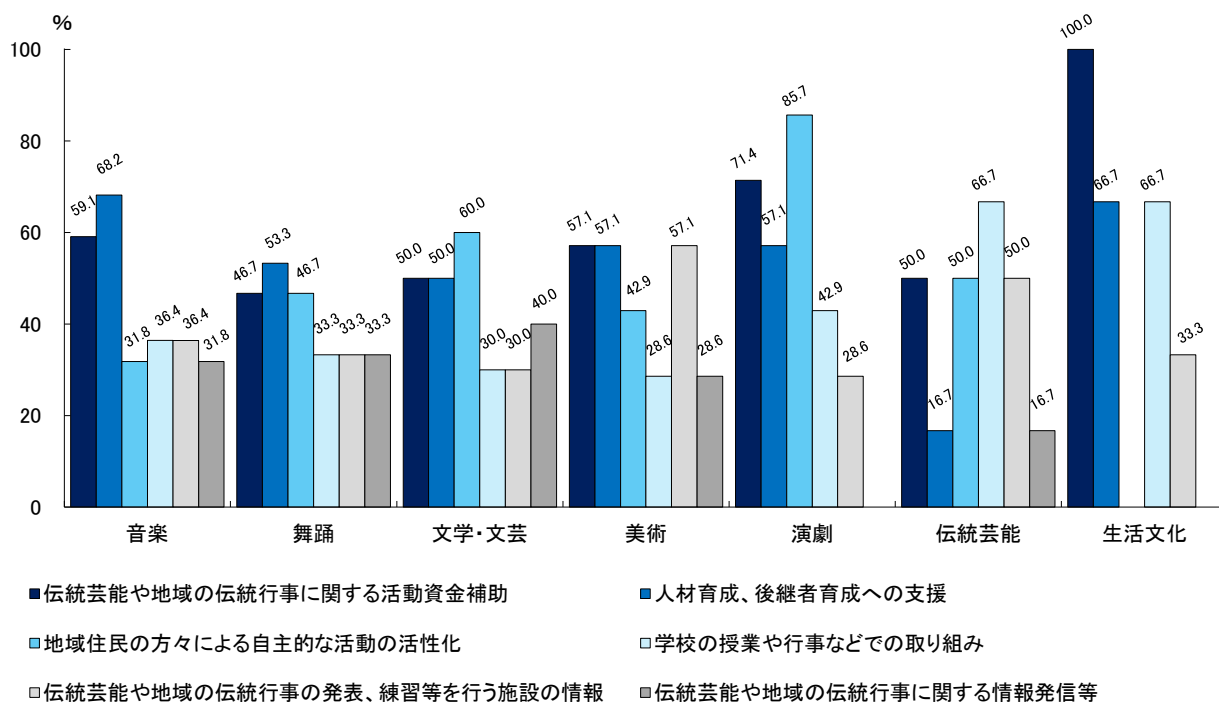
伝統芸能や地域の伝統行事を保存、持続可能なものとするために必要な対応は、「伝統芸能や地域の伝統行事に関する活動資金補助（58.3%）」が最も高く、2 番目が「人材育成、後継者育成への支援（56.9%）」となり、市民向けアンケート調査「[人材育成、後継者育成への支援（60.6%）」が最も高い]、若者向けアンケート調査「[学校の授業や行事などでの取り組み（48.0%）」が最も高い」と異なる傾向がみられた（図表 245）。これらのことから、活動資金の調達が課題である様子がうかがえた。

「伝統芸能や地域の伝統行事に関する活動資金補助」については、活動分野別では「生活文化（100.0%）」「演劇（71.4%）」の回答率が高く、活動年数別では「10 年以上 20 年未満（77.8%）」が最も高い（次頁図表 246、247）。会員数別では「10 人以上 20 人未満（69.6%）」が、会員の中心世代別では「50 歳代（90.0%）」が最も高い（次々頁図表 248、249）。

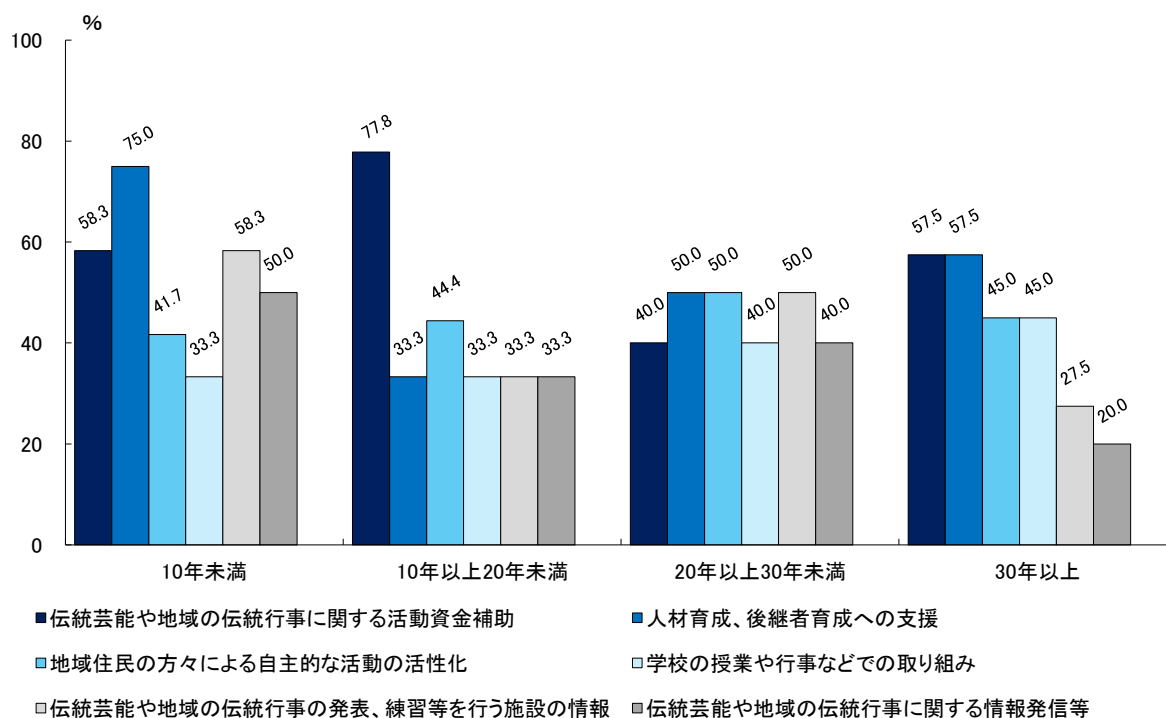
図表 245. 伝統芸能や地域の伝統行事を保存、持続可能なものとするために必要な対応（全体、複数回答）



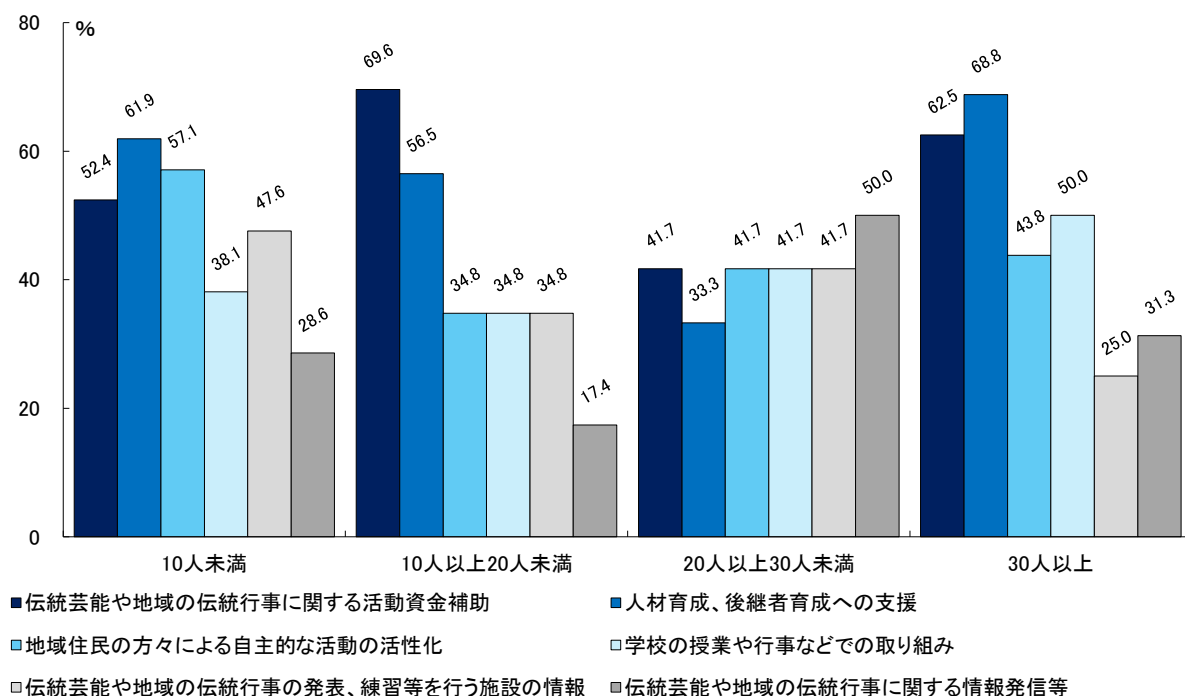
図表 246. 活動分野別 伝統芸能や地域の伝統行事を保存、持続可能なものとするために必要な対応（複数回答）



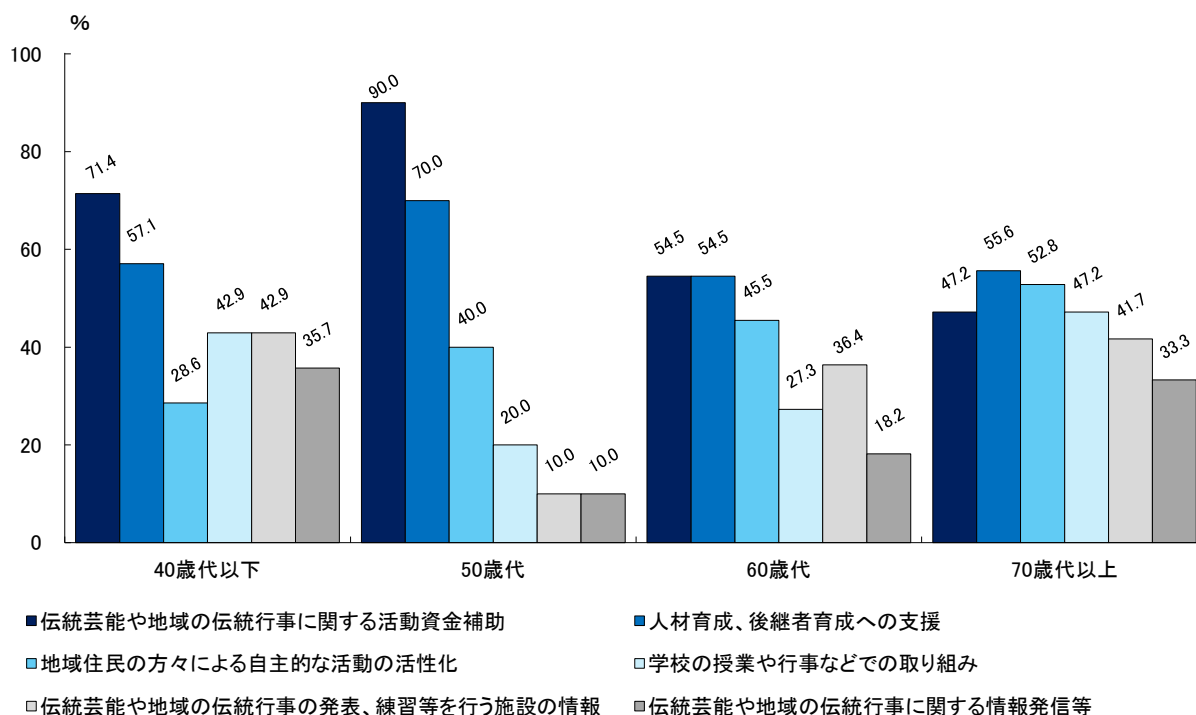
図表 247. 活動年数別 伝統芸能や地域の伝統行事を保存、持続可能なものとするために必要な対応（複数回答）



図表 248. 会員数別 伝統芸能や地域の伝統行事を保存、持続可能なものとするために必要な対応（複数回答）



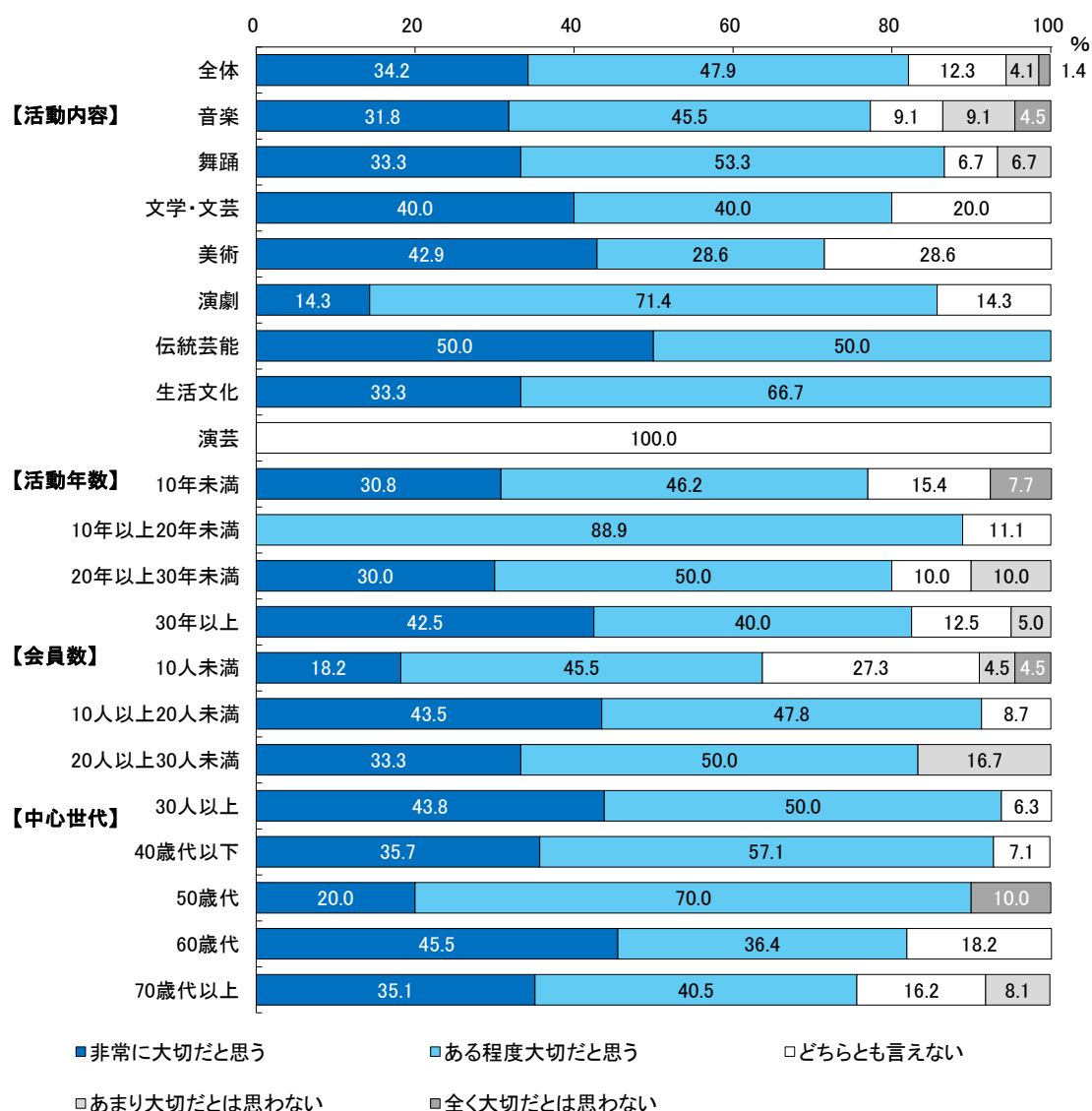
図表 249. 会員の中心世代別 伝統芸能や地域の伝統行事を保存、持続可能なものとするために必要な対応（複数回答）



2.4.15. 本市の文化・芸術の振興に尽くし、その功績が大変すばらしい市民に対して、表彰することへの思い

本市の文化・芸術の振興に尽くし、その功績が大変すばらしい市民に対して、表彰することへの思いについては、全体では「非常に大切だと思う」「ある程度大切だと思う」合計が 82.1%となり、市民向けアンケート調査、若者向けアンケート調査と同様の結果となった（図表 250）。属性別では、「どちらともいえない」が 100%となった「演芸」を除き総じて表彰に対して肯定的といえる。

図表 250. 本市の文化・芸術の振興に尽くし、その功績が大変すばらしい市民に対して、表彰することへの思い

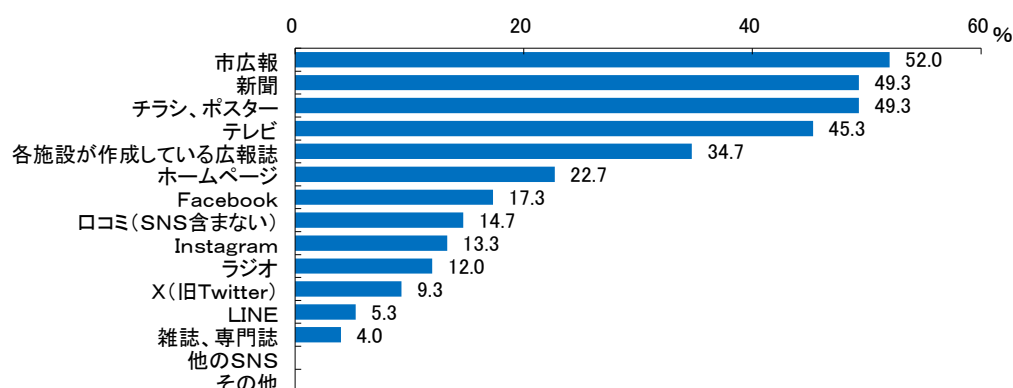


2.4.16. 文化・芸術に関する情報（イベントや講座等）の入手先（複数回答）

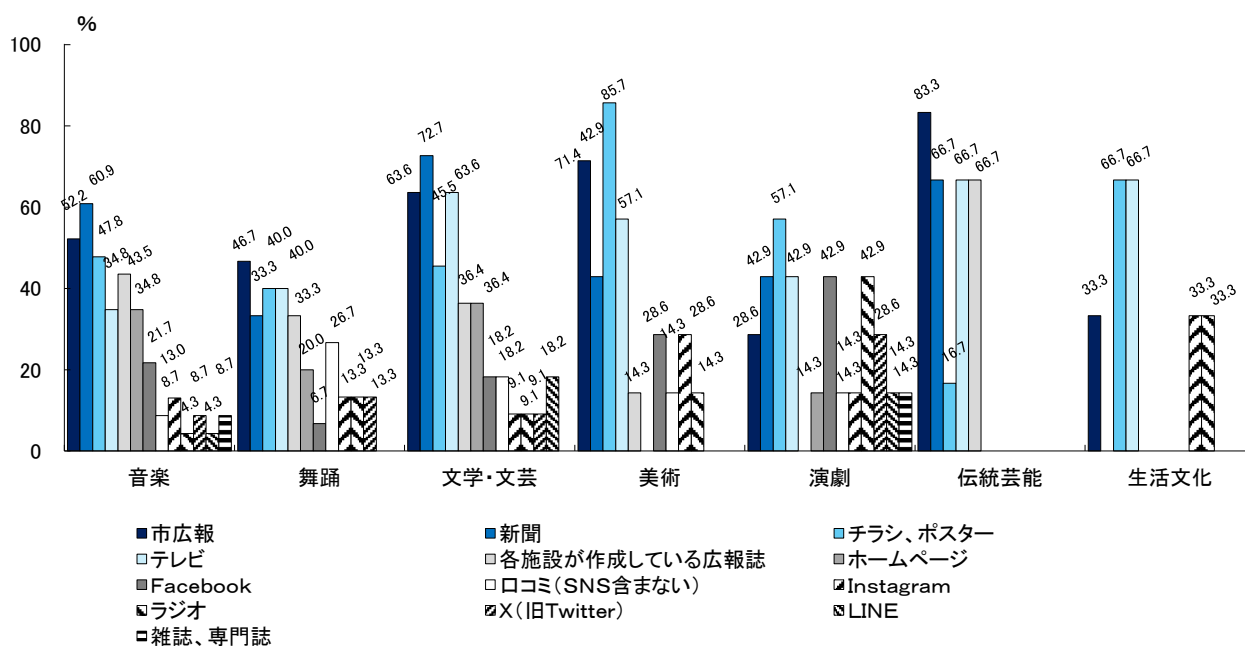
文化・芸術に関する情報（イベントや講座等）の入手先は、「市広報（52.0%）」が最も高く、2番目は「新聞（49.3%）」「チラシ・ポスター（49.3%）」となった（図表 251）。市民向けアンケートに近い傾向と考えられるが、テレビやデジタル媒体を主とする傾向が強く表れた若者向けアンケート調査とは大きく異なり、世代ギャップが顕著といえる。

「市広報」は、団体活動別では「伝統芸能（83.3%）」が最も高く、活動年数別では「10年以上20年未満（70.0%）」が、会員数別では「20人以上30年未満（66.7%）」が、会員の中心世代別では「70歳代以上（66.7%）」が最も高い（図表 252、次頁図表 253、254、次々頁図表 255）。

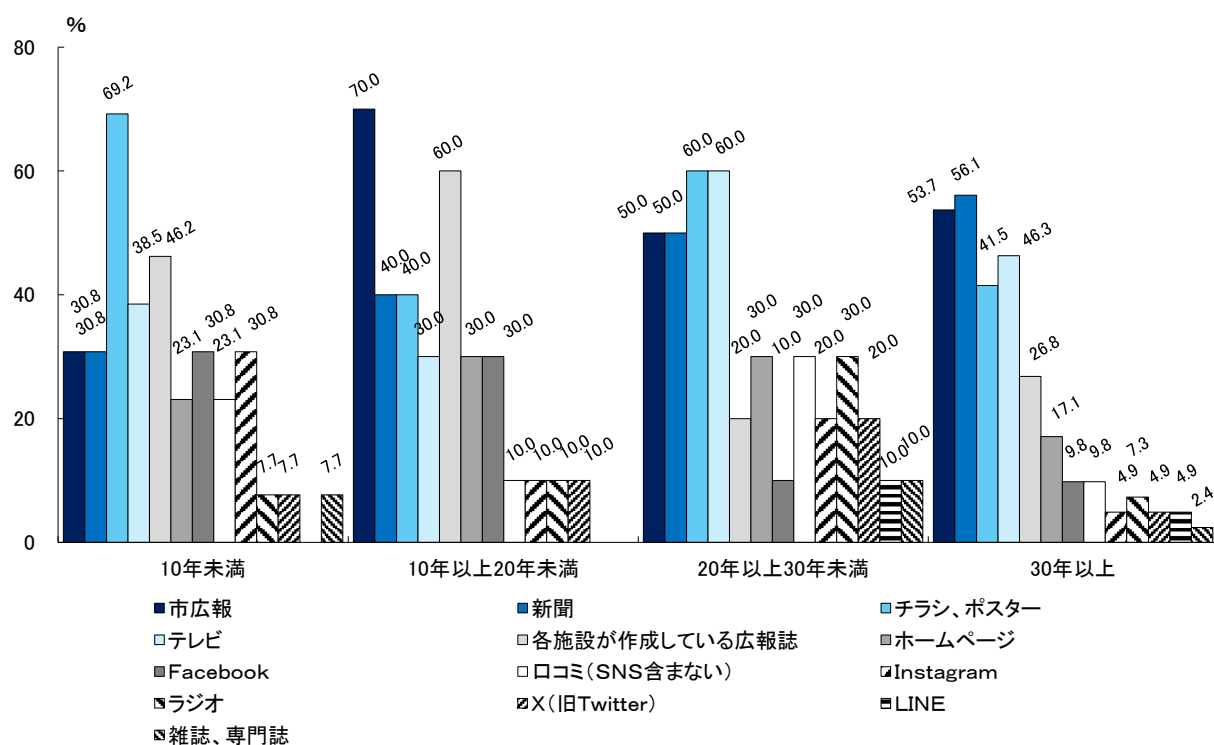
図表 251. 文化・芸術に関する情報（イベントや講座等）の入手先（全体、複数回答）



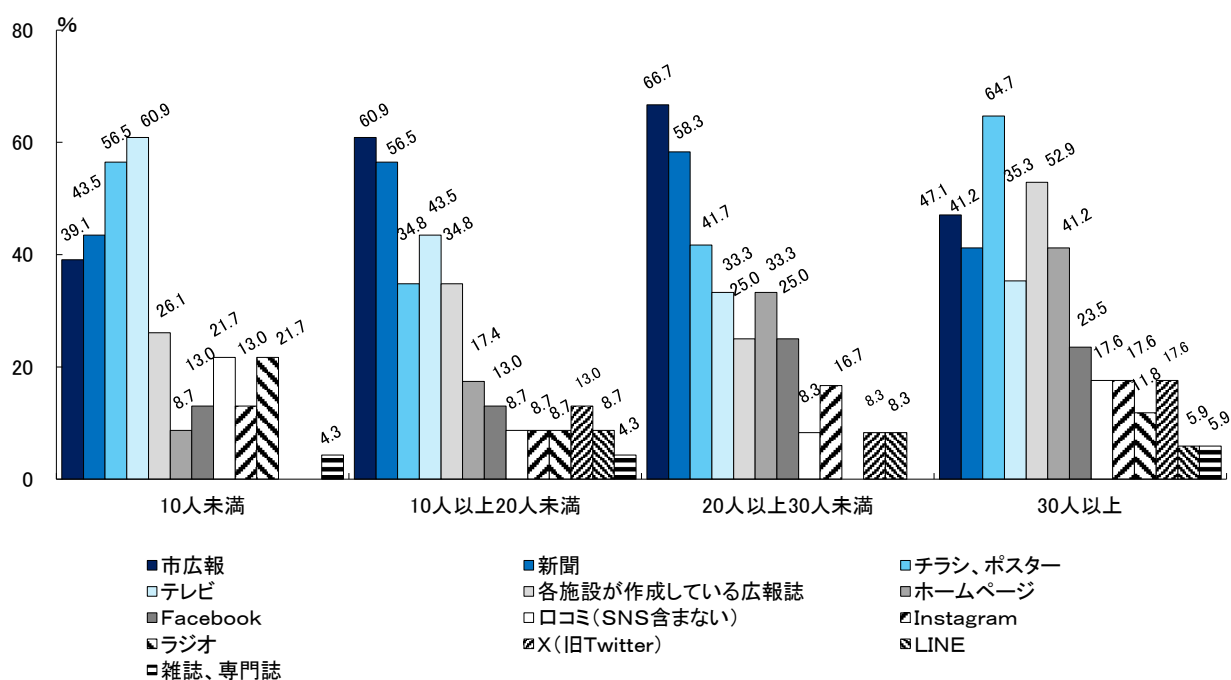
図表 252. 活動分野別 文化・芸術に関する情報（イベントや講座等）の入手先（複数回答）



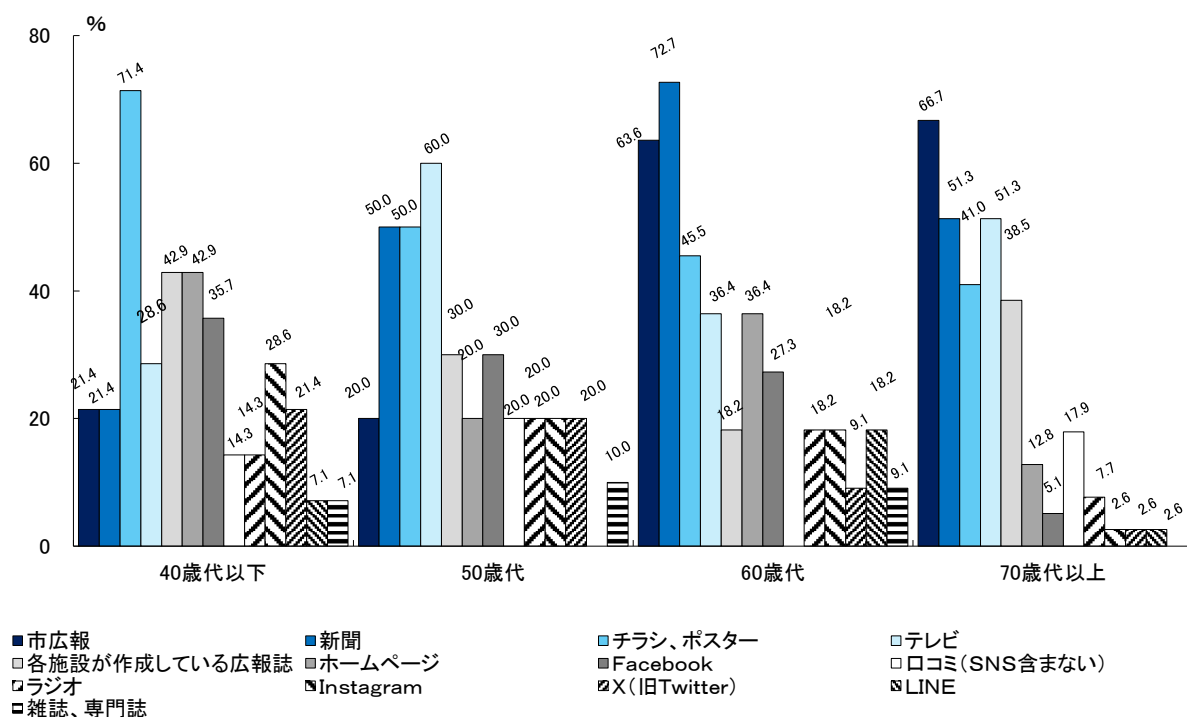
図表 253. 活動年数別 文化・芸術に関する情報（イベントや講座等）の入手先
（複数回答）



図表 254. 会員数別 文化・芸術に関する情報（イベントや講座等）の入手先（複数回答）



図表 255. 会員の中心世代別 文化・芸術に関する情報（イベントや講座等）の入手先（複数回答）

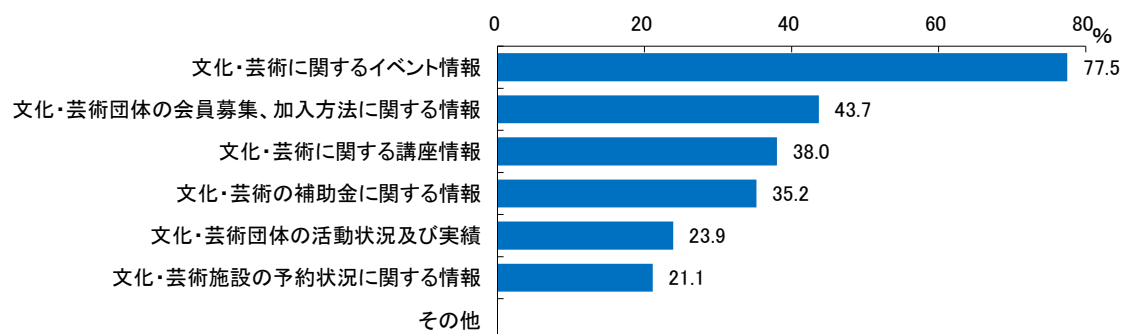


2.4.17. 本市に発信してほしい文化・芸術に関する情報

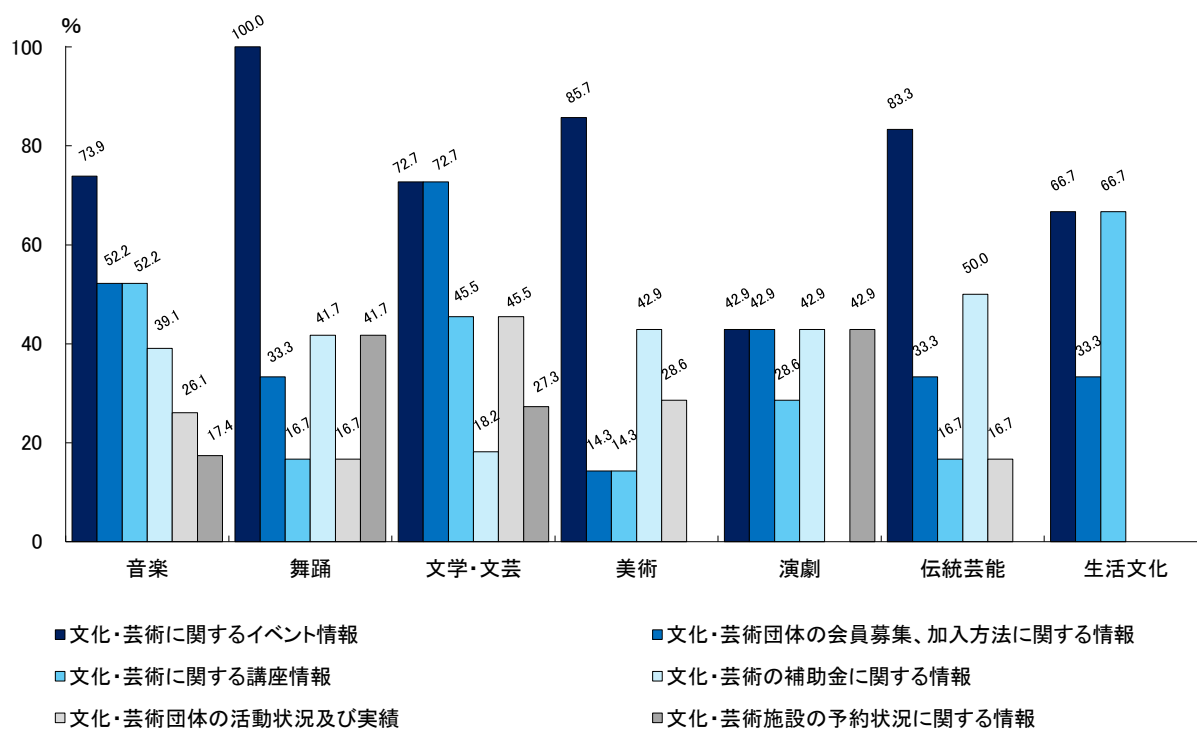
本市において発信してほしい文化・芸術に関する情報は、市民向けアンケート調査、若者向けアンケート調査と同様に「文化・芸術に関するイベント情報（77.5%）」が圧倒的に高い（図表 256）。2 番目は「文化・芸術団体の会員募集、加入方法に関する情報（43.7%）」となり、団員等の確保を課題とする傾向がうかがえた。

全ての属性の全項目で「文化・芸術に関するイベント情報」が最も高く、周知方法が課題であることを示す結果となった（次頁図表 257、258、次々頁図表 259、260）。

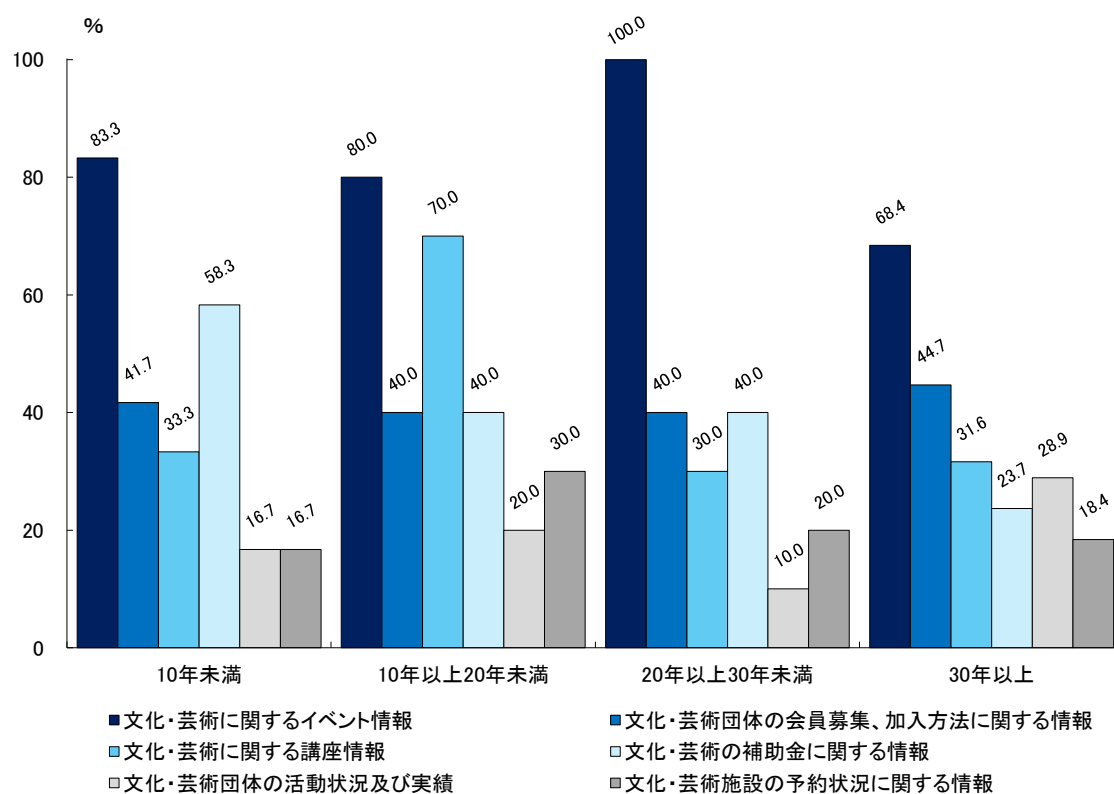
図表 256. 本市に発信してほしい文化・芸術に関する情報（全体、複数回答）



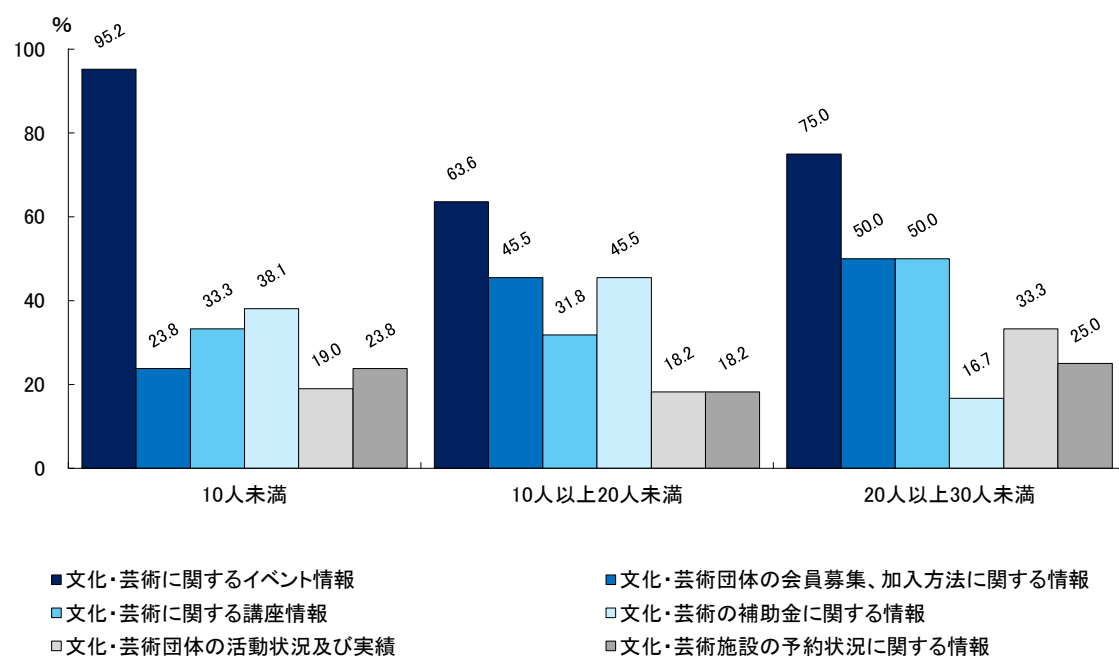
図表 257. 活動分野別 本市に発信してほしい文化・芸術に関する情報（複数回答）



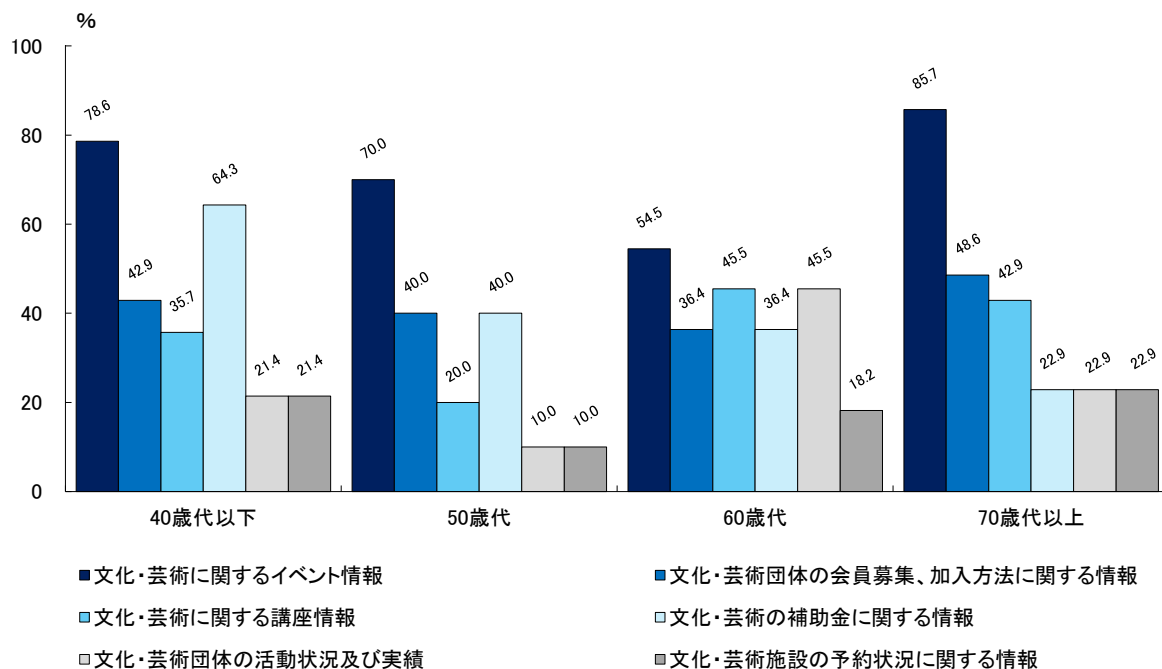
図表 258. 活動年数別 本市に発信してほしい文化・芸術に関する情報（複数回答）



図表 259. 会員数別 本市に発信してほしい文化・芸術に関する情報（複数回答）



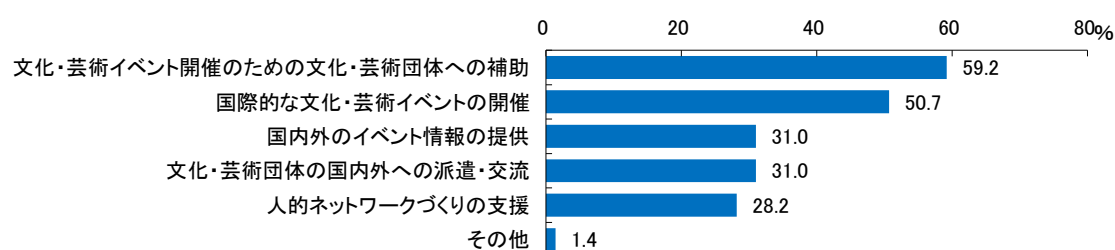
図表 260. 会員の中心世代別 本市に発信してほしい文化・芸術に関する情報（複数回答）



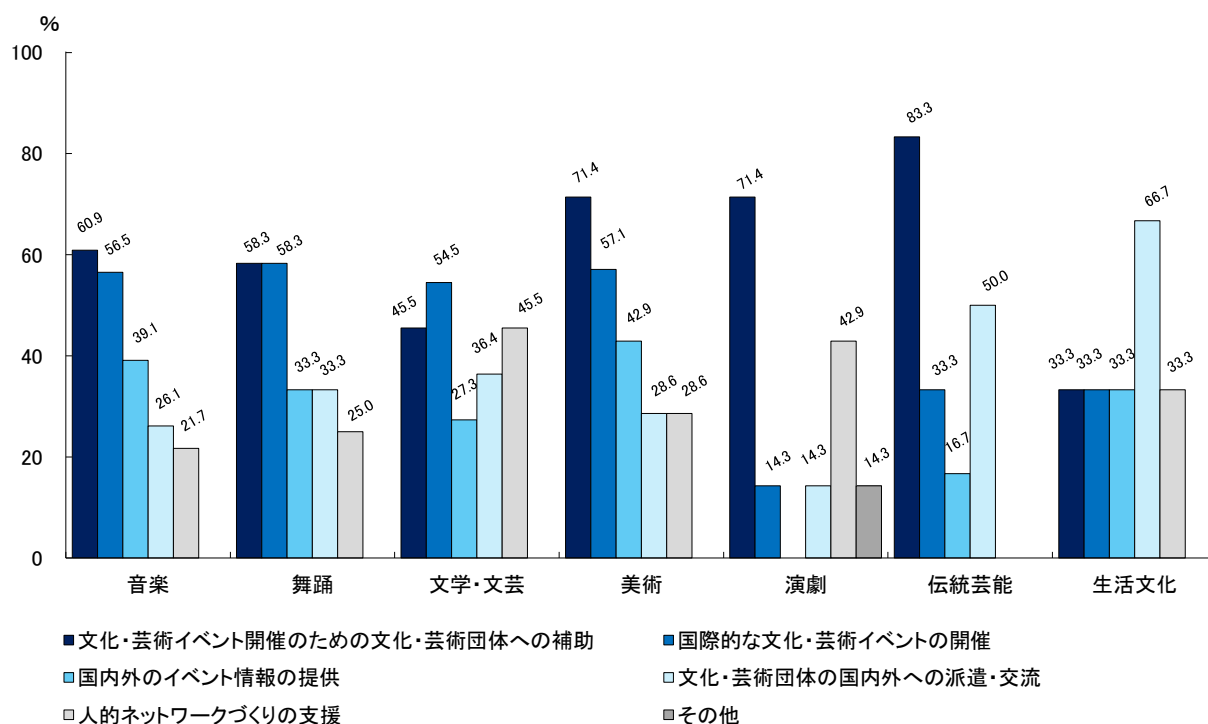
2.4.18. 本市の文化・芸術を通じた国内外の人々の交流を促進するために必要な対応

本市の文化・芸術を通じた国内外の人々の交流を促進するために必要な対応は、「文化・芸術イベント開催のための文化・芸術団体への補助（59.2%）」が最も高く、市民向けアンケート調査、若者向けアンケート調査〔両調査「国際的な文化・芸術イベントの開催」が最も高い〕と異なる結果となった（図表 261）。全ての属性の多くの項目で「文化・芸術イベント開催のための文化・芸術団体への補助」が最も高いことから補助を求める声強いことが明らかとなった（図表 262、次頁図表 263、264、次々頁図表 265）。

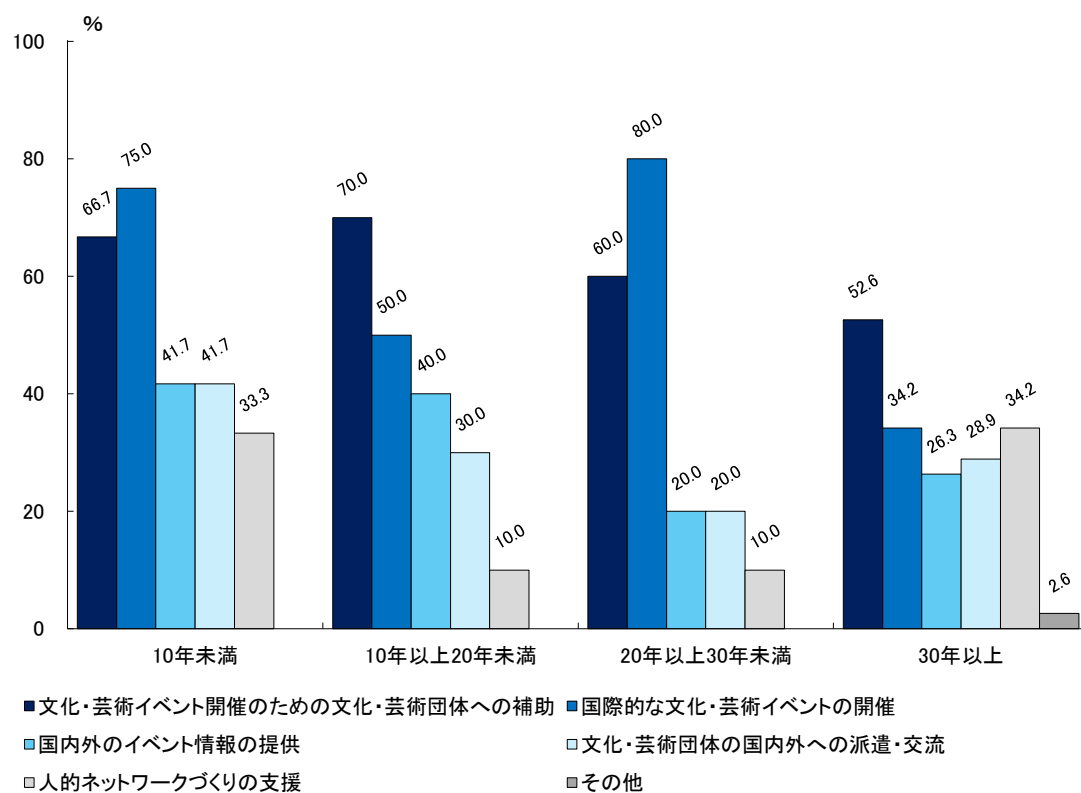
図表 261. 本市の文化・芸術を通じた国内外の人々の交流を促進するために必要な対応
（全体、複数回答）



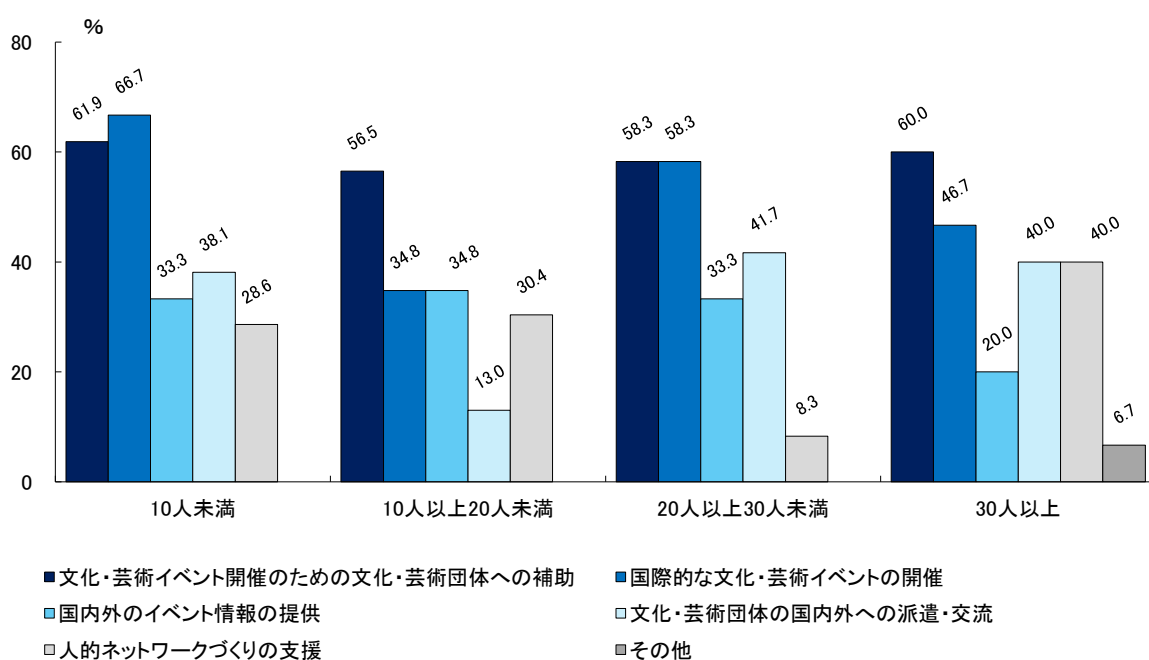
図表 262. 活動分野別 本市の文化・芸術を通じた国内外の人々の交流を促進するために必要な対応（複数回答）



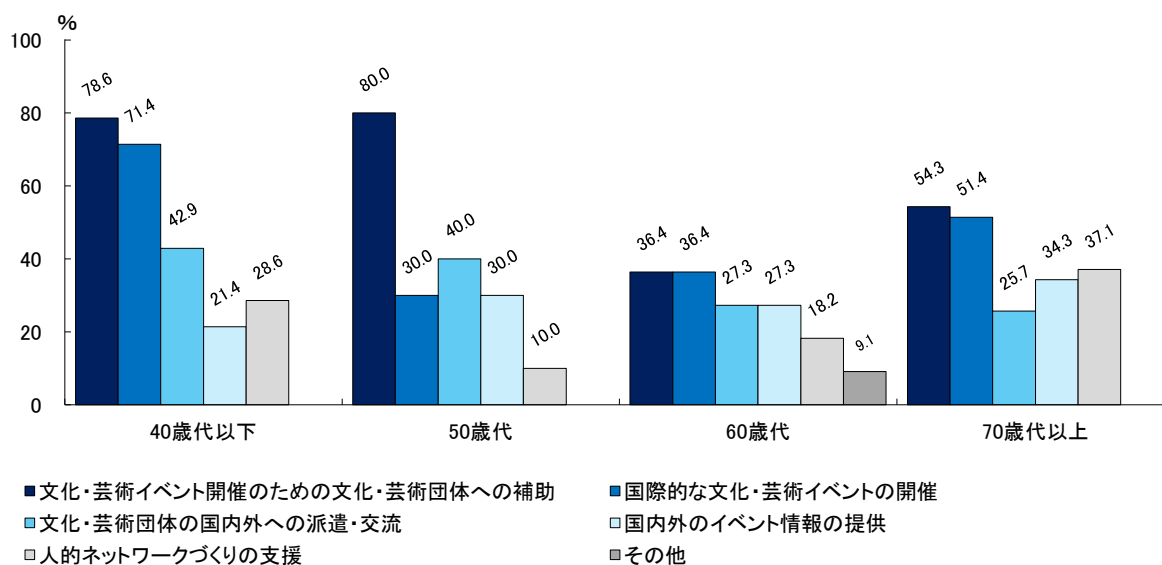
図表 263. 活動年数別 本市の文化・芸術を通じた国内外の人々の交流を促進するために必要な対応（複数回答）



図表 264. 会員数別 本市の文化・芸術を通じた国内外の人々の交流を促進するために必要な対応（複数回答）



図表 265. 会員の中心世代別 本市の文化・芸術を通じた国内外の人々の交流を促進するために必要な対応（複数回答）

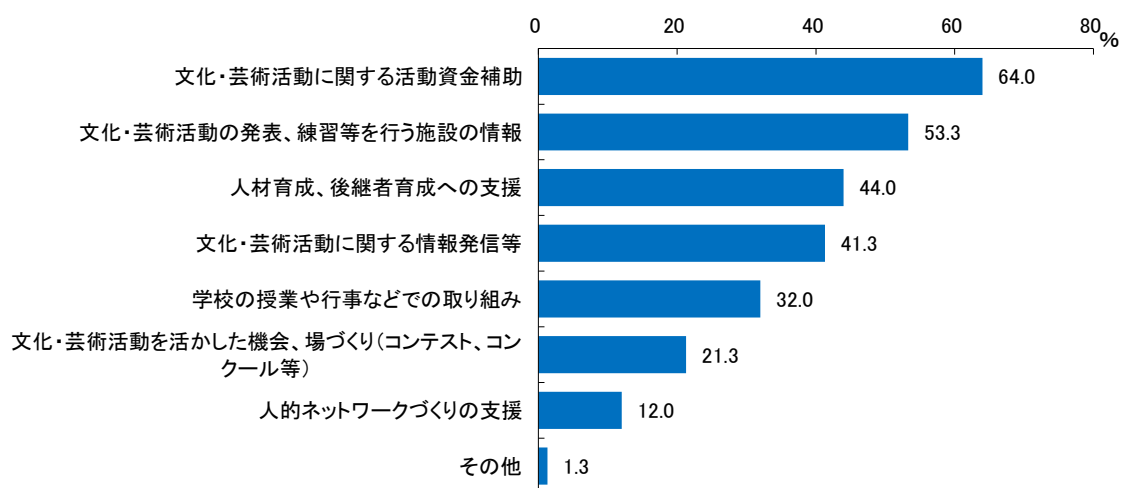


2. 4. 19. 文化・芸術の担い手となる人材の育成及び確保のためにあると良い支援

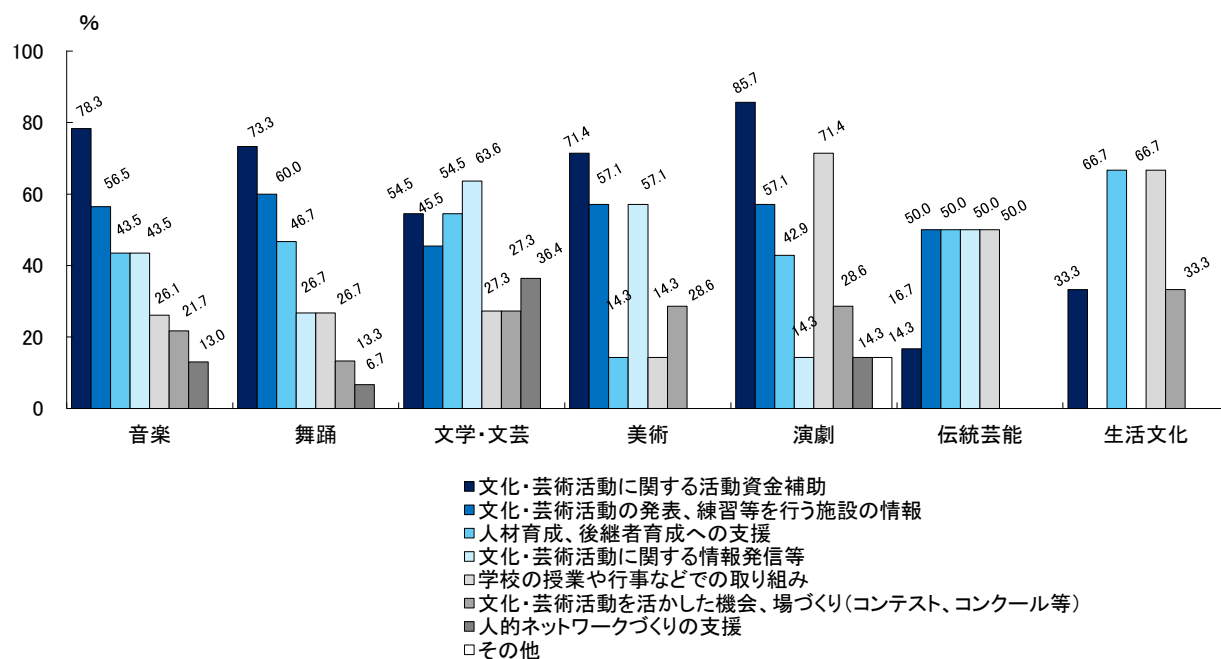
文化・芸術の担い手となる人材の育成及び確保のためにあると良い支援は、「文化・芸術活動に関する活動資金補助（64.0%）」が最も高く、市民向けアンケート調査、若者向けアンケート調査と同様の結果となった（図表 266）。

属性別においては、活動分野別の「伝統芸能」「生活文化」、活動年数別の「10 年未満」を除く全ての属性で「文化・芸術活動に関する活動資金補助」が最も高く、支援を求める声の幅広さを認識するものと考えられた（次頁図表 267、268、次々頁図表 269、270）。

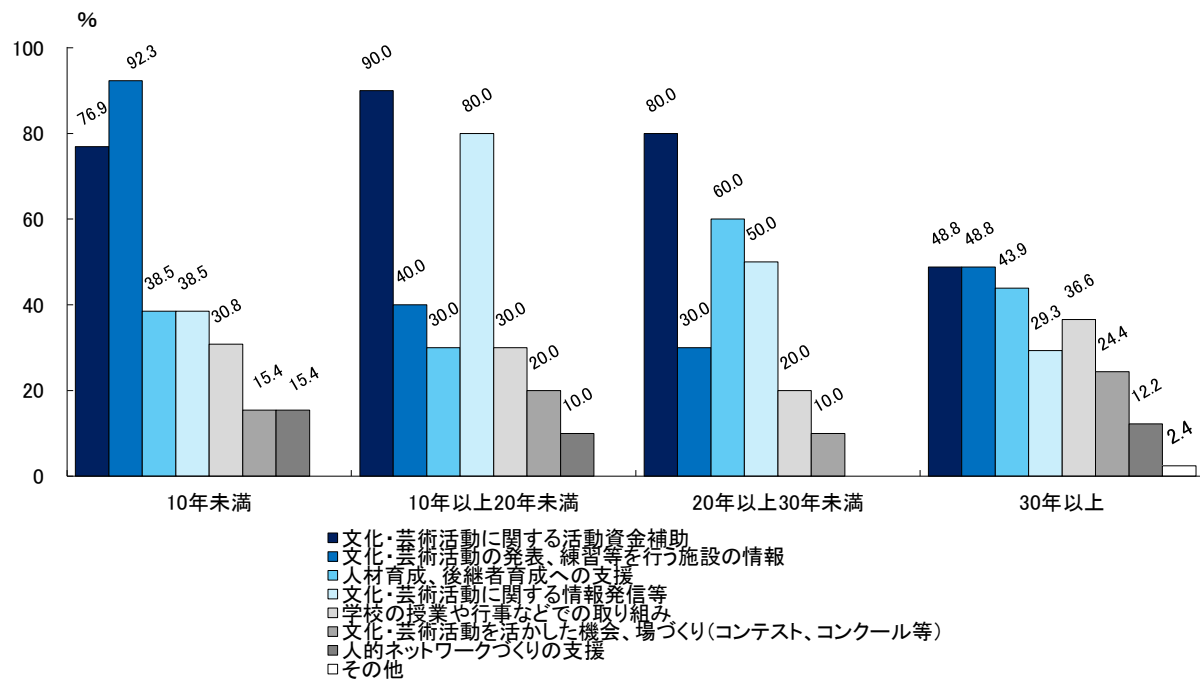
図表 266. 文化・芸術の担い手となる人材の育成及び確保のためにあると良い支援（全体、複数回答）



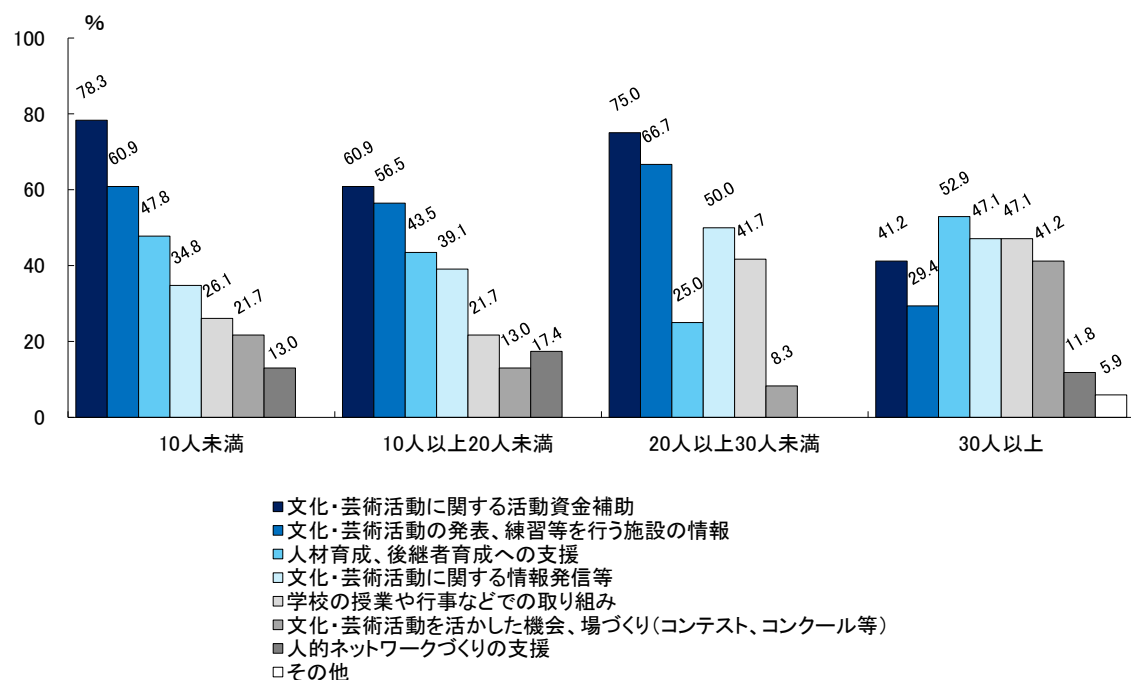
図表 267. 活動分野別 文化・芸術の担い手となる人材の育成及び確保のためにあると良い支援（複数回答）



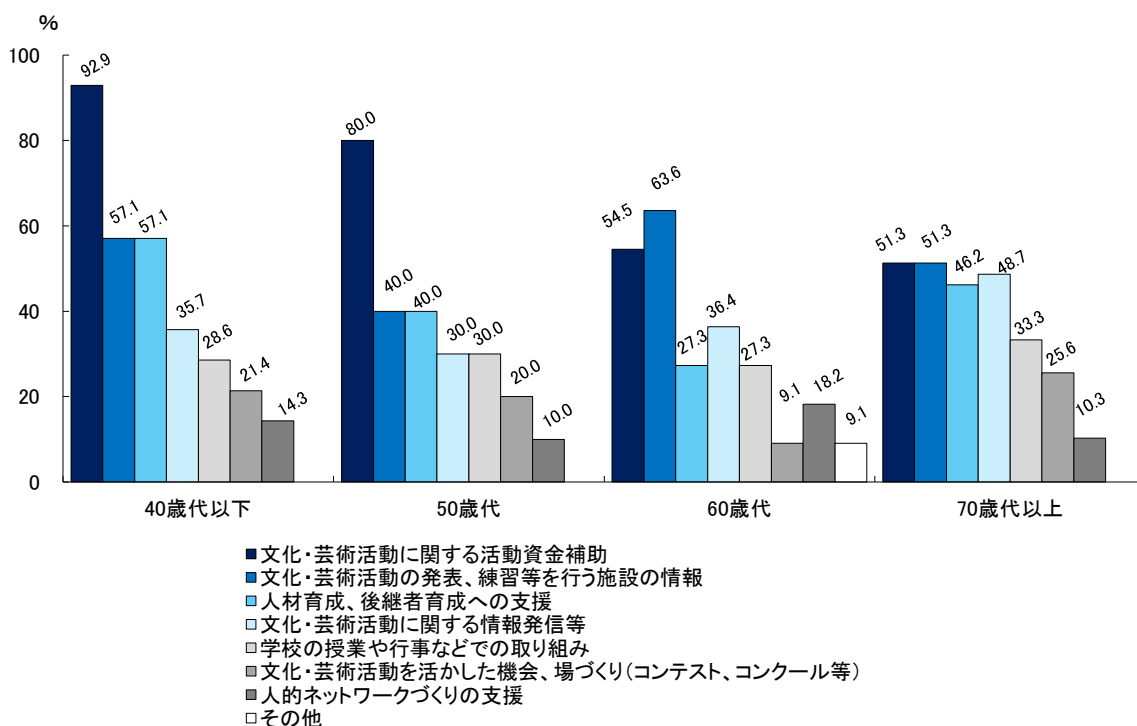
図表 268. 活動年数別 文化・芸術の担い手となる人材の育成及び確保のためにあると良い支援（複数回答）



図表 269. 会員数別 文化・芸術の担い手となる人材の育成及び確保のためにあると良い支援（複数回答）



図表 270. 会員の中心世代別 文化・芸術の担い手となる人材の育成及び確保のためにあると良い支援（複数回答）

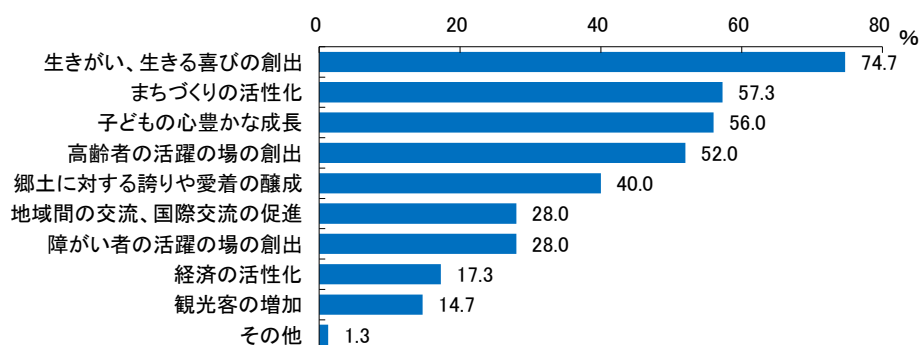


2.4.20. 文化・芸術の振興により、社会にもたらされる効果として期待すること

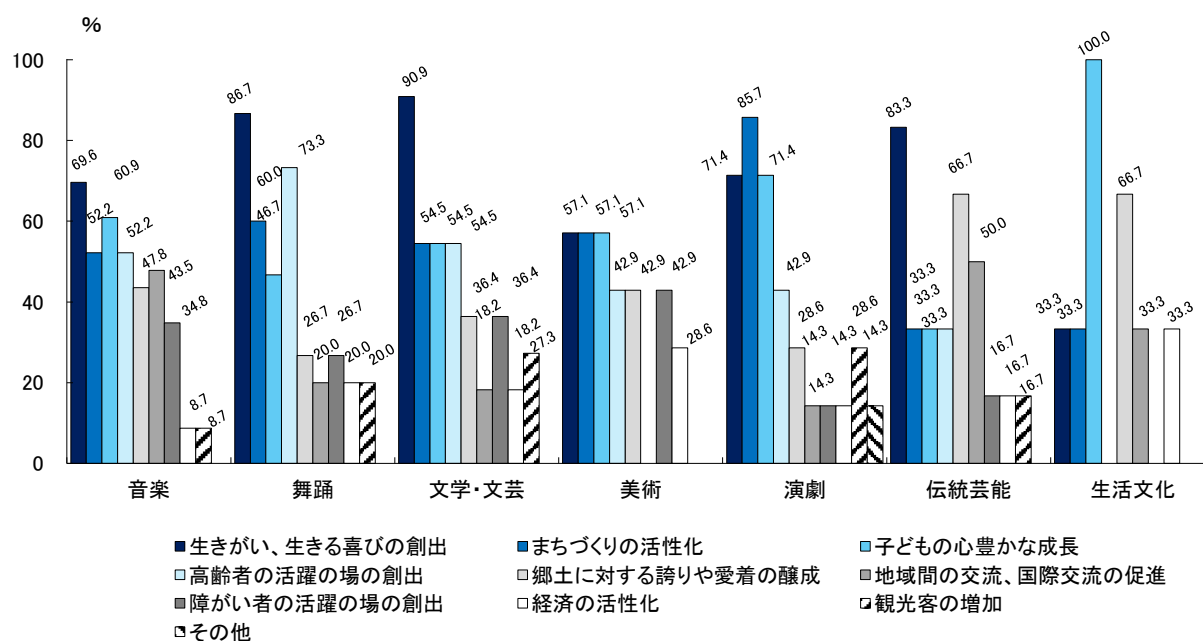
文化・芸術の振興により社会にもたらされる効果として期待することは、「生きがい、生きる喜びの創出（74.7%）」が最も高く、市民向けアンケート調査[「まちづくりの活性化（63.8%）」が最も高い]、若者向けアンケート調査[「まちづくりの活性化（62.3%）」が最も高い]と異なる傾向がみられた（図表 271）。年代や立場が異なると効果としての期待がうかがえるといえる。

属性別においても、「生きがい、生きる喜びの創出」が多くの属性・項目で高い傾向がみられ、社会における豊かさを創出する効果として期待が高いと認識していることが明らかとなった（図表 272、次頁図表 273、274、次々頁図表 275）。

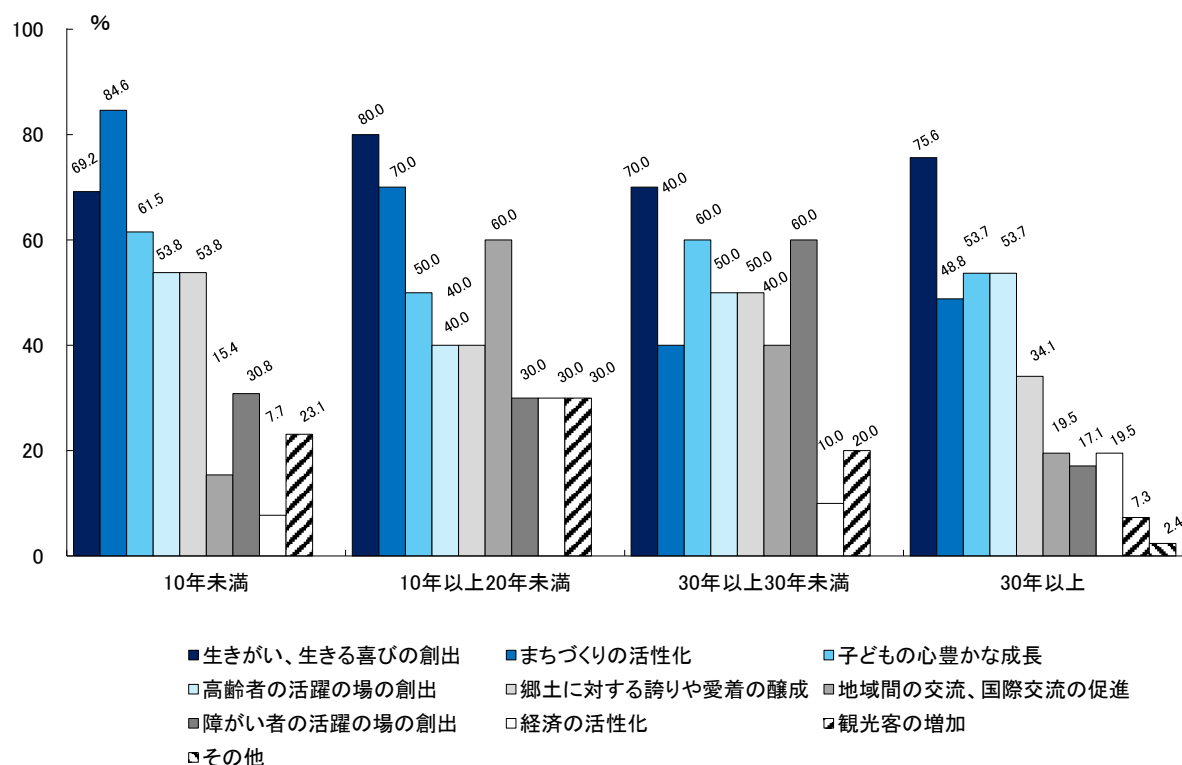
図表 271. 文化・芸術の振興により、社会にもたらされる効果として期待すること
（全体、複数回答）



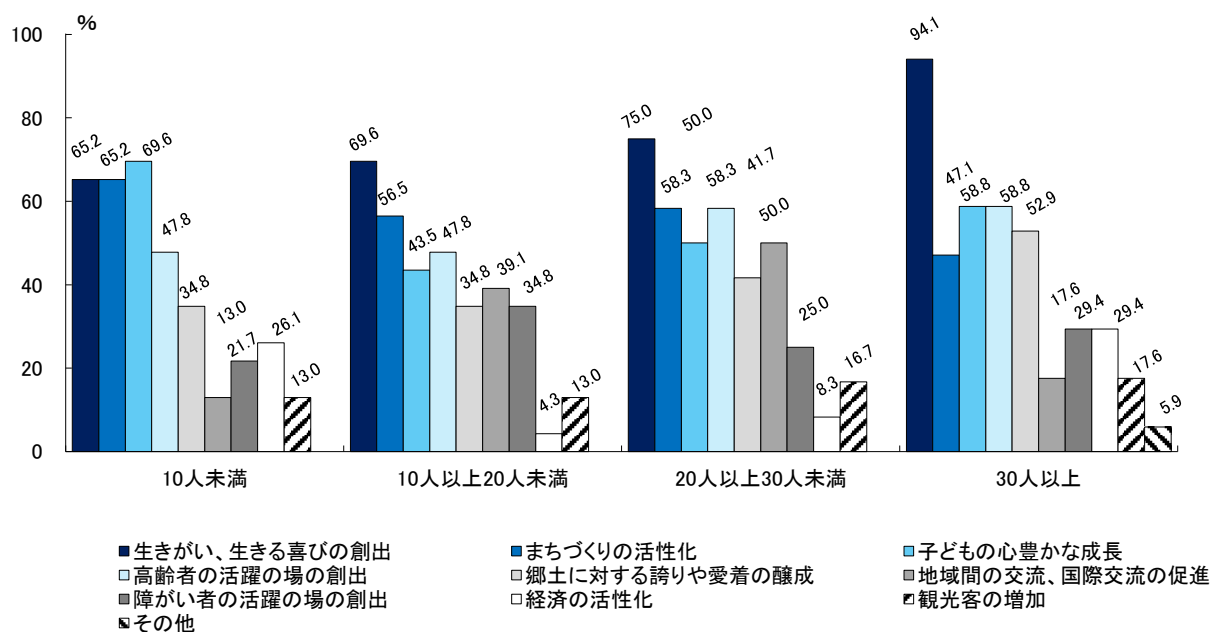
図表 272. 活動分野別 文化・芸術の振興により、社会にもたらされる効果として期待すること（複数回答）



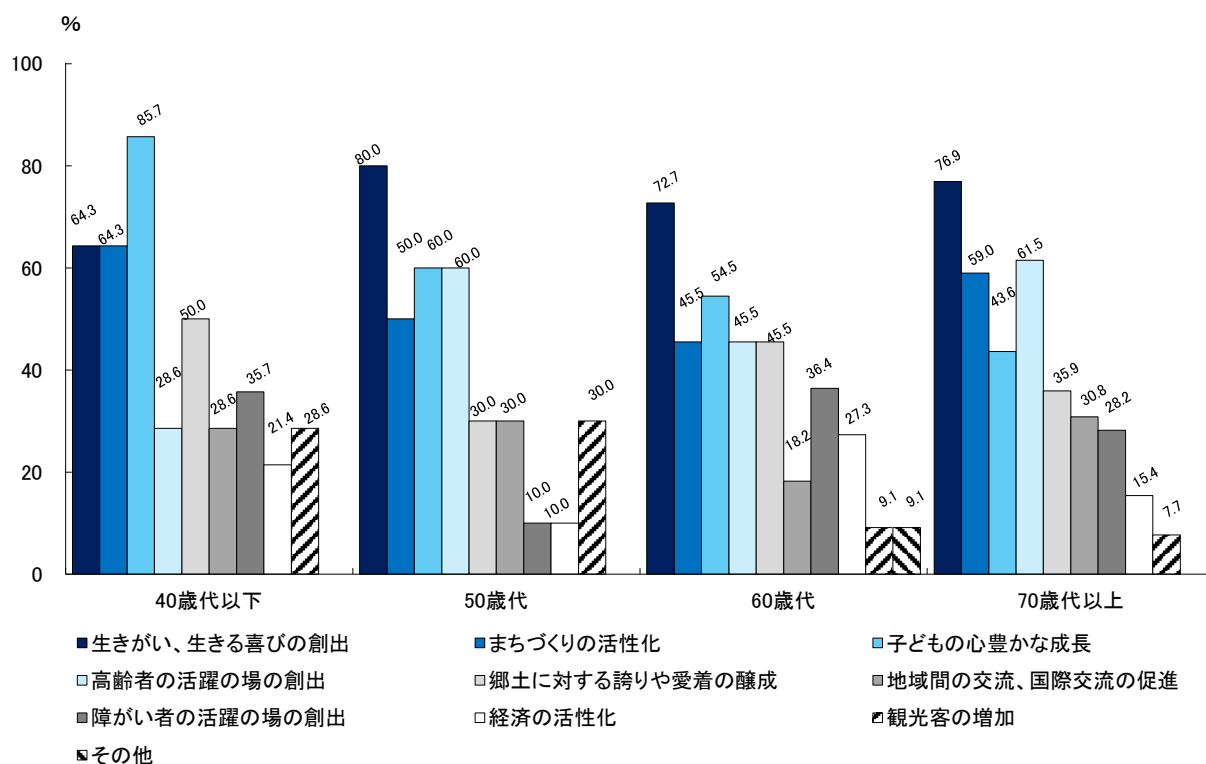
図表 273. 活動年数別 文化・芸術の振興により、社会にもたらされる効果として期待すること（複数回答）



図表 274. 会員数別 文化・芸術の振興により、社会にもたらされる効果として期待すること（複数回答）



図表 275. 会員の中心世代別 文化・芸術の振興により、社会にもたらされる効果として期待すること（複数回答）

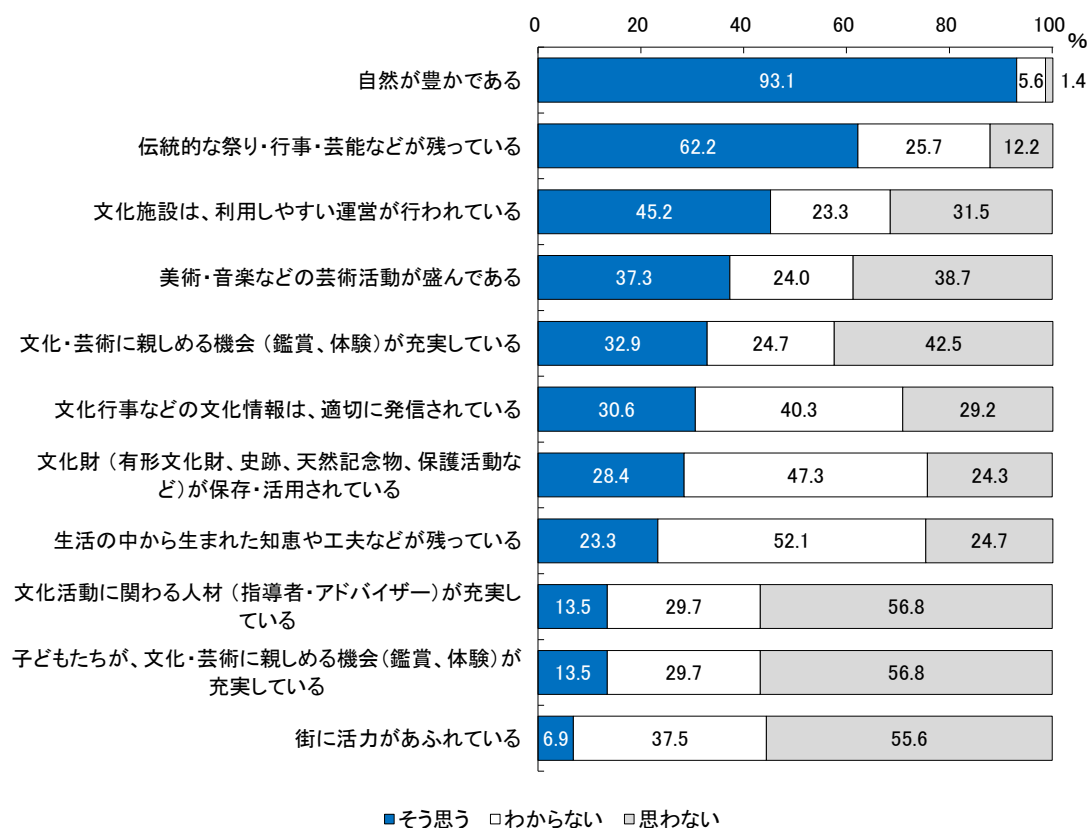


2.4.21. 本市の文化・芸術の現状に関するイメージ

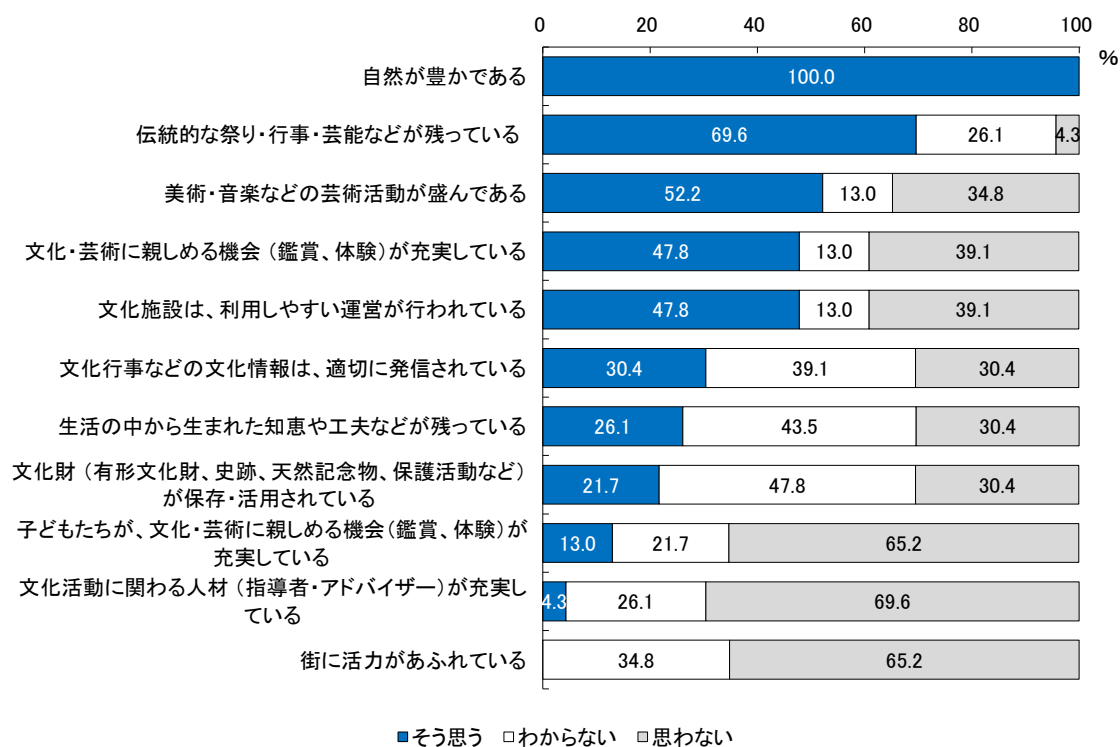
本市の文化・芸術の現状に関するイメージの「そう思う」は、全体及び全ての属性・全項目で「自然が豊かである」が最も高く、市民向けアンケート調査、若者向けアンケート調査と同様の結果となった（次頁図表 276-144 頁図表 295）。多くの属性・項目で「伝統的な祭り・行事・芸能などが残っている」が2番目となったが、活動内容が「生活文化」の団体、活動年数が「10年以上20年未満」「20年以上30年未満」の団体、会員の中心世代が「50歳代」「60歳代」の団体は異なる項目が2番目となった。

肯定的な回答率が低い項目の多くに子どもとの接点不足や人材不足、街の活気が目立ち、多様な団体が課題として捉えている様子が見える。

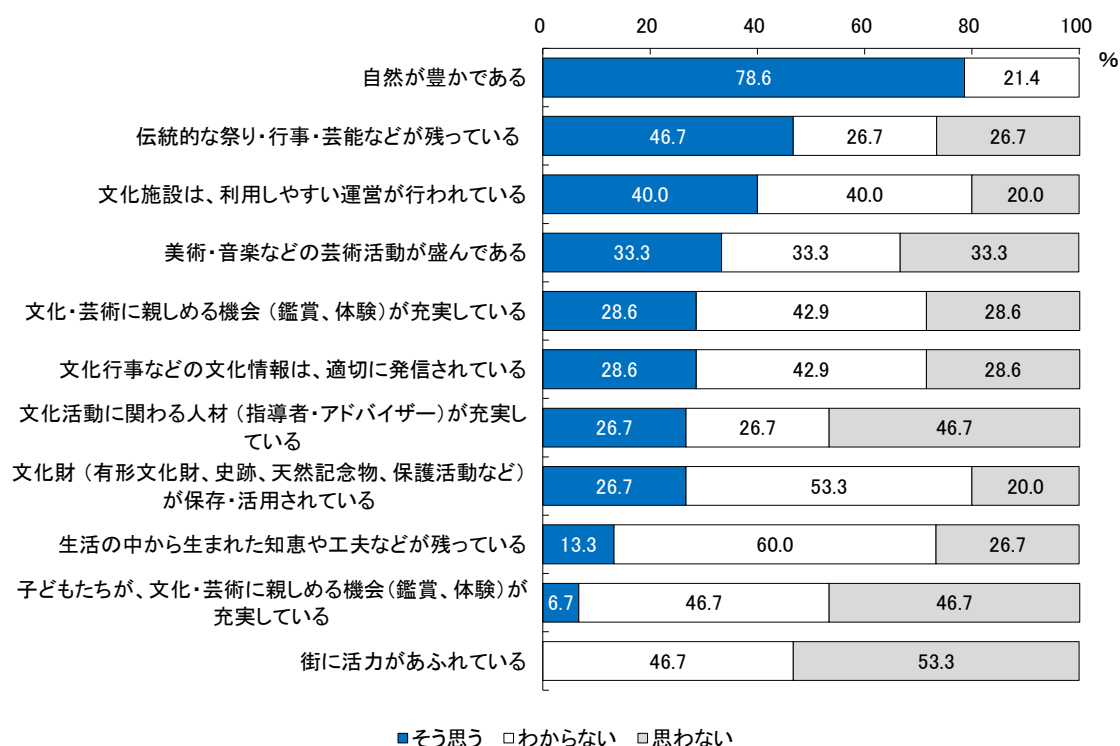
図表 276. 本市の文化・芸術の現状に関するイメージ（全体）



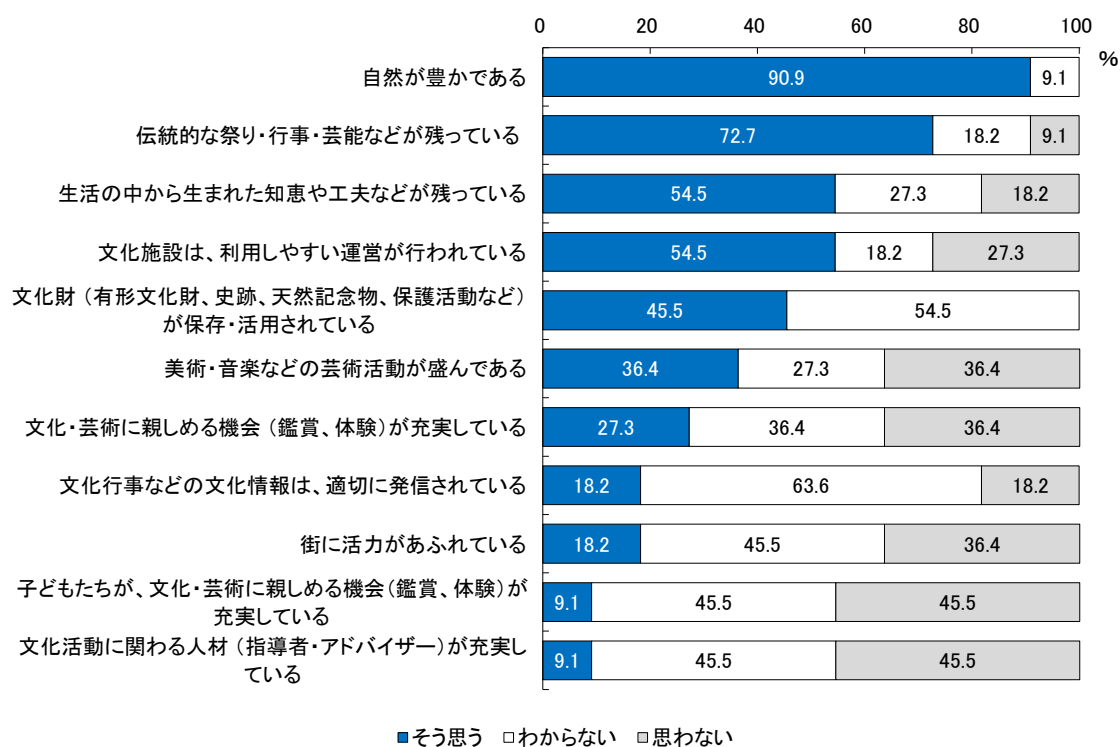
図表 277. 活動内容【音楽】団体の本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



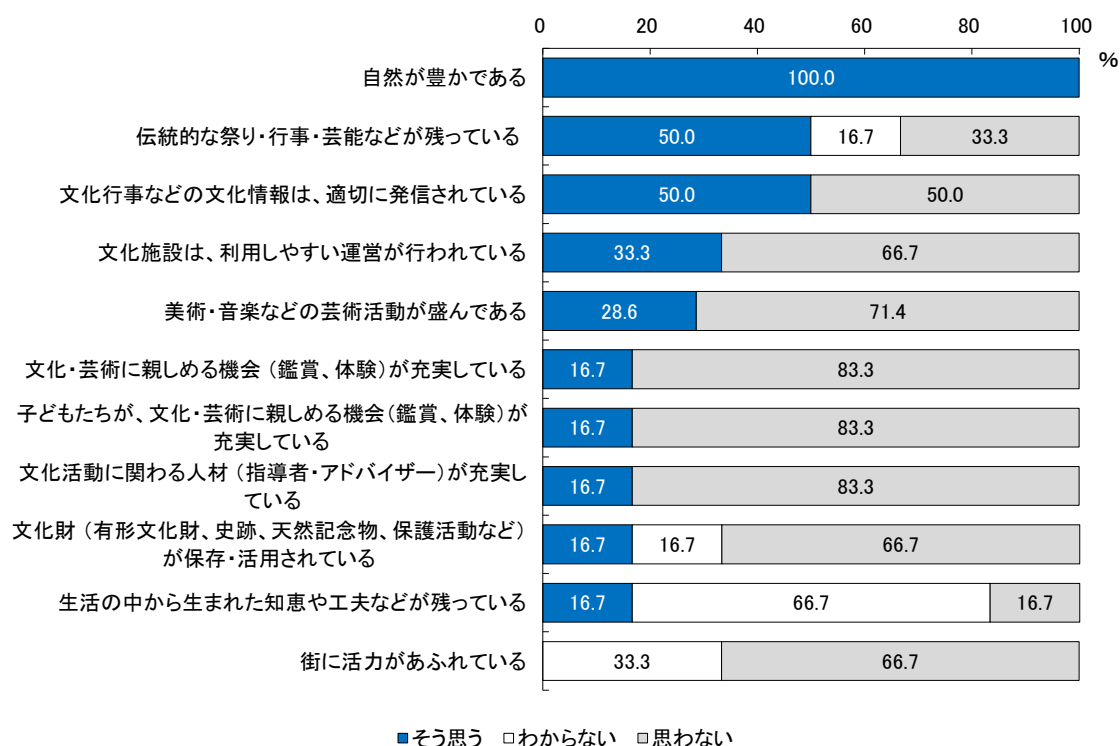
図表 278. 活動内容【舞踊】団体の本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



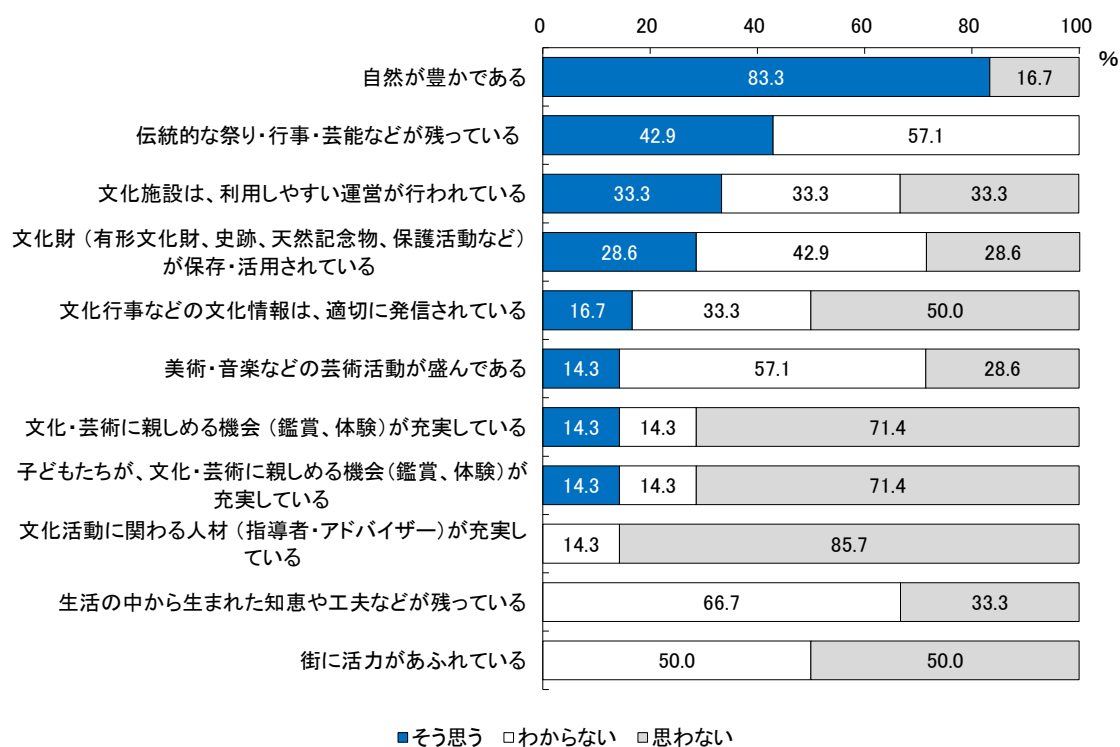
図表 279. 活動内容【文学・文芸】団体の本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



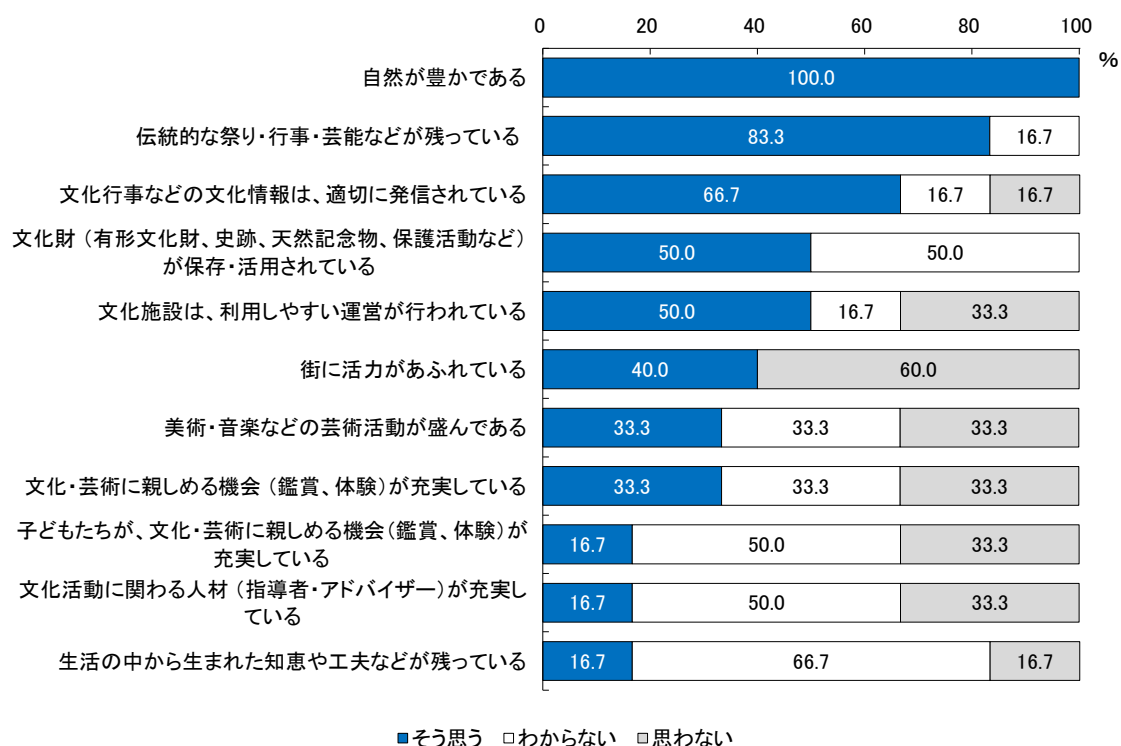
図表 280. 活動内容【美術】団体の本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



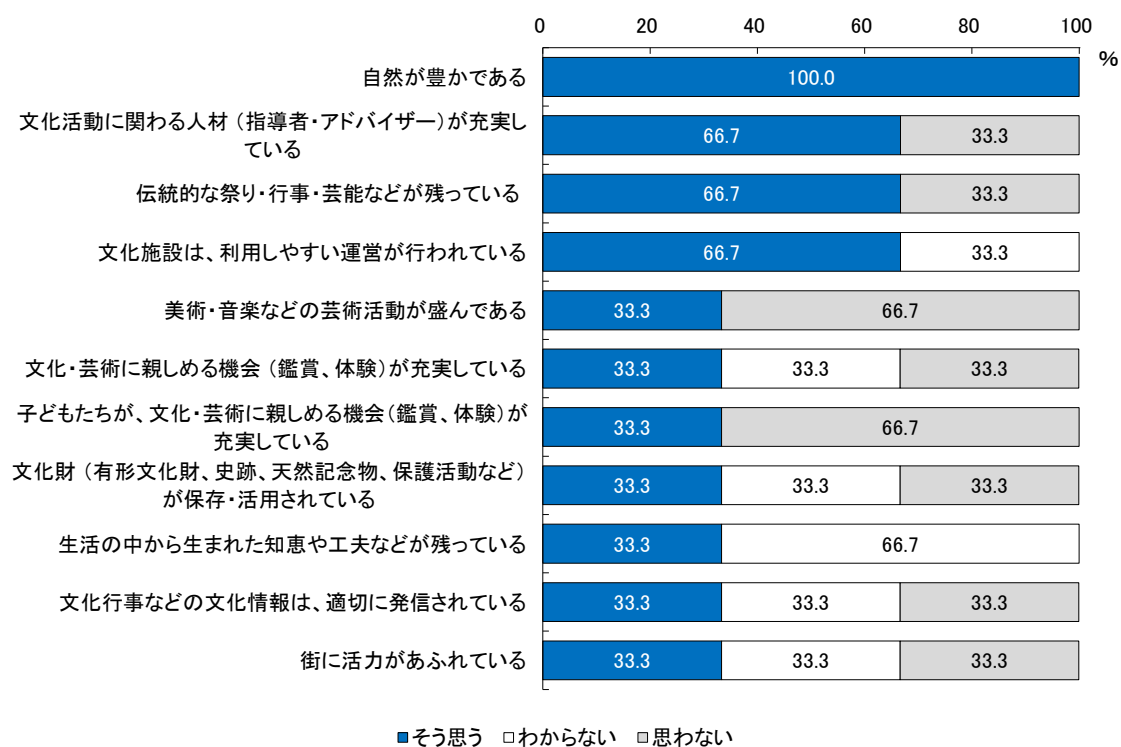
図表 281. 活動内容【演劇】団体の本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



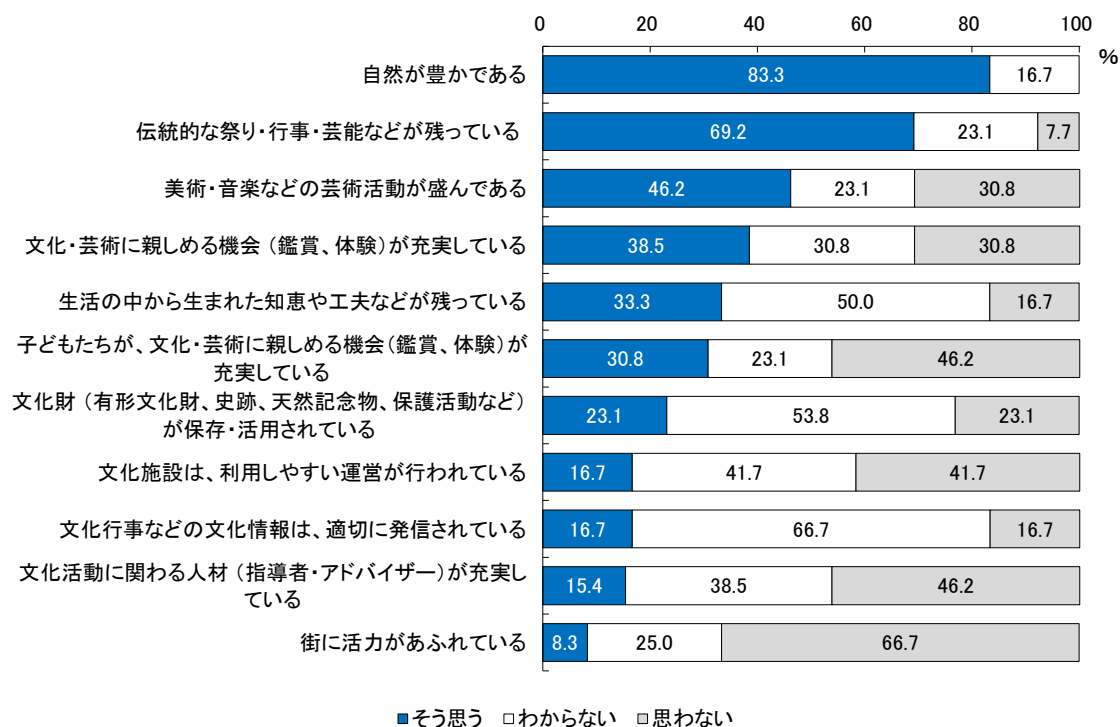
図表 282. 活動内容【伝統芸能】団体の本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



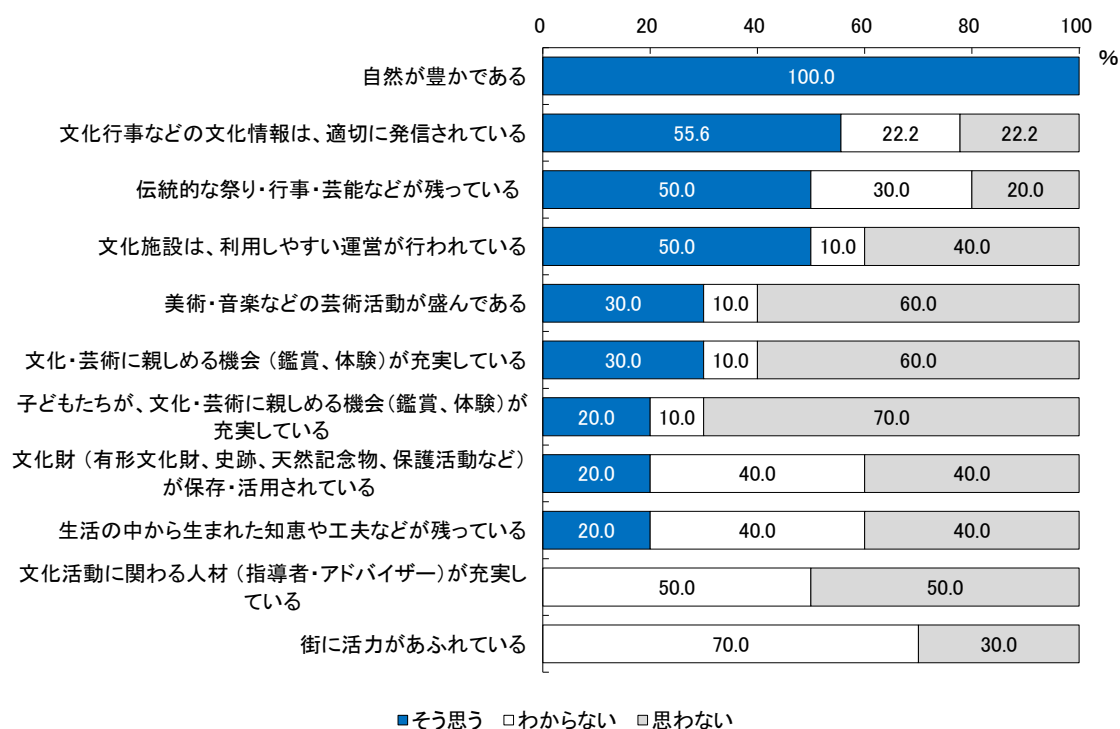
図表 283. 活動内容【生活文化】団体の本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



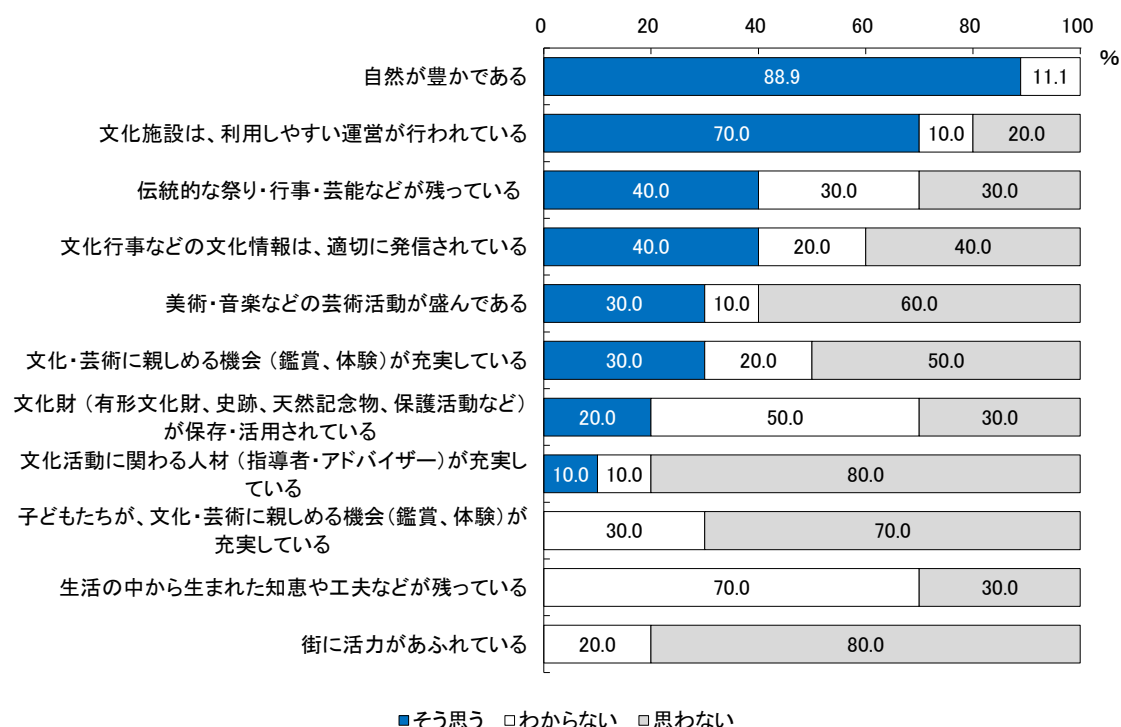
図表 284. 活動年数【10 年未満】団体の本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



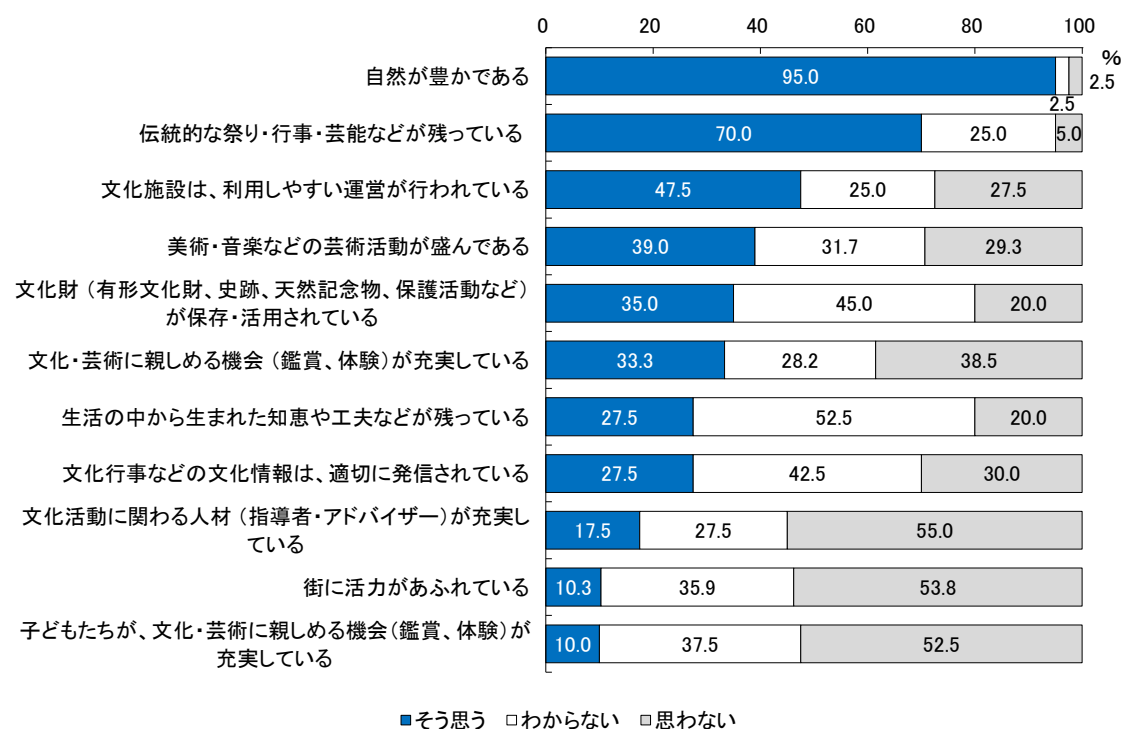
図表 285. 活動年数【10 年以上 20 年未満】団体の本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



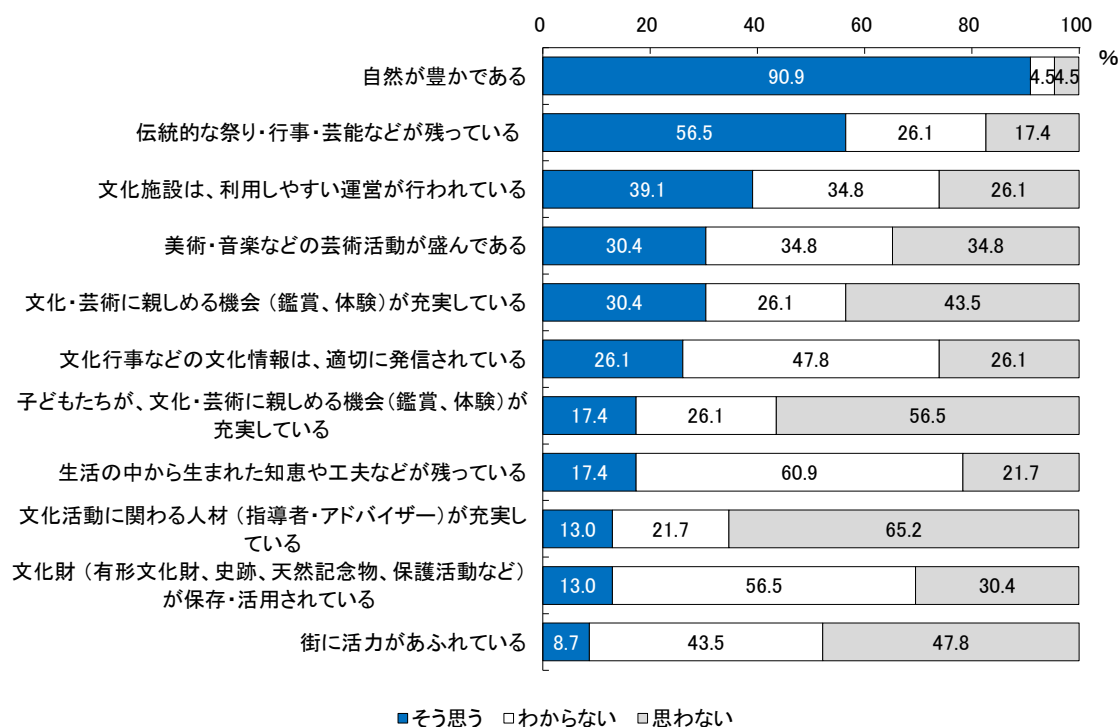
図表 286. 活動年数【20 年以上 30 年未満】団体の本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



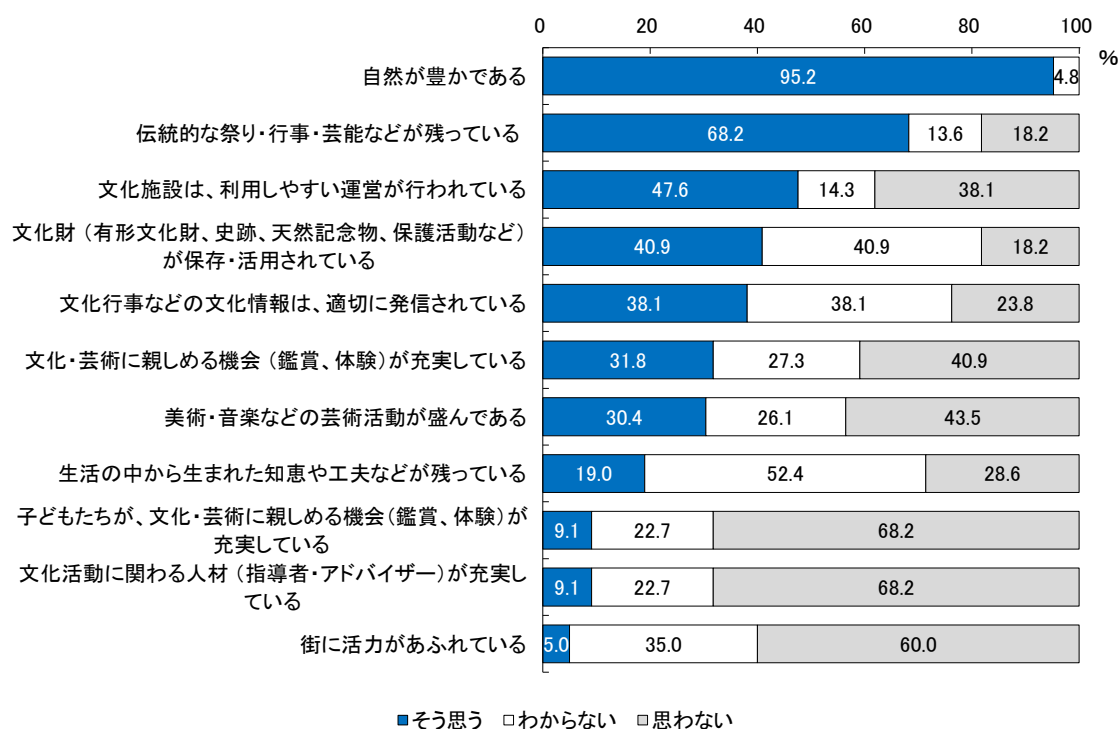
図表 287. 活動年数【30 年以上】団体の本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



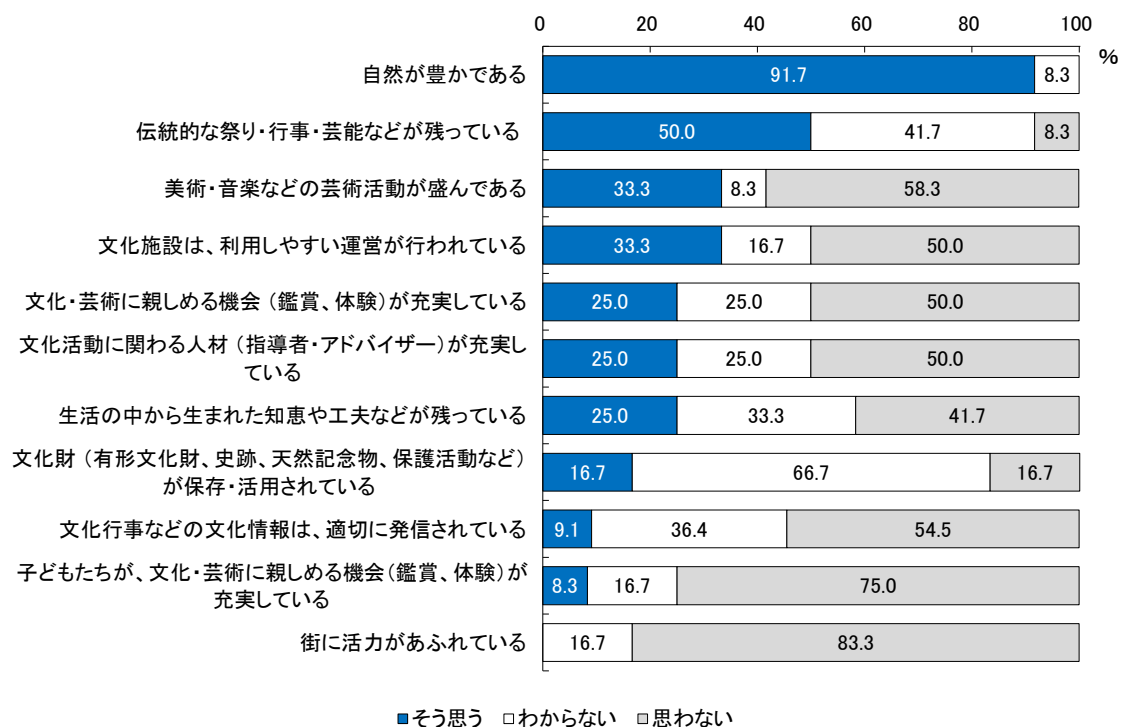
図表 288. 会員数【10 人未満】団体の本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



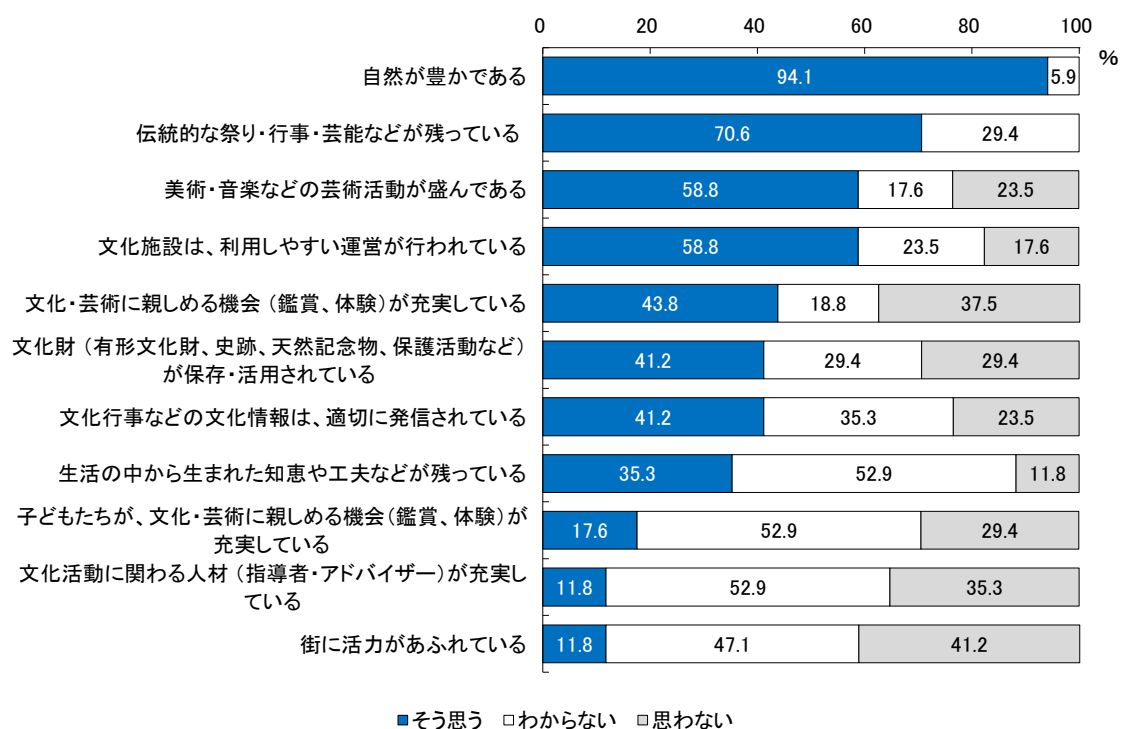
図表 289. 会員数【10 人以上 20 人未満】団体の本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



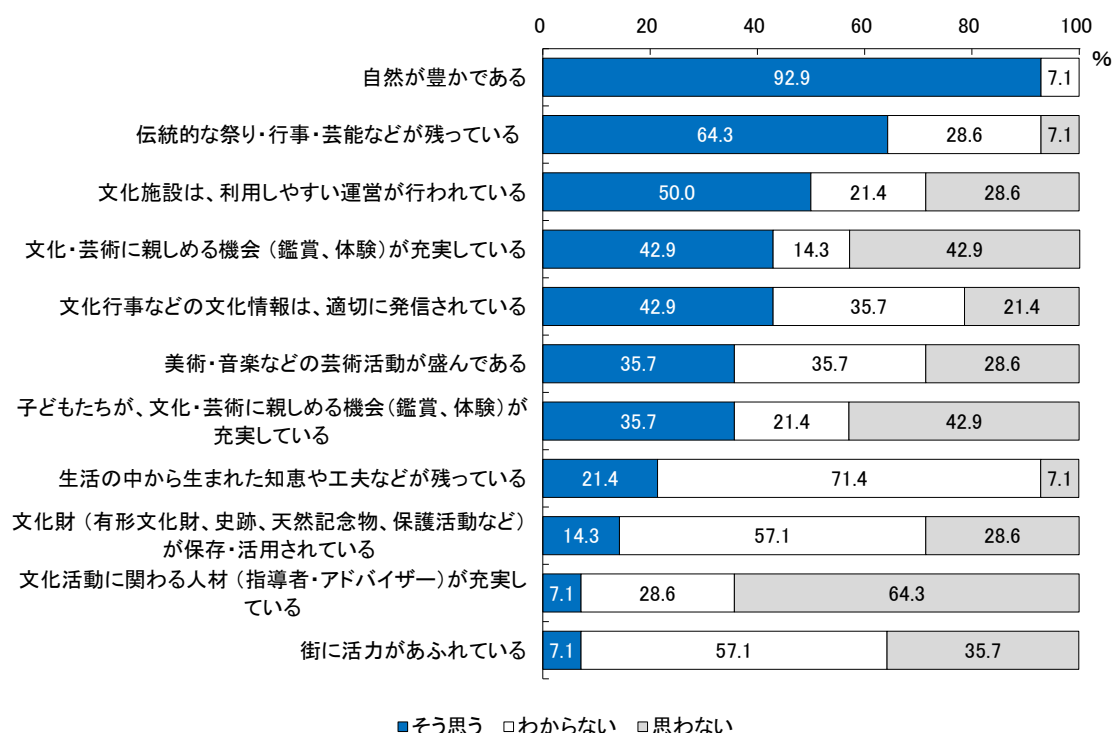
図表 290. 会員数【20 人以上 30 人未満】団体の本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



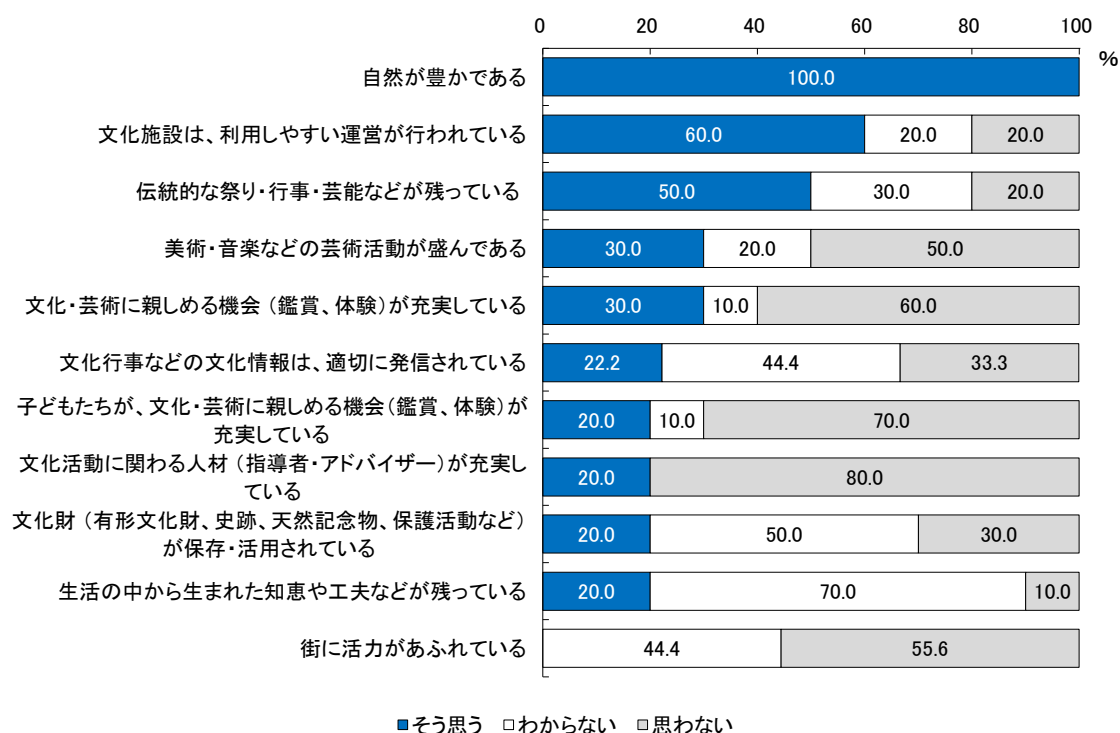
図表 291. 会員数【30 人以上】団体の本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



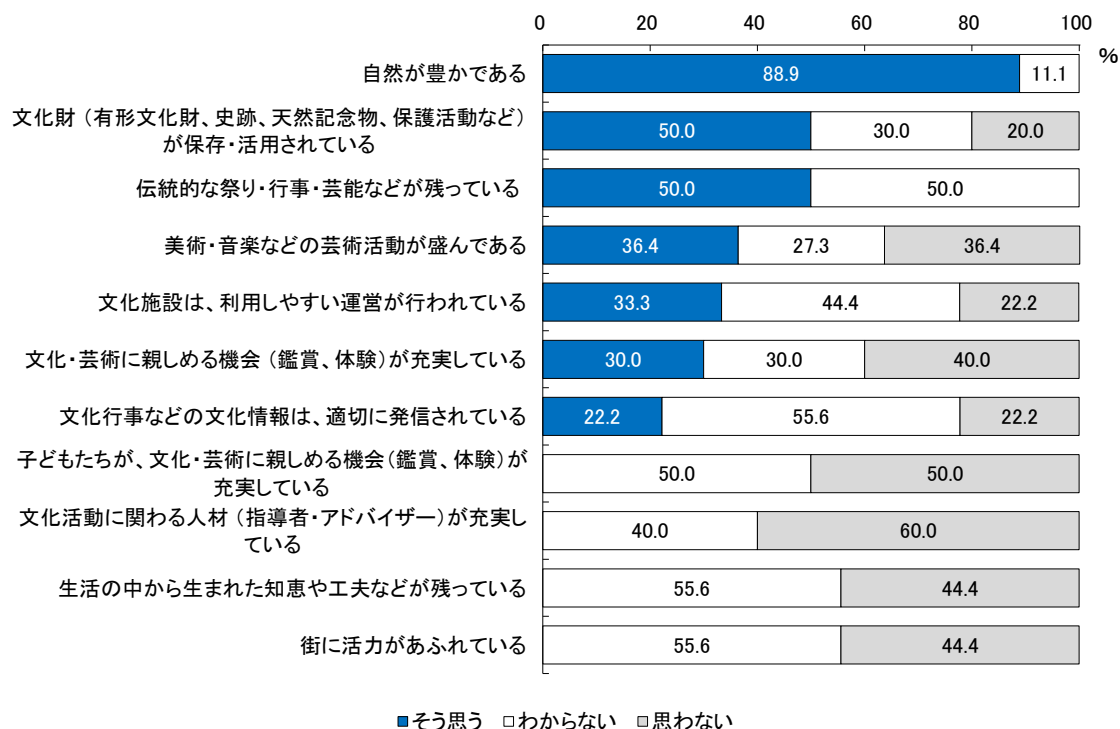
図表 292. 会員の中心世代【40 歳代以下】団体の本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



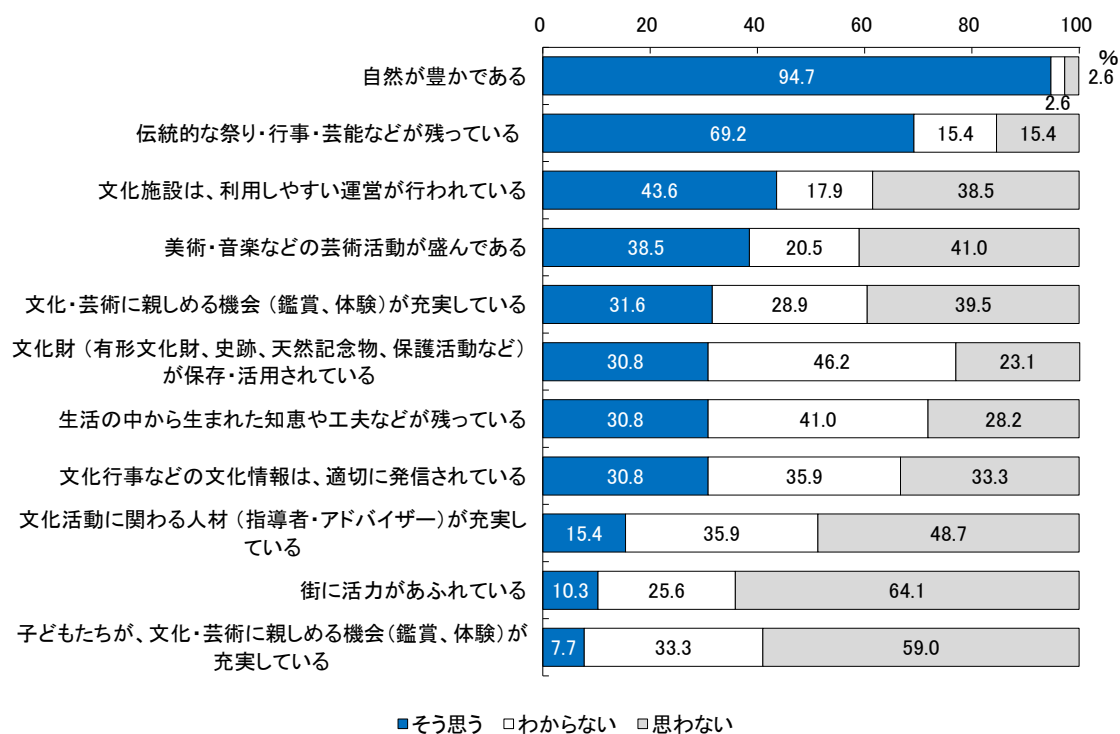
図表 293. 会員の中心世代【50 歳代】団体の本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



図表 294. 会員の中心世代【60 歳代】団体の本市の文化・芸術の現状に関するイメージ



図表 295. 会員の中心世代【70 歳代以上】団体の本市の文化・芸術の現状に関するイメージ

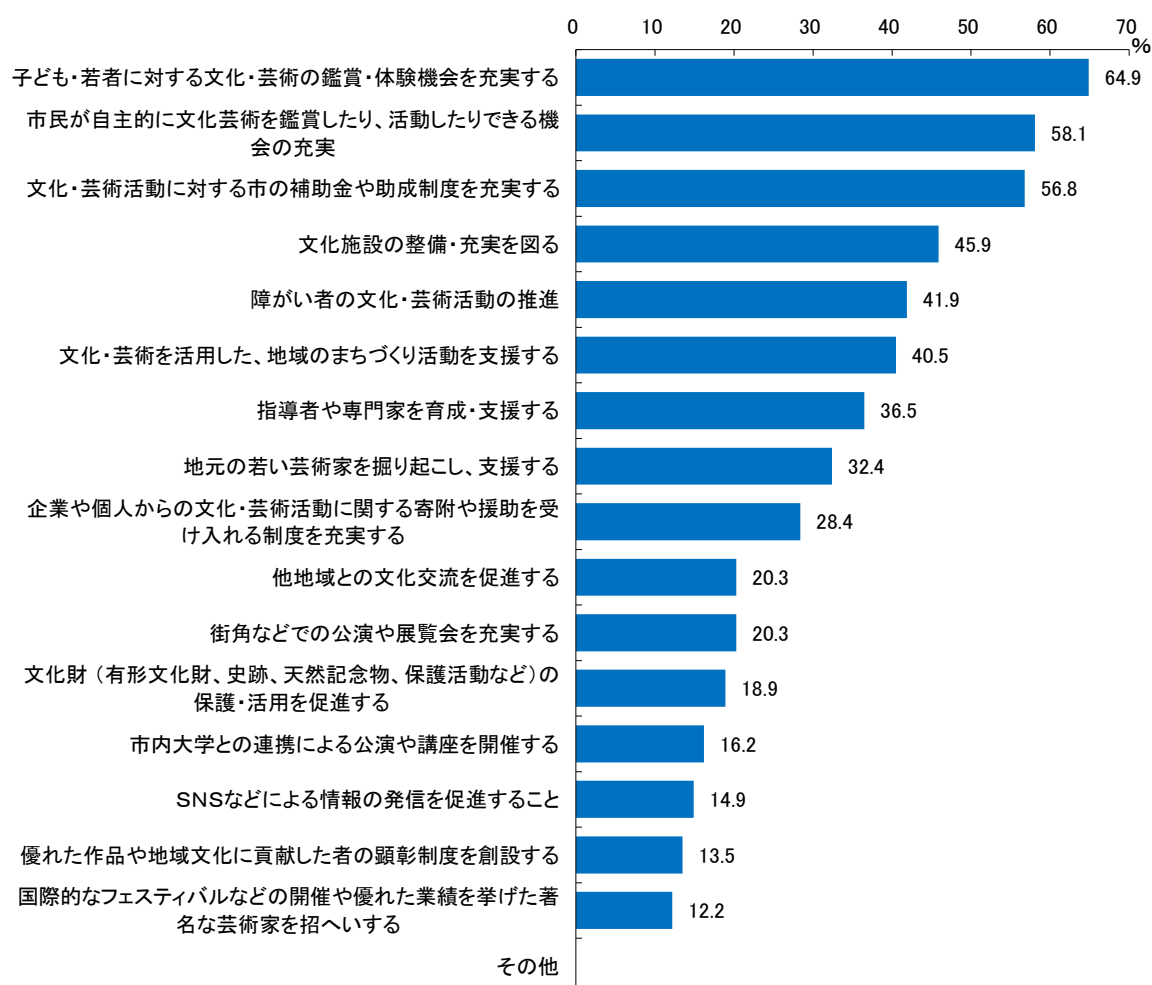


2.4.22. 本市の文化・芸術をより豊かにするために、市（行政）が注力すべきこと

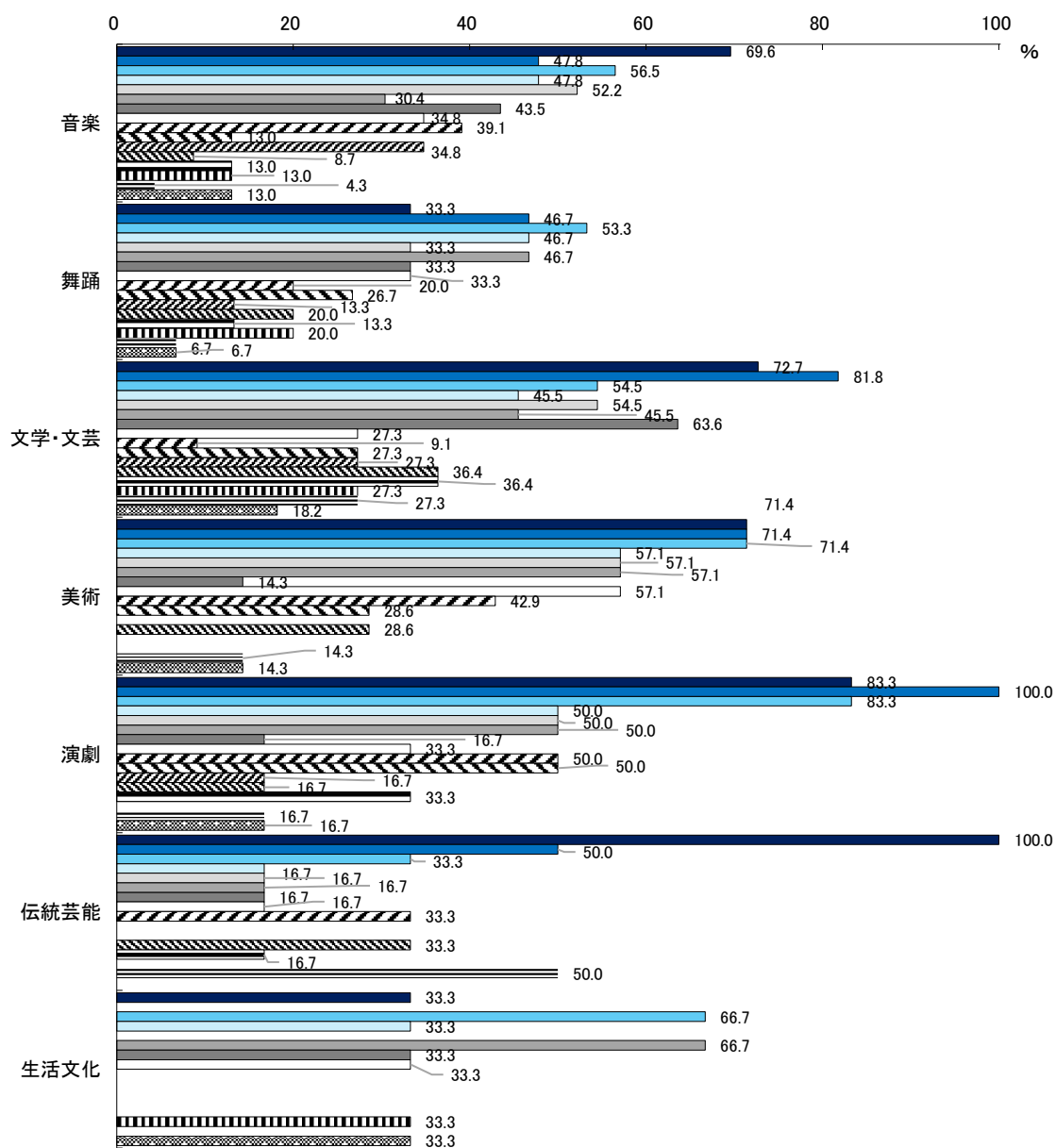
本市の文化・芸術をより豊かにするために、市（行政）が注力すべきことは、「子ども・若者に対する文化・芸術の鑑賞・体験機会を充実する（64.9%）」が最も高く、市民向けアンケート調査と同様の結果となった（図表 296）。なお、若者向けアンケート調査で最も高い回答率となった「文化施設の整備・充実を図る」は 4 番目となり、若者と団体の認識の違いがうかがえる。

「子ども・若者に対する文化・芸術の鑑賞・体験機会を充実する」を属性別にみると、活動分野別では「伝統芸能（100.0%）」が最も高く、活動年数別では「20 年以上 30 年未満（70.0%）」が、会員数別では「10 人以上 20 人未満（77.3%）」が、会員の中心世代別では「50 歳代（60.0%）」が最も高い（次頁図表 297－149 頁図表 300）。次世代に向けた取り組みを充実すべきとの意向が強かうかがえる結果となった。

図表 296. 本市の文化・芸術をより豊かにするために、市（行政）が注力すべきこと
（全体、複数回答）

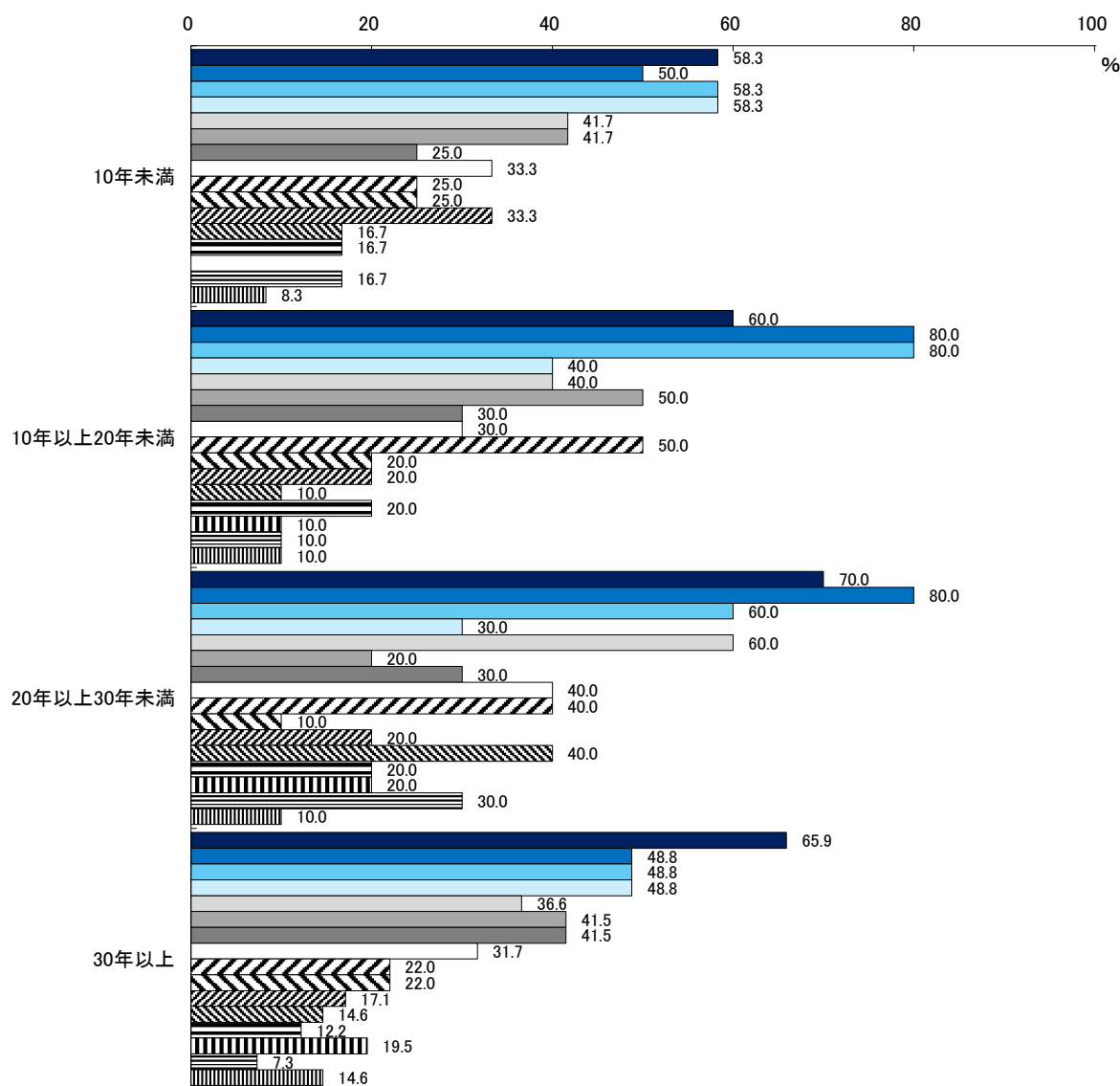


図表 297. 活動分野別 本市の文化・芸術をより豊かにするために、市（行政）が注力すべきこと（複数回答）



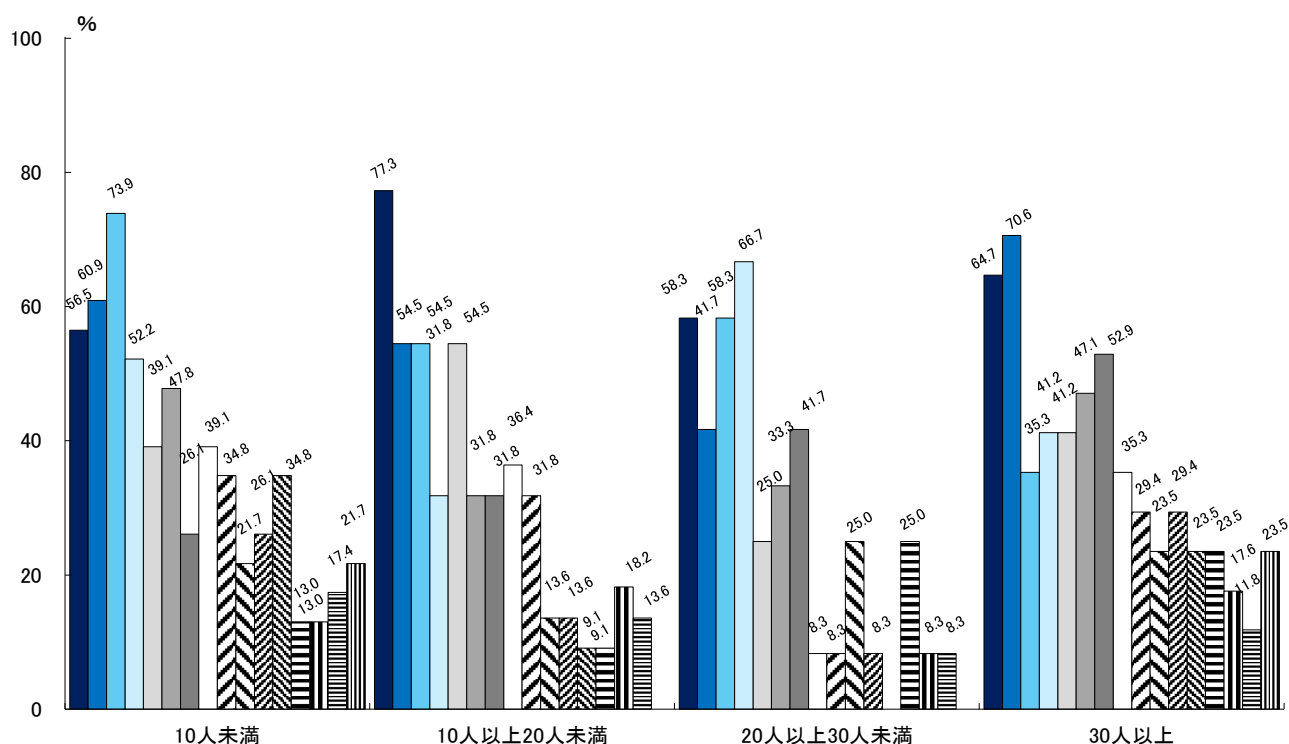
- 子ども・若者に対する文化・芸術の鑑賞・体験機会を充実する
- 市民が自主的に文化芸術を鑑賞したり、活動したりできる機会の充実
- 文化・芸術活動に対する市の補助金や助成制度を充実する
- 文化施設の整備・充実を図る
- 障がい者の文化・芸術活動の推進
- 文化・芸術を活用した、地域のまちづくり活動を支援する
- 指導者や専門家を育成・支援する
- 地元の若い芸術家を掘り起こし、支援する
- 企業や個人からの文化・芸術活動に関する寄附や援助を受け入れる制度を充実する
- 街角などでの公演や展覧会を充実する
- 他地域との文化交流を促進する
- 文化財（有形文化財、史跡、天然記念物、保護活動など）の保護・活用を促進する
- 市内大学との連携による公演や講座を開催する
- SNSなどによる情報の発信を促進すること
- 優れた作品や地域文化に貢献した者の顕彰制度を創設する
- 国際的なフェスティバルなどの開催や優れた業績を挙げた著名な芸術家を招へいする

図表 298. 活動年数別 本市の文化・芸術をより豊かにするために、市（行政）が注力すべきこと（複数回答）



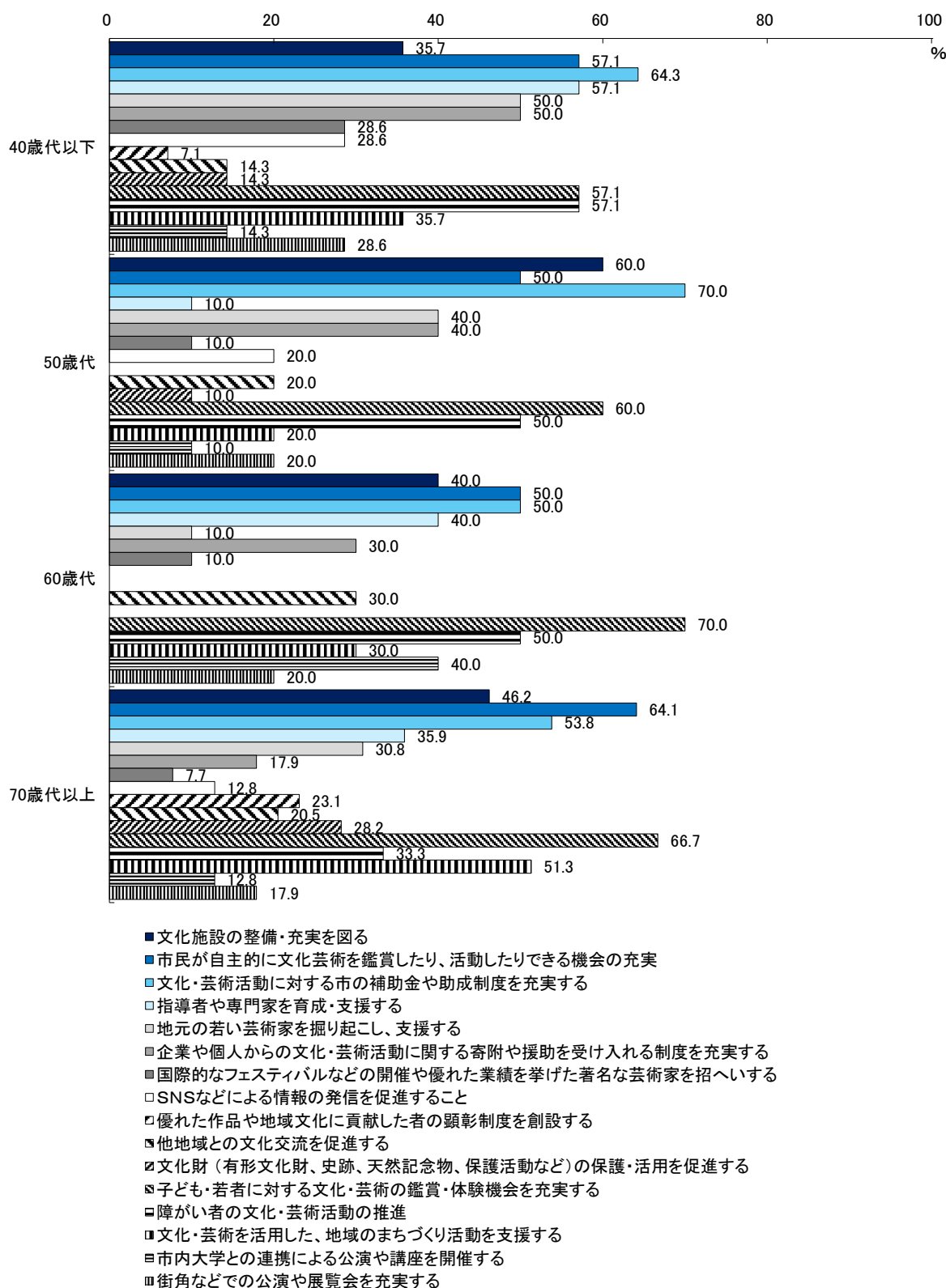
- 子ども・若者に対する文化・芸術の鑑賞・体験機会を充実する
- 市民が自主的に文化芸術を鑑賞したり、活動したりできる機会の充実
- 文化・芸術活動に対する市の補助金や助成制度を充実する
- 文化施設の整備・充実を図る
- 障がい者の文化・芸術活動の推進
- 文化・芸術を活用した、地域のまちづくり活動を支援する
- 指導者や専門家を育成・支援する
- 地元の若い芸術家を掘り起こし、支援する
- 企業や個人からの文化・芸術活動に関する寄附や援助を受け入れる制度を充実する
- 他地域との文化交流を促進する
- 街角などでの公演や展覧会を充実する
- 文化財（有形文化財、史跡、天然記念物、保護活動など）の保護・活用を促進する
- SNSなどによる情報の発信を促進すること
- 市内大学との連携による公演や講座を開催する
- 国際的なフェスティバルなどの開催や優れた業績を挙げた著名な芸術家を招へいする
- 優れた作品や地域文化に貢献した者の顕彰制度を創設する

図表 299. 会員数別 本市の文化・芸術をより豊かにするために、市（行政）が注力すべきこと（複数回答）



- 子ども・若者に対する文化・芸術の鑑賞・体験機会を充実する
- 市民が自主的に文化芸術を鑑賞したり、活動したりできる機会の充実
- 文化・芸術活動に対する市の補助金や助成制度を充実する
- 文化施設の整備・充実を図る
- 障がい者の文化・芸術活動の推進
- 文化・芸術を活用した、地域のまちづくり活動を支援する
- 指導者や専門家を育成・支援する
- 地元の若い芸術家を掘り起こし、支援する
- 企業や個人からの文化・芸術活動に関する寄附や援助を受け入れる制度を充実する
- 他地域との文化交流を促進する
- 街角などでの公演や展覧会を充実する
- 文化財（有形文化財、史跡、天然記念物、保護活動など）の保護・活用を促進する
- 市内大学との連携による公演や講座を開催する
- SNSなどによる情報の発信を促進すること
- 優れた作品や地域文化に貢献した者の顕彰制度を創設する
- 国際的なフェスティバルなどの開催や優れた業績を挙げた著名な芸術家を招へいする

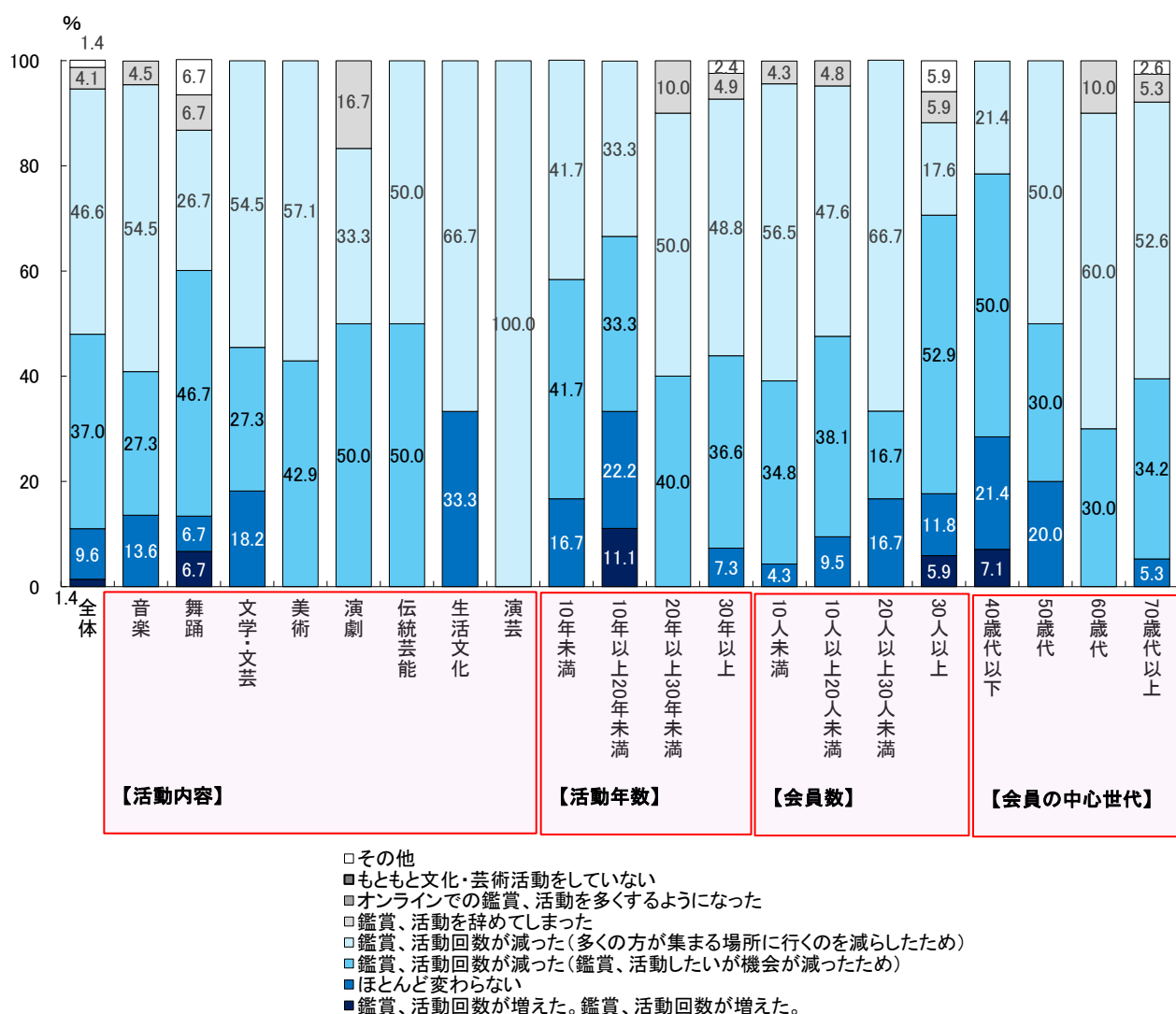
図表 300. 会員の中心世代別 本市の文化・芸術をより豊かにするために、市（行政）が注力すべきこと（複数回答）



2.4.23. 新型コロナウイルス感染拡大による文化・芸術活動への影響

新型コロナウイルス感染拡大による文化・芸術活動への影響は、全体で「鑑賞、活動回数が減った（多くの方が集まる場所に行くのを減らしたため、46.6%）」が最も高く、市民向けアンケート調査と同様の結果となった（図表 301）。全体、全属性・全項目において、「鑑賞、活動回数が減った（多くの方が集まる場所に行くのを減らしたため）」「鑑賞、活動回数が減った（鑑賞、活動したいが機会が減ったため）」合計が圧倒的に高く、新型コロナウイルス感染拡大により文化・芸術活動への参加、鑑賞機会が減少したことが明確な結果となった。

図表 301. 新型コロナウイルス感染拡大による文化・芸術活動への影響

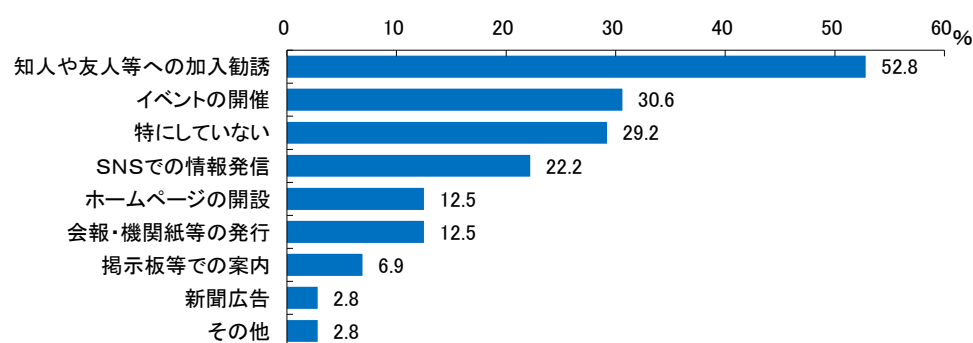


2.4.24. 新規会員を増やすための取組み

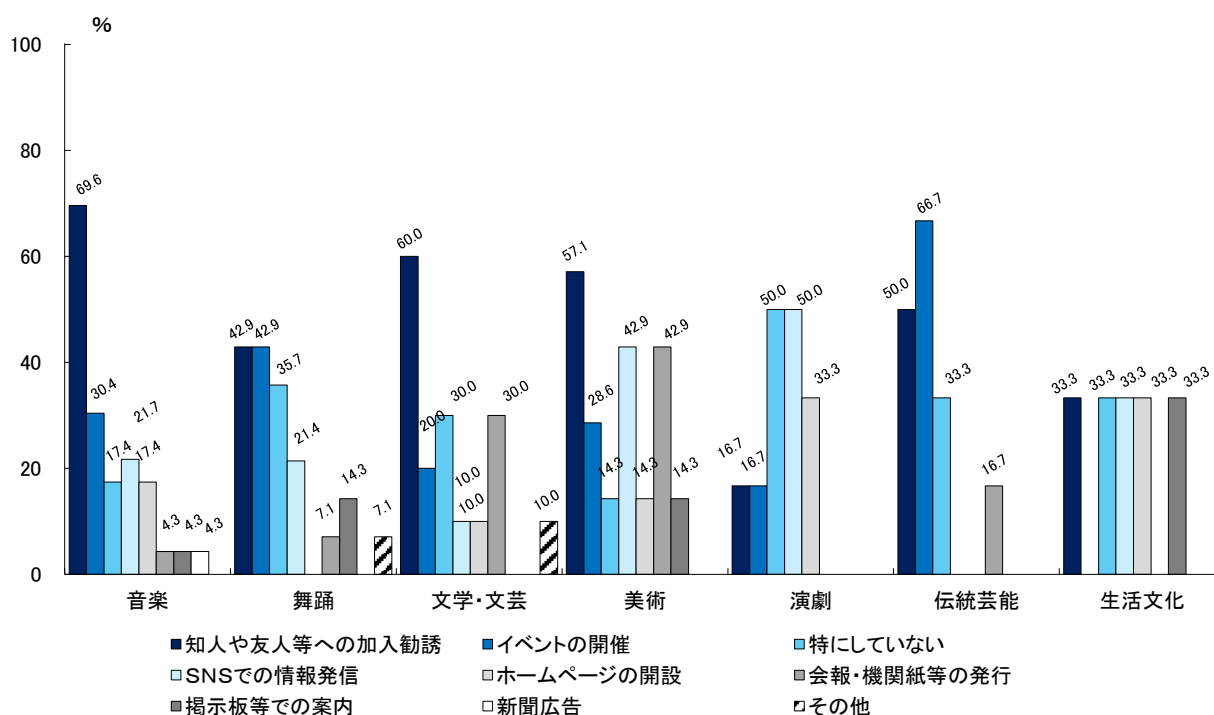
新規会員を増やすための取組みは、「知人や友人等への加入勧誘（52.8%）」が圧倒的に高く、次いで「イベントの開催（30.6%）」「特にしていない（29.2%）」となった（図表 302）。短な存在から会員を増やすことが主流であり、第三者を積極的な勧誘するまでには至っていないと考えられる。

「知人や友人等への加入勧誘」を属性別にみると、活動分野別では「音楽（69.6%）」が最も高く、活動年数別では「10 年以上 20 年未満（70.0%）」が、会員数別では「30 人以上（76.5%）」が、会員の中心世代別では「60 歳代（80.0%）」が最も高い（図表 303、次頁図表 304、305、次々頁図表 306）。

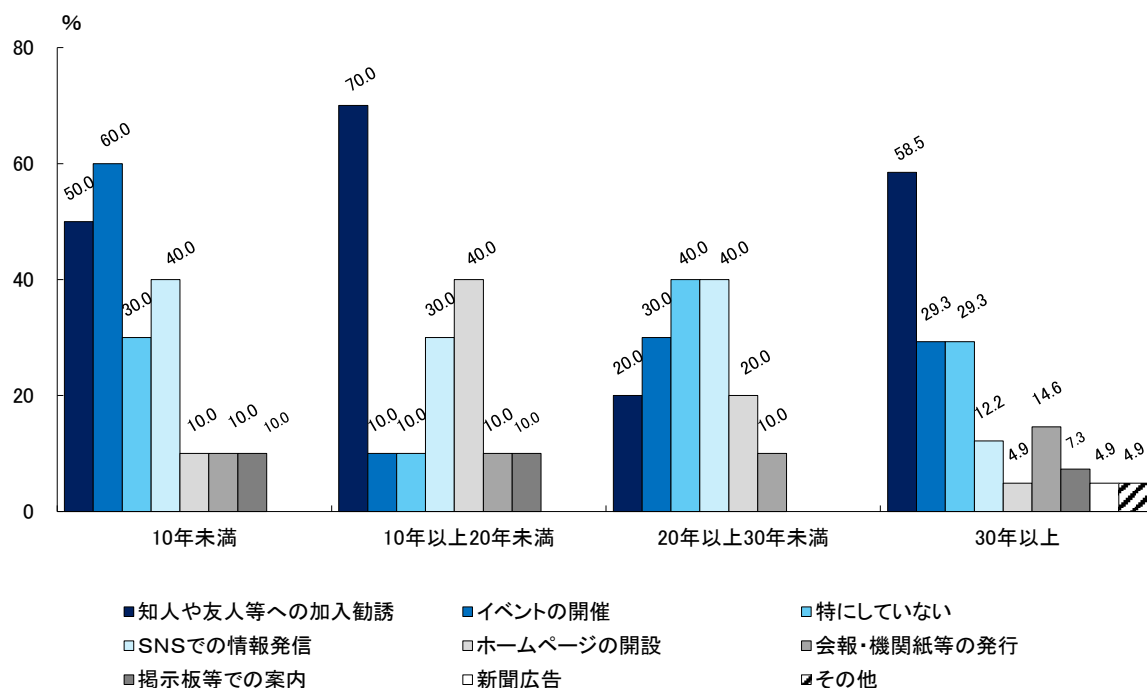
図表 302. 新規会員を増やすための取組み（全体、複数回答）



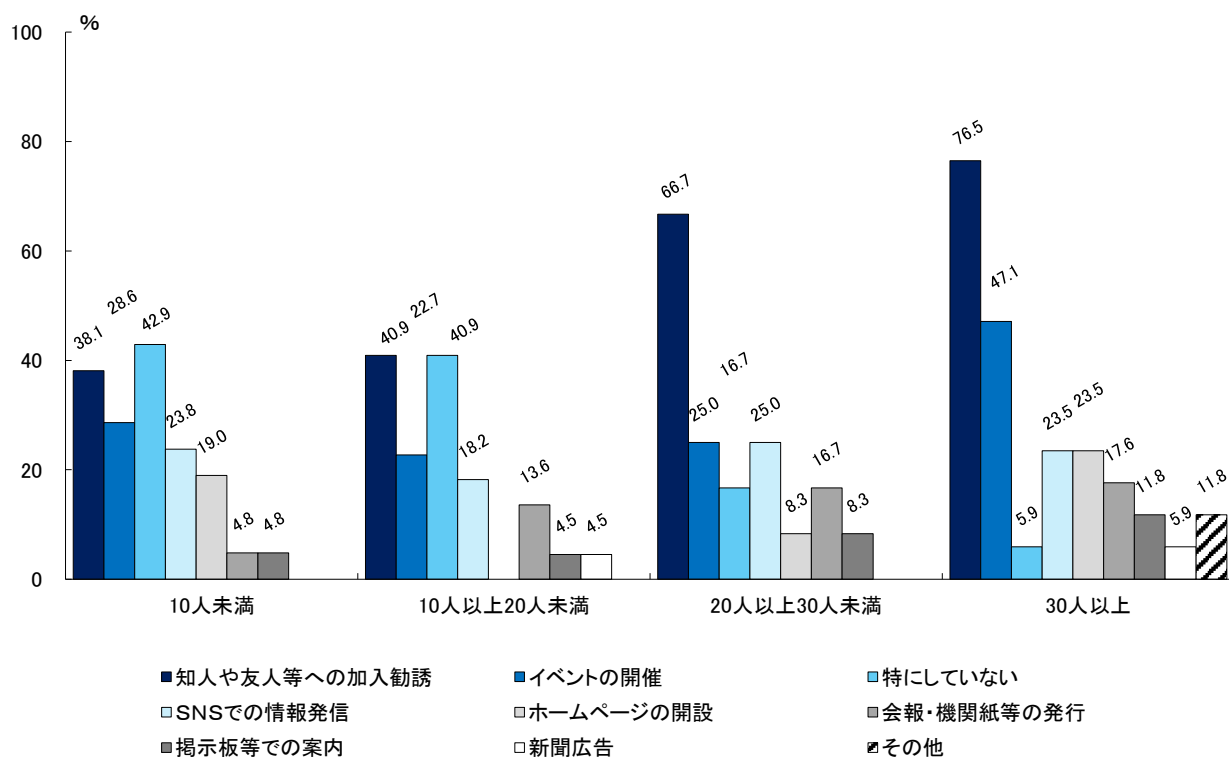
図表 303. 活動分野別 新規会員を増やすための取組み（複数回答）



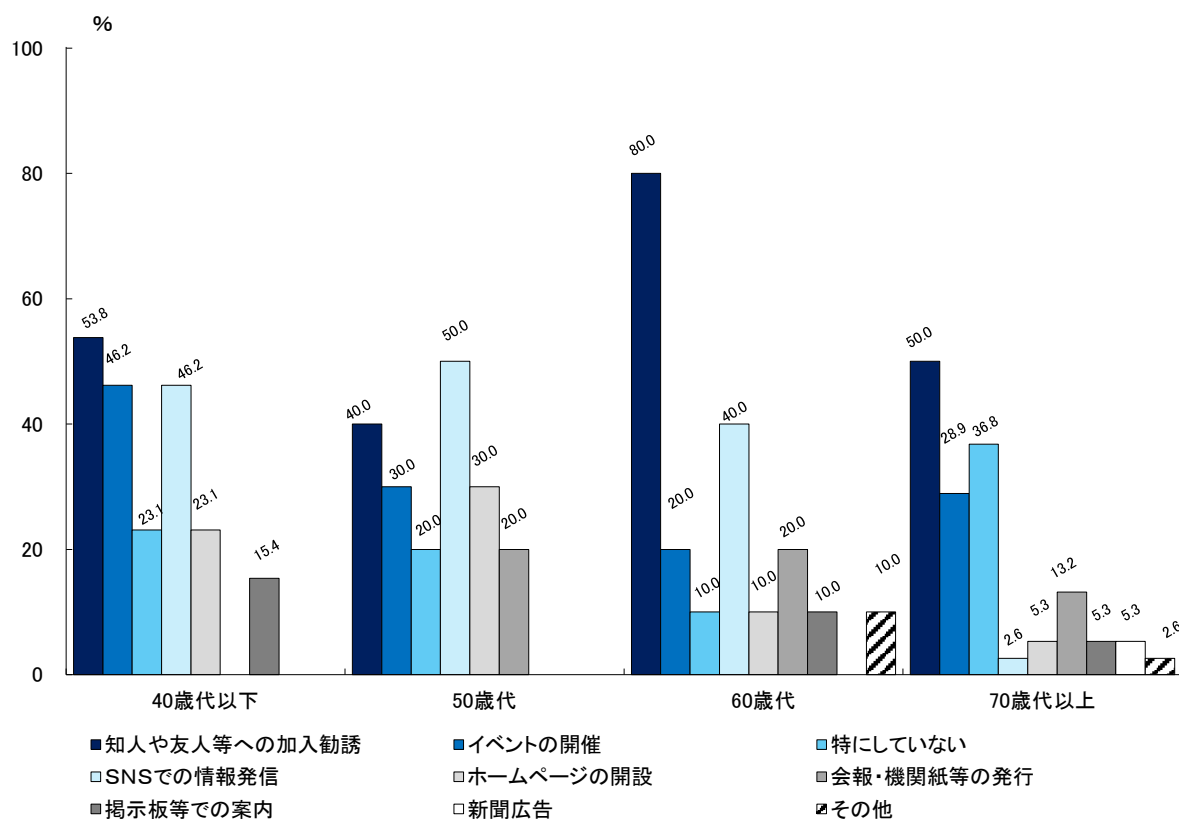
図表 304. 活動年数別 新規会員を増やすための取組み（複数回答）



図表 305. 会員数別 新規会員を増やすための取組み（複数回答）



図表 306. 会員の中心世代別 新規会員を増やすための取組み（複数回答）

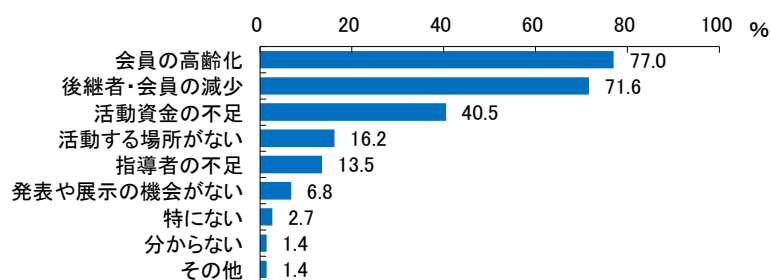


2. 4. 25. 今後活動を継続する上で課題となるもの

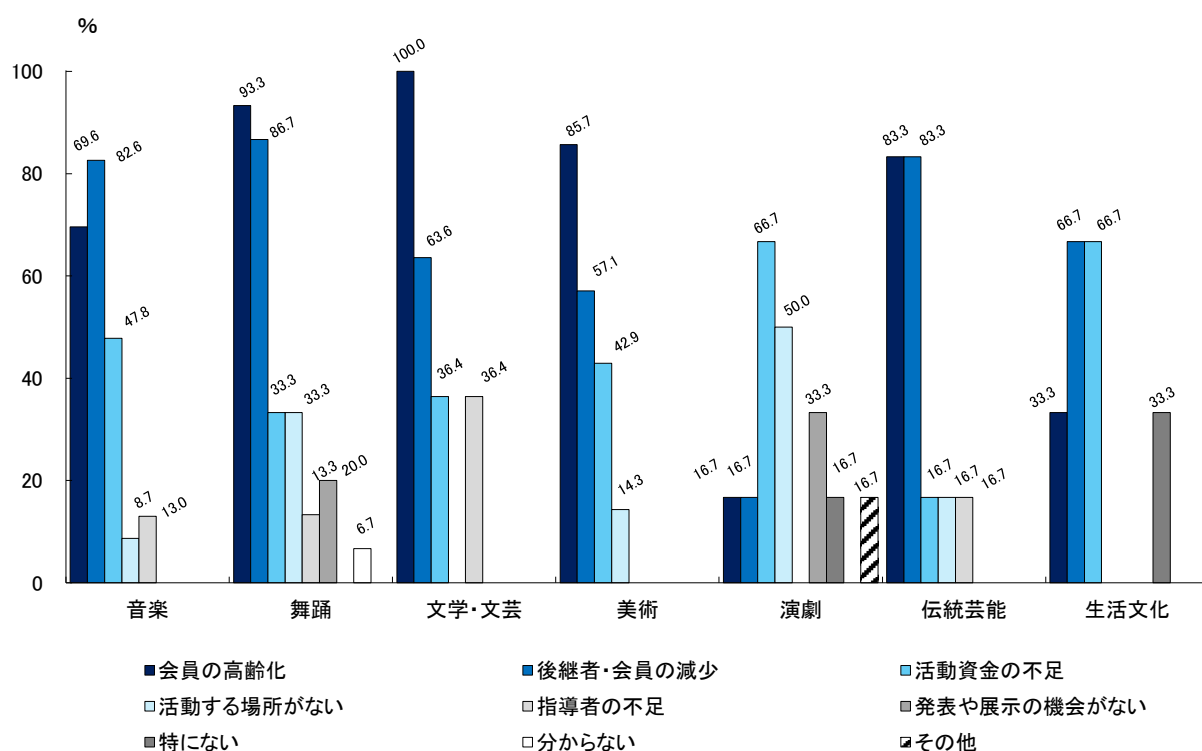
今後活動を継続する上で課題となるものは「会員の高齢化（77.0%）」が最も高く、2 番目が「後継者・会員の減少（71.6%）」となり、この 2 項目が圧倒的に高い（図表 307）。団体設立後一定期間が過ぎ後継者が不在となるなど、会員がある意味固定化してきた様子も推察され、団体の持続性に課題があると考えられる。

この傾向は属性別でも同様であり、設立後 10 年未満の団体でも特徴となっており、文化・芸術に関心ある市民の発掘や若い世代の関心を掘り起こす取り組みが課題ともいえる（次頁図表 308、309、次々頁図表 310、311）。

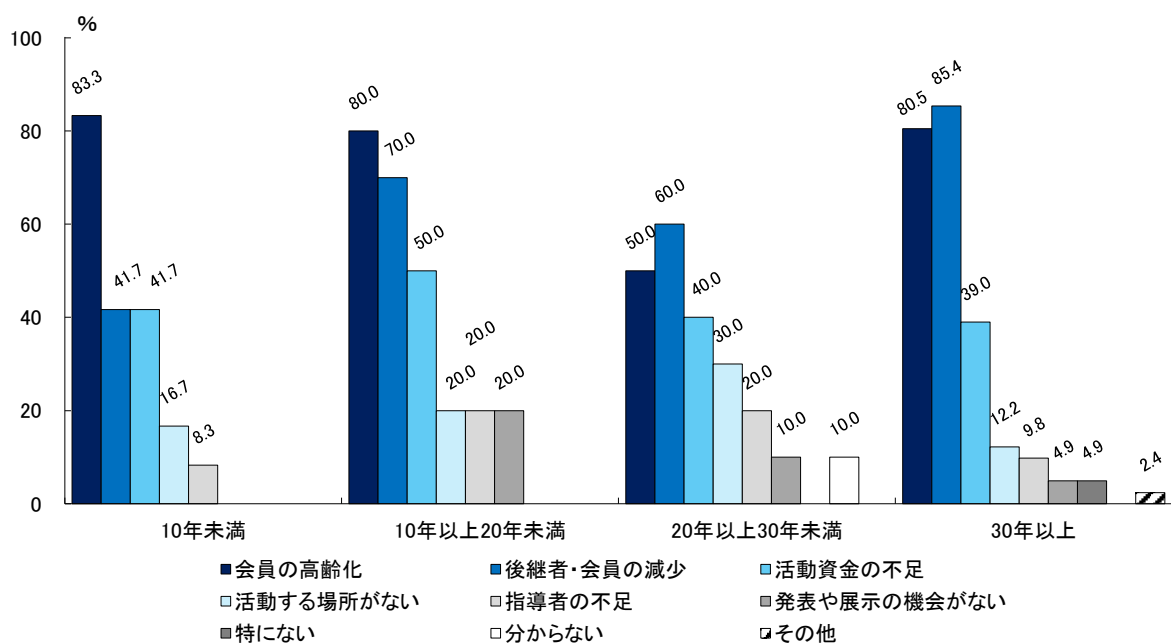
図表 307. 今後活動を継続する上で課題となるもの（全体、複数回答）



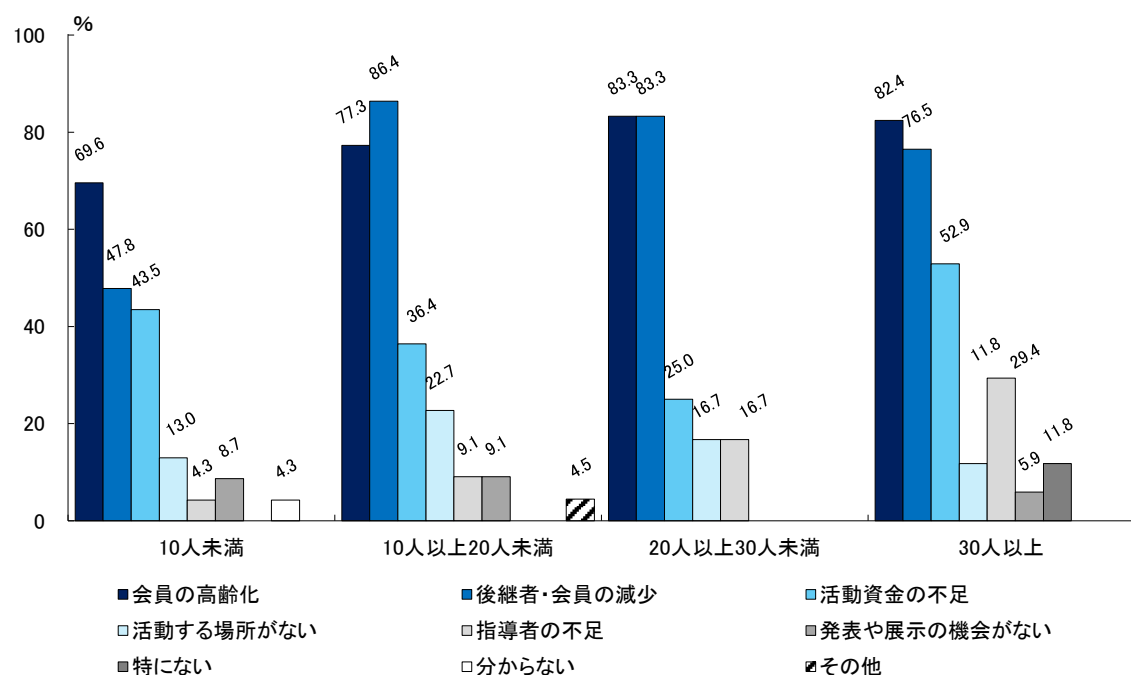
図表 308. 活動分野別 今後活動を継続する上で課題となるもの（複数回答）



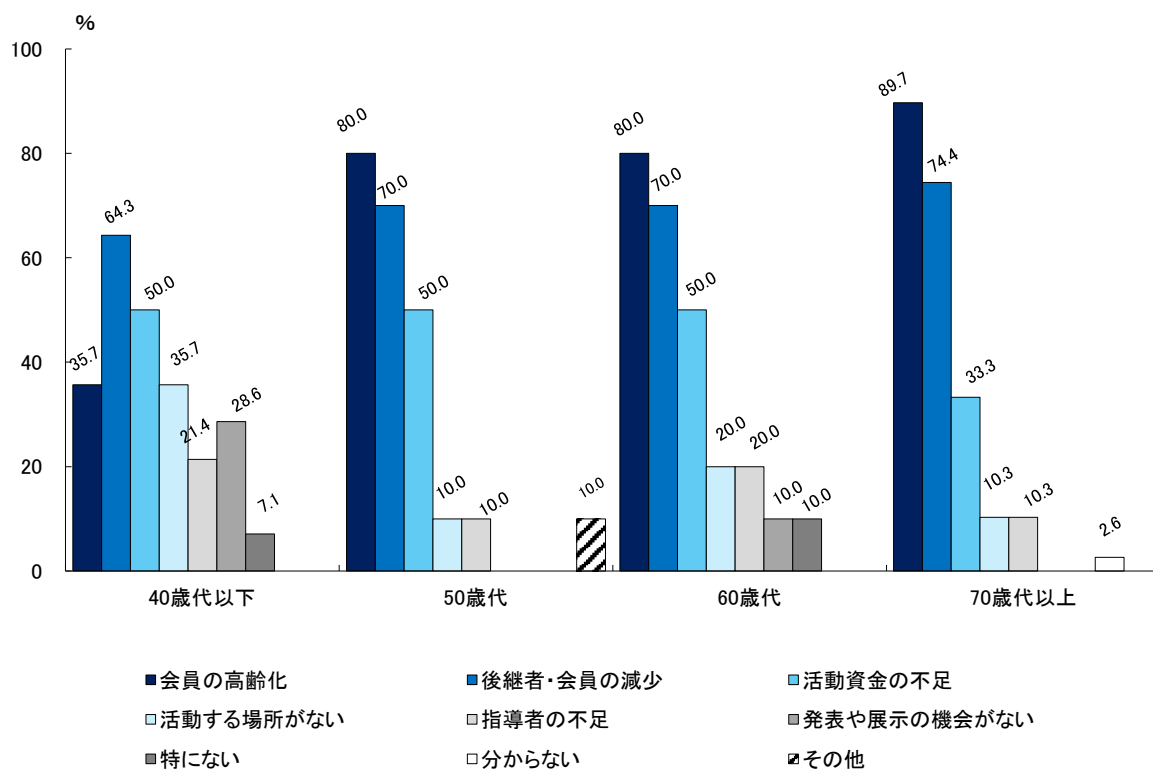
図表 309. 活動年数別 今後活動を継続する上で課題となるもの（複数回答）



図表 310. 会員数別 今後活動を継続する上で課題となるもの（複数回答）



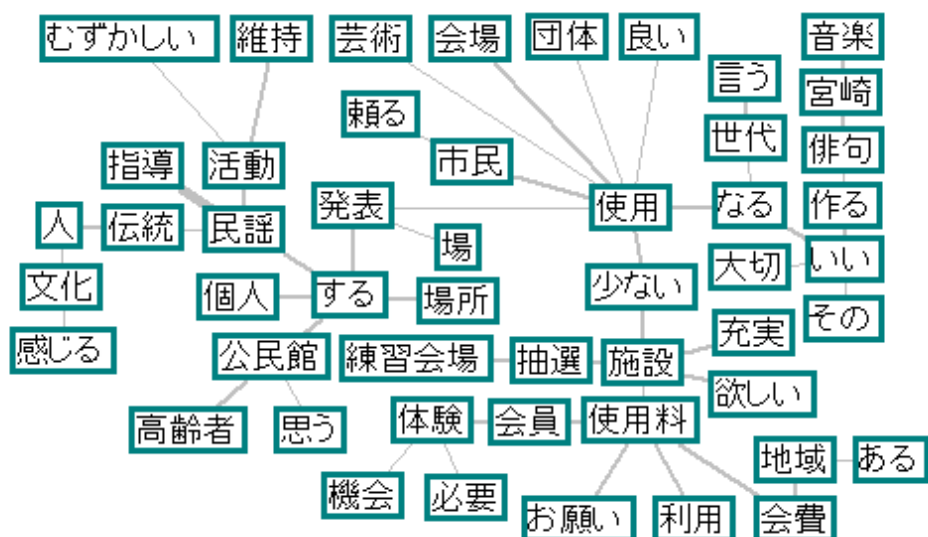
図表 311. 会員の中心世代別 今後活動を継続する上で課題となるもの（複数回答）



2.4.26. 自由意見の分析

自由意見においては、市民向けアンケート調査、若者向けアンケート調査と同様に、テキストマイニングの分析ソフト「トレンドサーチ 2015」(株)社会情報サービス社製)を使用して、言語のつながりを分析した。連鎖する言葉が多い起点となる単語をみると、練習や発表等の「場」を意識した「使用」「発表」「施設」が起点となっているほか、伝統文化を示した「民謡」「世代」等の単語も目立つ(図表 312)。全体的にはどのように活動し、発表するのか、活動を充実させるのかなどの考えが書かれており、活動の難しさがうかがえる内容が多くみられた。

図表 312. 自由意見のテキストマイニング



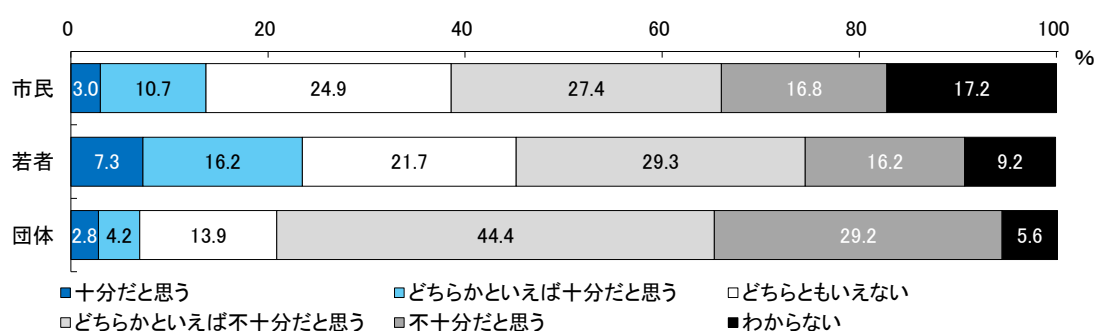
2.5. 各アンケート結果の比較

本項では 3 アンケート調査の共通項（全体）の単純集計結果を比較した。本項では、市民向けアンケート調査を「市民」、若者向けアンケート調査を「若者」、文化・芸術団体向けアンケート調査を「団体」と表記した。

2.5.1. 子ども・若者が文化・芸術に触れる機会

子ども・若者が文化・芸術に触れる機会については、市民、若者、団体ともに不足していると認識しているが、特に団体の危機感が強く示された結果となった（図表 313）。

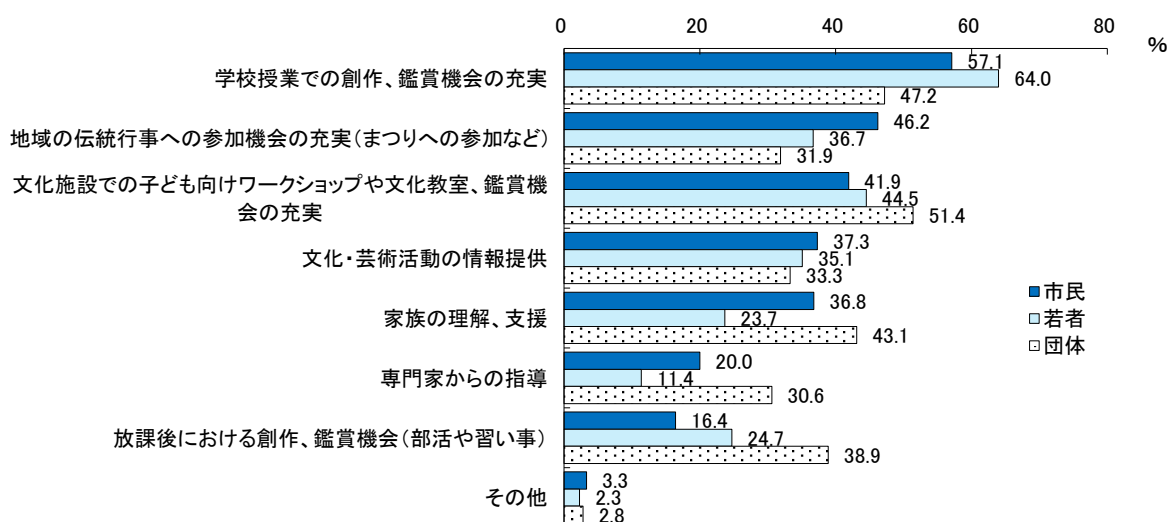
図表 313. 子ども・若者が文化・芸術に触れる機会



2.5.2. 子ども・若者が文化・芸術により親しめるようになるために必要なもの

子ども・若者が文化・芸術により親しめるようになるために必要なものは、市民、若者は「学校授業での創作、鑑賞機会の充実」が最も高いなど、回答率が近い項目が 3 つあったが、団体と一致する項目は 1 項目のみであり、認識の違いが浮き彫りとなった（図表 314）。

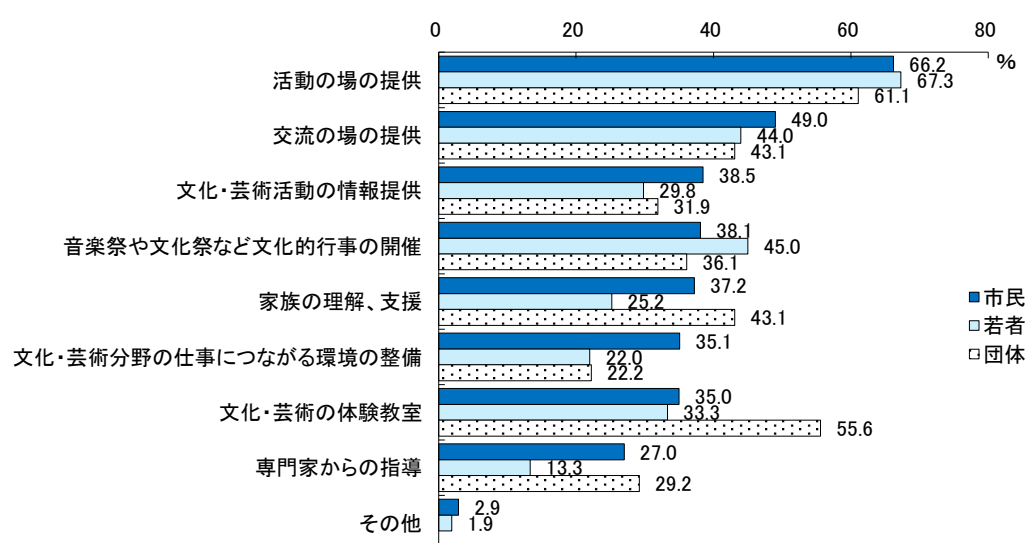
図表 314. 子ども・若者が文化・芸術により親しめるようになるために必要なもの
（複数回答）



2.5.3. 子ども・若者、障がい者が義務教育を修了した後も文化・芸術活動を持続するために必要なもの

子ども・若者、障がい者が義務教育を修了した後も文化・芸術活動を持続するために必要なものについては、市民、若者、団体の回答率が近い項目が多いが、「家族の理解、支援」「文化・芸術の体験教室」など団体との差が大きな項目においては、主催側であるからこそ気づく事項や考え方が示されたといえる（図表 315）。

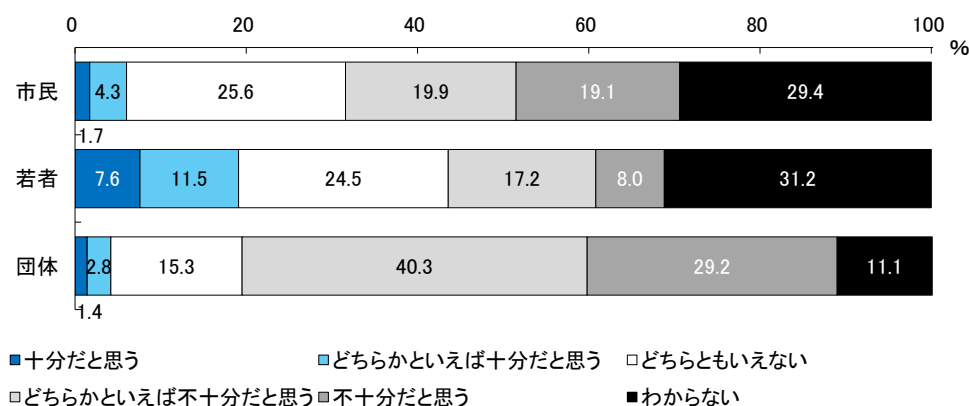
図表 315. 子ども・若者、障がい者が義務教育を修了した後も文化・芸術活動を持続するために必要なもの（複数回答）



2.5.4. 障がい者が文化・芸術に触れる機会

障がい者が文化・芸術に触れる機会は、市民、団体は不十分との認識が強い（図表 316）。団体以外は「わからない」が 30%近くを占め、「どちらともいえない」が 25%前後を占めるなど、判断が難しい様子がうかがえた。

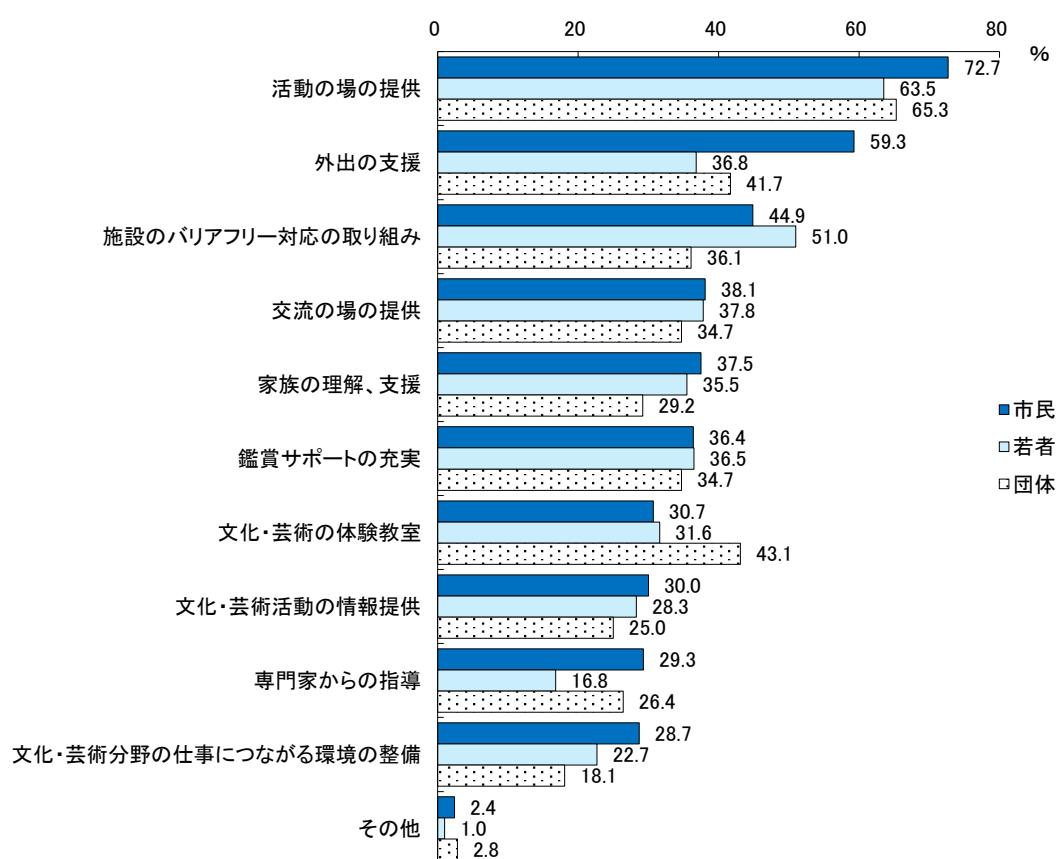
図表 316. 障がい者が文化・芸術に触れる機会



2.5.5. 障がい者への文化・芸術活動の支援に必要なもの

障がい者への文化・芸術活動の支援に必要なものは、市民、若者、団体ともに「活動の場の提供」が最も高い（図表 317）。「外出の支援」においては市民の回答率が突出して高く、「文化・芸術の体験教室」は団体が突出して高い。その他の多くの項目で3 アンケート調査の回答率が近いといえる。

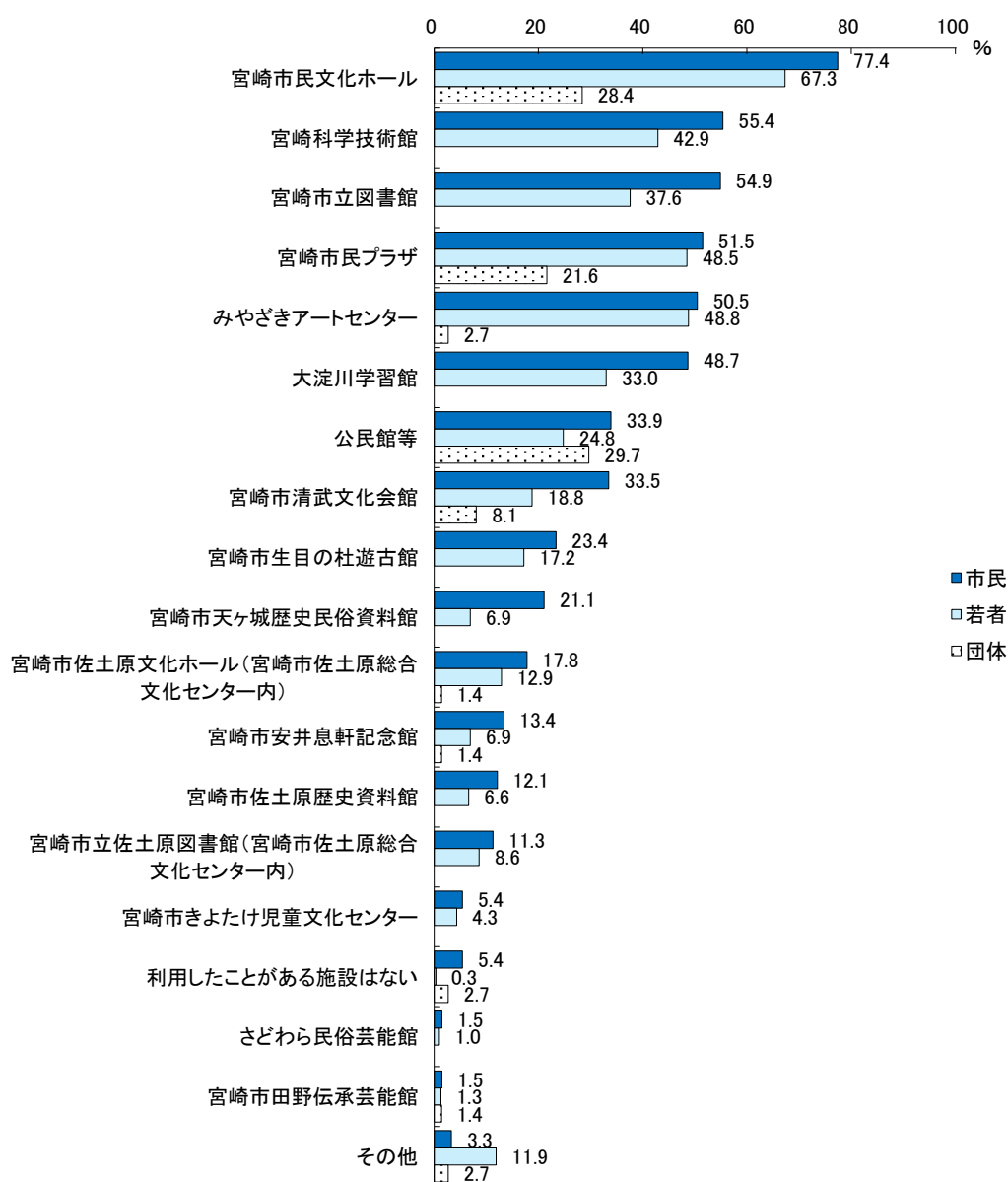
図表 317. 障がい者への文化・芸術活動の支援に必要なもの（複数回答）



2.5.6. 本市の運営する文化・芸術関連施設等について、活動（練習等）で主に利用する施設

本市の運営する文化・芸術関連施設等について、活動（練習等）で主に利用する施設は、市民、若者は「宮崎市民文化ホール」が圧倒的に高いが、「公民館」を除くすべての項目で団体の回答率の低さが目立った（図表 318）。市民、若者共通で回答率が高い施設は「宮崎市民文化ホール」「宮崎市民プラザ」「みやざきアートセンター」となった。

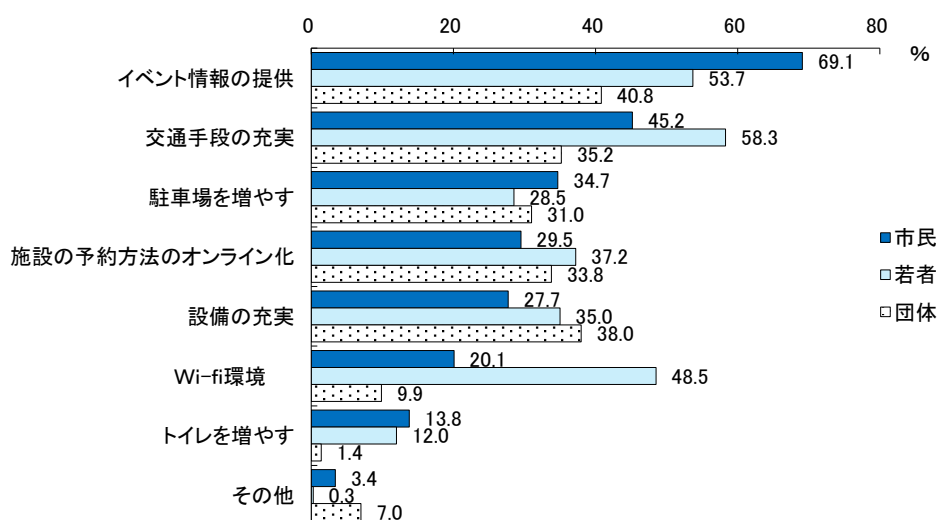
図表 318. 本市の運営する文化・芸術関連施設等について、活動（練習等）で主に利用する施設



2.5.7. 市の運営する文化・芸術関連施設等の利便性を高めるにあたり、何を改善すれば良いか

市の運営する文化・芸術関連施設等の利便性を高めるにあたり、何を改善すれば良いかは、「イベント情報の提供」「交通手段の充実」「wi-fi 環境」において、市民もしくは若者と団体の認識の違いが大きい様子がうかがえる（図表 319）。見る側・参加すると主催する側双方の立場を意識した上で改善する必要があると考えられる。

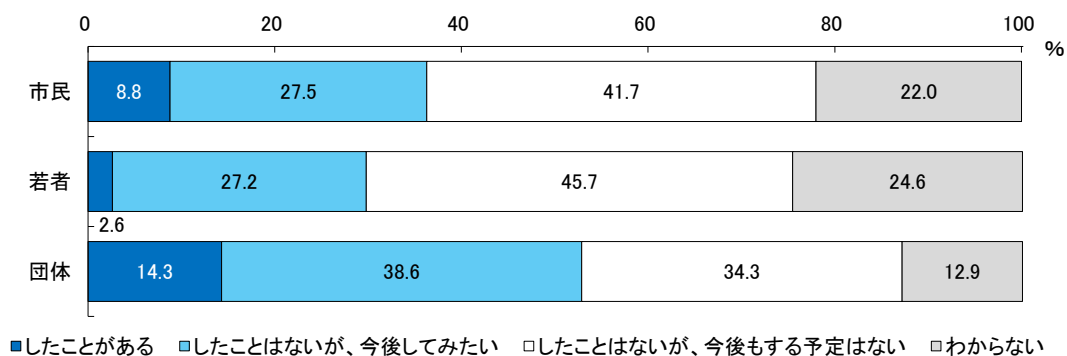
図表 319. 市の運営する文化・芸術関連施設等の利便性を高めるにあたり、何を改善すれば良いか（複数回答）



2.5.8. 団体にて過去 1 年間に文化・芸術振興に関する分野に寄附をしたことがあるか

団体にて過去 1 年間に文化・芸術振興に関する分野に寄附をしたことがあるかは、市民、若者と団体の「したことがある」「したことはないが、今後してみたい」合計の回答率が異なるといえ、団体の方が肯定的といえる（図表 320）。寄附の経験からみると、ハードルの高さがうかがえ、寄附を一般化することの難しさが明らかとなった。

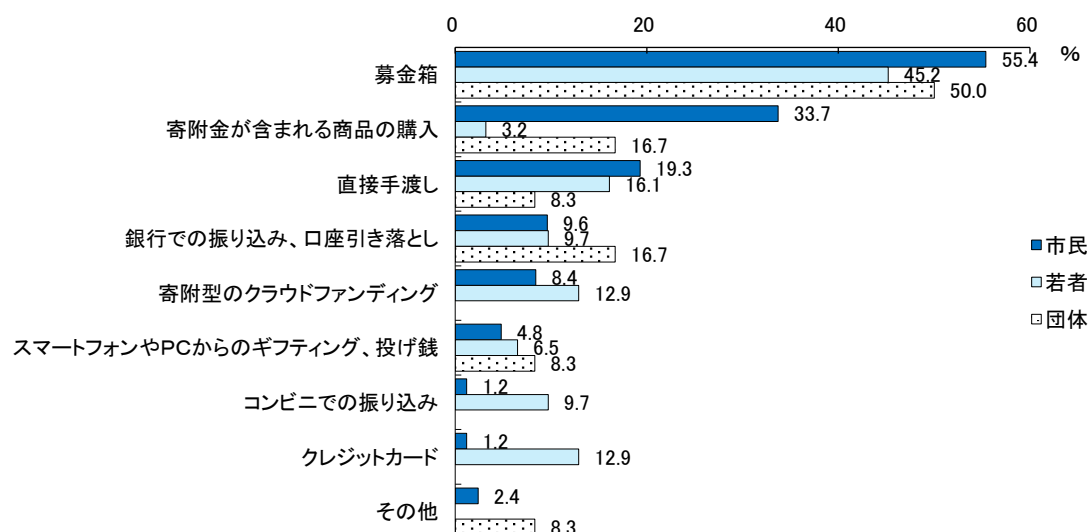
図表 320. 団体にて過去 1 年間に文化・芸術振興に関する分野に寄附をしたことがあるか



2.5.9. 寄附の方法

寄附の方法は、市民、若者、団体ともに「募金箱」が圧倒的に高く、アナログな方法の回答率が高いといえる（図表 321）。集めやすさと寄附の容易さにギャップがある様子もうかがえた。

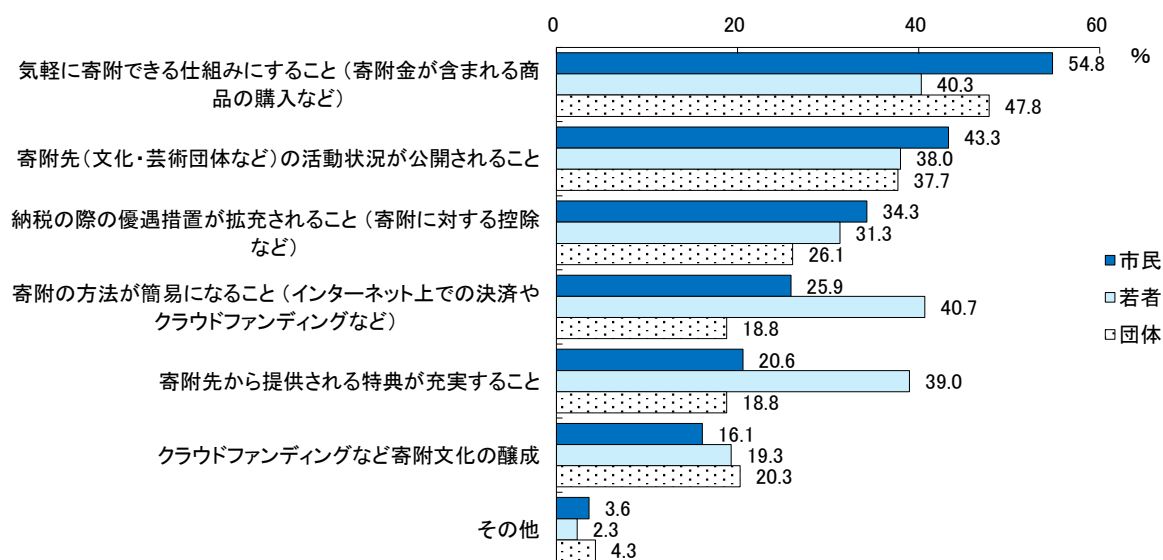
図表 321. 寄附の方法（複数回答）



2.5.10. どうすれば文化・芸術への寄附がしやすくなる、寄附したいと思うのか

どうすれば文化・芸術への寄附がしやすくなる、寄附したいと思うのかは、市民、若者、団体の傾向が似た傾向がみられる（図表 322）。一方、2 項目で若者独自の考え方が顕著であり、今後の寄附の手法として検討することも必要といえる。

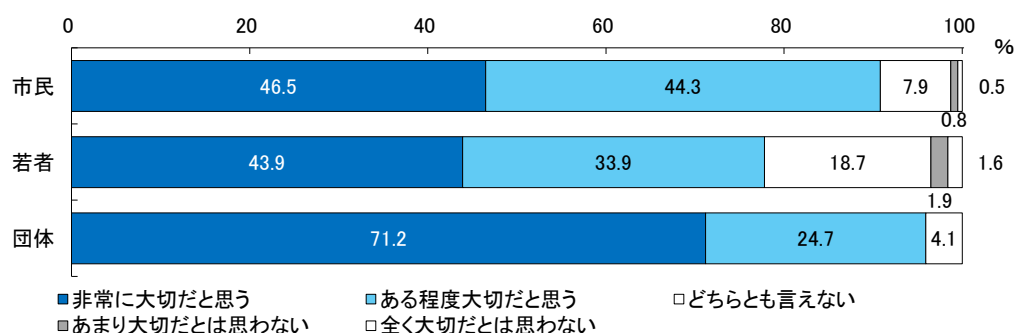
図表 322. どうすれば文化・芸術への寄附がしやすくなる、寄附したいと思うのか（複数回答）



2.5.11. 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取組みについて

伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取組みについては、市民、若者、団体ともに「非常に大切だと思う」「ある程度大切だと思う」合計が高い結果となったが、団体は「非常に大切だと思う」が圧倒的に高いところが特徴となった（図表 323）。

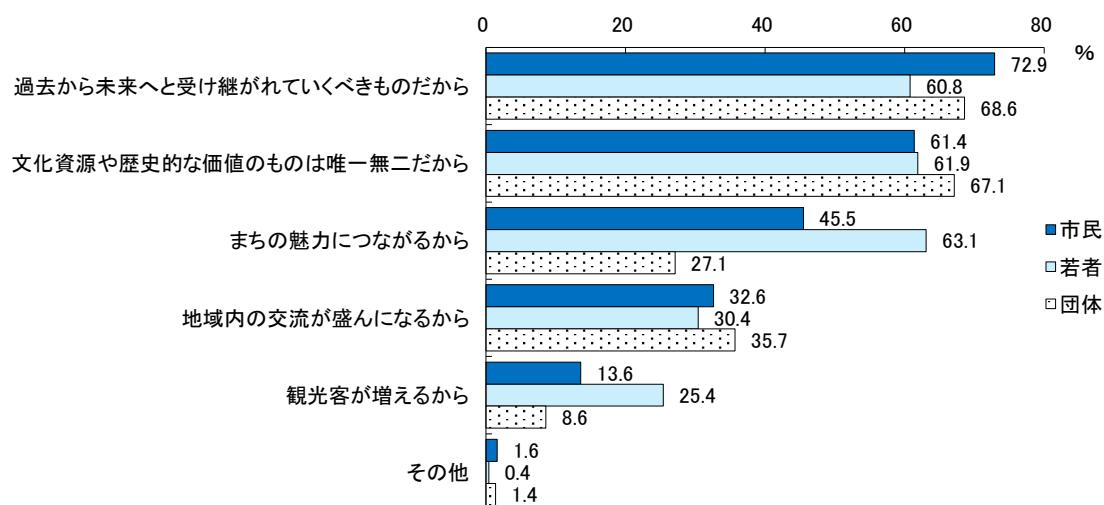
図表 323. 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取組みについて



2.5.12. 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取組みについて「非常に大切」「ある程度大切」と思う理由

伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取組みについて「非常に大切」「ある程度大切」と思う理由は、上位2項目は市民、若者、団体がともに近い回答率となったが、「まちの魅力につながるから」については、団体の認識の低さが目立つ結果となった（図表 324）。

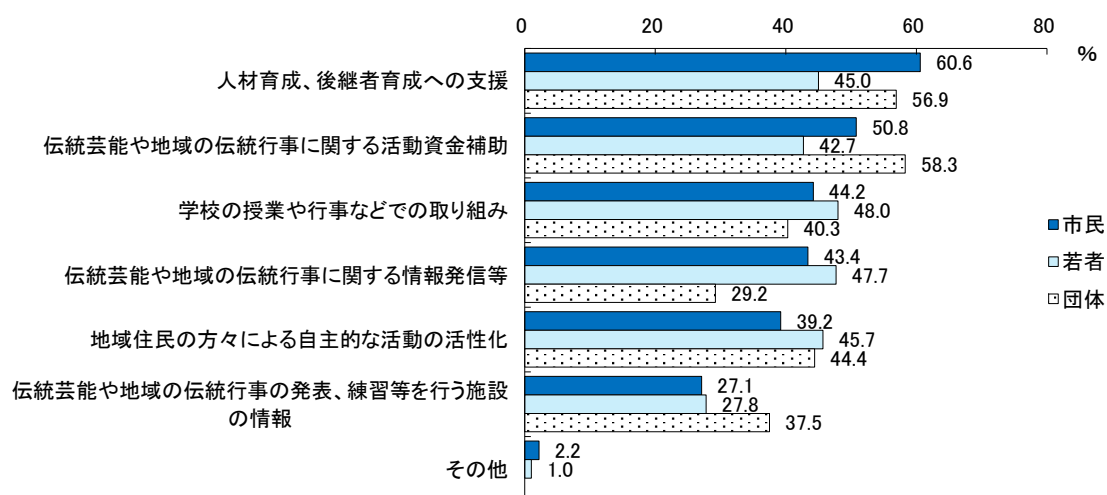
図表 324. 伝統芸能や地域の伝統行事（民俗芸能、祭り含む）などを保存し、振興する取組みについて「非常に大切」「ある程度大切」と思う理由（複数回答）



2.5.13. 伝統芸能や地域の伝統行事を保存、持続可能なものとするために必要な対応

伝統芸能や地域の伝統行事を保存、持続可能なものとするために必要な対応は、上位 2 項目で若者の回答率が市民、団体と比べ低い結果となった（図表 325）。人材育成と資金確保の問題が重要との認識が強い。

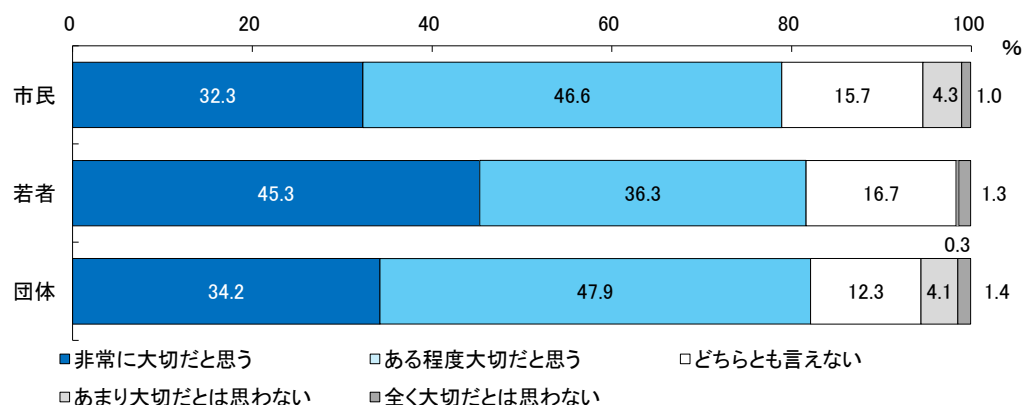
図表 325. 伝統芸能や地域の伝統行事を保存、持続可能なものとするために必要な対応（複数回答）



2.5.14. 本市の文化・芸術の振興に尽くし、その功績が大変すばらしい市民に対して、表彰することへの思い

本市の文化・芸術の振興に尽くし、その功績が大変すばらしい市民に対して、表彰することへの思いは、市民、若者、団体ともに「非常に大切だと思う」「ある程度大切だと思う」合計で 80% 前後となり肯定的といえるが、特に若者が肯定的であった（図表 326）。

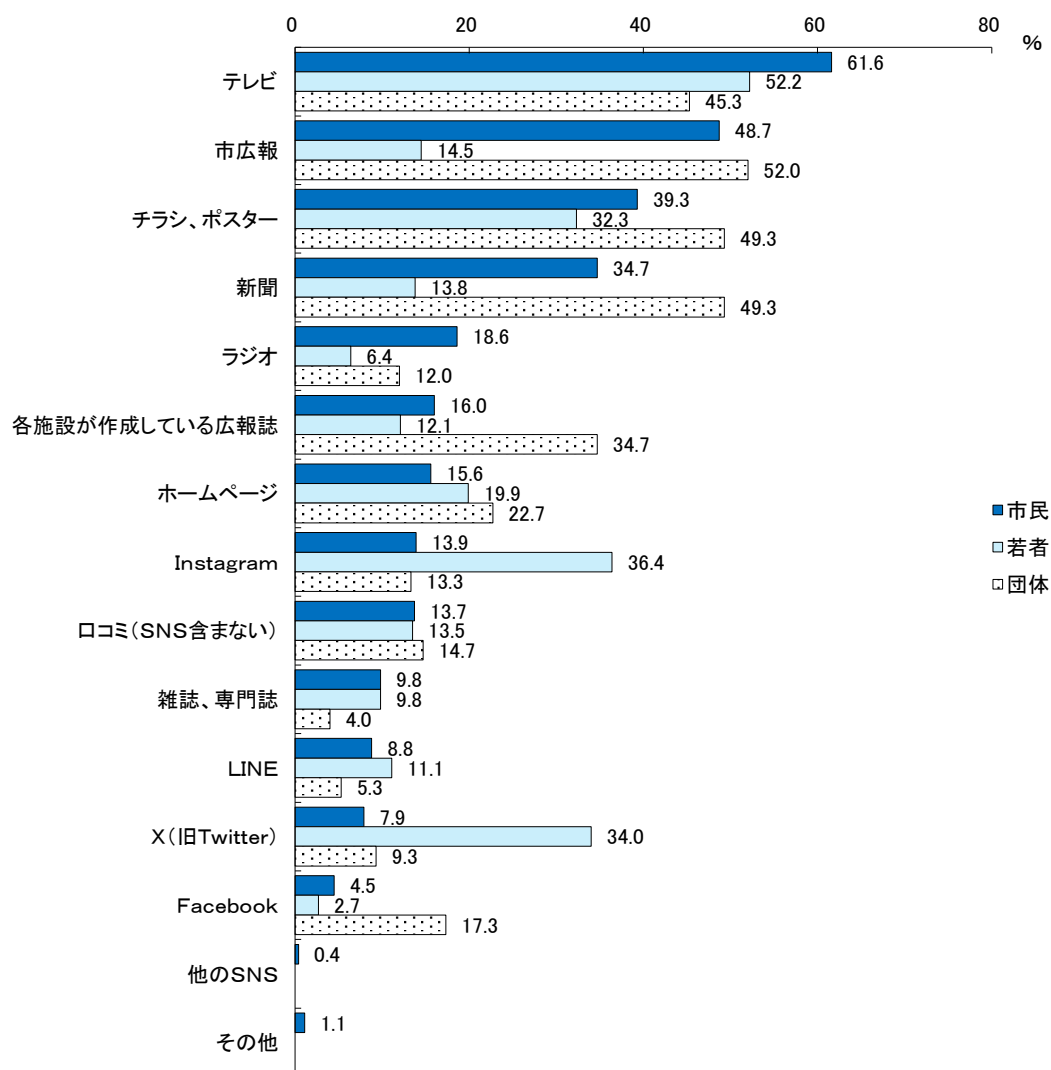
図表 326. 本市の文化・芸術の振興に尽くし、その功績が大変すばらしい市民に対して、表彰することへの思い



2.5.15. 文化・芸術に関する情報（イベントや講座等）の入手先（複数回答）

文化・芸術に関する情報（イベントや講座等）の入手先は、「テレビ」は市民、若者、団体ともに高いものの、多くの項目で回答率に顕著な違いがみられた（図表 327）。団体は中心世代が高齢化しているため、若者との真逆となったものも多いと考えられる。

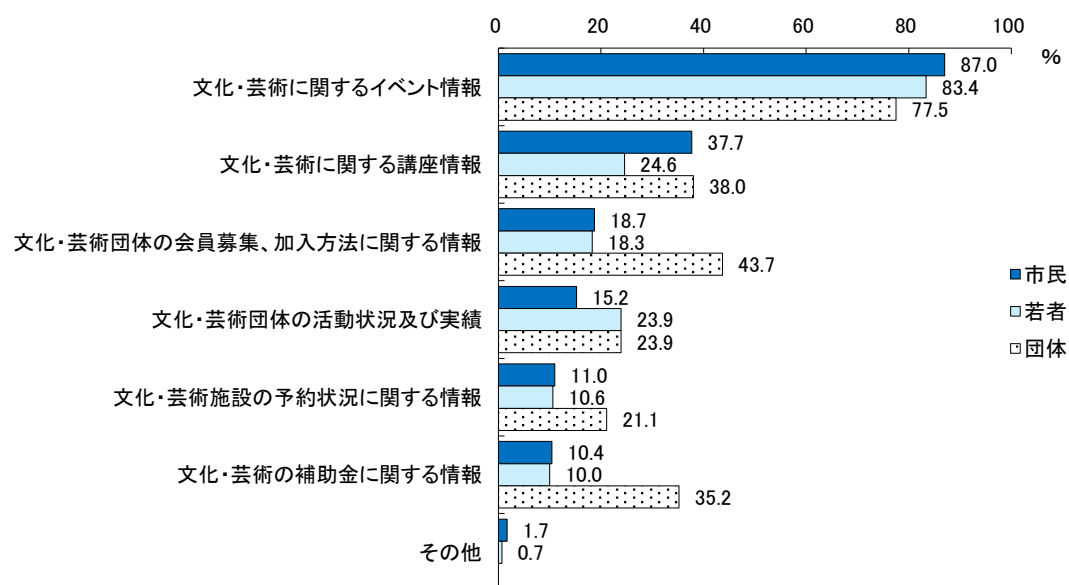
図表 327. 文化・芸術に関する情報（イベントや講座等）の入手先（複数回答）



2.5.16. 本市に発信してほしい文化・芸術に関する情報

本市に発信してほしい文化・芸術に関する情報は、市民、若者、団体ともに「文化・芸術に関するイベント情報」が最も高く、他の項目では団体独自の考えが示されるものも多い結果となった。市民、若者とのギャップが目立つ（図表 328）。

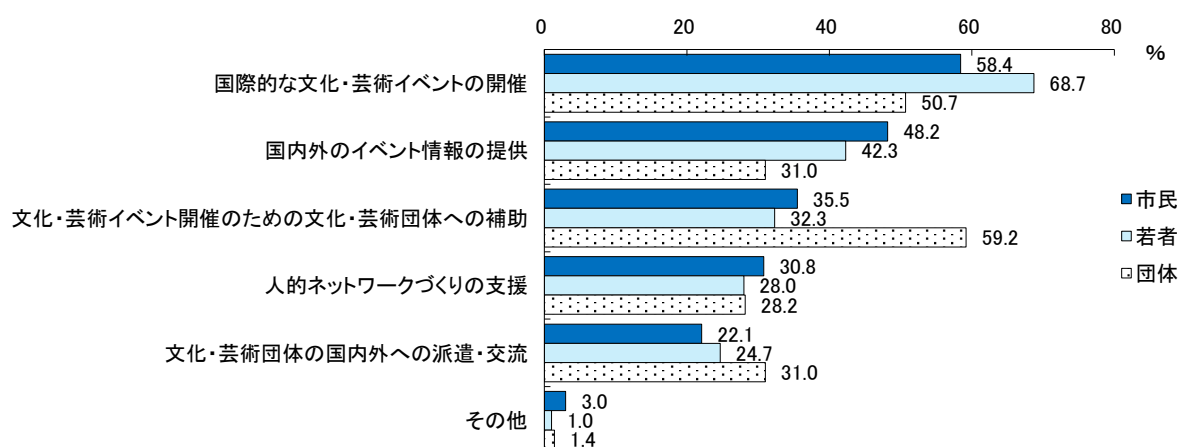
図表 328. 本市に発信してほしい文化・芸術に関する情報（複数回答）



2.5.17. 本市の文化・芸術を通じた国内外の人々の交流を促進するために必要な対応

本市の文化・芸術を通じた国内外の人々の交流を促進するために必要な対応は、市民、若者は「国内外の文化・芸術イベントの開催」が最も高いが、団体は「文化・芸術イベント開催のための文化・芸術団体への補助」が最も高く、認識の違いが明らかとなった（図表 329）。

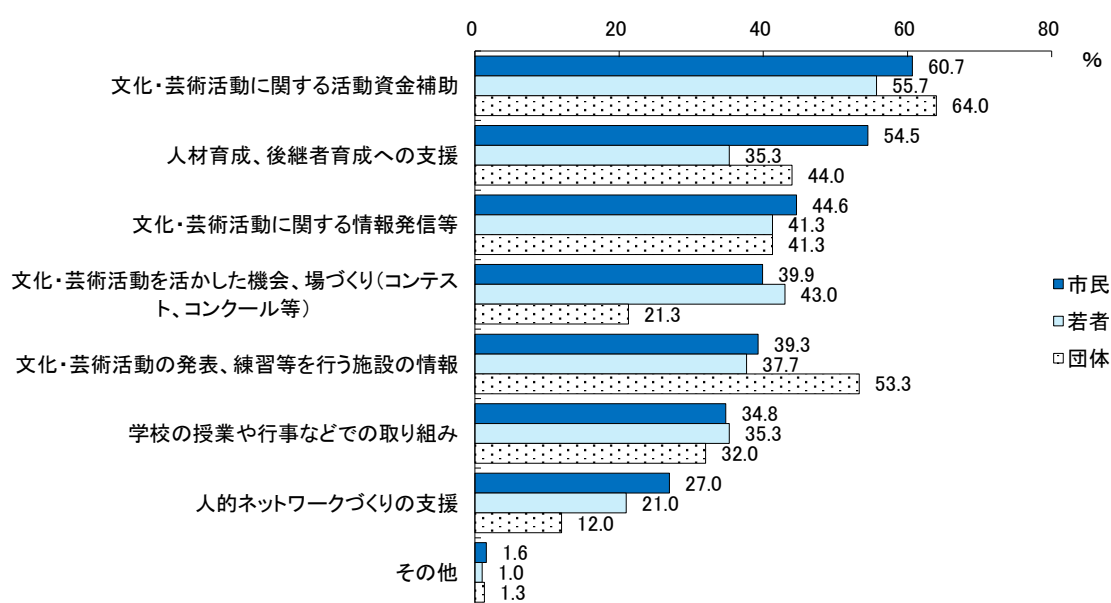
図表 329. 本市の文化・芸術を通じた国内外の人々の交流を促進するために必要な対応（複数回答）



2.5.18. 文化・芸術の担い手となる人材の育成及び確保のためにあると良い支援

文化・芸術の担い手となる人材の育成及び確保のためにあると良い支援は、市民、若者、団体ともに「文化・芸術活動に関する活動資金補助」が最も高いが、他の項目では、市民は「人材育成・後継者育成への支援」が突出し、団体は「文化・芸術活動の発表、練習等を行う施設の情報の情報」が突出した（図表 330）。支援のあり方についての認識も団体と市民・若者の違いが目立つものとなった。

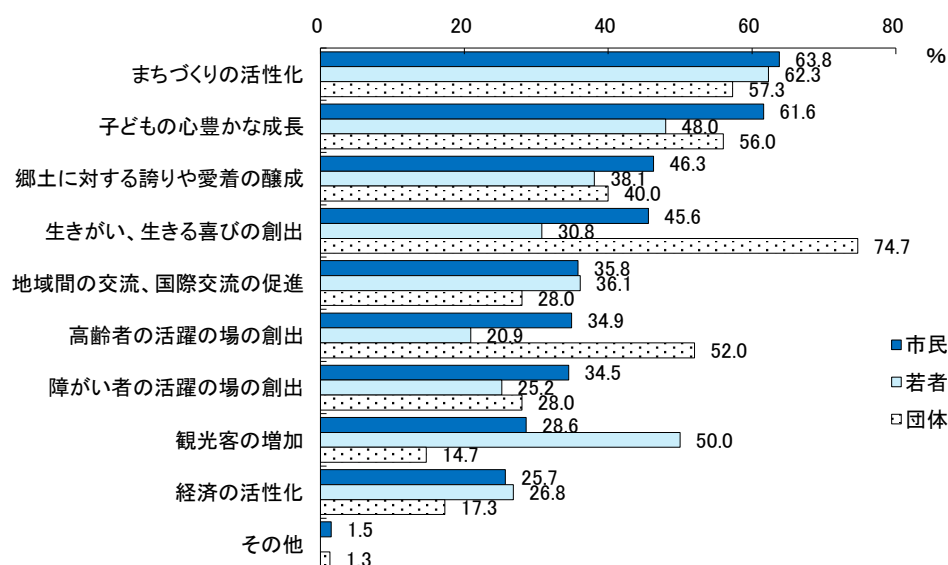
図表 330. 文化・芸術の担い手となる人材の育成及び確保のためにあると良い支援
（複数回答）



2.5.19. 文化・芸術の振興により、社会にもたらされる効果として期待すること

文化・芸術の振興により、社会にもたらされる効果として期待することにおいても、市民、若者、団体の認識の違いがみられ、特に、「生きがい、生きる喜びの創出」「高齢者の活躍の場の創出」は団体の回答率の高さが顕著なものとなった（次頁図表 331）。

図表 331. 文化・芸術の振興により、社会にもたらされる効果として期待すること
(複数回答)

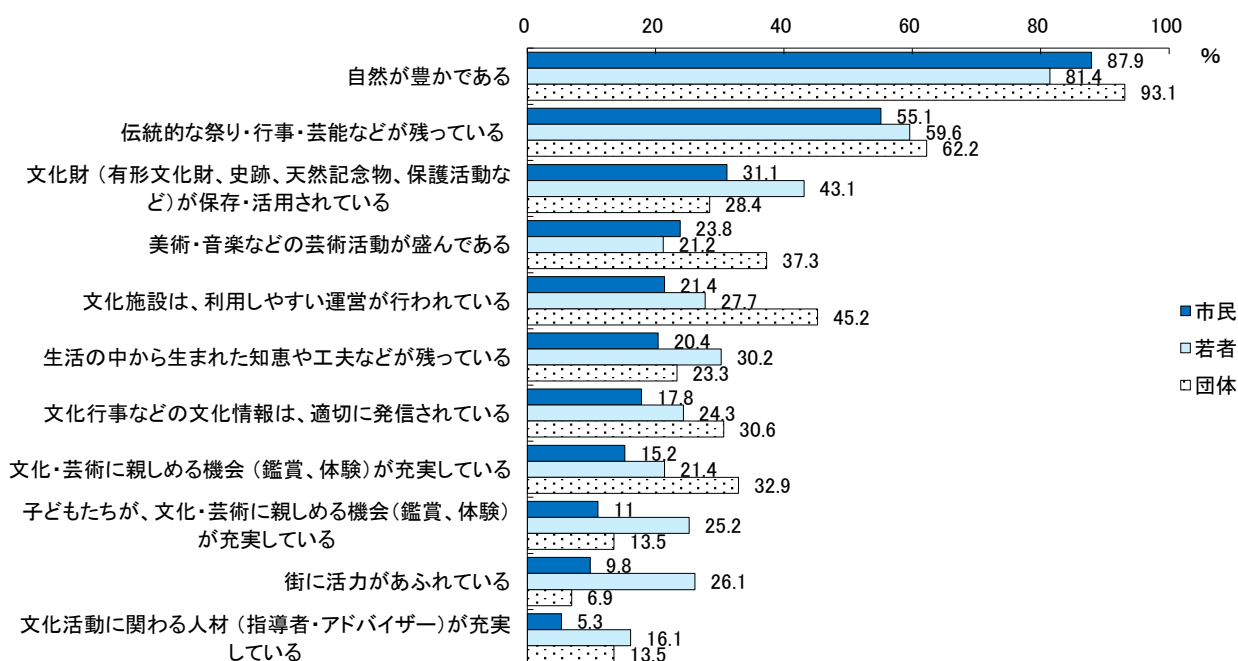


2. 5. 20. 本市の文化・芸術の現状に関するイメージ

本市の文化・芸術の現状に関するイメージについて、肯定的な部分のみをみると、市民、若者、団体ともに「自然が豊かである」が圧倒的に高く、2 番目が、「伝統的な祭り・行事・芸能などが残っている」となったが、他の項目では認識の違いが顕著なものとなった(図表 332)。

図表 332. 本市の文化・芸術の現状に関して「そう思う」イメージ (複数回答)

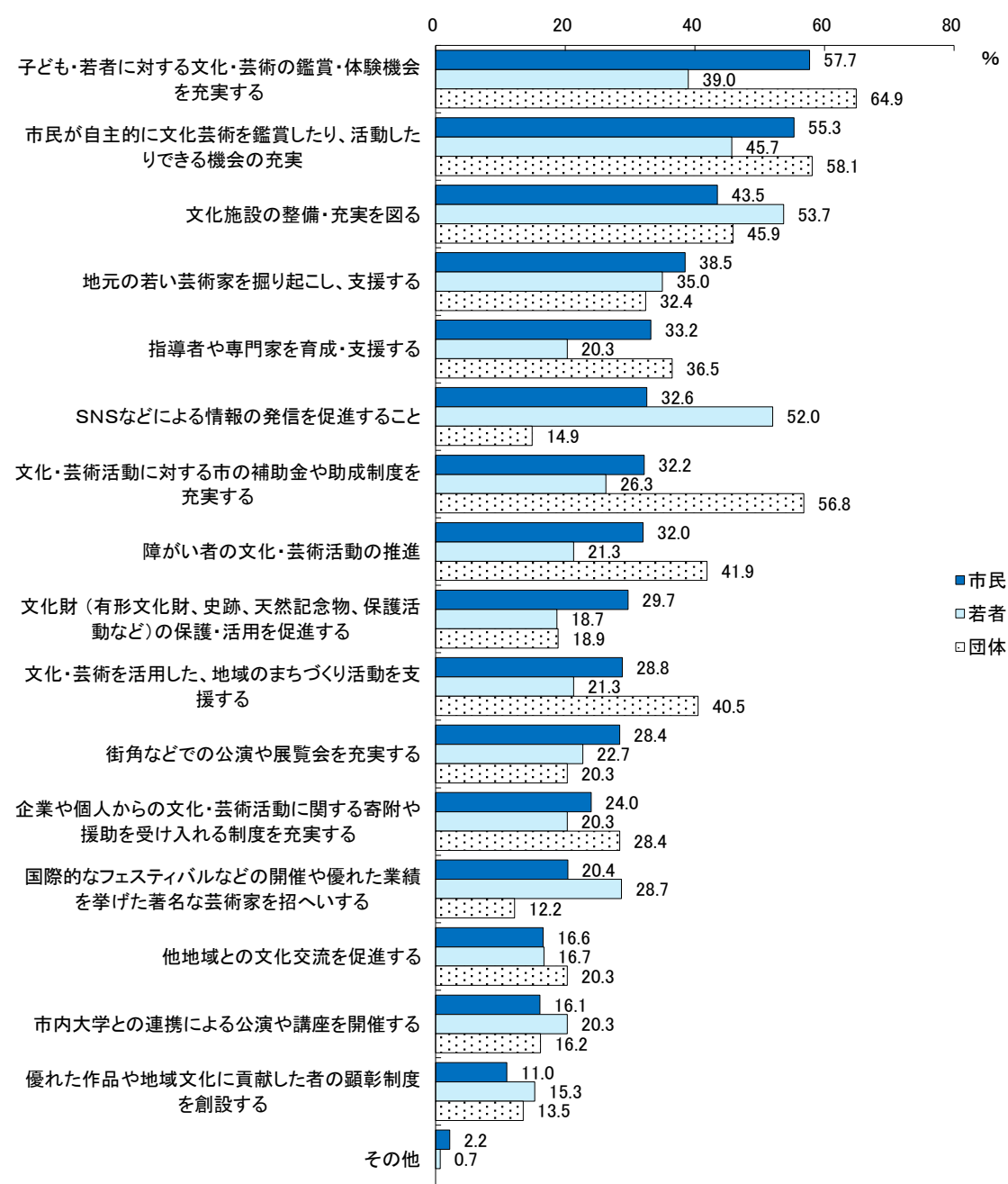
※各質問は単数回答であったが、「そう思う」イメージのみ抽出したため複数回答となる



2.5.21. 本市の文化・芸術をより豊かにするために、市（行政）が注力すべきこと

本市の文化・芸術をより豊かにするために、市（行政）が注力すべきことについては、市民、若者、団体それぞれの主張が顕著であり、3 者が一致するものが数少ないことが特徴的であった（図表 333）。それぞれの立場を理解することが重要と考えられる。

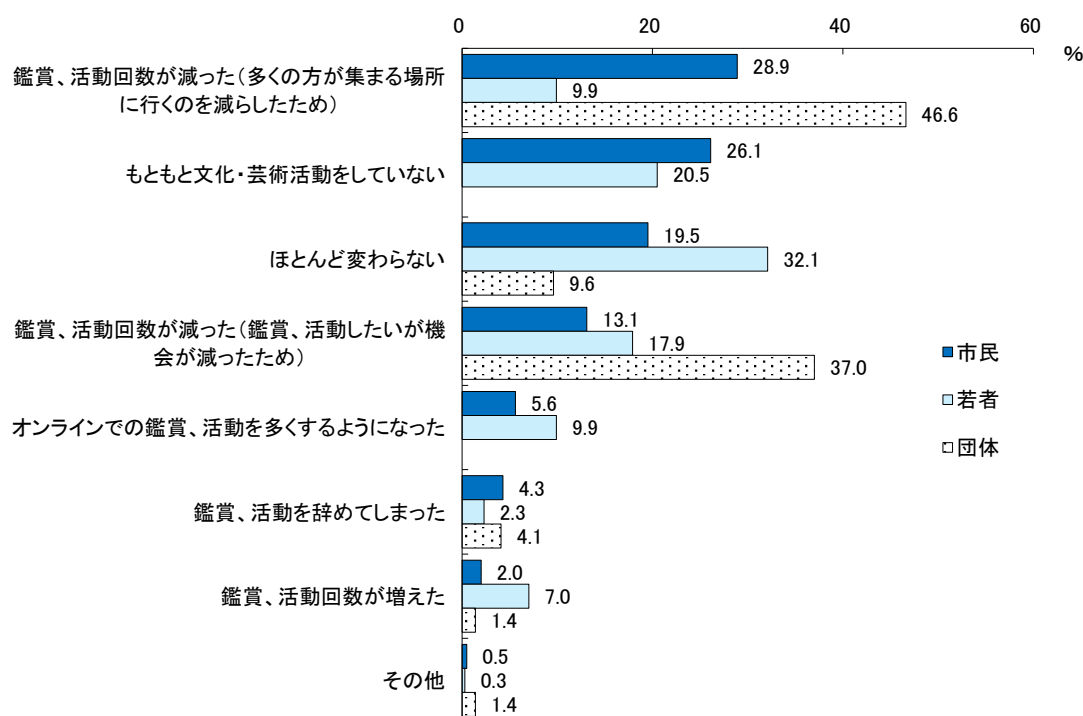
図表 333. 本市の文化・芸術をより豊かにするために、市（行政）が注力すべきこと
（複数回答）



2.5.22. 新型コロナウイルス感染拡大による文化・芸術活動への影響

新型コロナウイルス感染拡大による文化・芸術活動への影響は深刻であり、文化・芸術活動が減退したことを示す結果となった（図表 334）。市民、若者、団体それぞれにマイナス影響を受けたが、特に団体側のマイナス影響は深刻であったといえる。

図表 334. 新型コロナウイルス感染拡大による文化・芸術活動への影響



3. 考察

本研究においては、宮崎市の文化・芸術に対する現状及び認識を市民向け、若者向け、文化・芸術団体向けの各アンケート調査にて明らかにした。市民向けアンケート調査の回答者の年齢層には 50 歳代以上が多く、シニアの実情を示した内容となった。若者向けアンケート調査は、高校生、大学生、専門学校生等に加え、20 歳代の感覚を示したものとなった。文化・芸術団体向けアンケート調査は会員の中心世代が 70 歳代以上であるものが多く、高齢な団体の実情を示したものとなった。

本研究では宮崎市が調査した結果を分析したが、文化・芸術の鑑賞や活動状況（市民向け、若者向け）においては、多忙や新型コロナ下であることが影響し、文化・芸術に触れる機会が必ずしも多いとはいえない状況が明らかとなった。テレビやオンライン等による文化・芸術鑑賞経験は一定数の回答があるものの、実践においては、極めてハードルが高く、皆無に近い分野も多く存在した。新型コロナウイルス 5 類感染症へと移行した現在においては、これらの現状から回帰する必要がある。調査の内容においては、文化・芸術振興に対する多くの課題が示された。

子ども・若者、障がい者等の文化・芸術活動の充実（3 アンケート共通）については、必要性の高さと機会の提供を重視する意見が多く、子どもの頃から文化・芸術実践が重要であるとの認識が強いと考えられ、障がい者においても同様に充実の必要性が強く示された。

文化・芸術に関する施設の機能の充実及び活用の促進（3 アンケート共通）においては、アンケート回答者の世代や立場が異なることから回答傾向が異なる部分が見られ、鑑賞側と参加側・主催側の求める機能が異なることが明らかとなった。特に、文化・芸術団体側の求める機能は重要と考えられ、本市の文化・芸術振興の持続性を図るためには検討すべきである。

文化・芸術活動に係る寄附文化の（3 アンケート共通）においては、寄附の必要性は認識しながらも、寄附に対するハードルが高いことが示された。寄附の方法については、募金等のアナログな方法が主流であり、現状では広がりに限界があるといえよう。寄附が根付くには団体等の主旨が明確であることは当然ながら、寄附する側へのメリットやフィードバックが必要と考えられる。団体側と市民・若者のコミュニケーションが重要である。文化・芸術の保存及び活用（3 アンケート共通）についても重要であるとの認識は 3 調査ともに強いが、市民、若者、団体の認識の違いがうかがえる。文化・芸術の振興に寄与したものの顕彰（3 アンケート共通）には市民、若者、団体ともに賛同する考え方が一致しており、文化振興を進める上では実施すべきである。これらが文化・芸術実践の背中を押すものとなれば効果は高いはずである。

文化・芸術に関する情報の収集、提供及び発信（3 アンケート共通）においては、情報発信で世代や立場からギャップが大きいものとなった。団体が可能と考える発信手段と、市民、若者が求める手段に格差があり、団体側も意図が市民、若者に伝わりにくい上、市民、若者の意向が団体側に伝わりにくいなど、双方のコミュニケーションが難しい実情を示した。活動継続における人材確保が重要である団体においては、活動が特に若い世代に触れることは重要であり、改善の必要がある。

文化・芸術を通じた国内外の人々との交流の促進（3 アンケート共通）は国際交流を重要と認識する市民、若者、団体共通の認識がみられたが、活動の補助を求める団体の意見の強さも明らかになった。活動の拡大においては、補助が重要と認識する様子がうかがえた。文化・芸術活動の担い手となる人材の育成及び確保（3 アンケート共通）においては、補助の必要性が示されたが、学校教育等により時間を要するものの底上げを図る取り組み等ではなく、短期的・直接的に効果のある支援が求められた。

現状、課題他（3 アンケート共通と、文化・芸術団体は固有質問あり）は、文化振興が社会にもたらす効果においては、まちづくり等で各アンケートが一致するものの、多くの部分で、団体独自の認識がみられた。特に、宮崎市が注力すべきことにおいては、切実なものが多く、自らの活動を知ってもらう機会が重要との認識が強く示されたものとなった。新型コロナ下において、活動が制限されるなど、市民、若者との交流機会や発表機会が失

われた時間が続いた団体においては危機感が強く示された。今後の本市の文化・芸術の振興においては重要といえる。

全体を通して、市民、若者、団体それぞれの文化・芸術に関する認識が多くの分野で異なることが明らかとなったが、特に若者とのギャップが大きいといえる。今後、文化・芸術振興を図り、持続性、発展性を高めていくには、これらの世代へのアプローチが重要といえる。本調査で示された結果を文化振興政策に活かすことが重要である。

以上

【参考 自由意見】

※1. 自由意見においては、アンケート回答不能や「特になし」等の無効コメント及びアンケートに対するクレーム等是不掲載とした。

※2. 氏名等の個人情報や個人が特定できる情報については「〇〇」と表記した。

1. 市民向けアンケート調査における自由意見

性別	年代層	自由意見
男性	20歳未満	目の前で生で五感に訴える事が両者にとって一番重要である。体験したことは忘れない。
女性	20歳未満	イベントを開催することはとても良い事だが、時間帯や情報発信を考え直した方が良いと考える。平日の昼間だと学生や会社員は確実に参加することが出来ない。また、私たち若者は新聞や回覧板はなかなか見ないため、SNSや大学への案内などを積極的に行って欲しい。
男性	20歳代	問28-3何事も予算が関係し、これがネックになっていると感じます。市の係の方のご苦労を察しいたします
男性	20歳代	問29にも記載したが、単に余暇を過ごすため十分考えなかった事をコロナにより考える重要な機会になり、必要性さを感じる。人として成長することが市民全体に足りてない。その機会である文化・市民活動には力を抜いてはいけない。なぜなら市民の仁義道徳の低下につながるから。この年になって考えるがこの市には価値があると市民には感じ、自己中心で暮らしてほしくない。昔のような人情や思いやりを市政で市民に伝えてほしい。市民は人それぞれ考え方は違うが根っこは市が好きで市を大切に思う政策をとってもらいたい。
女性	20歳代	市のさまざまな場所でイベントや講座などが実施されていますが、周知する際の文面やポスターを見たときに行きたくなるものと微妙だなと感じるものがあります。デザイン性や行きたい！となるような文章になるともっと若い人たちにも興味を持ってもらいやすくなるのかなと思いました。（子供や大人も）宮崎市内でイベントされている事も多いと思うので、これからの文化芸術の普及がよりよくなっていることを期待しています。
女性	20歳代	税金が減れば所得が増えるので、文化的な活動を勝手にします。変にあれこれするより税金を減らすのがいいです。そうすれば経済が変わります。道路交通状況、交通アクセスが宮崎は絶望的に悪いので車を持ってない、運転できない人でも外出しやすくなった方がいい。文化・芸術活動に支援するのはよいが内容を審査すること。（表現の自由展等の半日活動に税金が使われるのは我慢ならないので。）
女性	20歳代	他県から結婚を機に宮崎に来ました。自然豊かで文化・芸術の鑑賞が以前住んでいた県よりも見るものや体験できるものが多々ありとても魅力的に思います。施設も多くあり無料では入れるところもあるので休日は家族で観に行っていて楽しんでいます。ただ、情報の発信が遅いこともあり行きたかったが終了していたということもあったりするので早い情報だとありがたいです。

性別	年代層	自由意見
男性	30歳代	県内の伝統芸能(神楽等)と多く交流して県内全体を盛り上げてほしい。市内だけでなく宮崎の中心となって伝統文化を残してほしい。
男性	30歳代	美術館でもっと色々なジャンルのイベントをして欲しい。
男性	30歳代	文化・芸術の振興というテーマであれば「子ども、若者、障がい者」をわざわざ別にして考える必要はないと思う。このテーマではとにかく「知ってもらふ事」「興味を持ってもらうこと」をしないとどんなにイベントをやっても施設や場所を整えても寄附を募っても無駄になると思う。
男性	30歳代	文化・芸術の振興に携わっている団体は市内にも沢山あると思うが、大きな団体ばかりが補助金や支援を受ける傾向があるので、どんな小さな団体でも個人でも地道に活動している方々にも色々な面で支援が行き届くような仕組みづくりを考えてほしい。また、地域の若者が活動しやすい環境を作ってもっと気楽に入っていけるように携わりたい。と思えるような魅力ある活動であることを期待します。
女性	30歳代	コロナ禍が明けたと言われますが、やはりイベントものでは、人数制限や申込みの複雑さ、子どもは参加できない等あるのが現状です。屋外での広々とした環境で、お互いに自由に表現したり楽しめるイベントが定期的であればと思います。
女性	30歳代	メディキットでの国際音楽祭をぜひ続けていってほしいです。子どもがもう少し大きくなったらぜひ行きたいと思っています。宮崎シティフィルが障害者を招待してくださるので、とてもありがたいです。(子どもが騒がないようには気をつけていますが、そうでないコンサートより行きやすいです。)
女性	30歳代	育休中はよく行っていたし、情報も取ろうと検索したが、職場復帰後は検索の時間無い為、耳かチラシか目かで知りたい。音楽や劇など、子どもも行きたいです。
女性	30歳代	宮崎は神楽がとても魅力的です。でも、地域により、担い手さんの高齢化、後継者不足により、演目が減ったり、そもそも舞い手がいらないなど、将来への伝承が難しいところもあります。各神社の責任とせず、どうにか介入できないものでしょうか？先人が繋いだものが未来に引き継がれなくなってしまうものがあってはもったいないと思います。
女性	30歳代	参加したくなるようなイベントの企画、継続可能な仕組み作りが必要。学校で指導の場を作る事は有効だと思う。
女性	30歳代	子供の頃から文化・芸術に触れる機会が多ければ多いほど、将来的に親しみをもって参加したり興味を持ち続けることができるのではないかと思います。個人で取り組むことも大事ですが興味が偏りがちなので、学校で行っていただけると印象にも残りやすいし、親に伝わることで親世代へのアピールにもなるのではないのでしょうか。特に地域のことを知ることは宮崎への愛着を育み、将来的にUターンにも繋がるといいなと思います。外部からの講師を招いたり、自分たちで調べる、鑑賞会、校外学習など、取り組みが増えるといいなと願います。
女性	30歳代	図書館にもっと頑張ってほしいと思っています。人員や負担を考えると難しいのは重々承知していますが、たまに夜間の大人向けのイベントなど企画していただけると、いつも時間内に利用できないので嬉しいです。あと、1人でも利用しやすい飲食施設がもう1つ2つあると嬉しいです。社協内のカフェは土日はしまっているの…
女性	30歳代	都会では日常に舞台鑑賞やコンサートなどがあるのに、宮崎だと県外に行かないといけません。誘致できる規模のコンサート開場や施設をつくり、アーティストに来てもらうことで若者も芸術文化を身近に感じ、さらに宮崎外からも観客が来れば、宮崎の活性化にもつながると思います。中途半端な規模感ではなく、しっかりとしたものを作るべきだと思います。

性別	年代層	自由意見
男性	40歳代	市民会館などへのコンサートで、もっと高齢者が楽しめるような歌手に来てほしい。例えば青春歌謡を歌うような歌手。高齢者が生き甲斐ができるような街にしてほしい。市会議員、高齢者と男性が大多数をしめているので、若返りをしてほしい。女性も多くしてほしい。特に男性は忖度が激しいような気がする。人数を減らしてもいいと思う。もっといろんなことに真剣に取り組んでほしい。
男性	40歳代	私は70歳代で敗戦後の子供教育・青春を通してますので、新聞ラジオ、テレビ等も普及しておらず、まったく文化芸術等ふれること失って残念です。幼少より興味を持つことが重要かと思います。度をすぎないように機会を提供することでしょうか。
男性	40歳代	私個人ではなにもしていませんが、市の文化・芸術の発展のためには積極的に取り組んでほしい。
男性	40歳代	障がい者の芸術においてすごい才能のある方がいっぱいいらっしゃいます。掘り起こしを考えては。また、発表会の機会を作ってあげてください。
男性	40歳代	職員数を減らして財源を確保して子供たちの教育に投資すべき。20～50代は収入面で資金きつくて余裕がありません。公務員を半数にすべき。
男性	40歳代	第1は道路の幅員の狭い所を何とかすべきと思います。インフラ整備が最重要課題であり、尚且つメディアからの情報発信も必要かと考えます。
男性	40歳代	中心市街地でのジャズフェスティバルを開催するとよい。

性別	年代層	自由意見
女性	40歳代	「障がい者の美術」といいますと、山下清画伯のことを今は思い出します。ゴッホも「おそらく」そううつ病か境界性障害者ですね。ゴッホ(兄)が絵画に専念できるようになったのは画家フィンセント・ファン・ゴッホの弟画商テオドルス・ファン・ゴッホが経済的に援助し続けたおかげですね。生活と両立するのは、1人では難易度が高いと思いました。文化芸術とは違うかもしれませんが私は動物・植物の美しさも芸術だと思っております。バードウォッチング(バードカービング)植物園、動物園、世界各地の動物・植物を収集飼育すること(文化)、動物・植物の存在の美しさ(芸術)だと思います。You Tubeで【どうぶつが可愛くてごめん】長崎バイオパークさん動画ありますね。【フェニックス自然動物園さん】動画ありますか？
女性	40歳代	こういった事に時間を割く前に、まず環境整備が必要だと思う。動物園は草だらけ、何処を走って居ても草だらけ。こんな所に来たい観光客は居ない。
女性	40歳代	街全体をアートのスペースにしたり、身近にいろんなデザインにふれることができるようにする
女性	40歳代	義務教育期間中にすべての子供たちへ(不登校のお子さんも含む)文化・芸術に親しめる機会を増やしてほしいです。
女性	40歳代	宮崎には文化・芸術全般が不足している印象です。同じ世代でも、関東近郊の価値観とは大きな差がある気がします。さまざまな設備を無駄にせず、活かしていける街づくりをお願いします。アートが日常にあふれる街になってほしいです。(オランダやスウェーデンのように)
女性	40歳代	現在なされている活動に、宮崎市がどの程度かかわっているのかを考えたことがなかった為、問27のような答えになりました。文化・芸術を支援していくことは長い時間や金銭面と大変な事だと思います。鑑賞する側も安くはない券など興味をもった者しかお金を出してまでは触れない領域だと思います。それでも少しずつでも続けて行くことが大事だと思います。
女性	40歳代	今はネットなど関心寄せれる場所は増えたとし、色んな分野の芸術に触れることができるので、公費での教室は催さなくてもいいと思う。人口も減っているし、税金も増え皆さん余裕がなく文化的な活動をする余力がない。現状維持か縮小させていくのが妥当だと思う。
女性	40歳代	些細なことですが施設の外壁が経年劣化で汚れているのが文化発展に遠回りでも影響があると思います。どの施設も中は職員さんの手で整理整頓され美しく保たれています。市民としては大変誇らしいです。ですが外壁は専門業者に頼むほかありません。予算が厳しい折、後回しにされがちですが子供達の目に一番最初に目に入る部分が外観です。施設が古くても外観が保たれてるのは全てにおいて真っ先になれる市の意思表示としては十分に伝わるのではないかと、アンケートに答えながら思いました。
女性	40歳代	子どもが学校行事や授業の一環として文化・芸術を学ぶときに保護者を自由参加にする。学ぶものによっては有料(低額)で。自分が興味を持つ以外に子供が興味を持ったり、子供にさせてみたいなどの気持ちが出てくると思う。
女性	40歳代	子供が文化や芸術に親しむ環境があるというのは大切なことだと思います。あまりルールにとらわれず自由に感じる機会があるとよいのにとします。また、せっかくある機会も情報が届かない、良さが伝わらないなどで参加者が少なかったりそもその参加可能人数が少なかったりという経験もあるのでそこら辺をうまくできると良いのにと考えてます。
女性	40歳代	市民文化ホールやメディキットなどでコンサートを観に行く際に最寄り駅がないため、バスやタクシーになる。バスの増便、臨時バスなどあると助かる。オンラインが発達した世の中ではあるが、生でその場で観たり聴いたりする体験にはかなわない。小学生の頃からいろいろな芸術に触れる機会を持つことはその後の人生に大きく影響すると思う。
女性	40歳代	私個人の印象だが、宮崎県民を名乗る人達が一定数いるが、その人達は常に口先だけ物事を始めて長続きしない。まじめに宮崎県の文化・芸術に貢献している人もいるのだろうが、自ら「宮崎県民は～」と名乗る人達を排除しないと人材の育成に悪影響を与えようと思う。勝手に宮崎県民性を語る人たちは学歴の有無にかかわらず存在する。
女性	40歳代	収益を上げないと宮崎にお金がないので何かをすることが難しいように思います。芸術に携わっている個人に関してはキラリと光るセンスを持つ人があまりいないと思います。それは他県を知らない宮崎の良さ(ex.コケが素晴らしい！コケむした公園も普通にすごい。など)を知らないからだだと思います。どこのショップ(イオンモールや宮交シティなど)に行ってもディスプレイが驚くほど下手です。こんなに下手な県はあまりないと感じました。つまりセンスを磨く場所がない、機会もない、指導者がいないということになると思います。これはどこの企業でも文化でも問題なのではないかと感じました。
女性	40歳代	世の中の人々は、子育て仕事に翻弄し、働いても働いても保険料税金等でゴッソリとられ、金銭的な余裕もありません。無駄な教育をするぐらいなら、議員や公務員等の仕事の見直しをして削減すべき。無駄な仕事が多く、時間のない市民を使いすぎ。無駄な経費を削減し、市民へ基本的な人権等を保てる余裕を持たせるべき。このアンケートそのものが自己満足の必要のない仕事だと思います。数合わせの仕事は必要ありません。文化、芸術よりも健康である事、食糧自給率をあげ、食を伝える事が大事です。病人増やしすぎです。文化、芸術よりも市民が倒れていきます。
女性	40歳代	転勤で都市部に10年間生活し、宮崎市へ戻ってきました。文化活動で都市部と地方の大きな違いは文化に触れる機会が極端に少ないことだと感じています。宮崎市の今後の活動に期待するとともに、機会があれば積極的に活動へ参加したいと思っています。
女性	40歳代	力を入れすぎて税金があがるのは困る。

性別	年代層	自由意見
男性	50歳代	宮崎市も財源(収入)を確保して、文化・芸術の振興に努めていただきたい。合併してもなにもよくなっていない状況が続いている現状である。宮崎市内の住民(市民)においては、多くの人が都城市に各種行事等に出かけている状況を見ると、市政運営を考えさせられる。
男性	50歳代	元々文化・芸術にはそれ程興味が無いので、分からないとの回答が多くなった。
男性	50歳代	現代展も開催してほしい。アニメや映画の原画展。(延岡で攻殻機動隊イベントがあったように。)
男性	50歳代	公立・国立大学に地元の芸術や伝統芸能を伝承するために学べる場を創設し、優先枠を設け、人材を育てる。地元企業の協力を得て、奨学金制度も利用しながら学べる場を作る事で、地元に還元してくれる人材を増やせないだろうか？
男性	50歳代	行政は先ずは箱モノを考えすぎる。維持費が不用なごく身近な街角に自由に演奏できる場所を日常的に数多く設置し、ストリートで気軽に音楽を楽しめる街づくりから始めて若い世代にチャンスを与え、地区に根づくミュージシャンを見守りはぐくむ社会を考えてほしい。海外のストリートミュージシャンをもっと学んでほしい。
男性	50歳代	子どもの時から、文化、芸術等に関心・興味がもてるような働きかけ(教育)を実施したり、その環境づくり(触れ合い、体験等)があると、年を重ねても豊かに過ごせる人が増えるのではと思う。また、展覧会に出展される人やそれを観に行かれる人、主催側の人もが楽しめるような、もっと見所を伝える情報発信を行うと文化芸術の街となるのではと思う。幅広い市民が参加できる発表の場の機会が増えるといい。
男性	50歳代	子供たちのために宮崎の歴史文化の維持を宜しくお願いします。
男性	50歳代	子供のころから、日々生活の中にいかにして文化芸術が溶け込むか、押しつけがましい教育はかえってマイナスと思います。
男性	50歳代	子供の頃からあまり触れてこなかったせいか、大人になっても興味がわからない。しかし、子供には触れさせてあげたいと思うので、子供の延長であって、自分が楽しめるようなものがあればいいと思う。
男性	50歳代	市の文化連盟にお世話になっていました。日本郷土民謡の〇〇会でしたが数年前にお暇をいただきました。〇〇流民謡太鼓〇〇〇〇で九州地区の指導をしてきましたがやめました。(コロナウィルス感染拡大始まった時一斉の芸事を止めた)
男性	50歳代	市民が自主的に文化芸術を鑑賞したり活動したりできる機会の充実が欲しい。
男性	50歳代	市民が文化・芸術に親しむには、子どものころからの教育や大人になってからの時間の余裕がとても大事。芸術家になって高収入やゆとりある生活があれば、人はそのために努力していくと思う。
男性	50歳代	市民の心身の健康を目指す市政運営よろしくです。

性別	年代層	自由意見
女性	50歳代	SNSを利用していく
女性	50歳代	コロナで芸術家の活動が減ったことが発信するエネルギーとなりルネサンスのように芸術や文化が花開くことを心待っています。そのバックアップを公的な組織が下支えしていく事を強く望みます。子どもたちと芸術、文化がしっかりと繋がっていくことは大切なことだと思います。大人はそこを意識していかないと繋がらない。今という今が頑張りどころだと感じています。このアンケートがより良い活動に繋がっていきますよう祈っております。
女性	50歳代	コロナ後、活動が大きく変わったが以前に戻りつつあります。ですが、その後活動に戻ってこない人も多くいます。安心して活動できるよう環境整備が今後必要だと思います。(空調・除菌など)ぜひよろしくお願いいたします。
女性	50歳代	もっと芸能人のライブ等が出来るように宮崎市が活性化しないと、自然だけでは発展は期待出来なと思います。いつも、宮崎では何かしらのイベントをしている、みたいなワクワク感があまり無い。老若男女が元気になる活気がほしいです。
女性	50歳代	機会が増え、コロナの不安も軽減されればこれからは是非参加したいです。人とのつながりで人生を豊かにしたいです。宮崎市の取り組みに期待しています。
女性	50歳代	宮崎での発信力が弱いと感じます。県内だけでなく、県外にもすると良いと思います。良い施設がたくさんあるのにもったいないと思う。交通網も整備してくださると有難いです。看板や標識でわかりやすく今はSNSでナビもあるのでWi-Fiもあるといいですね。バスや遊覧バスもあるといいなと思います。また見学コースがあると行きやすいと思います。またおすすめの食べるところやお土産屋さんがあると助かります。よろしくお願いいたします。
女性	50歳代	宮崎のすばらしい文化を日常で感じられるように若い世代にも伝わっていきけるよう頑張ってください。
女性	50歳代	高校を卒業すると、県外に進学、就職し、そのまま宮崎に帰ってこない人がほとんどです。この30年、サークルの大人会員の顔ぶれはほとんど変わっていません。その数少ない大人で文化活動を継続するのはなかなかきついものがあります。若者に魅力ある進学先、就職先が増やすため、宮崎という街自体が元気になることが必要なのだと思います。
女性	50歳代	今の時代、新聞や広報誌をとらない人や家庭が多い(特に若い人たち)のでまずはイベント等の情報が入ってこない。アプリを作るか、ラインで常に市の方から自動的に情報が流れてくると気づきやすく、参加人数も増えると思う。我が家も不安症の長女(高3)と発達障害の長男(高1)をかかえているので無理のない程度にぜひいろいろ参加させてみたいです。伝統文化については若い人が引き継いでいくことが大事なのでぜひ育成活動をしていただきたいです。目的がはっきりしていれば寄付もしやすいと思います。共に頑張りましょう。
女性	50歳代	施設が散らばりすぎていてよく分からないし、駐車場が少ない場所が多い幼・小へ施設のスタンプラリーのように、施設一覧の冊子やカードでも配布すれば、行ったことの無い施設に行く機会や興味も増えるかと。
女性	50歳代	小さな子供のころに好きな芸術と出会う機会があると良いと思います。
女性	50歳代	障がい者の芸術においてすごい才能のある方がいっぱいいらっしゃいます。掘り起こしを考えては。また、発表会の機会を作ってください。
女性	50歳代	前は書道・茶道・花道・ダンス・合唱などいろいろな活動をしていました。子育て中は子供の活動で合唱や吹奏楽・書道・ピアノ等文化に触れる機会が多々ありましたが、子育てが終わってからは日々の仕事に追われて全く触れることがなくなりました。芸術は好きなので鑑賞したいと思うのですがきっかけがありません。もうすぐ60歳になることで考えてみたいです。気軽に取り組めるきっかけが欲しいです。
女性	50歳代	段階を追って進めていかないとベースがないように感じます。長期的に考えていくべき内容なのかと思いました。
女性	50歳代	展示の仕方をもっと工夫し、わくわくするような会場を作ってほしい。
女性	50歳代	都会より芸術に触れるチャンスが少なく、コンクールの開催は遠距離移動が必要なことに不便さを感じる。大学生の活動や、生涯学習的な機会も増えると良いと思う。各地に残る夜神楽や音楽の参加的活動や、観光客にも広げてホテルでのイベントも考える余地があるのではないかなと思う。
女性	50歳代	文化財の保護は賛成、協力したいと思える。そのために新しく箱物を造るのは反対。
女性	50歳代	有名アーティストのコンサートが少なすぎる福岡や大分、鹿児島まで行かないと、鑑賞できない

性別	年代層	自由意見
男性	60歳代	文化・芸術に直面する機会を多くすることが大切だと思います。
男性	60歳代	もう少し宮崎に来てくださるアーティストの幅を広げてくださると今よりも多くの人々が芸術に意識を向けるのではないかと思います。
男性	60歳代	音楽ライブと組み合わせた場なら(有料)でも行こうと思う。寄付しやすい。泉谷しげるさんのライブのようなファミリーで行ける。
男性	60歳代	会社で広報部に所属していたこともあり、宮崎市として文化・芸術に力を入れてもらい活性化できる体制づくりをお願いしたい。夜の街・パチンコの街的なイメージが強いので、文化・芸術の街になるように携わってみたい。
男性	60歳代	企業、職場へのイベントの情報提供と割引券等の支給があればさらに行きたいと思うようになるのではないかな。
男性	60歳代	宮崎アートセンターは必要ないと思う。障がい者の子供たちはやらされる感がある。教員も大変。
男性	60歳代	宮崎には大きなイベント等が開催できる施設(アリーナ等)がない。
男性	60歳代	宮崎県民、市民は画用紙を渡されて書く「のさんと山をかき」「よだきいと木をかき」他の教育県とちがい文化の教育が乏しいと思う。
男性	60歳代	宮崎市の発展に、とても大切な取組だと思いますので、今回のアンケートも生かしながら、さらなる取組をお願いいたします。
女性	60歳代	アンケートを出したからよしとしないでほしいです。少しでもアンケートの結果を見て、改善してほしいです。なくすことはすぐにでもできますが、再生することには大変です。できないかもしれません。文化財・史跡他芸術関連施設等などいろいろな方々の思いがあり成り立っていると思います。私たちは、その思いをつないで行く必要があると思います。
女性	60歳代	スポーツは好きだけど芸術系にはまったく興味ないのでごめんなさい
女性	60歳代	学校教育において、宮崎県民、宮崎市民であることを誇りに思えるような教育をしてはどうかだと思います。宮崎の良さ、特徴を子供たちに知って欲しいし、それを誇りに思って成長して欲しい。もっと言えば、日本を誇りに。私は大人になってから、ゴッホやルノアールが日本に大変な憧れを持っていたこと、浮世絵を高く評価し、彼らの絵画の中に浮世絵が登場すること、当時ヨーロッパで日本ブームが起きていたこと、等を知りました。どうして子供の頃、美術の先生はそれを教えてくれなかったのか？ヨーロッパは日本なんかに興味ないだろうと思って
女性	60歳代	気軽に参加したりできると思う。外出するのがなかなかなので、地域でなにかあるとよいです
女性	60歳代	宮崎は全般的に発信・PRが弱いため、広報活動に力を入れることが大切だと考えます。
女性	60歳代	宮崎市で様々な文化・芸術についての発信が市報でなされているのはすごく良いことだと思います。今後も市民が気軽に参加してみたい行ってみたいと思うイベントをお願いいたします。
女性	60歳代	現段階では文化、芸術の団体を率いているのが、ほぼ高齢者。情報発信方法が現代にあっていないため、後継者となる年齢に響かないままだと感じる。また、会の運営方法も古い。発信、受信、交流、運営に助言や支援することで、若い世代を引き入れられるようになる団体も多いと思う。
女性	60歳代	私はお箏(こと)を習っています。12月の演奏会に向けての尺八との合同練習が市民ホールであったのですが2階の練習室に運ぶのにエレベーターがなく階段で運びあげました。和楽器に携わる方は私を含め高齢者が多く練習前にみんなヘトヘトになっていました。階段の差も高いトイレも和式のみ(2階)で使いづらかったです。改善よろしくお願いします。夫がなかなか記入しないので代筆しました。
女性	60歳代	若いときは遠くのイベントも出かけていったが、年をとると駐車場や交通手段がないので、行くことをあきらめています。
女性	60歳代	将来を担う子供達に、数多く文化や伝統に触れる機会を与えて欲しい
女性	60歳代	身体障がいがあり言語障害やその他の病気があるのにアンケート調査はやめてください。健常者に対するアンケートを？私(夫)も脳の手術をして数年が経っていますが時々発作が出て、妻の介護含む状況です。夫婦とも集中力や理解に苦しんでいます。妻は字を書くことも出来ないくらいの状況です。
女性	60歳代	生活が整ってはじめて文化・芸術に目が向けられると思います。自分自身、生きるのに精一杯で正直芸術について考える余裕がありません。生活の安定が第一です。努力してがんばって働くことが報われる宮崎市であってほしい。
女性	60歳代	全てにおいて情報がなく、あまり積極的でなかったと思います。昔はもっと自分から情報を取りに行き行って行動していたように思います。年齢と共に消極的になってきたと思います。気軽に参加できるイベントなどあるといいなと思います。
女性	60歳代	展覧会等にいきたくてもどこであるかなどがわからないし、参加していいのかもわからない。街中でのあれば気軽に行けると思う。
女性	60歳代	文化・芸術にプラスになる聞き方が多い気がして統計をとって報告にするには片よりがあるんじゃないかと思います。
女性	60歳代	有名書道家の講話や書いている時を鑑賞したり作品等を見たい。美術品や舞台等、福岡まで行かないと見れないのは悲しい。宮崎のレベルが低い気がする。
答えたくない	60歳代	市の施設の4月からの有料化に伴い、自主文化活動をあきらめた(あきらめかけている)団体がいくつかあります。市民の文化活動の場を支えてほしい。生涯学習を続けられる為にも公民館等、場の提供を市民に続ける宮崎市に期待します。元気な老人は若者をささえますよ。矛盾を感じています。

性別	年代層	自由意見
男性	70歳代以上	＜まずはこのようなアンケートに心から感謝いたします。＞宮崎市アートセンターについては苦言で恐縮ですが、催事展示内容がいくらかたよった内容が多く、一般的に市民が出かけてみたいという展示会が少ないように感じる。興味深いものもあるが、まずは市民の多くが行きたくなる、またアートセンターがあることを知ることが大切だと思う。また市内真ん中で駐車場も不自由です。(山形屋併設駐車場は設計が危なくて使いにくいです。)ご多忙中アンケートの機会をありがとうございました。よりよい宮崎市へ。
男性	70歳代以上	・施設などは、利用したいなと思っても、ネットで予約ができなかったりする。・LINEに登録しているので、自分は市内のさまざまなイベントに触れやすいが、もっと発信する機会を増やすべきと思う。・子ども向けの体験会はよく見るが、大人向けの体験会はあまり見ないので、大人向けのイベントも増やすべき。・伝統芸能を絶やさないために、就職活動の選択肢として思い浮かぶよう、子どもの頃からさまざまな体験ができるとさらによい。
男性	70歳代以上	73歳です。子育てと仕事で過ごしてきたように思います。姉が絵を描いているのを見て、うらやましく思いますが、だからと言って自分が何かをしようとは思えません。でもアンケートのおかげで音楽でも聴こうかなと思います。
男性	70歳代以上	アーティスト等の支援・輩出が先だと思えます。市民が文化・芸術活動に関心を持つか否かはまた別の話だと思います。そもそも興味が無い人達を惹きつけることは簡単なことではありません。文化・芸術振興とは？という問いをまず見直すべきです。
男性	70歳代以上	アクセスを充実する事。駐車場の拡充が必要。
男性	70歳代以上	この市民アンケートは、令和6年度の「第四次文化振興計画」のためということでは理解できましたが、このアンケートの「質問内容」を見て思ったことは、①アンケートの「質問内容」が表面的で更には漠然としていて、宮崎市がどのようなことを考えているのか今一つ理解できません。この「質問内容」でアンケートをとってみても「市民の声はこのような結果になりました。」というだけのことです。以前のことはわかりませんが、もしも、これまでと同じようなアンケートをとっておられたとしたらば今回も同じような結果になると思います。この結果はそれなりに活用されるのだらうと思いますが、表面的であり意味があるとは思えません。②今年度が「第4次宮崎市文化振興計画」の策定ということであればいま一歩考えてみた時にこれまで過去3年間に於いてどのような問題点があって、どのように解決したら良いのか等を市民に投げかけるアンケートをしたらいかがでしょうか。そうすれば案外役に立つ意見等も得ることができると思います。③要望としてアンケートを求める場合、各施設(宮崎市の運営する文化・芸術)ごとにどのような催し物(「文化芸術基本法に例示された対象分野」に示された催し物)が行われたのか等、前年度の実績などの参考資料を提供(同封)してほしいです。
男性	70歳代以上	この調査自体が無駄。とったところで宮崎市が思い切ったことをするとは思えない。というが宮崎市役所職員は誰のために仕事しているのか分からない。少なくとも市民のためではない。プロフェッショナルとしての意識も低い。
男性	70歳代以上	コロナに恐れず、大胆にいろいろたちむかっていけばよいのではと思う。交通機関を増やしてほしい。バスなどの電車などの数が少なすぎる。
男性	70歳代以上	文化芸術は好きでやりたい人がやることでそんな人は探し出してでもします。動く気のない人の目の前にエサを出しても食べません。やりたい人がやりやすいようにしてあげてください。
女性	70歳代以上	おつかれさまです。アンケートを作成されることにより、企画される方々にとって問題点は見つけれられているものと思われます。どれがどうということなしに目が届くところ、出来ることを片っぱしからされてみられることが一番かと思いました。
女性	70歳代以上	かつて文章はそのほとんどが縦書きでした。ところが、県や市からのそれはほとんどが横書きです。書道家も「前衛」となると横書きが増えていきます。学校で習う日本史、その教科書も横書きと、孫から聞いてあ然！世界史なら納得しますが、「洋」ならぬ「和」を学ぶそれが縦書きではないと！この文書を変信する封筒もしかり。消印、郵便番号は縦式、ところがあて名は横書きとは。
女性	70歳代以上	すべての行事の情報が目に入ってこない。新聞を見てこんなことがあったのかと終わった後で行けばよかったと思うことがしばしばです。高齢者はSNS等は見えていないです。
女性	70歳代以上	フェスティバルを開催してその期間は街角やデパート、駅など気軽にどこでも鑑賞できる絵画、音楽、書道、デザインなどがあつたら楽しいと思う。子供たちも外で芸術に触れたり障害者と一緒に何かをする機会があればいいななどなくなると思う。勉強も大事だけど外で作物や花を育てたり地域の人と一緒にボランティアをしながら地域の祭りやぶんかを学んでいくとよい。
女性	70歳代以上	もう年令もいってしまい、今は自分の体力、健康を維持していく為にスポーツ施設に通うくらいであまり自宅から離れた所へは行くことがないので役に立てなくて申し訳ありません。
女性	70歳代以上	宮崎駅前が以前は淋しかったけど「アミュプラザ」ができて若者を多く見かけるようになった。
女性	70歳代以上	県立芸術劇場等で様々な絵画展等の催し物は多々ありますが、明治以前の日本人(日本の)国宝級のもの(絵画や巻き物)独特の文化・芸術的な鑑賞できればと思います。
女性	70歳代以上	現在、自分中心の健康の毎日で社会とのつながりが薄く淋しく思っています。特に子ども・若者の活動がわからず、回答に困りました。博物館(西都含む)美術館、名所、神社等好きで通っている現状です。
女性	70歳代以上	公民館活動の延長として文化活動に参加しているが、場所の老朽化と、設備不良の為に高齢者の参加が困難である。例えば階段を上るのが足腰の痛む高齢者は活動をやめざるをえない。又設備もせまく人員の確保ができない。トイレにシャワレットなく利用しづらい。視聴覚設備もなく利用しにくい。これら施設の充実を早急に願うものである。
女性	70歳代以上	高齢になっても文化芸術に触れることは心の栄養だと思うので交通の問題や低い年金で生活ギリギリでもたまには参加してみたい。

性別	年代層	自由意見
女性	70歳代以上	市民アンケート調査の一因に選出され、条例のことを初めて知りました。責任重大です。何度も目を通しました。目に見えるもの見えないもの年を重ねるにつれて感じられる様になり、このアンケートは必要性を教えてもらった気がします。財政の問題、施設の整備、充実等重要ではありますがすべては個人の意識に伴うもので自分自身にどれだけ大きな宝を得ることができるかだと思います。文化芸術への関心は生まれて育ってゆく過程で始まっている気がします。そういう教育がまず大切だと思います。この資料を制作された方々ご苦労様でした。素晴らしい条例ができますようお祈り申し上げます。
女性	70歳代以上	市民会館などへのコンサートで、もっと高齢者が楽しめるような歌手に来てほしい。例えば青春歌謡を歌うような歌手。高齢者が生き甲斐ができるような街にしてほしい。市会議員、高齢者と男性が大多数をしめているので、若返りをしてほしい。女性も多くしてほしい。特に男性が大多数をしめているので若返りをしてほしい。女性も多くしてほしい。特に男性は付度が激しいような気がする。人数を減らしてもいいと思う。もっといろんなことに真剣に取り組んでほしい。
女性	70歳代以上	新型コロナウイルス感染拡大のこの4年間、地域の行事がほとんど中止となり、今年度に入って少しづつ開催されるようになったけど、すべて縮小されて前のようにぎやかさはないです。大人になつての思い出話が淋しいです。今の活動が当たり前になっている気がします。
女性	70歳代以上	昔は自分で着物を着るのが当たり前だったのに、現在ではできない状態です。私たちの時代は授業に家庭科があり裁縫など学びました。今はいかがでしょうか？特に中学高校を卒業するまでに、女性は特に浴衣くらいは自分で着物を着て、半巾帯、結びができることと社会人になりいづでも心配しないで着物が着れると良いことと思うので学ぶ場が必要です。学校の授業場があると良いのではないのでしょうか。日本伝統の着物を大切にしたいと思っています。*鹿児島県の高校では(1年2年3年)と着装の時間があるところがあります。
女性	70歳代以上	地域によっては高齢者が多かったり事が進まないことも多々見受けられるようになっている気がします。若い人を増やし文化・芸術に興味を持ってもらえる環境整備が必要ではと思います。
女性	70歳代以上	敷居が高いし金銭的余裕がない

2. 若者向けアンケート調査における自由意見

男女別	年齢層	自由意見
男性	18-19歳	費用を出して、もっと支援すべきであると考えます。
女性	18-19歳	公共交通機関の充実を図ることが最も大切だと思います。移動手段が無いと、出かけるハードルが高くなると思います。
男性	20歳代	入場料をとらないコンサート等でまずは知ってもらうことが大切かなと思います
男性	20歳代	ホロライブプロダクション所属Vtuberの「儒烏風亭らでん」さんが元学芸員として働いており、よく美術(主に絵画)の素晴らしさを配信で熱く語っています。私自身、これまで美術品、絵画などに興味を持つことはありませんでした。しかし、彼女の配信では実際に絵画を観る。
男性	20歳代	テレビはあっても全く見ないため、SNSを通じた情報発信をしてほしい。
男性	20歳代	そんなことより地方の低賃金をなんとかしてください。いずれみんな給料もとめて県外行きますよ
女性	20歳代	場と専門家と人力が揃っている学校茶道を認知し、もっと頼ってください。日本文化振興へのやる気にあふれた若者が喜んでお手伝いします。
女性	20歳代	若者をターゲットにするなら、コンサートやライブができるドームやホールを設立して欲しい。それに伴う、交通網も便利にして欲しい。現状、本当に公共交通機関が不便である。

3. 文化・芸術団体向けアンケート調査における自由意見

活動分野	結成年数	会員数	中心世代	自由意見
伝統芸能	20年以上 30年未満	20人以上 30人未満	70歳代 以上	①私は日本民謡を主とした活動をしています。加えて民舞、三味線、尺八、太鼓と民謡に関するものを指導、それに舞台公演、小学校での民謡指導、公民館活動、福祉社会施設等に民謡指導や民謡公演をしています。②今回のアンケートで、伝統芸能のジャンルに日本民謡の区切りがありません。日本の伝統的音楽である民謡をこれからは是非加えて頂きたいと思います。
伝統芸能	30年以上	10人以上 20人未満	70歳代 以上	練習施設が少なく、抽選のため、確保に苦労している。早急に公共施設での充実を図ってほしい。
生活文化	30年以上	10人未満	50歳代	非経済的価値を認識するものが文化であるとも思います。宮崎県内において宮崎市が一番文化レベルが低いように感じられます。
生活文化	30年以上	20人以上 30人未満	70歳代 以上	市の文化芸術振興に努力され、大変ありがたいです。今後ともよろしく願ひいたします。

活動分野	結成年数	会員数	中心世代	自由意見
音楽	10年以上 20年未満	10人以上 20人未満	60歳代	県庁所在地なので、市の施設や県の施設があり、イベントも多く、非常に文化・芸術面に恵まれた環境だと思います。広域になった宮崎市の中心部から離れた地域の方々は距離的にも文化・芸術からは恩恵を受ける機会も少ないでしょう。中心部から離れて住んでる大人は多少の不均衡は受け入れるとしても、幼児、小・中・高、若者には文化・芸術で心を育てる面での働きかけをまんべんなくしていただきたいと思います。市の公民館、地域の公共施設はとても充実していて、いつも気持ちよく利用させていただいております。ありがとうございます。
音楽	10年以上 20年未満	10人未満	70歳代 以上	いきいき応援手帳の件。①一日の中で何回でもOKにしてください。②50ポイント以上もOKにしてください。お茶代・ガソリン代他、全て個人負担していますので宜しくお願いいたします。
音楽	20年以上 30年未満	30人以上	40歳代 以下	文化施設の利用のあり方について。ある団体は練習会場にて大型楽器の保管が認められている。別の団体は認められていない、などの違いはどこで決まるのか。行政全般において、スポーツ等に比べ芸術への力の入れ方が全く違うように思う。生涯学習の視点から、もっと気軽に芸術活動に参加できる機会があると良い。
音楽	30年以上	10人以上 20人未満	60歳代	会員の減少が続く、会を維持していくために大変である。大きなイベント等での後継者を作っていくべきであるが、それを次の世代に渡していくという姿勢がみられず今後、どうなるか不安である。やはり高齢者になれば、自分から次の世代にバトンタッチするということが必要ではないか。
音楽	30年以上	20人以上 30人未満	60歳代	むずかしい事はわかりませんが、今後困った場合は文化・市民活動課をたよりにしています。よろしく願いいたします。
音楽	30年以上	30人以上	50歳代	施設利用時の使用料の減免をお願いしたい。会員からの会費を有効に使うため、使用料の支出を抑えたい。
音楽	30年以上	30人以上	70歳代 以上	一番の課題は、会員の高齢化、会員募集の難しさです。小中学校での体験も必要ですが、将来趣味などとして継続していこうと実感できる年代、高校、大学に芸術文化活動を紹介・体験できる機会をつくるのが大切ではないかと常々感じています。
舞踏	20年以上 30年未満	10人未満	70歳代 以上	特に高齢者の視点から申しますと、今まで培ってきた伝統文化がどんどんなくなっています。例えば生活用品（竹細工・木工細工）を作る人がいなくなってしまう。日本の伝統文化である着物を着る人が少なくなった。と同時に着る機会も減ってきた（場所を提供してみた一話文化の継承、作法、歴史、マナー等）（和装の文化も先細り）。日本舞踊も高齢化が進み担い手が少なくなってきた。
舞踏	30年以上	10人未満	70歳代 以上	会場までの交通の便が悪いので車を運転できる間は良いのですがますます出向くことはおっくうになるでしょうね。
舞踏	30年以上	30人以上	70歳代 以上	市民文化ホールの使用が入場者が少ない、芸術団体の行事には使用をさせない。清武や佐土原などの会場になると、発表の観客が少なくなるので一考してほしい。
文学・文芸	-	10人以上 20人未満	70歳代 以上	問7の関連ですが、各地区公民館にて講座をしています。公民館は平屋にしてほしいと思います。公民館を利用する年齢が年金対象としては学生が高齢者・障がい者等だろうと思います。高齢者、障がい者等の話を聞く機会があり、その時に聞いたのが2階建てでの階段が苦痛で講座を受けられなく、平屋建てのところへは交通手段がなくて断念しているとの事でした。2階の時はエレベーターが必要との事でありました。高齢者、障がい者の引きこもり対策としても必要と感じた次第です。
文学・文芸	10年以上 20年未満	20人以上 30人未満	70歳代 以上	例えば、中央で行われている俳句大会等を誘致する。宮崎独自の例えば海彦・幸彦俳句大会を作って、開催する。
美術	10年以上 20年未満	30人以上	60歳代	子供から大人まで何か打ち込めるものを見つけ、楽しみながら技術や技法も習得して周りとのコミュニケーションも大事にしながら活動できる場をもっと多くしていただきたいと考えます。気軽にできる事、楽しめる事が身の回りにたくさんあるといいですね。身構えていくコンサートとかではなく、散歩に行くような気持ちでしゅっちゅう「〇〇でコンサートしているよ、ちょっと行ってみようか」という感じであるといいですね。
美術	10年未満	10人未満	40歳代 以下	美術（ライブペインティング）、演奏などを屋外でも自由にできると良いです。文化公園などを使用できると良いなあと思います。海外のようにホールや美術館内でパフォーマンスの間にコーヒーやお酒を楽しめ、物販コーナーなどが作れると、もっと市民の方々も自然に芸術に親しめるのではと思います。
美術	20年以上 30年未満	10人未満	40歳代 以下	展示会とか催す前にそのことがメインになりがちですが実際は作品を作る心の問題を含めた環境を作ってあげることが大切だと思う。いい作品がなければ、いい展覧会にならない。
美術	30年以上	30人以上	70歳代 以上	コロナが拡大して以後、個人が発表をする場所が経営できないなど様々な理由で無くなりました。現状、宮崎で展示をする場所というところは無状態です。なので、そのような個人が展示、発表をする場を設けていただけるとありがたいです。
演劇	30年以上	30人以上	60歳代	人口減の現状で、活動を維持することは難しいと感じる。そもそも活動を維持することが正しいことなのか、定義づけが必要。音楽の世界がレコード→CD→サブスクとハードが変化したように、文化・芸術の分野全てで変化は避けられず、その中で活動がさかんになったりなくなったことは自然なことであると思う。個人的なことではあるが、新型コロナの影響は大きく、理由はわからないが、生活スタイルが変化した、個人的な文化、芸術の重要度が低下した。

